

【文献文化学】

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
M631001	東洋文献文化学系英語論文実習	実習	1	前期	木1	Tao PAN	大学院系共通科目	文献文化学1
M631002	東洋文献文化学系英語論文実習	実習	1	後期	木1	Tao PAN	大学院系共通科目	文献文化学2
1330001	国語学国文学	特殊講義	4	通年	月2	河村 瑛子		文献文化学3
1330003	国語学国文学	特殊講義	4	通年	月3	田中 草大		文献文化学4
1330002	国語学国文学	特殊講義	4	通年	火2	池田 恭哉		文献文化学5
1331001	国語学国文学	特殊講義	2	前期	水4	須田 千里		文献文化学6
1331002	国語学国文学	特殊講義	2	後期	水4	須田 千里		文献文化学7
1331003	国語学国文学	特殊講義	2	前期	木2	佐野 宏		文献文化学8
1331004	国語学国文学	特殊講義	2	後期	木2	佐野 宏		文献文化学9
1331005	国語学国文学	特殊講義	2	前期	水3	長谷川 千尋		文献文化学10
1331006	国語学国文学	特殊講義	2	後期	水3	長谷川 千尋		文献文化学11
1331007	国語学国文学	特殊講義	2	前期	木1	岡崎 友子		文献文化学12
1331008	国語学国文学	特殊講義	2	後期	木1	岡崎 友子		文献文化学13
1331009	国語学国文学	特殊講義	2	前期	集中	田中 則雄		文献文化学14
1340001	国語学国文学	演習	4	通年	金5	大槻 信		文献文化学15
1340003	国語学国文学	演習	4	通年	月5	河村 瑛子		文献文化学16
1340004	国語学国文学	演習	4	通年	木5	田中 草大		文献文化学17
1341001	国語学国文学	演習	2	前期	木2	緑川 英樹		文献文化学18
1341002	国語学国文学	演習	2	後期	木2	緑川 英樹		文献文化学19
1341003	国語学国文学	演習	2	前期	月4	鈴木 隆司		文献文化学20
1341004	国語学国文学	演習	2	後期	月4	鈴木 隆司		文献文化学21
1341007	国語学国文学	演習	2	前期	木3	峯村 至津子		文献文化学22
1341008	国語学国文学	演習	2	後期	木3	峯村 至津子		文献文化学23
M112001	国語学国文学	演習	4	通年	水5	大槻 信		文献文化学24
M112002	国語学国文学	演習	4	通年	金2	金光 桂子		文献文化学25
M114001	国語学国文学	修論演習	4	通年	水1	大槻 信,金光 桂子,河村 瑛子,田中 草大		文献文化学26
1431001	中国語学中国文学	特殊講義	2	前期	火1	永田 知之		文献文化学27
1431002	中国語学中国文学	特殊講義	2	後期	火1	永田 知之		文献文化学28
1431003	中国語学中国文学	特殊講義	2	前期	火2	道坂 昭廣		文献文化学29
1431004	中国語学中国文学	特殊講義	2	後期	火2	道坂 昭廣		文献文化学30
1431005	中国語学中国文学	特殊講義	2	後期	月4	野村 鮎子		文献文化学31
1431006	中国語学中国文学	特殊講義	2	前期	火3	松江 崇		文献文化学32
1431007	中国語学中国文学	特殊講義	2	後期	火3	松江 崇		文献文化学33
1431008	中国語学中国文学	特殊講義	2	後期	金1	野原 将揮		文献文化学34
1431009	中国語学中国文学	特殊講義	2	前期	金1	野原 将揮		文献文化学35
1431010	中国語学中国文学	特殊講義	2	前期	水5	宇佐美 文理		文献文化学36
1431011	中国語学中国文学	特殊講義	2	後期	水5	宇佐美 文理		文献文化学37
1431012	中国語学中国文学	特殊講義	2	前期	集中	岡崎 由美		文献文化学38
1464001	中国語学中国文学	外国語実習	1	前期	金5	楊 維公		文献文化学39
1464002	中国語学中国文学	外国語実習	1	後期	金5	楊 維公		文献文化学40
M123001	中国語学中国文学	演習	2	前期	月2	成田 健太郎		文献文化学41
M123002	中国語学中国文学	演習	2	後期	月2	成田 健太郎		文献文化学42
M123003	中国語学中国文学	演習	2	前期	金2	木津 祐子		文献文化学43
M123004	中国語学中国文学	演習	2	後期	金2	木津 祐子		文献文化学44
M123005	中国語学中国文学	演習	2	前期	水4	緑川 英樹		文献文化学45
M123006	中国語学中国文学	演習	2	後期	水4	緑川 英樹		文献文化学46
M123007	中国語学中国文学	演習	2	通年	水2	木津 祐子,緑川 英樹,成田 健太郎		文献文化学47
1530002	中国哲学史	特殊講義	4	通年	水1	池田 恭哉		文献文化学48
1531001	中国哲学史	特殊講義	2	前期	集中	塚本 麿充		文献文化学49
1531002	中国哲学史	特殊講義	2	前期	水5	宇佐美 文理		文献文化学50
1531003	中国哲学史	特殊講義	2	後期	水5	宇佐美 文理		文献文化学51
1531004	中国哲学史	特殊講義	2	前期	木2	倉本 尚徳		文献文化学52
1531005	中国哲学史	特殊講義	2	後期	木2	倉本 尚徳		文献文化学53
1531006	中国哲学史	特殊講義	2	前期	火4	船山 徹		文献文化学54
1531007	中国哲学史	特殊講義	2	後期	火4	船山 徹		文献文化学55
1531008	中国哲学史	特殊講義	2	後期	月5	福谷 彬		文献文化学56
1540001	中国哲学史	演習	4	通年	金5	宇佐美 文理		文献文化学57
1540002	中国哲学史	演習	4	通年	月2	池田 恭哉		文献文化学58
1541001	中国哲学史	演習	2	前期	金3	吉本 道雅		文献文化学59
1541002	中国哲学史	演習	2	後期	金3	吉本 道雅		文献文化学60
1541003	中国哲学史	演習	2	前期	月3	古勝 隆一		文献文化学61
1541004	中国哲学史	演習	2	後期	月3	古勝 隆一		文献文化学62
1633001	インド古典学	特殊講義	2	後期	金3	横地 優子		文献文化学63
1633002	インド古典学	特殊講義	2	前期	火2	VASUDEVA,Somdev		文献文化学64
1633003	インド古典学	特殊講義	2	後期	火2	VASUDEVA,Somdev		文献文化学65
1633007	インド古典学	特殊講義	2	後期	水3	CATT, Adam Alvah		文献文化学66
1633008	インド古典学	特殊講義	2	前期	水3	CATT, Adam Alvah		文献文化学67
1633010	インド古典学	特殊講義	2	前期	水5	Tao PAN		文献文化学68
1633011	インド古典学	特殊講義	2	後期	水5	Tao PAN		文献文化学69

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
1644003	インド古典学	演習	2	前期	金3	横地 優子		文献文化学70
1644004	インド古典学	演習	2	前期	火5	VASUDEVA,Somdev		文献文化学71
1644011	インド古典学	演習	2	後期	火5	VASUDEVA,Somdev		文献文化学72
1644008	インド古典学	演習	2	前期	月2	Tao PAN		文献文化学73
1644001	インド古典学	演習	2	後期	月2	Tao PAN		文献文化学74
1644002	インド古典学	演習	2	後期	月3	Tao PAN		文献文化学75
1644005	インド古典学	演習	2	前期	木4	山口 周子		文献文化学76
1644006	インド古典学	演習	2	後期	木4	芳原 綾子		文献文化学77
1644007	インド古典学	演習	2	前期	水2	天野 恭子		文献文化学78
1644009	インド古典学	演習	2	前期	火1	横地 優子, VASUDEVA,Somdev, Tao PAN		文献文化学79
1644010	インド古典学	演習	2	後期	火1	横地 優子, VASUDEVA,Somdev,Tao PAN		文献文化学80
1653001	インド古典学	講読	2	前期	月4	横地 優子		文献文化学81
1653002	インド古典学	講読	2	後期	月4	天野 恭子		文献文化学82
1653003	インド古典学	講読	2	前期	木3	Tao PAN		文献文化学83
1653004	インド古典学	講読	2	後期	木3	Tao PAN		文献文化学84
9616001	インド古典学/仏教学	語学	4	通年	月4	山口 周子	大学院共通科目	文献文化学85
9617001	インド古典学/仏教学	語学	8	通年	月5,木5	Tao PAN	大学院共通科目	文献文化学86
9633001	インド古典学	語学	4	通年	金4,金5	虫賀 幹華	大学院共通科目	文献文化学87
9659001	インド古典学	語学	2	前期	火3	西岡 美樹	大学院共通科目	文献文化学88
9660001	インド古典学	語学	2	後期	火3	西岡 美樹	大学院共通科目	文献文化学89
1831001	仏教学	特殊講義	2	前期	水3	宮崎 泉		文献文化学90
1831002	仏教学	特殊講義	2	後期	水3	宮崎 泉		文献文化学91
1831003	仏教学	特殊講義	2	前期	火4	船山 徹		文献文化学92
1831004	仏教学	特殊講義	2	後期	火4	船山 徹		文献文化学93
1831005	仏教学	特殊講義	2	前期	木5	室寺 義仁		文献文化学94
1831006	仏教学	特殊講義	2	後期	木5	室寺 義仁		文献文化学95
1831007	仏教学	特殊講義	2	後期	金2	DEROCHE,Marc-Henri Jean		文献文化学96
1831008	仏教学	特殊講義	2	前期	木2	倉本 尚徳		文献文化学97
1831009	仏教学	特殊講義	2	後期	木2	倉本 尚徳		文献文化学98
1841001	仏教学	演習	2	前期	火3	宮崎 泉		文献文化学99
1841002	仏教学	演習	2	後期	火3	宮崎 泉		文献文化学100
1841003	仏教学	演習	2	前期	集中	加納 和雄		文献文化学101
1841004	仏教学	演習	2	前期	水4	熊谷 誠慈		文献文化学102
1841005	仏教学	演習	2	後期	水4	熊谷 誠慈		文献文化学103
1841006	仏教学	演習	2	前期	火2	佐藤 直実		文献文化学104
1841007	仏教学	演習	2	後期	月5	志賀 浄邦		文献文化学105
1841008	仏教学	演習	2	前期	木4	山口 周子		文献文化学106
1841009	仏教学	演習	2	後期	木4	芳原 綾子		文献文化学107
1851001	仏教学	講読I	2	前期	木3	Tao PAN		文献文化学108
1851002	仏教学	講読I	2	後期	木3	Tao PAN		文献文化学109
9628001	仏教学	語学	2	前期	水1	宮崎 泉	大学院共通科目	文献文化学110
9629001	仏教学	語学	2	後期	水1	宮崎 泉	大学院共通科目	文献文化学111
9630001	仏教学	語学	2	前期	月1	高橋 慶治	大学院共通科目	文献文化学112
9630002	仏教学	語学	2	後期	月1	高橋 慶治	大学院共通科目	文献文化学113
3131001	西洋古典学	特殊講義	2	前期	木2	河島 思朗		文献文化学114
3131002	西洋古典学	特殊講義	2	後期	木2	河島 思朗		文献文化学115
3131003	西洋古典学	特殊講義	2	前期	月3	河島 思朗		文献文化学116
3131004	西洋古典学	特殊講義	2	後期	月3	河島 思朗		文献文化学117
3141001	西洋古典学	演習	2	前期	水3	竹下 哲文		文献文化学118
3141002	西洋古典学	演習	2	後期	金3	平山 晃司		文献文化学119
3141003	西洋古典学	演習	2	後期	水3	竹下 哲文		文献文化学120
3141004	西洋古典学	演習	2	前期	金4	竹下 哲文		文献文化学121
3141005	西洋古典学	演習	2	後期	金4	竹下 哲文		文献文化学122
3141006	西洋古典学	演習	2	前期	月5	河島 思朗		文献文化学123
3141007	西洋古典学	演習	2	後期	月5	河島 思朗		文献文化学124
3141008	西洋古典学	演習	2	前期	火3	早瀬 篤		文献文化学125
3141009	西洋古典学	演習	2	後期	火3	早瀬 篤		文献文化学126
3151001	西洋古典学	講読	2	前期	火4	竹下 哲文		文献文化学127
3151002	西洋古典学	講読	2	後期	火4	竹下 哲文		文献文化学128
3151003	西洋古典学	講読	2	前期	火2	山下 修一		文献文化学129
3151004	西洋古典学	講読	2	後期	火2	山下 修一		文献文化学130
3231001	スラブ語学スラブ文学	特殊講義	2	前期	火4	堀口 大樹		文献文化学131
3231002	スラブ語学スラブ文学	特殊講義	2	後期	火4	堀口 大樹		文献文化学132
3231003	スラブ語学スラブ文学	特殊講義	2	後期	月4	中村 唯史		文献文化学133
3231005	スラブ語学スラブ文学	特殊講義	2	前期	月4	中村 唯史		文献文化学134
3231006	スラブ語学スラブ文学	特殊講義	2	前期	金4	有宗 昌子		文献文化学135
3241001	スラブ語学スラブ文学	演習	2	前期	月3	中野 悠希		文献文化学136
3241007	スラブ語学スラブ文学	演習	2	後期	月3	中野 悠希		文献文化学137
3241002	スラブ語学スラブ文学	演習	2	前期	火2	中村 唯史		文献文化学138
3241003	スラブ語学スラブ文学	演習	2	後期	火2	中村 唯史		文献文化学139

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
3241004	スラブ語学スラブ文学	演習	2	前期	木2	中村 唯史		文献文化学140
3241005	スラブ語学スラブ文学	演習	2	後期	木2	中村 唯史		文献文化学141
3241006	スラブ語学スラブ文学	演習	2	前期	金3	堀口 大樹		文献文化学142
3241008	スラブ語学スラブ文学	演習	2	後期	金3	堀口 大樹		文献文化学143
3241011	スラブ語学スラブ文学	演習	2	前期	金4,金5	Fedorova Anastasia	前期後半8週	文献文化学144
3251003	スラブ語学スラブ文学	講読	2	前期	水2	中村 唯史		文献文化学145
3251004	スラブ語学スラブ文学	講読	2	後期	水2	中村 唯史		文献文化学146
3251005	スラブ語学スラブ文学	講読	2	後期	金4	帯谷 知可		文献文化学147
3251006	スラブ語学スラブ文学	講読	2	前期	火4	小山 哲	ポーランド語講読	文献文化学148
9661001	スラブ語学スラブ文学	語学	2	前期	木4	Bogna Sasaki	大学院共通科目	文献文化学149
9662001	スラブ語学スラブ文学	語学	2	後期	木4	Bogna Sasaki	大学院共通科目	文献文化学150
9642001	スラブ語学スラブ文学	語学	2	前期	木5	Bogna Sasaki	大学院共通科目	文献文化学151
9642002	スラブ語学スラブ文学	語学	2	後期	木5	Bogna Sasaki	大学院共通科目	文献文化学152
9646001	スラブ語学スラブ文学	語学	2	後期	水2	田中 大	大学院共通科目	文献文化学153
9647001	スラブ語学スラブ文学	語学	2	前期	水2	田中 大	大学院共通科目	文献文化学154
3331001	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	2	前期	金4	川島 隆		文献文化学155
3331002	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	2	後期	金4	松村 朋彦		文献文化学156
3331005	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	2	前期	金3	河崎 靖		文献文化学157
3331006	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	2	前期	木3	TRAUDEN,Dieter		文献文化学158
3331007	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	2	後期	木3	TRAUDEN,Dieter		文献文化学159
3331008	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	2	前期	火3	岡田 暁生		文献文化学160
3331009	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	2	後期	火3	岡田 暁生		文献文化学161
M181001	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	2	前期	火5	細見 和之		文献文化学162
3345001	ドイツ語学ドイツ文学	演習III	2	前期	金5	松村 朋彦,川島 隆		文献文化学163
3345002	ドイツ語学ドイツ文学	演習III	2	後期	金5	松村 朋彦,川島 隆		文献文化学164
M183001	ドイツ語学ドイツ文学	演習	2	前期	水2	松村 朋彦		文献文化学165
M183002	ドイツ語学ドイツ文学	演習	2	後期	水2	松村 朋彦		文献文化学166
M183003	ドイツ語学ドイツ文学	演習	2	前期	水3	川島 隆		文献文化学167
M183004	ドイツ語学ドイツ文学	演習	2	後期	水3	川島 隆		文献文化学168
M183005	ドイツ語学ドイツ文学	演習	2	後期	火5	細見 和之		文献文化学169
M191022	英語学英米文学	特殊講義	2	前期	水5	家入 葉子		文献文化学170
M191002	英語学英米文学	特殊講義	2	後期	水1	廣田 篤彦		文献文化学171
M191003	英語学英米文学	特殊講義	2	前期	金3	南谷 奉良		文献文化学172
M191004	英語学英米文学	特殊講義	2	前期	月4	森 慎一郎		文献文化学173
M191005	英語学英米文学	特殊講義	2	後期	月4	小林 久美子		文献文化学174
M191006	英語学英米文学	特殊講義	2	前期	水4	谷口 一美		文献文化学175
M191007	英語学英米文学	特殊講義	2	後期	水5	谷口 一美		文献文化学176
M191010	英語学英米文学	特殊講義	2	前期	木2	滝沢 直宏		文献文化学177
M191011	英語学英米文学	特殊講義	2	後期	木2	滝沢 直宏		文献文化学178
M191008	英語学英米文学	特殊講義	2	前期	木4	西村 秀夫		文献文化学179
M191009	英語学英米文学	特殊講義	2	後期	木4	西村 秀夫		文献文化学180
M191016	英語学英米文学	特殊講義	2	前期	金1	木島 菜菜子		文献文化学181
M191017	英語学英米文学	特殊講義	2	後期	金1	木島 菜菜子		文献文化学182
M191020	英語学英米文学	特殊講義	2	前期	月2	西谷 茉莉子		文献文化学183
M191012	英語学英米文学	特殊講義	2	前期	月3	出口 菜摘		文献文化学184
M191013	英語学英米文学	特殊講義	2	後期	月2	後藤 篤		文献文化学185
M191014	英語学英米文学	特殊講義	2	前期	月1	メドロック 麻弥		文献文化学186
M191015	英語学英米文学	特殊講義	2	後期	月5	吉田 恭子		文献文化学187
M191018	英語学英米文学	特殊講義	2	前期	金2	Michael Hofmeyr		文献文化学188
M191019	英語学英米文学	特殊講義	2	後期	金2	Michael Hofmeyr		文献文化学189
M191021	英語学英米文学	特殊講義	2	前期	集中	石原 剛		文献文化学190
M193001	英語学英米文学	演習	2	前期	火5	家入 葉子		文献文化学191
M193002	英語学英米文学	演習	2	後期	火5	家入 葉子		文献文化学192
M193003	英語学英米文学	演習	2	前期	水2	廣田 篤彦		文献文化学193
M193004	英語学英米文学	演習	2	後期	水2	廣田 篤彦		文献文化学194
M193005	英語学英米文学	演習	2	前期	火1	南谷 奉良		文献文化学195
M193006	英語学英米文学	演習	2	後期	火1	南谷 奉良		文献文化学196
M193007	英語学英米文学	演習	2	前期	火4	森 慎一郎		文献文化学197
M193008	英語学英米文学	演習	2	後期	火4	森 慎一郎		文献文化学198
M193009	英語学英米文学	演習	2	前期	金4	小林 久美子		文献文化学199
M193010	英語学英米文学	演習	2	後期	金4	小林 久美子		文献文化学200
3631001	フランス語学フランス文学	特殊講義	2	後期	木2	永盛 克也		文献文化学201
3631002	フランス語学フランス文学	特殊講義	2	前期	金2	森本 淳生		文献文化学202
3631003	フランス語学フランス文学	特殊講義	2	前期	木3	Justine LE FLOC'H		文献文化学203
3631004	フランス語学フランス文学	特殊講義	2	後期	木3	Justine LE FLOC'H		文献文化学204
3631005	フランス語学フランス文学	特殊講義	2	前期	火2	鳥山 定嗣		文献文化学205
3631006	フランス語学フランス文学	特殊講義	2	後期	火2	鳥山 定嗣		文献文化学206
3631008	フランス語学フランス文学	特殊講義	2	前期	水3	村上 祐二		文献文化学207
3631010	フランス語学フランス文学	特殊講義	2	後期	水3	村上 祐二		文献文化学208
3631012	フランス語学フランス文学	特殊講義	2	後期	月3	伊藤 玄吾		文献文化学209

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
3645003	フランス語学フランス文学	演習	2	前期	木4	Justine LE FLOC'H		文献文化学210
3645004	フランス語学フランス文学	演習	2	後期	木4	Justine LE FLOC'H		文献文化学211
M202001	フランス語学フランス文学	演習	4	通年	火4	永盛 克也,村上 祐二,鳥山 定嗣		文献文化学212
M203001	フランス語学フランス文学	演習	2	前期	火3	Justine LE FLOC'H		文献文化学213
M203002	フランス語学フランス文学	演習	2	後期	火3	Justine LE FLOC'H		文献文化学214
3731002	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	2	前期	月2	村瀬 有司		文献文化学215
3731003	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	2	後期	月2	村瀬 有司		文献文化学216
3731004	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	2	前期	水3	Ida Duretto		文献文化学217
3731005	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	2	後期	水3	Ida Duretto		文献文化学218
3731006	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	2	前期	水5	Ida Duretto		文献文化学219
3731007	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	2	後期	水5	Ida Duretto		文献文化学220
3741001	イタリア語学イタリア文学	演習	2	前期	金2	村瀬 有司		文献文化学221
3741002	イタリア語学イタリア文学	演習	2	後期	金2	村瀬 有司		文献文化学222
3741003	イタリア語学イタリア文学	演習	2	前期	金4	菊池 正和		文献文化学223
3741004	イタリア語学イタリア文学	演習	2	後期	金4	菊池 正和		文献文化学224
3741005	イタリア語学イタリア文学	演習	2	通年	木2	村瀬 有司,Ida Duretto		文献文化学225
M213001	イタリア語学イタリア文学	演習	2	後期	木4,木5	Ida Duretto		文献文化学226
3764001	イタリア語学イタリア文学	外国語実習	1	前期	火3	Ida Duretto		文献文化学227
3764002	イタリア語学イタリア文学	外国語実習	1	後期	火3	Ida Duretto		文献文化学228

文献文化学1

科目ナンバリング		G-LET49 8M631 PE36									
授業科目名 <英訳>		東洋文献文化学系英語論文実習 Academic English Writing				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Academic English Writing									
【授業の概要・目的】											
Academic English writing skill belongs to the most demanded skills for the undergraduate and graduate students in all majors nowadays. Academic English writing is communicative as well as objective, which means that it is fact-based and free from personal pre-conceptions or opinions. In order to help the students prepare themselves for the writing samples and proposals for graduate or doctoral programmes, this course will introduce the guidelines for and specific procedures of academic English writing.											
【到達目標】											
This course aims at improving the students' academic English writing skill and facilitate their preparation of the writing samples and proposals later.											
【授業計画と内容】											
This course is scheduled for 15 weeks and consists of four parts: Part I Basics of academic writing (Week 1-5); Part II Structure of the essay (Week 6-8); Part III Reading and secondary literature (Week 9-12); Part IV Tips and skills for better writing (Week 13-15). Every part is accompanied by the corresponding reading and writing exercises. Focuses include: Research question and thesis statement Structuring argument Structuring information Structuring paragraphs Reading strategy Integrating sources (summary, review and critique) Language styles (first person, active or passive) Reference and format Edit and revise (spelling and typos)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
Assessment will be based on class performance (50%) and final assignment (50%).											
----- 東洋文献文化学系英語論文実習(2)へ続く -----											

東洋文献文化学系英語論文実習(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class. Occasional writing assignments are expected.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学2

科目ナンバリング		G-LET49 8M631 PE36									
授業科目名 <英訳>		東洋文献文化学系英語論文実習 Academic English Writing				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Academic English Writing									
【授業の概要・目的】											
Academic English writing skill belongs to the most demanded skills for the undergraduate and graduate students in all majors nowadays. Academic English writing is communicative as well as objective, which means that it is fact-based and free from personal pre-conceptions or opinions. In order to help the students prepare themselves for the writing samples and proposals for graduate or doctoral programmes, this course will introduce the guidelines for and specific procedures of academic English writing.											
【到達目標】											
This course aims at improving the students' academic English writing skill and facilitate their preparation of the writing samples and proposals later.											
【授業計画と内容】											
This course is scheduled for 15 weeks and consists of four parts: Part I Basics of academic writing (Week 1-5); Part II Structure of the essay (Week 6-8); Part III Reading and secondary literature (Week 9-12); Part IV Tips and skills for better writing (Week 13-15). Every part is accompanied by the corresponding reading and writing exercises. Focuses include: Research question and thesis statement Structuring argument Structuring information Structuring paragraphs Reading strategy Integrating sources (summary, review and critique) Language styles (first person, active or passive) Reference and format Edit and revise (spelling and typos)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
Assessment will be based on class performance (50%) and final assignment (50%).											
----- 東洋文献文化学系英語論文実習(2)へ続く -----											

東洋文献文化学系英語論文実習(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class. Occasional writing assignments are expected.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学3

科目ナンバリング		G-LET10 61330 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河村 瑛子			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		芭蕉研究									
【授業の概要・目的】											
<p>俳諧は、俳句の源流とされる短詩型文芸である。近世初期、俳諧は文学ジャンルとして確立し、以来、急速な成熟と変容を遂げた。そのような俳諧史の変革に最も意識的に与した人物に、芭蕉がいる。芭蕉は、同時代より近現代に到るまで日本文学史上の重要人物とされており、文学・文化・思想における影響力は甚大である。本講義では、最新の研究状況を踏まえ、その文学的特性や表現上の妙味について実践的に把握することを目指す。</p> <p>前期は、まず、芭蕉の伝記と作品および後世への影響について、文学史の展開を踏まえつつ、具体的な資料に基づいて講義する。その上で、芭蕉作品の精読を行う。作品の生成過程を吟味しつつ、関連資料の運用方法を学びながら、一字一句に込められた作意を繙くことで、作品を実証的に解釈する手法を身につける。</p> <p>後期は、近世文学研究を行う上で重要な資料であり、芭蕉の作品とも分かちがたく結びつく書簡資料を取り上げる。書簡資料を扱う上での入門的な講義を行った上で、芭蕉書簡の読解に取り組む。内容に関連する芭蕉の作品や、伝記上の問題、俳壇状況、芭蕉の思想・人間性など、俳諧史の諸問題と併せて解説し、芭蕉の文事を史的動態の中に位置づける。</p> <p>芭蕉は、文学作品・書簡を含めた「ふみ」の持つ力について、きわめて意識的な人物として特筆される。本講義の主体的な受講を通して、文学および文学研究の意味について、各自が考察を深めることを期待する。</p>											
【到達目標】											
<p>近世前期から中期にかけての俳諧史と、諸派の俳諧の特性を把握し、その動態の中で、芭蕉文学の特性を説明できるようになる。芭蕉作品の生成過程の諸相を理解し、関連資料を適切に運用しつつ、作品を精密に読解できるようになる。くずし字の読解能力を身につけ、俳諧作品や書簡資料を読解できるようになる。テキストにおける良質な問題点を自ら発見し、それを実証的方法によって解決できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 芭蕉の伝記と作品(1) 寛文 3. 芭蕉の伝記と作品(2) 延宝・天和 4. 芭蕉の伝記と作品(3) 貞享 5. 芭蕉の伝記と作品(4) 元禄元年～元禄2年 6. 芭蕉の伝記と作品(5) 元禄3年～元禄4年 7. 芭蕉の伝記と作品(6) 元禄5年～元禄7年 8. 芭蕉の伝記と作品(7) 芭蕉の臨終とその後 9. 芭蕉の伝記と作品(8) 後世への影響 10. 『奥の細道』精読(1) 概説 11. 『奥の細道』精読(2) 深川 12. 『奥の細道』精読(3) 千住 											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

13. 『奥の細道』精読(4) 草加
14. 『奥の細道』精読(5) 室の八島
15. 『奥の細道』精読(6) 日光、前期のまとめ
16. 書簡資料概説
17. 往来物読解(1) 往信
18. 往来物読解(2) 返信
19. 俳人の書簡(前半)
20. 俳人の書簡(後半)
21. 芭蕉書簡精読(1) 麁峙宛(前半)
22. 芭蕉書簡精読(2) 麁峙宛(後半)
23. 芭蕉書簡精読(3) 曲翠宛(冒頭)
24. 芭蕉書簡精読(4) 曲翠宛(「風雅の道筋」～)
25. 芭蕉書簡精読(5) 曲翠宛(「路通事は」～)
26. 芭蕉書簡精読(6) 杉風宛(前半)
27. 芭蕉書簡精読(7) 杉風宛(後半)
28. 芭蕉書簡精読(8) 松尾半左衛門宛
29. 総括
30. フィードバック

授業の進行度や受講者の理解度、新型コロナウイルスの感染拡大状況等によって、内容や順序等を変更する場合がある。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点(30%)、小テスト(20%)、年度末のレポート(50%)による。平常点は、授業への参加度や、毎回提出されるコメント等によって評価する。レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。なお、新型コロナウイルスの感染拡大状況により、小テストを課題提出に変更する可能性がある。

【教科書】

使用しない
プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)
鈴木勝忠 『俳諧史要』(明治書院、1973)
このほかの参考書は、適宜授業中に紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

版本文・写本および書簡資料など文書類の写真を用いるため、くずし字読解への強い意欲が求められる。配付資料の予習・復習はもちろんのこと、不断に古典籍に親しむこと。くずし字を自在に読み解く力を身につけることは、各人の研究活動の幅を広げることとなる。また、書簡資料に馴染みのない場合、活字化された書簡集を読むなどして書簡の文体に親しむことが、読解能力の向上を

国語学国文学(特殊講義)(3)へ続く

国語学国文学(特殊講義)(3)

支えるであろう。

俳諧は、和漢雅俗にわたる文化現象を取りこむ文芸であるから、日頃より幅広い読書を心がけることが望ましい。また、授業で扱わない芭蕉作品や、前時代・同時代の俳人の作品についても、積極的に読解を試みてほしい。講義内容を精緻かつ俯瞰的に理解する助けとなるはずである。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学4

科目ナンバリング		G-LET10 61330 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 田中 草大			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代日本語表記の史的変遷									
【授業の概要・目的】											
<p>日本語の歴史を、「古代語」（奈良時代以前から鎌倉時代まで）と「近代語」（室町時代から現代まで）に2分する捉え方があります。この授業では、後者すなわち近代語における文字・表記の歴史を概説します。</p> <p>表記は「どのような文字・符号を用いるか（形態）」と「それらの文字・符号をどのように用いるか（運用）」という2つの観点から捉えることができますが、本講義ではこの両観点から、近代日本語がどのように表記されてきたかを通観します。また、それぞれのトピックについて、先行研究等をもとに、より専門的な問題や知見を紹介します。</p>											
【到達目標】											
<p>近代日本語の表記法の歴史を下記の2方向から理解し、説明できる。</p> <p>(1) どのような文字・符号を用いるか。 (2) それらの文字・符号をどのように用いるか。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：講義概要、総説（表記史） 第2回：古代日本語表記の概要 第3回：中世後期～近世の日本語表記の概要 第4回：漢字仮名交じり文 第5-6回：仮名遣い 第7-8回：候文 第9-10回：真名本 第11-13回：論文講読 第14回：期末試験1 第15回：フィードバック</p> <p>* * *</p> <p>第16回：近代（狭義）の日本語表記の概要 第17回：印刷技術 第18回：補助符号 第19回：ローマ字 第20回：点字と速記 第21-22回：近現代国語施策：漢字 第23-24回：近現代国語施策：仮名 第25回：外来語の表記</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

第26回：人名用漢字
第27-28回：論文講読
第29回：期末試験2
第30回：フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

2度の期末試験：70%
平常点（授業コメントなど）：30%

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に指示する参考文献を読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学5

科目ナンバリング		G-LET10 61330 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 池田 恭哉			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「孟子」の思想を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業の最大の目的は、漢文を読むための基礎的な知識を習得し、それらを活用して実際の漢文を読み、その読解力を身につけることである。そのため前期の中盤までは、漢文とその読み方について概説をする。</p> <p>概説の後には、実際の漢文読解の段階に進む。今年度はテキストに「孟子」の代表的な注釈書である清・焦循『孟子正義』を用いる。孟子については性善説など高校の授業でその思想に触れたことのある人も多いだろう。本授業では、原典を自分で読むことを通じて、孟子の思想と向き合ってみよう。その際、清朝の焦循が著した孟子の代表的な注釈書である『孟子正義』に導かれつつ読む。中国古典の読解に欠かせない「注釈」の意義を実感し、またその形式に慣れてもらうためである。</p> <p>この授業では、原典の読解を通して、色々な読解の可能性を出席者同士で討議することを特に重視する。漢文読解の基礎は前期を中心に概説し、また原典の読解も、履修者のペースに合わせて進めるので、漢文読解の経験、専攻分野を問わず、様々な興味関心から多くの学生の参加を期待する。</p>											
【到達目標】											
<p>目標は下記の5点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、漢文を読むための基礎的な知識を習得する。 2、漢文読解における注釈の意義を理解できる。 3、注釈を活用しつつ、自ら出典を調べ、漢文を正確に読める。 4、出典を調べる際に活用する工具書、あたるべきテキストなどを整理できる。 5、自らの読解内容を、根拠を持って他者に提示しつつ議論することで、自らの読解を深める。 											
【授業計画と内容】											
<p>最初のうちは講義形式で進める。時にその内容の定着を見る問いを発し、それに出席者に答えてもらう場合もある。</p> <p>焦循『孟子正義』を読む段階に入ってから、毎回の担当者を決め、訳注稿を作成してきてもらい、それについて出席者全員で討議する形式をとる。その際には、担当者以外の出席者の積極的な参画、発言を望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 漢籍に触れる：漢籍の歴史、形態について 3・4 漢文の読み方：直読、訓読、現代語訳について 5・6 漢文の読み方：典故について 7・8 漢文の読み方：注釈について 9 『孟子』とその注釈：その成立と趙岐、朱熹、焦循らによる注釈について 10～30 『孟子正義』の読解と討議（梁恵王章句上から） <p>フィードバックの方法は授業時に指示する。</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点による（教員の発問に対する積極的な回答、訳注稿に基づく発表、その修正稿の提出、自身の予習に基づく討議への参加、前期末・後期末に課すレポート課題などを総合的に判断する）。

【教科書】

授業中に指示する
テキストはコピーして配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

何より学生が主役であるため、他者が作成した訳注稿に対して自身の意見を言うためには、相応の予習が必要となる。また自身が作成した訳注稿は、復習として後日修正稿を提出してもらう。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学6

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 須田 千里			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		泉鏡花									
【授業の概要・目的】											
<p>泉鏡花は明治～昭和に活躍した作家である。この授業では、その文学・作品のモチーフやテーマを考察し、精緻な読解を目指す。併せて、受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶ。</p> <p>授業は教室で対面で行う。授業は、Zoomの画面共有により、教員がPandAのリソースに置いた論文を読む形で行うので、受講生は教室にパソコンを持参すること。</p> <p>受講生は、授業に関する質問・意見を全体で4回(各回600～800字で締切を設ける)、PandAの「課題」に提出する。教員はPandAを通じてそれに答える。期末にはレポート(4000字)を提出する。授業後に修正した論文をPandAのリソースに置くので、受講生は復習に利用する。</p> <p>研究方法や心構えなど、重要な伝達があるので、第1回目の講義に必ず出席すること。</p>											
【到達目標】											
<p>泉鏡花に関する研究内容の把握が出来ること。従来の評価や論点を知った上で、自分の考えを論理的に述べられるようになること。クラス全体で、重層的に考えを発展していけること。批判的な考え方が出来ること。説得性と独自性を備えたレポートを書くことができること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス。泉鏡花の生涯と作品(研究方法や心構えなど、重要な伝達があるので、必ず出席すること)、鏡花文学における「魔」の女性像 片輪車</p> <p>第2回 鏡花文学における「魔」の女性像 通り魔</p> <p>第3回 鏡花文学における「魔」の女性像 美しい女の通り魔</p> <p>第4回 鏡花文学における「魔」の女性像 瀧夜叉姫と飛天夜叉</p> <p>第5回 鏡花文学における「魔」の女性像 安達ヶ原の一つ家</p> <p>第6回 鏡花文学における「魔」の女性像 前の世</p> <p>第7回 鏡花文学に見られる「魔」関連語彙</p> <p>第8回 鏡花における美女と「魔」</p> <p>第9回 泉鏡花「山海評判記」の概要</p> <p>第10回 「山海評判記」の材源</p> <p>第11回 泉鏡花への柳田国男の影響</p> <p>第12回 「半島一奇抄」の素材</p> <p>第13回 「山海評判記」の構想</p> <p>第14回 「山海評判記」周辺作品の構想</p> <p>第15回 フィードバック</p> <p>理解の程度にあわせて進度や内容を調整する。</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業に関して自分で疑問に思ったことや、考えたり調べたりしたことを提出するのが4割(4回、各10点)、レポート6割(60点)。レポートは独自性と説得性の観点から評価する。

【教科書】

PandAのリソースに資料や論文等を置く。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

教員の講義・論文の内容がより深く理解できるように、各自作品本文を十分読み込んだ上で授業に出席するとともに、質問や意見をPandAに提出する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学7

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 須田 千里			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		久生十蘭と芥川龍之介									
【授業の概要・目的】											
<p>久生十蘭と芥川龍之介は大正～昭和に活躍した作家である。この授業では、その代表作のモチーフやテーマを考察し、精緻な読解を行う。併せて、受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶ。授業は教室で対面で行う。Zoomの画面共有により、教員がPandAのリソースに置いた論文を読む形で行うので、受講生は教室にパソコンを持参すること。</p> <p>受講生は、授業に関する質問・意見を全体で4回(各回600～800字で締切を設ける)、PandAの「課題」に提出する。教員はPandAを通じてそれに答える。期末にはレポート(4000字)を提出する。授業後に修正した論文をPandAのリソースに置くので、受講生は復習に利用する。</p> <p>研究方法や心構えなど、重要な伝達があるので、第1回目の講義に必ず出席すること。</p>											
【到達目標】											
<p>久生十蘭や芥川龍之介に関する研究内容の把握が出来ること。従来の評価や論点を知った上で、自分の考えを論理的に述べられるようになること。クラス全体で、重層的に考えを発展していけること。批判的な考え方が出来ること。説得性と独自性を備えたレポートを書くことができること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス(研究方法や心構えなど、重要な伝達があるので、必ず出席すること)。久生十蘭の生涯と文学。「重吉漂流記」について</p> <p>第2回 「重吉漂流記」と「藤九郎の島」</p> <p>第3回 「藤九郎の島」</p> <p>第4回 「ボニン島物語」の材源と構想</p> <p>第5回 「ボニン島物語」の主題</p> <p>第6回 「鈴木主水」の概要</p> <p>第7回 「鈴木主水」の材源</p> <p>第8回 「鈴木主水」の主題</p> <p>第9回 芥川龍之介の生涯と文学。「神神の微笑」の概要</p> <p>第10回 「神神の微笑」の材源</p> <p>第11回 「神神の微笑」の主題</p> <p>第12回 芥川龍之介「忠義」の概要</p> <p>第13回 「忠義」の材源</p> <p>第14回 「忠義」の主題</p> <p>第15回 フィードバック</p> <p>なお、理解の程度にあわせて進度や内容を調整する。</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業に関して疑問に思ったことや、自分で考えたり調べたりしたことを提出するのが4割(4回、各10点)、レポート6割(60点)。レポートは独自性と説得性の観点から評価する。

【教科書】

PandAのリソースに資料や論文等を置く。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

教員の講義・先行論文の内容がより深く理解できるように、各自作品本文を十分読み込んだ上で授業に出席するとともに、質問や意見等をPandAに提出する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学8

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 佐野 宏			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		国語史特殊研究									
【授業の概要・目的】											
<p>日本書紀・古事記の歌謡については、従来民俗学的観点からの分析によって多くの成果が示された。「古代歌謡」とも称されるその一群はその限りに於いて万葉集などの「古代和歌」とは別に扱われ、ときとして万葉集の作品群から「古代歌謡」的な要素を抽出することが試みられもしている。その議論は万葉歌に先行する民族的要素の強い記紀歌謡の存在という時代的な先後関係と、それに依拠した影響・受容関係を想定した分析である。しかしながら、後世に象られた「古代歌謡」という概念はそもそもが作業仮説であって、記紀という作品に縛られた以上に実体があるわけではない。さらに記紀編纂以前の伝承歌があったとしても、8世紀当時の彼らに我々の「古代歌謡」があるわけではない。そもそも影響関係が辿れるということは「古代歌謡」と「古代和歌」を同一次元に措いた議論であるが、そのことへの自覚的な分析は十分に試みられたとはいえないように思われる。この点で、記紀歌謡を万葉集の歌々と表現・修辞の方法という観点で同列に見なし、記紀歌謡の一群を万葉集に包摂するとどのように位置づけられるかを考えてみたい。この逆は用例数が異なるため記紀歌謡で万葉集を包摂することはあまり意味をなさない。結局、雑歌・相聞・挽歌があるということに落ち着くからである。すなわち記紀歌謡を古代和歌の次元で解釈することを試みるのが、本講義の目的である。方法は、従来の古典分析とさして変わらない。訓詁として文法史、語彙史の方法が行われるのは当然のことながら、とくに書紀歌謡については漢字音が問題になるため、音韻史、文字史、表記史についての知見が必要になる。日本語学文献講読論IIIと関連する国語学分野の科目を予め受講しておくことが望ましいが、並行して受講することも許容する。</p>											
【到達目標】											
<p>古代日本和歌の淵源について基礎研究の成果を共有するとともに、新たな研究領域を構築することを目的として、次の2点を到達目標とする。1) 古代歌謡研究の現在について基本的な術語概念を簡潔に説明できること。2) 教養としての古代和歌史について基本的な研究史が説明できること。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 古事記概説 2 日本書紀概説 3 万葉集概説 4 調査研究法 5 古事記歌謡の特質 6 日本書紀歌謡の特質 7 「古代歌謡」について 8 実例演習 倭建尊命歌謡 9 実例演習 素盞烏尊歌謡 10 実例演習 風土記歌謡と東歌 11 歌謡の歌体について 長歌歌体沿革 12 歌謡の歌体について 旋頭歌体沿革 13 実例演習 催馬楽、琴歌譜の課題 											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

14 歌経標式の歌体理論について

15 まとめ

8回から10回は受講生に課題を与えるのでこれまでの議論を踏まえて実際に演習形式で研究発表をしてもらいます。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

成績は、期末のレポート試験70%、平常点30%によって評価する。レポート試験の課題は講義中に指示する。その採点基準は、問題設定30点、解決方法50点、結論20点の100点満点で評価する。なお口頭発表を受講者に求めることがあるが、これをもって平常点とする。

【教科書】

坂本信幸・毛利正守 『萬葉事始』(和泉書院)(レポート作成に使用するので購入しておくこと)
井手至 『校注萬葉集』(和泉書院)
大谷雅夫他 『萬葉集 一~四』(岩波書店)(岩波文庫本です。)

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

次の2点を通常の授業外学習とする。1)参考文献として掲出している関連論文を要約して、研究史のレポートを作成すること。2)また配付資料を予め検討して講義中の質疑応答の準備をすること。

(その他(オフィスアワー等))

火曜日の13:00~14:00、木曜日の14:40~15:30まで。ただし、木曜日は会議が入りやすいので、事前に確認して欲しい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学9

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 佐野 宏			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		国語史特殊研究									
【授業の概要・目的】											
<p>日本書紀・古事記の歌謡については、従来民俗学的観点からの分析によって多くの成果が示された。「古代歌謡」とも称されるその一群はその限りに於いて万葉集などの「古代和歌」とは別に扱われ、ときとして万葉集の作品群から「古代歌謡」的な要素を抽出することが試みられもしている。その議論は万葉歌に先行する民族的要素の強い記紀歌謡の存在という時代的な先後関係と、それに依拠した影響・受容関係を想定した分析である。しかしながら、後世に象られた「古代歌謡」という概念はそもそもが作業仮説であって、記紀という作品に縛られた以上に実体があるわけではない。さらに記紀編纂以前の伝承歌があったとしても、8世紀当時の彼らに我々の「古代歌謡」があるわけではない。そもそも影響関係が辿れるということは「古代歌謡」と「古代和歌」を同一次元に措いた議論であるが、そのことへの自覚的な分析は十分に試みられたとはいえないように思われる。この点で、記紀歌謡を万葉集の歌々とを表現・修辞の方法という観点で同列に見なし、記紀歌謡の一群を万葉集に包摂するとどのように位置づけられるかを考えてみたい。この逆は用例数が異なるため記紀歌謡で万葉集を包摂することはあまり意味をなさない。結局、雑歌・相聞・挽歌があるということに落ち着くからである。すなわち記紀歌謡を古代和歌の次元で解釈することを試みるのが、本講義の目的である。方法は、従来の古典分析とさして変わらない。訓詁として文法史、語彙史の方法が行われるのは当然のことながら、とくに書紀歌謡については漢字音が問題になるため、音韻史、文字史、表記史についての知見が必要になる。日本語学文献講読論IIIと関連する国語学分野の科目を予め受講しておくことが望ましいが、並行して受講することも許容する。</p>											
【到達目標】											
<p>古代日本和歌の淵源について基礎研究の成果を共有するとともに、新たな研究領域を構築することを目的として、次の2点を到達目標とする。1) 古代歌謡研究の現在について基本的な術語概念を簡潔に説明できること。2) 教養としての古代和歌史について基本的な研究史が説明できること。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 古事記概説(研究史) 2 日本書紀概説(研究史) 3 万葉集概説(研究史) 4 調査研究法(「初期万葉」と「記紀歌謡」その定義の在り方) 5 古事記歌謡の特質 6 日本書紀歌謡の特質 7 「古代歌謡」について(「歌の共有」がもたらすもの) 8 実例演習 担当者による演習 9 実例演習 担当者による演習 10 実例演習 担当者による演習 11 歌謡の歌体について 長歌歌体沿革 12 歌謡の歌体について 旋頭歌体沿革 13 実例演習 催馬楽、琴歌譜の課題 											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

- 14 歌経標式の歌体理論と万葉集内部にみる「歌病歌」の分布
15 まとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

成績は、期末のレポート試験70%、平常点30%によって評価する。レポート試験の課題は講義中に指示する。その採点基準は、問題設定30点、解決方法50点、結論20点の100点満点で評価する。なお口頭発表を受講者に求めることがあるが、これをもって平常点とする。

[教科書]

坂本信幸・毛利正守 『萬葉事始』(和泉書院)
井手至 『校注萬葉集』(和泉書院)
大谷雅夫他 『萬葉集 一～四』(岩波書店)(岩波文庫です。)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

次の2点を通常の授業外学習とする。1)参考文献として掲出している関連論文を要約して、研究史のレポートを作成すること。2)また配付資料を予め検討して講義中の質疑応答の準備をすること。

(その他(オフィスアワー等))

火曜日の13:00～14:00、木曜日の14:40～15:30まで。ただし、木曜日は会議が入りやすいので、事前に確認して欲しい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学10

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 長谷川 千尋			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『九代抄』（春夏雑）講読									
【授業の概要・目的】											
『九代抄』は、『後撰和歌集』から『続後撰和歌集』に至る九代の勅撰和歌集から、連歌、和歌の創作に資すると考えられたであろう1500首の秀歌を抄出したものである。文亀三年（1503）肖柏の奥書が備わる。加注本も『九代抄』『九代集抄』の二種が翻刻されているが、後者と少しく異なる別種注の存在も確認される。そこで、以上三種の古注に、『九代抄』古注を批判した貞徳の『九六古新註』を加え、各説を比較検討しつつ問題点を考察する。前期は春、夏、雑部を対象として問題となる箇所を講読し、以て『九代抄』注の性格や成立事情を探る。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・室町時代中後期の歌学史、古注釈に関する基礎的な素養と資料の読解力を養う。 ・授業に関連する事柄に関して、独自に問題を設定し、考察する能力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 『九代抄』の成立 2. 『九代抄』の諸本 3. 『九代抄』『九代集抄』講読（春1～63） 4. 『九代抄』『九代集抄』講読（春64～118） 5. 『九代抄』『九代集抄』講読（春119～169、夏170～194） 6. 『九代抄』『九代集抄』講読（夏195～265） 7. 『九代抄』『九代集抄』講読（雑955～1037） 8. 『九代抄』『九代集抄』講読（雑1038～1102） 9. 『九代抄』『九代集抄』講読（雑1103～1184） 10. 『九代抄』『九代集抄』講読（雑1185～1246） 11. 『九代抄』『九代集抄』講読（雑1247～1317） 12. 『九代抄』『九代集抄』講読（雑1318～1378） 13. 『九代抄』『九代集抄』講読（雑1379～1439） 14. 『九代抄』『九代集抄』講読（雑1440～1500） 15. まとめ 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末レポートに拠り、到達目標の達成度に基づき評価する。独自の視点で課題を設定し、実証的に結論を導き出しているものを高く評価する。											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

レポート課題のテーマの選定、調査、論述が中心となる

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学11

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 長谷川 千尋			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『九代抄』（秋冬恋）講読									
【授業の概要・目的】											
『九代抄』は、『後撰和歌集』から『続後撰和歌集』に至る九代の勅撰和歌集から、連歌、和歌の創作に資すると考えられたであろう1500首の秀歌を抄出したものである。文亀三年（1503）肖柏の奥書が備わる。加注本も『九代抄』『九代集抄』の二種が翻刻されているが、後者と少しく異なる別種注の存在も確認される。そこで、以上三種の古注に、『九代抄』古注を批判した貞徳の『九六古新註』を加え、各説を比較検討しつつ問題点を考察する。後期は、前期に引き続き、秋、冬、恋部を対象として問題となる箇所を講読し、以て『九代抄』注の性格や成立事情を探る。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・室町時代中後期の歌学史、古注釈に関する基礎的な素養と資料の読解力を養う。 ・授業に関連する事柄に関して、独自に問題を設定し、考察する能力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 『九代抄』の成立 2. 『九代抄』の諸本 3. 『九代抄』『九代集抄』講読（秋266～329） 4. 『九代抄』『九代集抄』講読（秋330～390） 5. 『九代抄』『九代集抄』講読（秋391～451） 6. 『九代抄』『九代集抄』講読（秋452～505） 7. 『九代抄』『九代集抄』講読（秋506～559） 8. 『九代抄』『九代集抄』講読（冬560～625） 9. 『九代抄』『九代集抄』講読（冬626～696） 10. 『九代抄』『九代集抄』講読（恋697～757） 11. 『九代抄』『九代集抄』講読（恋758～816） 12. 『九代抄』『九代集抄』講読（恋817～866） 13. 『九代抄』『九代集抄』講読（恋867～912） 14. 『九代抄』『九代集抄』講読（恋913～954） 15. まとめ 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
定期試験（筆記）に拠り、到達目標の達成度に基づき評価する。											
【教科書】											
プリント配布。											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

定期試験の課題に向けての事前準備が中心となる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学12

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学文学部 教授 岡崎 友子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本語のバリエーションー文法・語彙を中心に									
【授業の概要・目的】											
<p>(授業の概要・目的)</p> <p>本講義は、時代、地域(方言)、男女、書き言葉・話し言葉(文体)等、様々なバリエーションをもつ現代日本語の諸相と歴史的变化を学ぶことにより、日本語の多様な姿を理解することを目的とする。特に文法・語彙の用法と歴史的变化を中心に、これまでに明らかにされてきたことを学んでいく。文法史に関しては、自立語(名詞、動詞、形容詞・形容動詞、副詞、接続詞、感動詞)を扱う。文法は体系的に変化しており、そのダイナミックさを感じて欲しい。</p> <p>また、本講義では自らが見つけ出した日本語の問題について発表し、出席者同士で討議することも行う。そこで、講義内で研究用の情報を付与したデータベースであるコーパス(国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』『日本語歴史コーパス』等)を使用できるように紹介していく。検索ツール「中納言」の説明、コーパスを有効に用いた研究についても講義していく。</p>											
【到達目標】											
<p>1.現代及び古代日本語(文法・語彙史)における各時代の用法と体系性、歴史の変遷について理解し、説明できる。</p> <p>2.現代及び古代日本語の問題について、自らテーマを設定し議論できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクシヨン 授業の概要 古代語と現代語の対照研究</p> <p>第2回 「そうだ京都、行こう」現代語の指示詞の用法 直示・非直示 フィラー</p> <p>第3回 「黄昏」は「その人は誰」 古代語の指示詞の用法 歴史的变化</p> <p>第4回 「カラカラ」と笑う 現代・古代日本語のオノマトペ</p> <p>第5回 「かちんうどん」は何うどんなの 位相語 女性のことば</p> <p>第6回 「またまた～」って感動詞? 副詞から接続詞、そして感動詞へ 変化の方向</p> <p>第7回 コーパスとは 「中納言」操作法 『日本語歴史コーパス』解説</p> <p>第8回 コーパスによる日本語研究(現代・古代)</p> <p>第9回 テーマ設定 身近な言葉から</p> <p>第10回 Boom! Boom! 漢語ブーム! 中世・近代における漢語ブーム 明治新漢語</p> <p>第11回 活用のリストラ 二段動詞の一段化をどう捉えるか</p> <p>第12回 「河豚は食いたし命は惜しし」「熱っ!」 形容詞・形容動詞活用 語幹用法</p> <p>第13回 テーマの発表と討議(1)</p> <p>第14回 テーマの発表と討議(2)</p> <p>第15回 まとめ</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

成績は、期末のレポート試験60%、平常点40%によって評価する。レポート試験の課題は講義中に指示する。なお、口頭発表・議論を受講者に求めることがあるが、これをもって平常点とする。

【教科書】

教科書は使用しない。穴埋めのプリントを授業内で配布する。

【参考書等】

(参考書)

高山善行・青木博史編 『ガイドブック日本語文法史』(ひつじ書房、2010年) ISBN:978-4-89476-489-7

岡崎友子・堤良一・松丸真大・岩田美穂編 『ココが面白い日本語学!』(ココ出版、2017年) ISBN:978-4-904595-90-9

岡崎友子・森勇太 『ワークブック日本語の歴史』(くろしお出版、2016年)

その他、授業内に紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

【予習】

この授業では、穴埋め式の資料(授業内で配布)を使用する。また、このシラバスを見て、事前に参考書にも目を通しておくこと。

【復習】

より理解するために、講義で習ったことを復習し、分からなかったところや疑問点がある場合はメモをするなどして、次の講義で質問すること。

(その他(オフィスアワー等))

コーパスに興味がある方は「中納言」に登録してみてください。

国立国語研究所・コーパス開発センター：https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/

国立国語研究所・日本語史研究資料：<https://dglb01.ninjal.ac.jp/ninjaldl/>

実例詳解古典文法総覧 補遺稿(和泉書院)：

http://www.izumipb.co.jp/izumi/modules/pico/index.php?cat_id=60

リアクションペーパーを配布し、質問は次の授業で答えていきます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学13

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学文学部 教授 岡崎 友子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本語のバリエーションー文法・語彙を中心に									
【授業の概要・目的】											
<p>(授業の概要・目的)</p> <p>本講義は、時代、地域(方言)、男女、書き言葉・話し言葉(文体)等、様々なバリエーションをもつ現代日本語の諸相と歴史的变化を学ぶことにより、日本語の多様な姿を理解することを目的とする。特に文法・語彙の用法と歴史的变化を中心に、これまでに明らかにされてきたことを学んでいく。文法史に関しては、付属語(助詞・助動詞)を扱っていく。文法は体系的に変化しており、そのダイナミックさを感じて欲しい。</p> <p>また、本講義では自らが見つけ出した日本語の問題について発表し、出席者同士で討議することも行う。そこで、講義内で研究用の情報を付与したデータベースであるコーパス(国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』『日本語歴史コーパス』等)を使用できるように紹介していく。検索ツール「中納言」の説明、コーパスを有効に用いた研究についても講義していく。</p>											
【到達目標】											
<p>1.現代及び古代日本語(文法・語彙史)における各時代の用法と体系性、歴史の変遷について理解し、説明できる。</p> <p>2.現代及び古代日本語の問題について、自らテーマを設定し議論できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション 授業の概要</p> <p>第2回 「いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり」準体句 接続助詞</p> <p>第3回 「図書館に行く?図書館へ行く?」格助詞の用法と歴史</p> <p>第4回 歴史的に見られる方言 東歌・防人の歌 『浮世風呂』上方VS江戸</p> <p>第5回 スタンダード(標準語)はどこにある 標準語の制定</p> <p>第6回 なぜ方言はあるのか?</p> <p>言語の地域差が生まれるパターン スタイル・レジスター</p> <p>第7回 「君、役割語を学びたまえ」って誰!? 役割語研究</p> <p>第8回 「なんでやねん、知らんけど」関西弁のイメージ 方言コスプレ</p> <p>第9回 テーマ設定 身近な言葉から</p> <p>第10回 副詞性の助詞 副助詞</p> <p>第11回 係り結びの発生と衰退</p> <p>第12回 テンス・アスペクト 「夕」の表す時間</p> <p>第13回 テーマの発表と討議(1)</p> <p>第14回 テーマの発表と討議(2)</p> <p>第15回 まとめ</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

成績は、期末のレポート試験60%、平常点40%によって評価する。レポート試験の課題は講義中に指示する。なお、口頭発表・議論を受講者に求めることがあるが、これをもって平常点とする。

【教科書】

教科書は使用しない。穴埋めのプリントを授業内で配布する。

【参考書等】

(参考書)

小田勝 『実例詳解古典文法総覧』 (和泉書院、2015年) ISBN:978-4757607316

金水敏 『ヴァーチャル日本語役割語の謎』 (岩波書店、2003年) ISBN:978-4000068277

真田信治 『標準語の成立事情 日本人の共通ことばはいかにして生まれたか (PHP文庫)』 (PHP研究所、2001年) ISBN:978-4569576077

その他、授業内で紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

【予習】

この授業では、穴埋め式の資料(授業内で配布)を使用する。また、このシラバスを見て、事前に参考書にも目を通しておくこと。

【復習】

より理解するために、講義で習ったことを復習し、分からなかったところや疑問点がある場合はメモをするなどして、次の講義で質問すること。

(その他(オフィスアワー等))

コーパスに興味がある方は「中納言」に登録してみてください。

国立国語研究所・コーパス開発センター：https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/

国立国語研究所・日本語史研究資料：<https://dglb01.ninjal.ac.jp/ninjaldl/>

実例詳解古典文法総覧 補遺稿(和泉書院)：

http://www.izumipb.co.jp/izumi/modules/pico/index.php?cat_id=60

リアクションペーパーを配布し、質問は次の授業で答えていきます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学14

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 田中 則雄			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		後期読本の成立と展開									
【授業の概要・目的】											
<p>1700年代の中葉から後半にかけて都賀庭鐘・上田秋成らによって制作された初期読本に比して、1800年代初め頃から、山東京伝・曲亭馬琴の先導によって成立した後期読本には、幾つかの際立つ特質がある。</p> <p>その一つに、初期読本が短編中心であるのに対し、後期読本は長編中心であるという点が挙げられ、馬琴の『南総里見八犬伝』がその典型として知られる。かくて、後期読本を長編小説という観点から把握することを、本講義の基盤に据える。</p> <p>長編小説であるということは、単に分量の問題ではない。そこには、全編を大きな統一体として括り、構造をもたらすための型が用いられている。</p> <p>後期読本の作者たちは、中国白話小説、仏教長編説話、演劇（浄瑠璃・歌舞伎）、実録などの他ジャンルの作を典拠として取り込みつつ、そこから独自の長編構造を持つ小説へと作り上げていった。</p> <p>また、江戸には京伝・馬琴以外にも特色有る作法を有する作者がおり、一方上方においても独特の作風が形成された。</p> <p>以上のような後期読本の諸相について、具体例に即しつつ考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>後期読本における典拠の受容やその展開のさせ方などを分析することにより、長編小説における構造の問題を理解する。</p> <p>後期読本は、貸本屋を通じて広い範囲の読者に愛好され、明治期に至っても活字本が刊行され読み継がれた。後期読本を探究することにより、近世から近代へと続く文化の重要な一面を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1.概要説明 後期読本の成立と展開に関する諸問題 2.長編構成の方法 3.後期読本における「因果」 4.後期読本における「転生」 5.中国白話小説の受容 6.仏教長編説話の受容(1)大江文坡の仏教長編説話 7.仏教長編説話の受容(2)山東京伝の読本における受容 8.仏教長編説話の受容(3)曲亭馬琴の読本における受容 9.演劇の受容(1)曲亭馬琴・小枝繁の読本における受容 10.演劇の受容(2)栗杖亭鬼卵の読本における受容 11.実録の受容(1)速水春暁齋の読本における受容 12.実録の受容(2)栗杖亭鬼卵の読本における受容 13.江戸読本と上方読本 14.総括 後期読本の特質 15.濱田啓介文庫の後期読本 											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（講義時の課題やコメント等）（20%）、レポート（80%）

[教科書]

講義資料を配付する。

[参考書等]

（参考書）

田中則雄『読本論考』（汲古書院、2019年）

（関連URL）

<https://kotenseki.nijl.ac.jp/>(国文学研究資料館「新日本古典籍総合データベース」には、後期読本の画像が多数収録されている。)

[授業外学修（予習・復習）等]

講義中にも言及するが、濱田啓介文庫（文学研究科図書館）、貸本屋大野屋惣八（大惣）旧蔵本（附属図書館）には多くの後期読本が含まれる。後期読本においては、本の形態（外形）、そこに収録される当時一流の画師たちによる挿絵なども重要な意味を持つので、積極的に原本を閲覧されたい。

（その他（オフィスアワー等））

メールによる質問等を受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学15

科目ナンバリング		G-LET10 71340 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大槻 信			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		鈴鹿本『今昔物語集』の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>京都大学が所蔵する鈴鹿本『今昔物語集』（国宝）をとりあげ、演習形式で研究を行う。説話、漢字片仮名交り文、和漢混淆文についての基礎知識を獲得し、資料を日本語史・日本文学の研究資料として使用するための方法・視点を学ぶことを目的とする。授業では、調べ、考える楽しさを重視する。</p>											
【到達目標】											
<p>説話、漢字片仮名交り文、和漢混淆文についての基礎知識を獲得する。様々な工具書を用いて資料を読解し、そこに現れた日本語表現について考察できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>本演習では、京都大学が所蔵する鈴鹿本『今昔物語集』（国宝）をとりあげ、その研究を行う。具体的には、資料を一文字ずつ読みながら、読解・注釈を行い、その過程で、出典・表記・音韻・文法・語彙といった種々の方面から検討を加える。説話、日本語史、古辞書に興味がある人には面白いものとなる。</p> <p>年度はじめ数回をイントロダクションにあてる。その後、受講者による発表形式で進める。発表者は担当部分から問題点を見つけ出し、発表する。授業では受講者からの積極的な発言を歓迎し、活発な議論が行われることを期待している。</p> <p>第1回イントロダクション 第2回イントロダクション、担当決め 第3回～第29回発表と議論 第30回まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>成績は発表によって評価し、授業中の発言等を平常点として加味する。発表の機会がなかった者は発表に相当するレポートをもって評価する。</p>											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

[教科書]

<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00000125>

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

受講者全員がその時間に取り上げる該当部分について予習した上で授業にのぞむこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET10 71340 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河村 瑛子			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『俳諧類船集』研究									
[授業の概要・目的]											
<p>過去の文献に記されたことがらを正確に理解するためには、言葉の精密な意味合いと、その背後にある世界観を把握することが肝要である。近世前期に花開いた古俳諧は、文学史上初めて、豊富な俗語の資料を残してくれた。本演習では、古俳諧が齎した史上最大の連想語辞書『俳諧類船集』の読解を通して、古人の精神世界に分け入りたい。</p> <p>本書に記された連想語群は、日本人の伝統的な共通認識を反映しており、しかも、和漢雅俗にわたる浩瀚な内容を含んでいる。たとえば「語る」の項目を見ると、その連想語として、浄瑠璃、平家、みどり子、謡、梓神子、盗人、遊女などが挙げられている。これを眺めるだけで、「語る」と「話す」とがどう違うのかといった言葉の原義から、物語や歴史叙述の根源的な問題にまで想像が膨らんでくるだろう。本演習では、『類船集』の連想語のネットワークを分析する方法とその意義について実践的に学ぶ。</p> <p>本演習では、はじめに教員による概説的講義を行い、以後は受講者の発表によって進める。具体的には、本書の見出語と連想語との関係性を文献上の根拠にもとづいて考察し、そこから浮かび上がる問題点を受講者全員で吟味することによって、言葉の深奥に迫る。</p> <p>この授業は、古文献の基礎的な調査・読解の方法を習得し、文学・語学・文化における良質な問題点を発見するための思考を養う場である。近世文学研究の立場にとどまらず、様々な角度から取り組むことが可能であろう。本演習が受講者各々の専門的研究へとつながる視座を獲得する機会となることを期待する。</p>											
[到達目標]											
<p>くずし字読解能力と、和本の基本的な扱い方を身につける。多様な資料の性格を把握し、古文献を適切に運用できるようになる。テキストを実証的に解釈する方法を習得する。自ら良質な問題点を発見し、それを適切な方法によって解決できるようになる。</p>											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 『俳諧類船集』概説 3. 和装本の扱い方について 4. 受講者による発表と討議 (1) 「秤」条 5. 受講者による発表と討議 (2) 「鉢」条・前半 6. 受講者による発表と討議 (3) 「鉢」条・後半 7. 受講者による発表と討議 (4) 「箸」条 8. 受講者による発表と討議 (5) 「筥」条・前半 9. 受講者による発表と討議 (6) 「筥」条・後半 10. 受講者による発表と討議 (7) 「箱」条・前半 11. 受講者による発表と討議 (8) 「箱」条・後半 12. 受講者による発表と討議 (9) 「袴」条・前半 13. 受講者による発表と討議 (10) 「袴」条・後半 14. 受講者による発表と討議 (11) 「脛巾」条 											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

- 15.受講者による発表と討議(12) 「羽折」条
- 16.受講者による発表と討議(13) 「旗」条・前半
- 17.受講者による発表と討議(14) 「旗」条・後半
- 18.受講者による発表と討議(15) 「白衣」条
- 19.受講者による発表と討議(16) 「初もとゆひ」条
- 20.受講者による発表と討議(17) 「白髪」条
- 21.受講者による発表と討議(18) 「初雪」条
- 22.受講者による発表と討議(19) 「浜」条・前半
- 23.受講者による発表と討議(20) 「浜」条・後半
- 24.受講者による発表と討議(21) 「橋」条・前半
- 25.受講者による発表と討議(22) 「橋」条・後半
- 26.受講者による発表と討議(23) 「階子」条
- 27.受講者による発表と討議(24) 「柱」条・前半
- 28.受講者による発表と討議(25) 「柱」条・後半
- 29.総括
- 30.フィードバック

受講者の理解の度合いや発表の進行度、新型コロナウイルスの感染拡大状況等によって、予定を変更する場合がある。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への参加度(20%)、発表(40%)、年度末のレポート(40%)による。発表・レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない
プリントを配付する。

【参考書等】

(参考書)

頼原退蔵『頼原退蔵著作集 第16巻 近世語研究』(中央公論社) ISBN:4124012012
このほかの参考書は、適宜授業中に紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

発表担当者はもちろん、受講者全員が該当箇所を十分に予習し、自身の見解を持って授業に臨むこと。授業では版本・写本および文書類の写真を用いるため、くずし字読解への強い意欲が求められる。授業で扱う資料の予習復習はもちろんのこと、不断に古典籍に親しむこと。『類船集』の注釈研究においては、古俳諧をはじめとした和漢の古典文学作品はもとより、近世期の随筆類、歴史資料や図像資料、時には民俗学・文化人類学など隣接諸学の成果をも参照することが求められる。専門分野にかかわらず、日頃から広い分野の読書を心がけること。

国語学国文学(演習)(3)へ続く

国語学国文学(演習)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学17

科目ナンバリング		G-LET10 71340 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 田中 草大			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	木5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		日本語学・日本文学の問題設定と論文化									
【授業の概要・目的】											
<p>[前期] 参加者各人の関心に応じて日本語学・日本文学の研究論文を選んで読み、その要旨を作成し、論旨・方法・表現などを分析する。それによって論文を読む/書く上での注意点を学ぶとともに、自分の研究のための問題意識を具体化していく。</p> <p>[後期] 前期で見いだした問題意識に基づいて研究を行い、論文化する。論文作成においては、一旦書き上げた後の綿密な修正作業が肝要である。発表時の議論・コメントに基づいて更に論文を練り上げていき、論文作成のための要点を実地に学習する。</p>											
【到達目標】											
<p>次の2点を理解する。</p> <p>(1) 学術論文を書く際にどのような問題点が生じやすいか</p> <p>(2) それを避けるにはどうしたらよいか</p>											
【授業計画と内容】											
<p>[前期]</p> <p>01. ガイダンス、模擬発表 02. 講義：論文とはどのような文書か 03. 講義：論文はどのように書くか 04. 講義：アウトライナーを使おう 05～14. 学生発表（論文分析） 15. フィードバック</p> <p>[後期]</p> <p>01.～14. 学生発表（自由論文） 15. フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点および期末課題による（100％）。

演習では、自分の発表だけでなく他人の発表も学習の大きな機会です。欠席はなるべく控えて下さい。特に、無断欠席は大幅な減点とします。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：発表論文を事前に読み、問題点を明らかにしておく。

復習：発表中に指摘された注意点などを確認し、今後の発表に援用する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学18

科目ナンバリング		G-LET10 71341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 緑川 英樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『三体詩』選読									
【授業の概要・目的】											
『三体詩』は南宋の周弼(1194~?)が編纂し、中晩唐を主とする唐詩のアンソロジーであり、室町時代から江戸時代にかけて日本でも非常に愛読された。この授業では、その巻一「七言絶句」の部分を読解してゆく。詳細な訳注を作成することを通して古典詩文の読解力、文献調査の技法を身につけるとともに、唐代文学に対する理解を深めることをめざす。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・近体詩の形式・語法に関する基本知識を習得する。 ・典故や用例を精査したうえで、詳細かつ正確な注釈を作成する方法を学ぶ。 ・唐代の代表的詩人の伝記と文学について理解を深める。 											
【授業計画と内容】											
『三体詩』巻一「七言絶句」の杜牧「酔後題僧院」から読み進める。授業は、原則として一首ごとに担当者一名をあらかじめ指名し、詳細な訳注を作成してもらう。それをたたき台として、受講者全員で討論、検討してゆく。											
第1回 インTRODakション 『三体詩』についての概説。参考文献を紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。											
第2回 杜牧「酔後題僧院」											
第3回 趙力「経汾陽旧宅」											
第4回 鄭谷「十日菊」											
第5回 薛能「老圃堂」											
第6回 羅隱「偶興」											
第7回 朱褒「悼亡妓」											
第8回 王維「送元二使安西」											
第9回 賈島「三月晦日贈劉評事」											
第10回 方沢「武昌阻風」											
第11回 曹松「己亥歳」											
第12回 陳羽「伏翼西洞送人」											
第13回 秦系「題明慧上人房」											
第14回 戎昱「寄許鍊詩」											
第15回 まとめ 精読の成果を踏まえ、『三体詩』選詩の基準と特徴についてまとめる。											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

【履修要件】

国語学国文学専修所属の大学院生に限る。

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業内での担当、発言）による。

【教科書】

ハンドアウトを配布する。また、京大貴重資料デジタルアーカイブの谷村文庫（日光寺旧蔵）本の画像を参照のこと。

【参考書等】

（参考書）

村上哲見 『三体詩（一） 中国古典選』（朝日文庫、1978年）ISBN:0198-260129-0042

【授業外学修（予習・復習）等】

発表担当者以外の受講者の方も毎回きちんと予習をしてください。最低限、当該作品の本文および注釈は読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学19

科目ナンバリング		G-LET10 71341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 緑川 英樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『三体詩』選読									
【授業の概要・目的】											
『三体詩』は南宋の周弼(1194~?)が編纂し、中晩唐を主とする唐詩のアンソロジーであり、室町時代から江戸時代にかけて日本でも非常に愛読された。この授業では、その巻一「七言絶句」の部分を読解してゆく。詳細な訳注を作成することを通して古典詩文の読解力、文献調査の技法を身につけるとともに、唐代文学に対する理解を深めることをめざす。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・近体詩の形式・語法に関する基本知識を習得する。 ・典故や用例を精査したうえで、詳細かつ正確な注釈を作成する方法を学ぶ。 ・唐代の代表的詩人の伝記と文学について理解を深める。 											
【授業計画と内容】											
『三体詩』巻一「七言絶句」の張籍「秋思」から読み進める。授業は、原則として一首ごとに担当者一名をあらかじめ指名し、詳細な訳注を作成してもらう。それをたたき台として、受講者全員で討論、検討してゆく。											
第1回 イン트로ダクション 『三体詩』についての概説。参考文献を紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。											
第2回 張籍「秋思」											
第3回 杜牧「懷吳中馮秀才」											
第4回 杜牧「念昔遊」											
第5回 李群玉「寄友」											
第6回 鄭谷「経賈島墓」											
第7回 司空図「修史亭」											
第8回 僧靈徹「答韋丹」											
第9回 王維「九日懷山東兄弟」											
第10回 顧況「葉道士山房」											
第11回 顧況「宿昭応」											
第12回 司空曙「江村即事」											
第13回 雍裕之「宮人斜」											
第14回 劉言史「過春秋峽」											
第15回 まとめ 精読の成果を踏まえ、『三体詩』選詩の基準と特徴についてまとめる。											
【履修要件】											
国語学国文学専修所属の大学院生に限る。											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業内での担当、発言）による。

[教科書]

ハンドアウトを配布する。また、京大貴重資料デジタルアーカイブの谷村文庫（日光寺旧蔵）本の画像を参照のこと。

[参考書等]

（参考書）

村上哲見 『三体詩（一） 中国古典選』（朝日文庫、1978年）ISBN:0198-260129-0042

[授業外学修（予習・復習）等]

発表担当者以外の受講者の方も毎回きちんと予習をしてください。最低限、当該作品の本文および注釈は読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学20

科目ナンバリング		G-LET10 71341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 鈴木 隆司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		伊勢物語を読む									
【授業の概要・目的】											
伊勢物語は、平安時代を代表する文学作品として、古くから読まれ研究されてきた作品であり、近現代も含めた後世の文学作品や文化に与えた影響も大きい。本授業では、伊勢物語の代表的な章段を取り上げ、注釈史・享受史全体を視野に入れながら読み進めていく。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・伊勢物語の注釈史・享受史について、具体的な事例に基づいて理解する。 ・客観的な論拠に基づく的確な語釈を考えることができるようになる。 ・研究史を踏まえた作品研究ができるようになる。 ・自身の研究成果についてのプレゼンテーション能力を養う。 ・他者の研究成果について適切に批評し議論する能力を養う。 ・「放縦不拘、略無才学」でも人生を生き抜ける力を身につける。 											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス（授業の概要を説明し、発表担当を決める） 第2回 伊勢物語の基礎知識（講義） 第3回～第14回 発表と討議 第15回 まとめ なお、受講生の人数などにより、進め方を変更することがある。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（100点） 発表を重視し、授業への積極的な参加度を加味する。 状況によっては別にレポートを課すことがある。											
【教科書】											
石田穰二『新版 伊勢物語』（角川学芸出版、1979）											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)

片桐洋一、山本登朗 『伊勢物語古注釈大成』(笠間書院、2005～)
その他の参考書については、授業時に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

各回の発表者は、発表準備に十分な時間を確保して取り組むこと。
自身の発表回以外も、本文をしっかり読んで予習しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

連絡方法等については初回の授業で説明する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学21

科目ナンバリング		G-LET10 71341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 鈴木 隆司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		伊勢物語を読む									
【授業の概要・目的】											
伊勢物語は、平安時代を代表する文学作品として、古くから読まれ研究されてきた作品であり、近現代も含めた後世の文学作品や文化に与えた影響も大きい。本授業では、伊勢物語の代表的な章段を取り上げ、注釈史・享受史全体を視野に入れながら読み進めていく。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・伊勢物語の注釈史・享受史について、具体的な事例に基づいて理解する。 ・客観的な論拠に基づく的確な語釈を考えることができるようになる。 ・研究史を踏まえた作品研究ができるようになる。 ・自身の研究成果についてのプレゼンテーション能力を養う。 ・他者の研究成果について適切に批評し議論する能力を養う。 ・「放縦不拘、略無才学」でも人生を生き抜ける力を身につける。 											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス（授業の概要を説明し、発表担当を決める） 第2回 続・伊勢物語の基礎知識（講義） 第3回～第14回 発表と討議 第15回 まとめ なお、受講生の人数などにより、進め方を変更することがある。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（100点） 発表を重視し、授業への積極的な参加度を加味する。 状況によっては別にレポートを課すことがある。											
【教科書】											
石田穰二『新版 伊勢物語』（角川学芸出版、1979）ISBN:97840444005016											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)

片桐洋一、山本登朗 『伊勢物語古注釈大成』(笠間書院、2005～)
その他の参考書については、授業時に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

各回の発表者は、発表準備に十分な時間を確保して取り組むこと。
自身の発表回以外も、本文をしっかり読んで予習しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

連絡方法等については初回の授業で説明する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET10 71341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都女子大学文学部 教授 峯村 至津子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		樋口一葉作品研究									
【授業の概要・目的】											
<p>樋口一葉が文壇にデビューした明治二十年後半、近代文学の黎明期に、女性作家たちは批評家たちの期待や揶揄といった様々な視線を集めながら、どのようにして小説を執筆していったのか、彼女たちにとって 小説執筆 とは何だったのか、当時の、特に女性作家たちが直面していた諸問題に眼を向けながら、その中での一葉文学の特質について多角的に考察する。</p> <p>受講生の方々に調査・考察したことをレジュメにまとめて発表してもらい、それを受けての全員での意見交換、授業担当者からの講評、といった過程を通して、近代文学研究の方法を考究する。</p>											
【到達目標】											
<p>明治期の女性作家樋口一葉の作品を読むことを通じて、一葉の文学と明治二十年代の文学をめぐる状況についての理解を深める。</p> <p>作品の精読方法、先行研究の扱い方、作家の他作品（日記・随筆等も含む）・草稿・同時代資料・同時代小説等の調査と、それらを作品読解に反映させる方法について、理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1. ガイダンス（授業の目標・概要・受講上の注意事項・成績評価の方法等についての解説）。レジュメの作成方法、書式・論述の注意事項などについての概説。</p> <p>2. 樋口一葉についての概説。発表の順番を決める。</p> <p>3回以降は、以下のテーマについて、受講生の発表、それを受けての意見交換、授業担当者からの講評を行う。</p> <p>3. 一葉の和歌と小説の関わり方について。</p> <p>4. 初期作品「闇桜」について、新大系明治編注釈の検討。</p> <p>5. 出世作、「うもれ木」と、掲載誌『都の花』について。</p> <p>6. 露伴をはじめとする明治20年代の芸道ものと一葉作品、その共通項と差異。</p> <p>7. 「暁月夜」・「ゆく雲」と一葉作品に於ける手紙の役割について。</p> <p>8. 転機となった作品「やみ夜」と、主要登場人物の造型について。</p> <p>9. 「ゆく雲」と語り手について。</p> <p>10. 「にごりえ」とその同時代評について。</p> <p>11. 「うつせみ」の草稿と発表稿について。生成批評版の作り方と活用法。</p> <p>12. 「十三夜」の同時代に於ける特異性について。</p> <p>13. 「たけくらべ」の主に終局部をめぐる諸問題について。</p> <p>14. 「われから」と先行作品について。</p> <p>15. 授業の総括（授業内容を踏まえて、文学史の中での一葉の位置づけと、近代文学研究の諸問題や今後の展望について考える）。</p> <p>期末レポート試験</p>											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業での発表50点、授業参加状況（発表後の質疑応答への積極的参加）20点、発表内容を練り直した期末レポート30点により評価する。

[教科書]

授業中に指示する
樋口一葉の作品を初出誌等からコピーして利用する。詳しくは初回授業で説明する。

[参考書等]

（参考書）

樋口一葉 『樋口一葉全集第一巻～第四巻（下）』（筑摩書房、1974～1994年）ISBN:9784480730015（第一巻）（9784480730022（第二巻）9784480730039（第三巻上）9784480730046（第三巻下）9784480730053（第四巻上）9784480730060（第四巻下））
樋口一葉 『新日本古典文学大系明治編 樋口一葉集』（岩波書店、2001年）ISBN:9784002402246
樋口一葉 『全集樋口一葉全集 全四巻』（小学館、1996年）ISBN:9784093521017（第一巻）（9784093521024（第二巻）9784093521031（第三巻）9784093521048（別巻））
田澤稲舟他 『新日本古典文学大系明治編 女性作家集』（岩波書店、2002年）ISBN:9784002402239
半井桃水他 『樋口一葉来簡集』（筑摩書房、1998年）ISBN:9784480823342

[授業外学修（予習・復習）等]

一葉の作品を、できるだけ多く読むこと。
授業で配布されるレジюмеや資料、扱う作品などについては、一言一句に拘って隅々まで丁寧に読むなど、予習して臨むこと。
発表用レジюмеやレポート等は、時間に余裕を持って準備し、締切を守って提出すること。

（その他（オフィスアワー等））

授業後、質問等に対応します。初回授業で連絡方法（メールアドレスなど）もお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学23

科目ナンバリング		G-LET10 71341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都女子大学文学部 教授 峯村 至津子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		泉鏡花作品研究									
【授業の概要・目的】											
<p>泉鏡花の初期作品を読みながら、明治二十年代、近代文学の黎明期に、作家たちがどのようにして小説を執筆していったのか、彼らにとって 小説執筆 とは何だったのか、当時の作家たちが直面していた諸問題に眼を向けながら、その中での鏡花文学の特質について多角的に考察する。主に「琵琶伝」を取り上げる予定である。</p> <p>受講生の方々に調査・考察したことをレジュメにまとめて発表してもらい、それを受けての全員での意見交換、授業担当者からの講評、といった過程を通して、近代文学研究の方法を考究する。</p>											
【到達目標】											
<p>泉鏡花の作品を読むことを通じて、鏡花の文学と明治二十年代の文学をめぐる状況についての理解を深める。</p> <p>作品の精読方法、先行研究の扱い方、作家の他作品（日記・随筆等も含む）・未定稿・同時代資料・同時代小説等の調査とそれらを作品読解に反映させる方法について、理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1. ガイダンス（授業の目標・概要・受講上の注意事項・成績評価の方法等についての解説）。レジュメの作成方法、書式・論述の注意事項などについての概説。</p> <p>2. 泉鏡花についての概説。発表の順番を決める。</p> <p>3回以降は、以下のテーマについて、受講生の発表、それを受けての意見交換、授業担当者からの講評を行う。</p> <p>3. 鏡花の随筆・談話等を読み、鏡花が触れていた先行文芸について理解する。</p> <p>4. 鏡花の論説「愛と婚姻」を読み、その恋愛・結婚観を理解する。</p> <p>5. 「琵琶伝」の同時代批評を精読し、発表当時に於いて問題視されていたことなどについて理解する。</p> <p>6. 「琵琶伝」のヒロインお通の人物造型について、当時の女訓書などと比較しつつ考察する。</p> <p>7. 「琵琶伝」のヒロインお通の人物造型について、鏡花の他作品のヒロインと比較しつつ考察する。</p> <p>8. 「琵琶伝」の男性側の登場人物の造型について考察する。</p> <p>9. 「琵琶伝」に登場する鸚鵡について、その作品内での役割を考察する。</p> <p>10. 古典文学の中での鸚鵡の描かれ方と、「琵琶伝」に於ける描かれ方とを比較・考察する。</p> <p>11. 近代の先行作品の中での鸚鵡の描かれ方と「琵琶伝」に於ける描かれ方とを比較・考察する。</p> <p>12. 「琵琶伝」発表当時の現実に於ける鸚鵡について考察する。</p> <p>13. 「琵琶伝」の典拠について考察する。</p> <p>14. 「琵琶伝」というタイトルの意味について考察する。</p> <p>15. 授業の総括（授業内容を踏まえて、当時の文壇や文学史の中での鏡花の位置づけと、近代文学研究の諸問題や今後の展望について考える）。</p> <p>期末レポート試験</p>											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業での発表50点、授業参加状況（発表後の質疑応答への積極的参加）20点、発表内容を練り直した期末レポート30点により評価する。

[教科書]

授業中に指示する
作品を初出誌からコピーして利用する。詳しくは初回授業で説明する。

[参考書等]

（参考書）

泉鏡花 『鏡花全集』（岩波書店、1973～1976年）（全28巻＋別巻があります。）

泉鏡花 『新編泉鏡花集』（岩波書店、2003～2006年）（全10巻＋別冊が2冊あります。）

泉鏡花 『新日本古典文学大系明治編第20巻 泉鏡花集』（岩波書店、2002年）ISBN:9784002402208

泉鏡花 『日本近代文学大系第7巻 泉鏡花集』（角川書店、1970年）ISBN:9784045720079

[授業外学修（予習・復習）等]

鏡花や尾崎紅葉、樋口一葉などの作品を、できるだけ多く読むこと。

授業で配布されるレジюмеや資料、扱う作品などについては、一言一句に拘って隅々まで丁寧に読むなど、予習して臨むこと。

発表用レジюмеやレポート等は、時間に余裕を持って準備し、締切を守って提出すること。

（その他（オフィスアワー等））

授業後、質問等に対応します。初回授業で連絡方法（メールアドレスなど）もお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学24

科目ナンバリング		G-LET10 7M112 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大槻 信			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		資料発見									
[授業の概要・目的]											
<p>京都大学文学研究科は多くの原資料を所蔵している。本演習では、文学研究科の蔵書の中から古典籍をいくつか選び、共同で研究する。</p> <p>資料を選定するところからはじめ、資料をどのように研究に活用するのかを学ぶ。多くの原資料に触れ、その中から研究に役立つものを見極め、それらを読解・研究することを目的とする。</p> <p>それぞれにある程度専門的な知識を持つ者どうしが集まり、互いの知識・読解力・研究手法を交換・共有することを目指す。そのため、修士課程・博士課程を問わず国語学国文学専修に所属する全ての大学院生が出席することが望ましい。</p>											
[到達目標]											
原資料に触れる。書誌・解題・資料紹介を書く。資料を研究に活用する。											
[授業計画と内容]											
<p>文学研究科が所蔵する原資料を取り上げ、書誌的に記述した上で、読解・研究する。</p> <p>授業は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 資料選定 2. 解題 3. 読解・研究 <p>によって構成される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. では、大学院生各人に候補となる原資料を探索してもらう。それらについて簡略な報告を受けた上で、どの資料を取り上げるかを選定する。 2. では、選定した資料について、書誌的な解説、内容解説を加える。 3. では、資料の部分を取り上げて読解・研究し、この本から何がわかるのか、この資料の何が面白いのかをさぐる。 <p>第1回イントロダクション 第2回授業計画 1. (前半) 第3回授業計画 1. (後半) 第4~30回授業計画 2. と 3. の発表</p> <p>授業では受講者からの積極的な発言を歓迎し、活発な議論が行われることを期待している。</p>											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

成績は発表等を含めた平常点と期末課題による。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業計画1.について準備が必要である。
授業計画3.の資料読解に関しては、受講者全員が、その回の授業でとりあげる資料を読んだ上で授業にのぞむこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学25

科目ナンバリング		G-LET10 7M112 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 金光 桂子			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		国文学作品精読									
[授業の概要・目的]											
<p>国文学のさまざまな作品を取り上げ、詳細な注釈を施しつつ本文を精読する。受講者それぞれが専門とする作品・ジャンルにおいて、どのような注釈が適切かつ有効であるか考え、実践することにより、各自の研究の基礎力を養う場とする。同時に、専門を異にする受講者の研究方法を知ることによって、視野を広げ研究を柔軟に発展させる力を養うことをも目的としている。そのため、専門分野を問わず、国語学国文学専修に所属する大学院生は全員受講することが望ましい。</p>											
[到達目標]											
<p>作品の本文を正確、精密に読み込むことから問題点を発見する能力と、その問題点を適切な方法によって解決し作品の読みへ還元する能力とを養う。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回～第30回 作品精読</p> <p>どの作品のどの部分を読むか、底本に何をを用いるかは毎回の担当者が決定し、テキストを事前に受講者に配布する。担当者の準備した注釈と考察をもとに、全員で議論を行う。取り上げる作品は、必ずしも文学作品と限らず、国語学関係の資料等でもよい。また、担当者の専門分野の特性や研究の進捗状況によっては、研究発表の形式も可とすることがある。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
発表50点、授業中の発言等50点。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
事前配布されたテキストを熟読し、解釈上の問題点を発見しておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学26

科目ナンバリング		G-LET10 7M114 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学（修論演習） Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大槻 信	文学研究科 教授 金光 桂子	文学研究科 准教授 河村 瑛子	文学研究科 准教授 田中 草大
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	水1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		修士論文演習									
[授業の概要・目的]											
修士論文の執筆にむけての指導を行う。論文の題目を何にするか、どのような方法で資料を集め、分析し、そこからどのような結論を導くか、各自工夫し、考えたことを発表し、相互批判し、また教員の指導を受ける機会とする。修士論文を提出する予定の二回生は、かならず受講し、中間発表会で発表しなければならない。											
[到達目標]											
修士論文作成のための、それぞれの分野における資料を調査する方法を身に付け、また中間発表で論文の概要を口頭発表し、他の出席者、教員の助言をうけることにより、論証の方法を反省し、修正することが可能になる。											
[授業計画と内容]											
最初の授業時に、全員、どのような修士論文を書こうとしているか、概略を発表する。その後は個別の指導を行い、前期の授業が終わる頃に、数日間の日程をとって集中的に中間発表会を行う。											
[履修要件]											
今年度末に修士課程修了見込みの者。											
[成績評価の方法・観点]											
中間発表による。											
[教科書]											
使用しない											
----- 国語学国文学（修論演習）(2)へ続く -----											

国語学国文学（修論演習）（2）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

最初の時間に、各自が修士論文に何を書くかその概要を発表するが、十分な準備をした上で臨むこと。また、中間発表では、論証のための調査と考察に力を尽くすことはもちろんのこと、限られた時間内において分かりやすい発表をするために原稿を準備し、発表の練習をしておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学27

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 永田 知之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国古典文学における学びの諸相(1)									
【授業の概要・目的】											
<p>文学作品の作成を含む言語表現は、相応な知識の習得が前提となる。古典文学はとりわけそうだが、前近代中国でその傾向は特に著しい。当時の文学について考える際に重要と思われる、かかる「学び」をめぐる研究はなお多くはない。この授業では資料が少ないこともあって、研究の対象とされることが特に少ない、唐・五代以前の知識人がいかにして作詩・作文の能力を身に付けたかという問題をテーマとする。後期の(2)で知識の体系化や伝播、詩文の指南書など具体的な手段を扱うのに対して、前期の(1)では各種の資料を丹念に読み解きながら、文学における「学び」に対する認識の在り方、学習の様相を見ていく。こういった試みは、魏晋南北朝以来、古典文学が形作られていく過程を再考する上でも避けて通れないと考えられる。</p>											
【到達目標】											
<p>漢代は言語表現が概ね政治や学術などの手段であり、文学作品も特定の人物を対象として著されることが多かった。その後を受けて魏晋以降、文学にそれ独自の価値を見出し、ひいては知識人が詩文を著す能力の習得に努めることとなる。こういった流れを見ていくことで、唐・五代に至る時代の文学が持つ特徴、詩文にまつわる規範や約束事を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>唐・五代までの文学における学びの様相について解説する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることもあり得る。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 識字と作文(1) 第3回 識字と作文(2) 第4回 自身を語る作品に描かれる詩文の学習(1) 第5回 自身を語る作品に描かれる詩文の学習(2) 第6回 詩文の習得をめぐる様相(1) 第7回 詩文の習得をめぐる様相(2) 第8回 詩文を学ぶ動機と文学をめぐる状況(1) 第9回 詩文を学ぶ動機と文学をめぐる状況(2) 第10回 詩文を学ぶ動機と文学をめぐる状況(3) 第11回 詩文を学ぶ場所と教える者(1) 第12回 詩文を学ぶ場所と教える者(2) 第13回 マイノリティによる文学の学習(1) 第14回 マイノリティによる文学の学習(2) 第15回 まとめ</p> <p>フィードバックの方法については、授業時に指示する。</p>											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。

評価の6割はレポート、4割は平常点による。

レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。

担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。

メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 永田 知之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国古典文学における学びの諸相(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>文学作品の作成を含む言語表現は、相応な知識の習得が前提となる。古典文学はとりわけそうだが、前近代中国でその傾向は特に著しい。当時の文学について考える際に重要と思われる、かかる「学び」をめぐる研究はなお多くはない。この授業では資料が少ないこともあって、研究の対象とされることが特に少ない、唐・五代以前の知識人がいかにして作詩・作文の能力を身に付けたかという問題をテーマとする。前期の(1)で文学における「学び」に対する認識の在り方、学習の様相を扱うのに対して、後期の(2)では各種の資料を丹念に読み解きながら、知識の体系化や伝播、詩文の指南書など具体的な手段を見ていく。こういった試みは、魏晋南北朝以来、古典文学が形作られていく過程を再考する上でも避けて通れないと考えられる。</p>											
【到達目標】											
<p>宋代以降に比べれば、なお狭い範囲に限られるが、唐・五代は文学に携わる人々が数を増していく時代だった。それだけに従来は一部の階層が専有していた作詩・作文に関わる知識をより多くの者が求めるようになる。こういった流れを見ていくことで、唐・五代に至る時代の文学が持つ特徴、詩文を作る際に踏まえる過程、その助けとなる文献などについて理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>唐・五代までの文学における学びの手段について解説する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることもあり得る。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 詩文を著す方法の体系化 第3回 文学をめぐる知識の伝播 第4回 実作と詩文の習得：選集など 第5回 作詩・作文の指南書：詩格(1) 第6回 作詩・作文の指南書：詩格(2) 第7回 作詩・作文の指南書：書儀(1) 第8回 作詩・作文の指南書：書儀(2) 第9回 知識の習得：蒙書(1) 第10回 知識の習得：蒙書(2) 第11回 知識の習得：類書(1) 第12回 知識の習得：類書(2) 第13回 文学と批評 第14回 文学とそれをめぐる知識の関わり 第15回 まとめ</p> <p>フィードバックの方法については、授業時に指示する。</p>											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。

評価の6割はレポート、4割は平常点による。

レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。

担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。

メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学29

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 道坂 昭廣			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		初唐文学研究									
【授業の概要・目的】											
<p>唐代の文学は一般に初唐、盛唐、中唐、晩唐と4つの時期に分けられる。この講義の目的は、4時期のうち初唐文学の特色を明らかにすることにある。初唐は南北朝時代の形式を重視した文学を克服し、盛唐文学を準備した時期とされる。日本に伝わるこの時期の古写本を取り上げ、その読解を通して、この時期の文学の様相を具体的に明らかにする。昨年度に引き続き、『翰林学士集』を読解する。</p>											
【到達目標】											
<p>『翰林学士集』の読解を通して、初唐時代の宮廷文学がどのように南北朝文学を受容し改革していったかを理解する。読解作業を通して、この時期の文学の特色と文学史における意義を明らかにする。過渡期とされる初唐文学に注目することにより、その前後の時期の文学の特色も明確に理解することができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1 初唐という時期について 第2 日本に伝わる文学作品について 第3 『翰林学士集』について 第4 『翰林学士集』読解1 第5 『翰林学士集』読解2 第6 『翰林学士集』読解3 第7 『翰林学士集』読解4 第8 『翰林学士集』読解5 第9 『翰林学士集』読解6 第10 『翰林学士集』読解7 第11 『翰林学士集』読解8 第12 『翰林学士集』読解9 第13 『翰林学士集』読解10 第14 東アジア古典文学世界と初唐文学 第15 まとめ・文学史における初唐文学の位置付け</p>											
【履修要件】											
中国古典文学について、基礎的な読解力が必要となる。											
【成績評価の方法・観点】											
授業における発言と、報告に基づいて評価する。											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

鈴木虎雄 『駢文史序説』 (研文出版) ISBN:978-4-87636-270-7

興膳宏 『中国詩文の美学』 (創文社) ISBN:978-4-423-19420-1

大東文化大学東洋研究所編 『『翰林学士集』注釈』 (大東文化大学東洋研究所)

[授業外学修(予習・復習)等]

平仄についての基本的な知識を得ておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

最初の授業で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学30

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 道坂 昭廣			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		初唐時期散文選読									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、初唐時期以降流行した書儀に注目し、その文体としての特色について考察を加える。特に日本に伝わる『杜家立成』を取り上げ、そのテーマ内容、同時代の文学にも注意しつつ読解してゆく。											
【到達目標】											
書儀は、中国文学のにおいて取り上げられることが少ないが、初唐時期に流行したジャンルである。その代表的な作品である『杜家立成』の読解を通して、中国文学と当時の社会の関わりについて理解を深めることが可能である。また同時代の中国・日本の作品に対する影響についても考察することにより、東アジア古典世界の広がりをも具体的に理解することができる。											
【授業計画と内容】											
第1 初唐文学について 第2 書儀というジャンルについて 第3 『杜家立成』の特色及びその伝来について 第4 『杜家立成』読解1 第5 『杜家立成』読解2 第6 『杜家立成』読解3 第7 『杜家立成』読解4 第8 『杜家立成』読解5 第9 『杜家立成』読解6 第10 『杜家立成』読解7 第11 『杜家立成』読解8 第12 『杜家立成』読解9 第13 『杜家立成』読解10 第14 その他の書儀作品とその用途。 第15 まとめ書儀と文学											
【履修要件】											
中国古典文学について、基礎的な読解力が必要となる。											
【成績評価の方法・観点】											
授業における発言と、報告に基づいて評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

鈴木虎雄 『駢文史序説』 (研文出版) ISBN:987-4-87636-270-7

興膳宏 『中国詩文の美学』 (創文社) ISBN:978-4-423-19420-1

日中文化交流史研究会著 『杜家立成雜書要略:注釈と研究』 (翰林書房) ISBN:4906424341

[授業外学修(予習・復習)等]

中国の散文文体について基本的な知識を得ておくこと

(その他(オフィスアワー等))

最初の授業で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学31

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		奈良女子大学研究院人文科学系 野村 鮎子 教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		明清における亡妻哀悼文学の展開									
【授業の概要・目的】											
<p>明清の文人たちは、自らの亡妻や亡妾のために筆を執り、哀悼をテーマとする作品を次々と生み出した。その形式も伝統的な悼亡詩にとどまらず、亡妻墓誌銘、祭亡妻文、亡妻行状、亡妻伝、憶語体など多岐にわたる。これは「内言は出でず」（『礼記』内則）という礼の規範からの逸脱ともいえる現象である。その背景にあるのは何なのか。本講義の目的は、明清における亡妻哀悼文学の展開を悼亡詩と散文の両面から考察することにある。</p>											
【到達目標】											
<p>亡妻哀悼文学の代表的な作品・作家について包括的な知識を身につけ、関連する文献を読み込み、レポートを作成する能力を養う。また、家の中の女性の身分秩序、礼教と文学の関係などについても理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の各項目について講述する。各項目は、履修者の理解の程度を確認しながら講述する予定であり、理解度に応じて順序を変更することもある。全15回の講義については履修者が前もって予習ができるようにする。</p>											
<p>第1回 中国の亡妻哀悼文学の形式 第2回 明以前の悼亡詩（1）：西晋潘岳「悼亡詩」 第3回 明以前の悼亡詩（2）：唐韋応物・元微之など 第4回 明以前の悼亡詩（3）：宋梅堯臣・蘇軾など 第5回 明清における悼亡詩の拡大 第6回 明清の悼亡詩の特徴（1）：詩作の長期化 第7回 明清の悼亡詩の特徴（2）：唱和の流行 第8回 明清士大夫と伉儷の情 第9回 明以前の亡妻墓誌銘（1）：唐柳宗元など 第10回 明以前の亡妻墓誌銘（2）：宋蘇軾・歐陽脩など 第11回 明清の亡妻墓誌銘の特徴 第12回 亡妻行状の誕生 第13回 明清の亡妻行状 第14回 明清の亡妾哀悼文学 第15回 明清における憶語体の文学</p>											
【履修要件】											
<p>中国古典文学について、基礎的な読解力が必要となる。</p>											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業の理解確認のための小レポート（50％）と期末レポート（50％）による。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習用の資料については毎回、事前に指示または配布する予定である。
ただし、中国古典文学史に関するおおまかな流れは把握しておく必要があり、これについては各自で中国文学史に関する図書を通読しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

ayuko@cc.nara-wu.ac.jpに連絡してください。随時対応します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学32

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 松江 崇			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国語史における文法変化の主要類型									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業の目的は、中国語史における文法変化について、主要な類型にはどのようなものがあるのか、それぞれの変化を促した要因は何かを理解することにある。</p> <p>古代中国語（上古中国語）と現代中国語との文法上の相違について概説した後、中国語の史的変遷における文法変化について、中国語で書かれた論文を読解しつつ、教員が内容上の補足を行うことにより、その主要な類型と変化を促した種々の要因について理解する。さらに種々の文法変化が、古代中国語に如何なる類型論的性質の変化をもたらしたのかについて理解する。</p>											
【到達目標】											
<p>古代中国語と現代中国語の文法体系の相違点を理解した上で、中国語史における文法変化を巡る諸問題について把握する。さらに中国語の文法体系の史的変化および古今の中国語の類型論的性質の変化について理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>この授業はフィードバック（方法は別途連絡）を含む全15回で行う。</p> <p>古代中国語研究のための基本書を紹介した上で、古今の中国語の文法体系の違いについて概説する。第3回から第11回までは、梅祖麟「漢語語法史中幾個反復出現的演变方式」（『古漢語語法論集』語文出版社、1998年）を読解しつつ（下に記した節の名称は日本語に翻訳してある）、中国語史における文法変化を巡る諸問題を検討する。中国語論文の読解の際は、担当の履修者が日本語訳を提出し、教員が内容について解説と補足を行う形式で授業を進める。具体的な授業計画は以下のようである。</p>											
<p>第1回 授業の目的の説明、古代中国語研究のための基本書の紹介</p> <p>第2回 古代中国語と現代中国語の文法的相違</p> <p>第3回 梅祖麟1998「正反両式の平衡」（1）</p> <p>第4回 梅祖麟1998「正反両式の平衡」（2）</p> <p>第5回 梅祖麟1998「動詞後部の「得」「不得」」</p> <p>第6回 梅祖麟1998「「有没有吃飯」と「有吃飯」」</p> <p>第7回 梅祖麟1998「「被」「為」と被動式」（1）</p> <p>第8回 梅祖麟1998「被」「為」と被動式」（2）</p> <p>第9回 梅祖麟1998「「解」と「会」の虚化」（1）</p> <p>第10回 梅祖麟1998「「解」と「会」の虚化」（2）</p> <p>第11回 梅祖麟1998「漢語の特徴と「被」「為」「会」「没」等の変化」</p> <p>第12回 梅祖麟1998「虚化過程における「一」と「多」」（1）</p> <p>第13回 梅祖麟1998「虚化過程における「一」と「多」」（2）</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

中国語学習の経験者であること。
漢文についての基礎的な知識を備えていること。

【成績評価の方法・観点】

平常点50点とレポート50点により評価する。ただし、レポートの提出については、授業において中国語論文の日本語訳(訳と注釈を含む)を発表することにより代替することが可能とする。

【教科書】

ハンドアウトを配布する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

中国語論文の日本語訳を担当する履修者は、必ず事前に日本語訳を作成しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

教員との連絡方法はメールによること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学33

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 松江 崇			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古代中国の言語学と揚雄『方言』									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業の目的は、古代中国における言語学の発展について、語彙の意味を基準に編纂された「義書」と称される字書の歴史を辿りながら理解することにある。それと同時に、それらを言語資料とした古代中国語研究についての基礎的な知識を得ることも目的としている。さらに、「義書」の一つである揚雄『方言』を言語資料とした古代中国語方言研究とその成果については、中国語史との関連も含めた専門的な内容までを理解することを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>古代中国における言語学の発展について、「義書」の発展を中心に理解する。その上で、「義書」を言語資料とした中国語史の研究手法と関連する諸問題について理解する。さらに、「義書」のうち揚雄『方言』を資料とした古代中国語方言研究の現状について、専門的な知識を獲得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>古代中国語研究のための基本書を紹介した上で、古代中国における言語学の発展について、「義書」の歴史を辿りつつ解説する。第3回から第11回は中国語で書かれた王力1981『中国語言学史』（山西人民出版社）の第一章を講読する（下に記した節の名称は日本語に翻訳してある）。中国語論文の読解の際は、担当の履修者が日本語訳を提出した上で授業を行い、教員は内容についての解説と補足とを行う。</p>											
<p>第1回 授業の目的の説明、古代中国語研究のための基本書の紹介 第2回 古代中国の字書についての概説 第3回 王力1981「古代中国における言語研究の萌芽」（1） 第4回 王力1981「古代中国における言語研究の萌芽」（2） 第5回 王力1981「児童識字教科書と詁訓彙編」 第6回 王力1981「方言学の興起」（1） 第7回 王力1981「方言学の興起」（2） 第8回 王力1981「字書の興起」（1） 第9回 王力1981「字書の興起」（2） 第10回 王力1981「声訓」（1） 第11回 王力1981「声訓」（2） 第12回 揚雄『方言』による古代中国語方言研究（1） 第13回 揚雄『方言』による古代中国語方言研究（2） 第14回 まとめ 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
<p>現代中国語を学習した経験があること。 漢文について基礎的な知識を持っていること。</p>											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点50点とレポート50点により評価する。ただし、レポートの提出については、授業において中国語論文の日本語訳(訳と注釈を含む)を发表することにより代替することが可能とする。

[教科書]

ハンドアウトを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

中国語論文の日本語訳を担当する履修者は、必ず事前に日本語訳を作成しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

教員との連絡方法はメールによること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学34

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 野原 将揮			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国の方言について									
【授業の概要・目的】											
本講義は中国の諸方言について大まかな枠組み、各方言の特徴を概観することを目的とする。また歴史的な観点から、中古音および上古音との関係についても紹介する予定である。 (* 22年度に扱えなかった方言をとりあげる)											
【到達目標】											
中国語の諸方言の枠組みを理解している 各方言の特徴を説明できる 中国語特有の方言調査の手法を身につける											
【授業計画と内容】											
以下の計画に沿って講義を進めるが、参加者の理解状況、興味関心とトピックによって、テーマごとの講義回数あるいは順序に変更が生じる可能性がある。 第1回－第3回：ガイダンス 調音音声学、音韻論と中国語音韻学の述語の確認、中国語諸方言の概要、官話（一部） 第4回－第6回：呉語 第7回－第9回：びん語 第10回－12回：その他南方方言 第13回－14回：その他南方方言 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業への取り組み（50点）とレポート（50点）											
【教科書】											
使用しない 配布資料を準備する											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

適宜紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参照すべき文献は多岐にわたるので、テーマに応じて授業時に指示する。指示に従って読んでおくこと。資料はその都度配布する予定。

(その他(オフィスアワー等))

授業内で案内します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学35

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 野原 将揮			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国語音韻学：中古音について									
【授業の概要・目的】											
<p>中古音は上古音、近世音を研究するための一つの定点であり、中国語諸方言、漢字音等を研究する上で不可欠の分野である。そこで本講義では中古音の基礎的な知識・概念を提供するとともに、関連する事項（特に中国語学の専門用語、字書、義書等）についても紹介する予定である。また中古音と上古音の関係についてもあわせて紹介したい。</p>											
【到達目標】											
<p>中古音の基本的な概念を理解する 中古音の声母・韻母の用語を覚える 中国語音韻学の専門用語を音声学の用語で説明ができる 字書・義書・韻書の成立と大まかな流れを理解する</p>											
【授業計画と内容】											
<p>特に前半では中古音の基本的な概念を理解することを目的とする。第10回までに中古音の基本的な専門用語を暗記すること。授業内でも工夫して暗記する時間を設ける予定である。</p> <p>第1回－第3回 ガイダンス 音声学、音韻論、中国語音韻学の用語について 第4回－第6回 切韻系韻書、反切について 第7回－第9回 韻図、方言、漢字音について 第10回 中古音の用語チェック 後半は中古音に関連する事項について紹介する。 第11回－14回 字書、義書について 第15回 まとめ、フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>議論への積極的な参加（20%） 小テスト（50%） レポート（30%）</p>											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業内で適宜紹介しますが、専門用語を覚えてもらいます。

(その他(オフィスアワー等))

授業内で案内します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学36

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宇佐美 文理			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国文献学講義									
【授業の概要・目的】											
中国古典に関する文献にまつわるさまざまな知識について、目録学と版本学を中心に、その概要を講述する。											
【到達目標】											
目録学に関する基礎的な知識を修得する。 版本学に関する基礎的な知識を修得する。											
【授業計画と内容】											
第一回 ガイダンス・目録学とは 第二回 四部分類について 第三回 漢籍目録の歴史(1) 漢書藝文志まで 第四回 漢籍目録の歴史(2) 六朝以降 第五回 経部・子部について 第六回 史部について 第七回 集部にについて 第八回 版刻の歴史について(1) 宋元版 第九回 版刻の歴史について(2) 明版 第十回 版刻の歴史について(3) 清版(道光まで) 第十一回 版刻の歴史について(4) 清版(咸豊以降) 第十二回 和刻本について 第十三回 印記について 第十四回 まとめ 第十五回 フィードバック(授業時に指示します)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート(100%)											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

古勝隆一 『目録学の誕生 劉向が生んだ書物文化』 (臨川書店) ISBN:978-4-653-04376-8

[授業外学修(予習・復習)等]

文学研究科の図書館に入って実際に漢籍を手にとって、講義の内容を確かめる作業を可能な限りお願いしたいと思います。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学37

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宇佐美 文理			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		詩と絵画									
【授業の概要・目的】											
前近代の中国において、世界（風景）がどのように把握され、どのように表現されてきたかを、「詩」と「絵画」の両側面から考える。											
【到達目標】											
前近代中国人が世界をどのようにとらえ、どのように表現したかを理解することによって、自身が中国古典詩や中国山水画を扱うときの思想的な糸口のひとつを修得する。											
【授業計画と内容】											
第一回 ガイダンス 第二回 山水画と気 第三回 風景詩の諸問題（1）六朝期 第四回 風景詩の諸問題（2）唐宋 第五回 杜甫と蘇東坡の題画詩について 第六回 杜甫の表現（1）視覚句の問題 第七回 杜甫の表現（2）風景表現の意味 第八回 杜甫の表現（3）杜甫と蘇東坡 第九回 白居易の表現 第十回 蘇東坡の表現（1）風景表現 第十一回 蘇東坡の表現（2）「体物」の問題 第十二回 題画詩の展開（1）杜甫まで 第十三回 題画詩の展開（2）蘇東坡以降 第十四回 まとめ 第十五回 フィードバック（授業時に指示します）											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート（100％）											
----- 中国語学中国文学(特殊講義) (2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

中国古典詩にふだんから触れること、できるだけ中国山水画の展覧会あるいは図録などに気を配っておくことを勧めます。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		早稲田大学文学学院 教授 岡崎 由美			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国小説史への視座									
【授業の概要・目的】											
<p>古代から清末民初に至る中国小説史を、文芸作品生成の歴史としてではなく、中国において、「小説」なるものを認識し位置づけてきた文化構造および文学の価値観の体系として捉える。それを前提として、小説生成の背後にある中国文化の特質を理解し、中国小説史構築への多様なアプローチを考えたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・既存の小説史を横断的に捉え、小説史構築の概要を理解する。 ・中国小説史に反映される中国文化の特色を考察する。 ・中国小説を周辺の隣接する文芸ジャンルとの関りから捉える。 ・自分が中国小説史を編纂すると想定して、その企画を試みる。 											
【授業計画と内容】											
<p>2023年8月7日-8月10日の集中講義として実施する。本講義では、小説史を不可逆的な単線の時間軸に沿った小説生成の歴史としてではなく、小説を認識し価値づける文化観の幾つかのトピックごとに切り分けて、考えていくこととする。授業の進捗状況や履修者の関心の状況によって、多少の内容変更がありうる。</p>											
○第1日目											
第一回 本講義の視座と問題意識											
第二回 中国小説史の編纂史を振り返る(1)～魯迅『中国小説史略』以降											
第三回 中国小説史の編纂史を振り返る(2)											
第四回 「小説」の名称について											
○第2日目											
第五回 歴史と小説の境界(1)～漢魏小説・六朝志怪・唐代伝奇											
第六回 歴史と小説の境界(2)～講史小説と英雄伝奇をめぐって											
第七回 小説の言語(1)～文言と白話											
第八回 小説の言語(2)～韻文と散文											
○第3日目											
第九回 小説ジャンルの問題(1)～宋代の講談が示したもの											
第十回 小説ジャンルの問題(2)～ジャンルの生成力											
第十一回 中国小説の担い手～「雅」と「俗」											
第十二回 中国小説の担い手～文化のアマチュア化											
○第4日目											
第十三回 中国小説の周辺～演じる物語											
第十四回 日本人と中国小説											
第十五回 まとめに代えて～中国小説史の前近代と近代											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

講義中のレビューや発言(20%)と最終レポート(80%)による。レビューや発言については積極性、レポートについては、講義内容の理解度および視点・着想の独自性や新しさを基準として評価する。

[教科書]

使用しない
授業に必要な資料については、プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
授業前に目を通しておくべき参考書は、2023年度4月中にKULASISを通じて受講生に広報する。

[授業外学修(予習・復習)等]

集中講義のため、講義期間開始までに中国小説史の著作を一点でよいので、読んでおく。1日分の講義終了後、翌日までにレビューを提出する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学39

科目ナンバリング		G-LET11 71464 PJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(外国語実習) Chinese Language and Literature(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 助教 楊 維公			
配当 学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	実習	使用 言語	中国語
題目		中文學術文章寫作 1									
【授業の概要・目的】											
<p>本課程為高級漢語寫作課。除閱讀用於翻譯的日文文章時以外，教員將全程使用漢語授課，並要求學生亦使用漢語發言。</p> <p>第一學期主要講解介紹性文章的寫作方法。授課過程中，大約每三次課為一個單元，集中講解某一類型文章的寫作方法。第一次課挑選或節選一兩篇範文當堂閱讀，並由教員對範文的寫作方法進行講解同時挑選或節選一兩篇日文文章作為作業，要求學生將其翻譯成中文；第二次課請學生逐句翻譯，同時講解翻譯中存在的問題，如文章已有中文翻譯或原文為中文，還將進行對比，課後布置作文作業，要求學生在第三次課前以電子文档的形式提交；第三次課當堂展示學生提交的作文作業，由教員帶領學生分析、討論篇章結構和遣詞造句中存在的問題及改進的方法，課後要求學生針對課上提出的問題進行修改並再次提交，由教員詳細批改後發還。</p> <p>本課程目的在於提高學生的中文學術文章寫作能力。具體而言，希望學生可做到用大致通順的漢語撰寫文章對自己的研究對象進行介紹。</p> <p>由於KULASIS無法正確顯示簡體字，故本課程提綱暫用繁體字及日文漢字，但課上仍使用簡體字。</p>											
【到達目標】											
<p>1.可使用大致通順的漢語撰寫介紹性較強的學術性文章。</p> <p>2.理解現代漢語口語及書面語的區別，在寫作過程中能較為準確地選擇更接近書面語的表達方式。</p>											
【授業計画と内容】											
課程計畫大致如下。教員可能根據實際情況對內容、順序及授課次數進行適當調整。											
<p>第1週 自我介紹及課程概要：教員與學生互相進行自我介紹，教員通過自我介紹了解學生的學術興趣以確定提供範文和例文的題材及篇幅，同時向學生說明授課方式。之後進行簡單的日譯漢小測驗，以便教員掌握學生的漢語寫作水平。</p> <p>第2週 自我介紹：閱讀範文，翻譯例文，並請學生當堂撰寫書面形式的自我介紹。</p> <p>第3週 介紹一位學者、作家或歷史人物（一）：閱讀範文並布置翻譯例文的作業。</p> <p>第4週 介紹一位學者、作家或歷史人物（二）：當堂翻譯例文並布置作文作業。</p> <p>第5週 介紹一位學者、作家或歷史人物（三）：分析、討論作文作業中存在的問題。</p> <p>第6週 介紹一部文學作品或文獻資料（一）：閱讀範文並布置翻譯例文的作業。</p> <p>第7週 介紹一部文學作品或文獻資料（二）：當堂翻譯例文並布置作文作業。</p> <p>第8週 介紹一部文學作品或文獻資料（三）：分析、討論作文作業中存在的問題。</p> <p>第9週 介紹一篇學術論文（一）：閱讀範文並布置翻譯例文的作業。</p> <p>第10週 介紹一篇學術論文（二）：當堂翻譯例文並布置作文作業。</p> <p>第11週 介紹一篇學術論文（三）：分析、討論作文作業中存在的問題。</p> <p>第12週 介紹一部學術專著（一）：閱讀範文並布置翻譯例文的作業。</p> <p>第13週 介紹一部學術專著（二）：當堂翻譯例文並布置作文作業。</p> <p>第14週 介紹一部學術專著（三）：分析、討論作文作業中存在的問題。</p> <p>第15週 總結：任課教員對一學期的學習情況進行總結。</p>											
中国語学中国文学(外国語実習)(2)へ続く											

中国語学中国文学(外国語実習)(2)

[履修要件]

已修完“中文口語1・2”或具備與之程度相當的漢語能力。

「中文口語1・2」を履修済みであるか、それと同等の中国語能力を有すること。

[成績評価の方法・観点]

作文及課後修改的完成情況：60%；
課上閱讀範文、翻譯例文及參與討論的情況：40%。

[教科書]

任課教員準備資料。

[参考書等]

(参考書)

中國社會科學院語言研究所詞典編輯室『現代漢語詞典(第7版)』(商務印書館,2016年)ISBN:9787100124508

[授業外学修(予習・復習)等]

每次布置翻譯例文作業及作文作業後,需要相當程度的時間在課下進行翻譯、寫作及修改。

(その他(オフィスアワー等))

- ・選課人數原則上不超過8人。人數超過上限時,優先接受中國語學中國文學專修的學生選修。
- ・以漢語為母語者不可選修。
- ・課上如有未能理解的内容,歡迎隨時打斷教員的講解進行提問。課下亦可通過郵件或直接到訪任課教員研究室提出各種與漢語學習相關的問題。

- ・履修者数は原則として8名を上限とします。人数が上限を超えた場合、中国語学中国文学専修の学生を優先します。
- ・中国語を母語とする学生は受講できません。
- ・授業中、理解できなかったことがあれば、教員が話している途中であっても構いませんので、随時質問してください。授業外でもメールもしくは担当教員の研究室を直接訪問することで中国語学習について質問することを歓迎します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学40

科目ナンバリング		G-LET11 71464 PJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(外国語実習) Chinese Language and Literature(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 助教 楊 維公			
配当 学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	実習	使用 言語	中国語
題目		中文學術文章寫作 2									
【授業の概要・目的】											
<p>本課程為高級漢語寫作課，在“中文學術文章寫作 1”的學習基礎上進行。除閱讀用於翻譯的日文文章時以外，教員將全程使用漢語授課，並要求學生亦使用漢語發言。</p> <p>第二學期主要講解論說性文章的寫作方法。授課過程中，大約每三次課為一個單元，集中講解文章某一部分的寫作方法。第一次課挑選或節選一兩篇範文當堂閱讀，並由教員對範文的寫作方法進行講解同時挑選或節選一兩篇日文文章作為作業，要求學生將其翻譯成中文；第二次課請學生逐句翻譯，同時講解翻譯中存在的問題，如文章已有中文翻譯或原文為中文，還將進行對比，課後布置作文作業，要求學生在第三次課前以電子文档的形式提交；第三次課當堂展示學生提交的作文作業，由教員帶領學生分析、討論篇章結構和遣詞造句中存在的問題及改進的方法，課後要求學生針對課上提出的問題進行修改並再次提交，由教員詳細批改後發還。學期後半還將請學生在課下撰寫介紹各自研究內容的文章，最後兩次課當堂講解。</p> <p>本課程目的在於提高學生的中文學術文章寫作能力。具體而言，希望學生可做到用大致通順的漢語撰寫文章提出自己的觀點並進行論證。</p> <p>由於KULASIS無法正確顯示簡體字，故本課程提綱暫用繁體字及日文漢字，但課上仍使用簡體字。</p>											
【到達目標】											
<p>1.可使用大致通順的漢語撰寫論說性較強的學術性文章。</p> <p>2.理解現代漢語口語及書面語的區別，在寫作過程中能準確選擇更接近書面語的表達方式。</p>											
【授業計画と内容】											
課程計畫大致如下。教員可能根據實際情況對內容、順序及授課次數進行適當調整。											
<p>第1週 復習及課程概要：復習第一學期所學內容，並說明第二學期的授課方式。</p> <p>第2週 提出問題（一）：閱讀範文並布置翻譯例文的作業。</p> <p>第3週 提出問題（二）：當堂翻譯例文並布置作文作業。</p> <p>第4週 提出問題（三）：分析、討論作文作業中存在的問題。</p> <p>第5週 撰寫研究綜述（一）：閱讀範文並布置翻譯例文的作業。</p> <p>第6週 撰寫研究綜述（二）：當堂翻譯例文並布置作文作業。</p> <p>第7週 撰寫研究綜述（三）：分析、討論作文作業中存在的問題。</p> <p>第8週 立論（一）：閱讀範文並布置翻譯例文的作業。</p> <p>第9週 立論（二）：當堂翻譯例文並布置作文作業。</p> <p>第10週 立論（三）：分析、討論作文作業中存在的問題。</p> <p>第11週 駁論（一）：閱讀範文並布置翻譯例文的作業。</p> <p>第12週 駁論（二）：當堂翻譯例文並布置作文作業。</p> <p>第13週 駁論（三）：分析、討論作文作業中存在的問題。</p> <p>第14週 介紹各自研究內容（一）：分析、討論作文作業中存在的問題。</p> <p>第15週 介紹各自研究內容（二）：分析、討論作文作業中存在的問題。</p>											
中国語学中国文学(外国語実習)(2)へ続く											

中国語学中国文学(外国語実習)(2)

[履修要件]

已修完“中文學術文章寫作1”或具備與之程度相當的漢語能力。

「中文學術文章寫作1」を履修済みであるか、それと同等の中国語能力を有すること。

[成績評価の方法・観点]

作文及課後修改的完成情況：60%；
課上閱讀範文、翻譯例文及參與討論的情況：40%。

[教科書]

任課教員準備資料。

[参考書等]

(参考書)

中國社會科學院語言研究所詞典編輯室『現代漢語詞典(第7版)』(商務印書館,2016年)ISBN:9787100124508

[授業外学修(予習・復習)等]

每次布置翻譯例文作業及作文作業後,需要相當程度的時間在課下進行翻譯、寫作及修改。

(その他(オフィスアワー等))

- ・選課人數原則上不超過8人。人數超過上限時,優先接受中國語學中國文學專修的學生選修。
- ・以漢語為母語者不可選修。
- ・課上如有未能理解的内容,歡迎隨時打斷教員的講解進行提問。課下亦可通過郵件或直接到訪任課教員研究室提出各種與漢語學習相關的問題。

- ・履修者数は原則として8名を上限とします。人数が上限を超えた場合、中国語学中国文学専修の学生を優先します。
- ・中国語を母語とする学生は受講できません。
- ・授業中、理解できなかったことがあれば、教員が話している途中であっても構いませんので、随時質問してください。授業外でもメールもしくは担当教員の研究室を直接訪問することで中国語学習について質問することを歓迎します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学41

科目ナンバリング		G-LET11 7M123 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 成田 健太郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『管錐編』選読									
[授業の概要・目的]											
『管錐編』は、中国近代を代表する文学者の一人である銭鍾書（1910-1998）による中国古典文学に関する札記である。本演習ではそのなかでも、北宋の小説集『太平広記』に関する札記の部分を読み、その説くところを正確に理解し、得られた知見を訳注の形にまとめる。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典中国語で書かれたテキストを正確に読解し、明晰な日本語による訳注の形式において再構成する能力を獲得する。 ・ 札記テキストが対象とし、またそのなかで言及される多数の文学テキストを比較対照し、その総体を立体的に理解する。 ・ 札記テキストの所論を文学研究の方法として批判的に理解する。 											
[授業計画と内容]											
第1回：使用テキストの確認、分担の決定 第2回～第15回：訳注の作成、検討作業											
[履修要件]											
古典中国語の読解力、中国古典文学についての知識と関心を有すること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（訳注原稿の内容、授業における訳注改善に寄与する発言等）による。											
[教科書]											
PandAを使用して資料を共有する。											
[参考書等]											
（参考書） 銭鍾書『管錐編』（生活・読書・新知三聯書店）ISBN:9787108065933 『太平広記』（中華書局）											
[授業外学修（予習・復習）等]											
出席者は、訳注作成担当者以外も、各自テキストを誠実に読みこんだうえで授業にのぞむ必要がある。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学42

科目ナンバリング		G-LET11 7M123 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 成田 健太郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『管錐編』選読									
[授業の概要・目的]											
『管錐編』は、中国近代を代表する文学者の一人である錢鍾書（1910-1998）による中国古典文学に関する札記である。本演習ではそのなかでも、北宋の小説集『太平広記』に関する札記の部分を読み、その説くところを正確に理解し、得られた知見を訳注の形にまとめる。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典中国語で書かれたテキストを正確に読解し、明晰な日本語による訳注の形式において再構成する能力を獲得する。 ・ 札記テキストが対象とし、またそのなかで言及される多数の文学テキストを比較対照し、その総体を立体的に理解する。 ・ 札記テキストの所論を文学研究の方法として批判的に理解する。 											
[授業計画と内容]											
第1回：使用テキストの確認、分担の決定 第2回～第15回：訳注の作成、検討作業											
[履修要件]											
古典中国語の読解力、中国古典文学についての知識と関心を有すること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（訳注原稿の内容、授業における訳注改善に寄与する発言等）による。											
[教科書]											
PandAを使用して資料を共有する。											
[参考書等]											
（参考書） 錢鍾書 『管錐編』（生活・読書・新知三聯書店）ISBN:9787108027467 『太平広記』（中華書局）											
[授業外学修（予習・復習）等]											
出席者は、訳注作成担当者以外も、各自テキストを誠実に読みこんだうえで授業にのぞむ必要がある。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学43

科目ナンバリング		G-LET11 7M123 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 木津 祐子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		唐通事資料『瓊浦佳話』選読									
【授業の概要・目的】											
江戸時代長崎唐通事によって伝えられる『瓊浦佳話』全四巻は、長崎地誌とも言うべき内容を備え、中国語官話（口語）によって記録されている。1720年前後までに成立したと思われるが、著者を含め、成立の詳細は不明である。 記される内容は、長崎唐通事の間を通って語られる日中貿易の実情や、当時彼らが長崎で見聞した中国事情、長崎における事件や人物評価など多岐にわたり、17-18世紀の東アジアの実情を生き生きと伝える筆致も特徴的であるが、現時点で正確な訳注は存在せず、言語資料としてもまた史料としても十分活用されているとはいいがたい。本授業では、本資料の精密な読解を通して、その資料的価値を明確にする。											
【到達目標】											
17-18世紀までの、ある種の方言的色彩を有する中国語口語によって記述された『瓊浦佳話』を精読することを通して、資料が有する言語的特徴、関連する資料の分析を通し、当時の中国周縁地域で行われた言語活動の一斑を考察する。											
【授業計画と内容】											
『瓊浦佳話』を（1）近世中国語資料として丁寧に読解し、（2）記事の内容を史的側面から検証、（3）精密な訳注を作成する。 それにより、通時的また共時的資料の読解、さらに関連する歴史資料の扱い方の習得を目指す。 第1回 ガイダンス 第2回-14回 『瓊浦佳話』巻一 担当者は、翻訳・注釈・校勘を備えたレジュメを用意する。 担当者作成のレジュメに基づき、毎回議論を行い、議論の結果を踏まえ、担当者は修正稿を用意する。 第15回 全体のまとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価 ・決められた分担箇所に対して必ずレジュメを提出すること。 ・また、担当箇所以外であっても予習は怠らず、積極的に議論に参加すること。 提出されたレジュメの内容、議論における発言の妥当性及び独自性などから、総合的に評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
----- 中国語学中国文学(演習) (2)へ続く -----											

中国語学中国文学(演習) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

会読する範囲を必ず予習すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学44

科目ナンバリング		G-LET11 7M123 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 木津 祐子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		唐通事資料『瓊浦佳話』選読									
【授業の概要・目的】											
<p>前期に引き続き、『瓊浦佳話』全四巻を精読する。 『江戸時代長崎唐通事によって伝えられる『瓊浦佳話』全四巻は、長崎地誌とも言うべき内容を備え、中国語官話（口語）によって記録されている。1720年前後までに成立したと思われるが、著者を含め、成立の詳細は不明である。 記される内容は、長崎唐通事の目を通して語られる日中貿易の実情や、当時彼らが長崎で見聞した中国事情、長崎における事件や人物評価など多岐にわたり、17-18世紀の東アジアの実情を生き生きと伝える筆致も特徴的であるが、現時点で正確な訳注は存在せず、言語資料としてもまた史料としても十分活用されているとはいいがたい。本授業では、本資料の精密な読解を通して、その資料的価値を明確にする。</p>											
【到達目標】											
17-18世紀までの、ある種の方言的色彩を有する中国語口語によって記述された『瓊浦佳話』を精読することを通して、資料が有する言語的特徴、関連する資料の分析を通し、当時の中国周縁地域で行われた言語活動の一斑を考察する。											
【授業計画と内容】											
<p>『瓊浦佳話』を（1）近世中国語資料として丁寧に読解し、（2）記事の内容を史料的側面から検証し、（3）精密な訳注を作成する。 それにより、通時的また共時的資料の読解、さらに関連する歴史資料の扱い方の習得を目指す。 第1回 前期のまとめ 第2回-14回 『瓊浦佳話』巻一、巻二 担当者は、翻訳・注釈・校勘を備えたレジュメを用意する。 担当者作成のレジュメに基づき、毎回議論を行い、議論の結果を踏まえ、担当者は修正稿を用意する。 第15回 全体のまとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点評価 ・決められた担当箇所に対して必ずレジュメを提出すること。 ・また、担当箇所以外であっても予習は怠らず、積極的に議論に参加すること。 提出されたレジュメの内容、議論における発言の妥当性及び独自性などから、総合的に評価する。</p>											
----- 中国語学中国文学(演習) (2)へ続く -----											

中国語学中国文学(演習) (2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

会読範囲を必ず予習して授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学45

科目ナンバリング		G-LET11 7M123 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 緑川 英樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		山谷詩選読									
【授業の概要・目的】											
江西詩派の主要な詩人として知られる黄庭堅（黄山谷、1045-1105）の詩を読む。精密な訳注を作成することを通して古典詩文の読解力を身につけるとともに、宋代文学に対する理解を深めることをめざす。											
【到達目標】											
中国における伝統的な古典注釈学の成果を踏まえつつ、精密かつ斬新な解釈をみずから提出する能力を養う。あわせて日本中世の抄物を参照することにより、五山漢文学に関して一定の知見を得る。											
【授業計画と内容】											
『山谷詩集注』（内集）巻十一「戲書秦少游壁」から読み進める。任淵の注や漢文抄『帳中香』などを参考にしながら、担当者に詳細な校勘記・訳注を準備してもらい、それをもとに受講者全員で討論してゆく。 第1回 イン트로ダクション 黄庭堅および黄庭堅集についての概説。参考文献などを紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。 第2回～第14回 黄庭堅詩の精読 『山谷詩集注』巻十一から毎回1首程度のペースで読み進め、作品の解釈・背景について討論する。 第15回 まとめ 精読の成果を踏まえ、黄庭堅研究の現状と課題についてまとめる。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業内での担当、発言）による。											
【教科書】											
『山谷詩集注』（藝文印書館ほか）											
【参考書等】											
（参考書） 劉琳・李勇先・王蓉貴 点校 『黄庭堅全集』（中華書局、2021年）ISBN:978-7-101-15106-0 鄭永暁 『黄庭堅年譜新編』（社会科学文献出版社、1997年）ISBN:7-80050-920-6											
----- 中国語学中国文学(演習)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

発表担当者以外の受講者の方も毎回きちんと予習をしてください。最低限、当該作品の本文および
任淵注は読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学46

科目ナンバリング		G-LET11 7M123 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 緑川 英樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		山谷詩選読									
【授業の概要・目的】											
江西詩派の主要な詩人として知られる黄庭堅（黄山谷、1045-1105）の詩を読む。精密な訳注を作成することを通して古典詩文の読解力を身につけるとともに、宋代文学に対する理解を深めることをめざす。											
【到達目標】											
中国における伝統的な古典注釈学の成果を踏まえつつ、精密かつ斬新な解釈をみずから提出する能力を養う。あわせて日本中世の抄物を参照することにより、五山漢文学に関して一定の知見を得る。											
【授業計画と内容】											
前期に引きつづき、『山谷詩集注』（内集）巻二十「贈惠洪」から読み進める。任淵の注や漢文抄『帳中香』などを参考にしながら、担当者に詳細な校勘記・訳注を準備してもらい、それをもとに受講者全員で討論してゆく。 第1回 イン트로ダクション 黄庭堅および黄庭堅集についての概説。参考文献などを紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。 第2回～第14回 黄庭堅詩の精読 『山谷詩集注』巻二十を毎回1首のペースで読み進め、作品の解釈・背景について討論する。 第15回 まとめ 精読の成果を踏まえ、黄庭堅研究の現状と課題についてまとめる。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業内での担当、発言）による。											
【教科書】											
『山谷詩集注』（藝文印書館）											
----- 中国語学中国文学(演習)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)

劉琳・李勇先・王蓉貴 点校 『黄庭堅全集』 (中華書局、2021年) ISBN:978-7-101-15106-0

鄭永暁 『黄庭堅年譜新編』 (社会科学文献出版社、1997年) ISBN:7-80050-920-6

[授業外学修(予習・復習)等]

発表担当者以外の受講者の方も毎回きちんと予習をしてください。最低限、当該作品の本文および任淵注は読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学47

科目ナンバリング		G-LET11 7M123 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 木津 祐子 文学研究科 教授 緑川 英樹 文学研究科 准教授 成田 健太郎			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中国語学中国文学の諸問題									
【授業の概要・目的】											
修士論文提出予定者を対象とし、(1)研究題目選択および先行研究の調査方法、(2)独創的な論文の組み立てと執筆に関する指導をおこなう。											
【到達目標】											
修士論文を執筆するにあたって守るべき規範意識を理解したうえで、自主的に課題を設定し、調査研究を経て言語化し、独自の研究成果に昇華する方法を学ぶ。先行研究に対する批評眼を養い、自らの研究成果を当該領域の研究史に位置づけつつ、次の研究目標を定める力を身につける。											
【授業計画と内容】											
隔週で開講する。前期には、研究したい題目を各自で決めて、おおまかな着想を述べ、指導・助言を受ける。後期には、自らの修士論文の内容について発表資料を準備して口頭発表をおこなったのち、指導・助言を受ける。 後期の担当時には、(1)研究の主要論点・結論および引用原典を挙げた説明資料を配布し、出席者に分かりやすく説明する。											
【履修要件】											
中国語学中国文学専修大学院生に限る（修士一回生の学生も出席するのが望ましい）。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（修了年度の口頭発表による）											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
修士論文の題目選択は学生の自主性を重んじるので、取り組むべき課題を発見するにあたっての準備的調査をまず各自でおこなうこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
後期に口頭発表を担当する際には、必ず(1)発表用資料を必要部数準備するとともに、(2)中国語論文要旨の下書きも作っておくこと。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET12 61530 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 池田 恭哉			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		北朝正史の儒林伝を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>南北朝時代、中国は南北に分かれ、その学問の在り方も様相を異にした部分が多い。中国の思想と言えは儒学をすぐに想起しようが、その根幹たる経書には歴代様々な注釈が施され、南朝と北朝とで、どの注釈書に依拠して各経書を読んだかが異なったことは、よく知られる。</p> <p>そこで本講義では、北朝における儒学、経学の実態を探る第一歩として、北朝正史の儒林伝を読んでいく。具体的には『魏書』『北齊書』『周書』である。</p> <p>北朝における学問の共有や伝承の様子を、時には南朝の動向をも視野に入れつつたどることで、北朝ではどのような学問を備えることが目指されたのかを、探っていく。また儒者に対して、社会がどのような役割を期待していたのかについても、考えていきたい。こうした営みは、南北朝時代に限らず、中国社会全般を考える上でのヒントになる。</p> <p>なおすでに令和2年度・3年度で『魏書』儒林伝を読み終え、今年度は『周書』儒林伝の途中からになる。ただし過去の内容は当然フォローするので、今年度からの受講も問題ない。分野を問わず、様々な学生の履修に期待したい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・北朝正史の儒林伝を精読することで、北朝における学問の特質を理解できる。 ・北朝における学問継承の在り方を明らかにし、それを系統立てて説明できる。 ・儒林伝に描出される儒者の活動を読み解くことで、学問と社会の関係性について、自らの問題意識に関連付けて考察する。 											
【授業計画と内容】											
<p>原則として講義形式（北朝正史の儒林伝に対する教員作成の訳注を基に、それに関連する事項などを解説、補足する）で進めるが、時に出席者にも講義の内容にコメントしてもらう場面を設けることがある。</p> <p>1 ガイダンス 2・3 北朝儒学に関する先行研究紹介 4 『周書』儒林伝精読：盧誕 5 盧光 6～8 沈重 9 樊深 10～13 熊安生 14・15 楽遜</p> <p>16・17 『北齊書』儒林伝精読：李鉉 18 チョウ柔 19 馮偉 20・21 張買奴・劉軌思・鮑季詳 22・23 ケイ峙・劉昼</p>											
----- 中国哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義) (2)

- 24 馬敬徳
- 25 張景仁
- 26 権会・張思伯
- 27・28 張彫
- 29 孫靈暉
- 30 まとめ

フィードバックの方法は授業時に指示する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（教員による発問に対する積極的な回答、講義に際しての討議への参加など）を40%、最終レポートを60%で評価。

[教科書]

授業中に指示する
教員作成のプリントを使用する。

[参考書等]

（参考書）
氣賀澤保規ほか『中国史書入門 現代語訳 北齊書』（勉誠出版,2021年）ISBN:978-4-585-29612-6
（『北齊書』の邦訳で、儒林伝序の邦訳を含む。北齊を含む北朝の歴史を概観できる。）
上記の書籍の他、参考書籍は数多いので、授業中に紹介していく。

[授業外学修（予習・復習）等]

予習としては、講義で取り上げる漢文を、自分でも現代語訳してみる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学49

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東京大学東洋文化研究所 教授 塚本 磨充			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国美術の鑑識と歴史									
【授業の概要・目的】											
宋代を中心に中国美術の鑑識論の発展を概説します。PPT画像を使って同時代の美術史の基礎的な知識を習得した後で、同時代の代表的な画史・画論をとりあげ、そのうちとくに鑑識（鑑定論）と制作、技法・材料論について考察していきます。近代の美術史において写真図版を比較する様式論のみならず、作品のもつコンテキストや物質性に注目し、図像と文献の両方から理解を深め、新しい角度から「美術」作品に触れることを目的とします。											
【到達目標】											
中国美術史の展開を、ナショナルヒストリーの視点を乗り越え、東アジア的な視点から理解できるようになることを目標とします。											
【授業計画と内容】											
第1回 イントロダクション 中国美術の博物館事業と展示											
第2回 唐代美術の普遍と継承ー保存と改造と「国風」問題ー											
第3回 『歴代名画記』を読む											
第4回 五代北宋初期の文化事業と山水画											
第5回 郭熙と「早春図」											
第6回 『林泉高致集』（絵画論）を読む											
第7回 徽宗と文化政治ー詩情と写実ー											
第8回 南宋絵画と禅宗ー日本と中国美術ー											
第9回 『図画見聞誌』『画継』（画史）を読む											
第10回 東アジア絵画の技法・材質と表現											
第11回 中国美術と偽物づくりの文化											
第12回 『洞天清祿集』『小山画譜』（鑑識・技法）を読む フィードバック											
第13回 江戸時代の唐物研究ー阿弥衆、狩野派、文人たちー											
第14回 近代における中国「美術史」研究の歩みーコレクションとアーカイヴー											
第15回 東アジア美術史の再構築ー「あいだ」と「はしっこ」の美術史ー フィードバック											
----- 中国哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点、レポート

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

関西中国書画コレクション研究会 『中国書画探訪 関西の収集家とその名品』 (二玄社、2011年)
『世界美術全集 東洋編』 (小学館)
『上海博物館 中国絵画の至宝』 (東京国立博物館、2013年)

【授業外学修(予習・復習)等】

関西には日本美術のみならず、素晴らしい中国美術のコレクションがあります。常に展示替えされながら公開が続けられていますので、できるだけ足を運び、自分の眼でよく観察する体験を大事にしてください。

(その他(オフィスアワー等))

連絡先等は以下を参照

<https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/faculty/prof/m-tsukamoto.html>

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学50

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宇佐美 文理			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国文献学講義									
【授業の概要・目的】											
中国古典に関する文献にまつわるさまざまな知識について、目録学と版本学を中心に、その概要を講述する。											
【到達目標】											
目録学に関する基礎的な知識を修得する。 版本学に関する基礎的な知識を修得する。											
【授業計画と内容】											
第一回 ガイダンス・目録学とは 第二回 四部分類について 第三回 漢籍目録の歴史(1) 漢書藝文志まで 第四回 漢籍目録の歴史(2) 六朝以降 第五回 経部・子部について 第六回 史部について 第七回 集部にについて 第八回 版刻の歴史について(1) 宋元版 第九回 版刻の歴史について(2) 明版 第十回 版刻の歴史について(3) 清版(道光まで) 第十一回 版刻の歴史について(4) 清版(咸豊以降) 第十二回 和刻本について 第十三回 印記について 第十四回 まとめ 第十五回 フィードバック(授業時に指示します)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート(100%)											
-----中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く-----											

中国哲学史(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

古勝隆一 『目録学の誕生 劉向が生んだ書物文化』 (臨川書店) ISBN:978-4-653-04376-8

[授業外学修(予習・復習)等]

文学研究科の図書館に入って実際に漢籍を手にとって、講義の内容を確かめる作業を可能な限りお願いしたいと思います。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学51

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宇佐美 文理			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		詩と絵画									
【授業の概要・目的】											
前近代の中国において、世界（風景）がどのように把握され、どのように表現されてきたかを、「詩」と「絵画」の両側面から考える。											
【到達目標】											
前近代中国人が世界をどのようにとらえ、どのように表現したかを理解することによって、自身が中国古典詩や中国山水画を扱うときの思想的な糸口のひとつを修得する。											
【授業計画と内容】											
第一回 ガイダンス 第二回 山水画と気 第三回 風景詩の諸問題（1）六朝期 第四回 風景詩の諸問題（2）唐宋 第五回 杜甫と蘇東坡の題画詩について 第六回 杜甫の表現（1）視覚句の問題 第七回 杜甫の表現（2）風景表現の意味 第八回 杜甫の表現（3）杜甫と蘇東坡 第九回 白居易の表現 第十回 蘇東坡の表現（1）風景表現 第十一回 蘇東坡の表現（2）「体物」の問題 第十二回 題画詩の展開（1）杜甫まで 第十三回 題画詩の展開（2）蘇東坡以降 第十四回 まとめ 第十五回 フィードバック（授業時に指示します）											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート（100％）											
----- 中国哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

川合康三 『杜甫』 (岩波書店) ISBN:978-4-00-431392-2

[授業外学修(予習・復習)等]

中国古典詩にふだんから触れること、できるだけ中国山水画の展覧会あるいは図録などに気を配っておくことを勧めます。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 倉本 尚徳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国の僧伝を読むー 『続高僧伝』 講読									
【授業の概要・目的】											
<p>中国初唐の道宣が撰した『続高僧伝』は、南北朝期から初唐にかけての中国仏教史を考える際に最も基本となる史料であり、日本仏教にも大きな影響を与えている。この書は、道宣自身が僧伝にかかわる関連史料の網羅的な収集と各地の実地踏査をもとに幾度も増補改訂を行ったものであり、同種の書に例をみない豊富な内容と版本ごとの大きな異なりを有している。特に日本の寺院が所蔵する古写本は、版本よりも以前の形態を保存しており、近年研究が進み、その増補過程が次第に明らかとなってきている。</p> <p>本授業では、『続高僧伝』の各種版本・撰者道宣の伝記について概観した後、主要な僧の伝について、研究史を紹介し、複数の版本を比較検討し、同一人物についての他の史料と比較検討しながら読み進める。それによって、中国仏教史の理解を深め、僧伝の内容にいかにより撰者の主観が大きく影響しているかを考えてみたい。関連する石刻資料があれば現物の写真・拓本なども紹介する。</p> <p>今年度は昨年度に引き続き訳経篇巻に収録された人物を検討する。具体的には北朝後期から隋代にかけて生きた彦琮をとりあげる。彦琮は北齊の名門趙郡李氏の出身であり、早くから梵語仏典にも通じていた。翻訳事業への参与を通じて西域事情にも通じ、玄奘が弟子に『大唐西域記』を編纂させるにあたり彼の『西域伝』を参照させたとされる。近年、彦琮について、その翻訳論や国家論文学など、多角的に検討した齊藤隆信『釈彦琮の研究』が上梓された。この書を参照しその内容を検討することも同時に行う。</p>											
【到達目標】											
<p>内容面</p> <p>一、インド仏教と中国仏教との差異を学ぶ。</p> <p>二、隋代の主要な僧の経歴を把握し、隋の仏教復興政策について理解する。</p> <p>三、僧伝執筆の時代的背景や執筆者の思想的立場を理解する。</p> <p>四、伝記の記事内容を事実として鵜呑みにせず、相対化する視点を身につける。</p> <p>技能面</p> <p>一、僧伝に使用される常套句やロジックに親しみ、仏教漢語読解能力を高める。</p> <p>二、C B E T A ・ S A Tなどの電子仏典資料や様々な工具書について理解し適切に使用できるようになる。</p> <p>三、複数の版本を用いた文字の校勘の仕方を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回： 『続高僧伝』を読むために必要な基本的資料と工具書</p> <p>第2回： 『続高僧伝』講義 道宣の略伝・諸版本・訳注レジュメ作成方法の説明</p> <p>第3回： 『続高僧伝』講義 『続高僧伝』の素材としての『歴代三宝紀』</p> <p>第4回： 『続高僧伝』講読 達摩笈多伝</p>											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義)(2)

第5回：	『続高僧伝』講読	塔懺法と『占察経』
第6回：	『続高僧伝』講読	侯白・徐同卿・劉憑
第7回：	『続高僧伝』講読	衆経法式と費長房
第8回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝1
第9回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝2
第10回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝3
第11回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝4
第12回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝5
第13回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝6
第14回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝7
第15回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝8

【履修要件】

古典漢文読解の基礎的な能力や現代中国語文読解能力があれば望ましいが、学ぶ意欲のある方であればどなたでも受講を歓迎する

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業内での発言・発表状況またはレポート）100%。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

『国訳一切経 和漢撰述部 史伝部8, 9, 10』（大東出版社）（書の解題と書き下し・簡単な注釈を掲載したもの）

『大乘仏典 中国・日本篇』（中央公論社）（『続高僧伝』の何人かの伝記について現代語訳と注を掲載）

『新国訳大蔵経・『続高僧伝』1』（大蔵出版）（巻六までの書き下し・簡単な注釈を掲載したもの）

齊藤隆信『釈彦琮の研究』（臨川書店，2022）

その他の参考文献については講義中に随時提示する。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：僧伝をあらかじめ下読みしておく。関連する僧伝の現代語訳や書き下し（国訳一切経）各種版本の文字の異同等を調べておく。

復習：講義内容を復習し、疑問等があれば関連する資料を調査し、次回講義時に発表する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設けないが、開講時にメールアドレスを伝えるので質問・意見等があれば随

中国哲学史(特殊講義)(3)へ続く

中国哲学史(特殊講義)(3)

時歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 倉本 尚徳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		政治権力と寺院の関係から見た中国中古仏教史									
[授業の概要・目的]											
<p>寺院は僧が集団で生活を送り修行に励む場である。また、在家者との接点の場でもある。インドの寺院においてはそれぞれ一部派の戒律に基づき寺院生活が行われていた。中国へ仏教が伝来してしばらくは、戒律が本格的に訳されずに寺院で僧の生活が行われていた。インドの各部派の戒律は五世紀の前半に中国にもたらされ漢訳された。本講義では、インドと文化の異なる中国中古（魏晉南北朝隋唐）時代の僧たちがどのように戒律を受容して運用し儀礼を行ったかを考えて行きたい。また、日本古代における寺院のあり方についても検討する。</p> <p>インドと中国仏教の大きな相違の一つは、政治権力が寺院や僧の数を制限し、僧団の戒律や儀礼大寺院の入住僧の選定にも介入した点である。政治権力による教団の統制に対する僧の反対運動も行われた。この点に特に注意して講義を行う。毎回事前に関連論文を用意するので、全員があらかじめそれを読んで出席し授業で討論を行う形で進める。</p>											
[到達目標]											
<p>内容面</p> <p>一、インド・中国・日本仏教の相違を学ぶ。 二、南北朝隋唐時代の主要な寺院を把握し、皇帝と寺院の関係について理解する。 三、中国における戒律と儀礼を軸とした仏教史の展開について学ぶ。</p> <p>技能面</p> <p>一、研究動向を把握し、先行研究を批判的に読み込むことができる。 二、異なる視点から見れば同じ史料に対し別の解釈がなされることを理解する。 三、主体的かつ論理的に自己の意見を述べ、議論することができる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回： ガイダンス・寺院史の概観 第2回： インドにおける寺院生活 第3回： 後漢明帝の霊夢と白馬寺伝説 第4回： 道安の戒律への関心と慧遠「沙門不敬王者論」 第5回： インド流の食事作法導入をめぐって 劉宋時代の踞食論争 第6回： 女性の出家をめぐる問題 尼僧の受戒・皇室と尼寺 第7回： 皇宮と仏教寺院 同泰寺・内道場 第8回： 隋の仏教復興と王朝の正統化 一 大興善寺・大興国寺・禅定寺・仁寿舍利塔 第9回： 唐初の教団統制と律学の勃興 第10回 玄奘の帰国と初唐の皇家寺院 弘福寺・大慈恩寺・西明寺 第11回： 道宣による戒律・儀礼の整備と戒壇の建設 第12回： 武則天と大雲寺 第13回： 禅宗の中央進出と少林寺 都市近郊の山岳寺院と皇帝 第14回： 皇帝と石窟寺院、寺院壁画と浄土教</p>											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義)(2)

第15回： 日本古代の寺院

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業内での発言・発表状況）100%。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

倉本尚徳 『儀礼と仏像』（臨川書店、2022）ISBN: 4653045739（インドからの展開をふまえて中国における仏教儀礼の展開について論じたもの。政治との関係にも言及する。）

礪波護 『文物に現れた北朝隋唐の仏教』（法藏館、2023）ISBN:4831826448

義浄 『現代語訳南海寄帰内法伝（法藏館文庫）』（法藏館、2022）ISBN:483182643X（インド・東南アジアの戒律・儀礼を主とする立場から中国の戒律や儀礼のあり方を批判した書物。比較文化論としても秀逸）

その他の参考文献については講義中に随時提示する。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：配付資料をもとにあらかじめ読み内容を把握しておく。関連する研究を探して読む。論文で引用された史料の現代語訳や書き下し（国訳一切経）などを調べておく。

復習：講義内容を復習し、疑問等があれば関連する資料を調査し、次回講義時に発表する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設けないが、開講時にメールアドレスを伝えるので質問・意見等があれば随時歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 船山 徹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		五世紀中国仏教僧の戒律問答『五百問事経』から知られる戒律の実態(1)									
【授業の概要・目的】											
<p>5世紀前半中国仏教の出家者が『律』（出家集団の生活規則）をどのように理解していたか、どこに彼らの興味があったかを知るための資料として『五百問事（経）』がある。この文献は、中国人僧の質問とインド人僧の応答から成る問答集である。問答はどれも短く簡潔だが、その総数は多く、約300余りある。更に、『五百問事』には日本古写本と敦煌写本のみが現存し、名と体裁を変えた『目連問戒律中五百軽重事』という偽経として木版大蔵経に収められているものがよく知られている。</p> <p>インド起源の『律（ヴィナヤ）』には、東アジアの生活実態と合わない規則も含まれるため、中国の仏教徒にとって、漢訳された『律』にはそのまま使って生活できない内容が含まれ、また、中国人が是非知りたいことであっても、文化の異なりがあるため、インドの『律』には明確な規定がない事項も多い。</p> <p>この授業では5世紀中国の仏教の実態を知らせる資料として『五百問事』を精読し、内容を学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>一、仏典漢訳史（仏典漢訳の歴史的変異）の概略を理解する。</p> <p>二、仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。</p> <p>三、仏教漢語を上記二面から扱い、適切な現代語訳を作り、漢語仏典の読解力を向上させる。</p> <p>あわせて次の3点を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大蔵経に関する知識と使用上の留意点。 2. 仏教漢文の訓読法（佛教に特有の訓読の問題点を含む）。 3. 電子化された一次資料の使い方と留意事項。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：中国仏教を学ぶために必要な基本的な一次資料と工具書</p> <p>第2回：大蔵経の基礎知識・歴史・使用に当たって特に注意すべきこと・大正大蔵経の使用するときの注意点・電子テキスト利用上の注意点</p> <p>第3回：戒律文献漢訳史の概要</p> <p>第4回：『五百問事（経）』の書誌（原典・前近代の諸訳・注釈・主要研究）</p> <p>第5回：『五百問事（経）』が作られた歴史状況を学ぶ</p> <p>第6回：『五百問事（経）』精読(1)</p> <p>第7回：『五百問事（経）』精読(2)</p> <p>第8回：『五百問事（経）』精読(3)</p> <p>第9回：『五百問事（経）』精読(4)</p> <p>第10回：『五百問事（経）』精読(5)</p> <p>第11回：『五百問事（経）』精読(6)</p>											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義)(2)

第12回：『五百問事（経）』精読(7)
第13回：『五百問事（経）』の敦煌写本(a)
第14回：『五百問事（経）』の敦煌写本(b)
第15回：前期の総括

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（原文精読を必ず一度は担当する。積極的に意見と質問を提起する）。
自らの疑問や調べた内容について発言し、出席者たち全員に意見交換を促す

【教科書】

使用しない
教科書は使用しません。
授業は毎回、配布資料を作成し、それに基づいて原文を読み、現代語訳を作ります。

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば、授業中にその都度知らせます。
特に必読の論文はPDFを作成し、読むことを義務付けます。

【参考書等】

（参考書）

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』（岩波書店、2013）ISBN:978-4-00-024691-0（仏典漢訳史を知るための概説書として参照してほしい）
中村元・紀野一義 『般若心経 金剛般若経』（岩波文庫、岩波書店）ISBN:978-4003330319（鳩摩羅什の漢訳とサンスクリット語原典についての訳注）

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：
配布資料を基にして、授業で精読する箇所を下読みし、自分自身の訳を準備しなさい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設定しません。
授業に関係する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。
授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 船山 徹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		五世紀中国仏教僧の戒律問答『五百問事経』から知られる戒律の実態(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>5世紀前半中国仏教の出家者が『律』（出家集団の生活規則）をどのように理解していたか、どこに彼らの興味があったかを知るための資料として『五百問事（経）』がある。この文献は、中国人僧の質問とインド人僧の応答から成る問答集である。問答はどれも短く簡潔だが、その総数は多く、約300余りある。更に、『五百問事』には日本古写本と敦煌写本のみが現存し、名と体裁を変えた『目連問戒律中五百軽重事』という偽経として木版大蔵経に収められているものがよく知られている。</p> <p>インド起源の『律（ヴィナヤ）』には、東アジアの生活実態と合わない規則も含まれるため、中国の仏教徒にとって、漢訳された『律』にはそのまま使って生活できない内容が含まれ、また、中国人が是非知りたいことであっても、文化の異なりがあるため、インドの『律』には明確な規定がない事項も多い。</p> <p>この授業では5世紀中国の仏教の実態を知らせる資料として『五百問事』を精読し、内容を学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>一、仏典漢訳史（仏典漢訳の歴史的変異）の概略を理解する。</p> <p>二、仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。</p> <p>三、仏教漢語を上記二面から扱い、適切な現代語訳を作り、漢語仏典の読解力を向上させる。</p> <p>あわせて次の3点を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大蔵経に関する知識と使用上の留意点。 2. 仏教漢文の訓読法（佛教に特有の訓読の問題点を含む）。 3. 電子化された一次資料の使い方と留意事項。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：前期のまとめ。</p> <p>第2回：松尾社一切経2754『五百問事経』について</p> <p>第3回：新宮寺一切経1807『五百問事経』について</p> <p>第4回：『五百問事』精読（1）</p> <p>第5回：『五百問事』精読（2）</p> <p>第6回：『五百問事』精読（3）</p> <p>第7回：『五百問事』精読（4）</p> <p>第8回：『五百問事』精読（5）</p> <p>第9回：『五百問事』精読（6）</p> <p>第10回：『五百問事』精読（7）</p> <p>第11回：『五百問事』精読（8）</p> <p>第12回：『五百問事』から知られる5世紀中国仏教の戒律の実態（a）</p>											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義)(2)

第13回：『五百問事』から知られる5世紀中国仏教の戒律の実態（b）

第14回：『五百問事』から知られる5世紀中国仏教の戒律の実態（c）

第15回：後期の総括および通年のまとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（原文精読を必ず一度は担当する。積極的に意見と質問を提起する）。
自らの疑問や調べた内容について発言し、出席者たち全員に意見交換を促す。

【教科書】

使用しない

教科書は使用しません。

授業は毎回、配布資料を作成し、それに基づいて原文を読み、現代語訳を作ります。

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば、授業中にその都度知らせます。

特に必読の論文はPDFを作成し、読むことを義務付けます。

【参考書等】

（参考書）

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』（岩波書店、2013）ISBN:978-4-00-024691-0（仏典漢訳史を知るための概説書として参照してほしい）

船山徹 『『目連問戒律中五百軽重事』の原形と変遷』（『東方學報』京都70, 1998）（無料ダウンロード <http://hdl.handle.net/2433/66796>）

Funayama Toru 『Masquerading as Translation』（Aja Major, Third Series, 19-1/2, 2006）（無料ダウンロード <https://www2.ihp.sinica.edu.tw/file/1437ErffHdN.pdf>）

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：

配布資料を基にして、授業で精読する箇所を下読みし、自分自身の訳を準備しなさい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設定しません。

授業に係る事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。

授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学56

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 福谷 彬			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朱子学の文献を精読する									
【授業の概要・目的】											
<p>中国宋代の朱子学に関わる文献を精読することを通じて、史料を読解し、思想を深く理解するための能力を身に着ける。</p> <p>朱子学は中国だけでなく、前近代の朝鮮や日本の社会にも大きな影響を与えた。しかし、朱子学を正しく理解するためには、中国の伝統的な経学の知識はもとより、哲学的思考も必要なため、独学は難しい。本授業では、基本的な参照文献・工具書を紹介しつつ、朱子学を深く理解するための素地を養って頂きたい。中国古典初心者の受講を歓迎するが、漢文を読む講義を受講した経験があることを前提としたい。</p>											
【到達目標】											
<p>講義では講師は自分の見解を示すが、最も大切なのは参加者自身が自分で考える姿勢を身に着けることであると考えている。疑問や着想、読みたい文献、受講者の側から出してくれることを歓迎したい。</p> <p>自ら文献を集め、問題を見つけ、考察を深める方法を身に着けることを到達目標とする。基本的に以下のプランに従って講義を進めるが、進度によっては変更もあり得る。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第一回 ガイダンス 第二回～第八回 『朱文公文集』から 第九回～第十四回 『四書章句集注』から 第十五回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>毎回、担当者がレジュメを発表し、他の参加者とともに内容を検討する。成績は出席状況・発表内容・積極性などを勘案して、総合的に評価する。試験は行わない。</p>											
----- 中国哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業内に適宜説明する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学57

科目ナンバリング		G-LET12 71540 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宇佐美 文理			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『困学紀聞注』精読									
【授業の概要・目的】											
王應麟『困学紀聞』ならびに翁元圻の注釈を精密に読むことによって、漢文読解力を高めるとともに、引用されている数々の文献にあたることによって、古典中国学に関する知識を深める。											
【到達目標】											
古典漢文を自分の言葉に直して読むことができるようになる。 古典中国学の基本的な事項を理解する。											
【授業計画と内容】											
第一回 ガイダンス 第二回 文子曰～ 第三回 列子以～ 第四回 大宗師～ 第五回 荊公曰～ 第六回 郭象注～ 第七回 斉物論～ 第八回 挿桃枝～ 第九回 孔子病～ 第十回 仲尼読～ 第十一回 鵠上高～ 第十二回 以十鈞～ 第十三回 人而不～ 第十四回 漢七略～ 第十五回 漢七略(つづき) 第十六回 太平御～ 第十七回 鄒陽曰～ 第十八回 韓子曰～ 第十九回 韓子和～ 第二十回 必恃自～ 第二十一回 人主以～ 第二十二回 人主以(つづき) 第二十三回 韓子十～ 第二十四回 説文鹽～ 第二十五回 カツ冠子～ 第二十六回 戦国秦～ 第二十七回 漢景帝～ 第二十八回 鬼谷子～ 第二十九回 鬻熊為～ 第三十回 フィードバック(授業時に説明する)											
----- 中国哲学史(演習) (2)へ続く -----											

中国哲学史(演習) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点による。

[教科書]

コピーして配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

引用されている書物についてはかならず元の書物にあたることを心がける。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学58

科目ナンバリング		G-LET12 71540 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 池田 恭哉			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		阮元の文章を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>阮元(1764-1849)は言うまでもなく清朝考証学を代表する学者である。この授業では、彼の著作『ケン経室集』(ケン:研+手)の中から、経学を中心として思想に関わる内容の文章を選読する。文章のジャンルは序・論・跋・書など多岐にわたる。</p> <p>多彩なテーマやジャンルの文章を読むことは、特定の分野に偏らない中国古典全般にわたる読解能力を高めるとともに、その考証の手法や表現の方法を学ぶことをも可能にするであろう。そして同時代の学者が、同じテーマに対して考察を展開していた場合、時に阮元を離れてでも、それについて検証していくので、清朝という時代の学的風潮も体感できる。</p> <p>話題は経学を中心としつつ、中国の多様な時代、分野に及ぶことになる。また文章のジャンルも特定のものにこだわらない。そのため様々な専攻の学生の出席を期待する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・中国古典文献を、典拠や用例を調べ、その原典にあたりながら正確に読解できる。 ・読解の成果を自然な日本語に訳し、また適切な注釈を附すことで、訳注の形で提示する能力を身につける。 ・文献に披瀝されている考証の手法を体得することを目指す。 ・読解内容に対する阮元以外の考証をも検討することで、同一テーマに対する多角的な視野を持つ力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>毎回の担当を決め、訳注稿を作成してきてもらい、それについて出席者全員で討議する形式をとる。読む文章は教員が適宜選択するが、履修者の興味関心を見て決定する予定である。</p> <p>1 ガイダンス 2 ~30 阮元の文章を読む</p> <p>例：論語一貫説、大学格物説、明堂論、詩十月之交四篇属幽王説、進退維谷解、王伯申経義述聞序、焦氏雕菰楼易学序 論語論仁論、孟子論仁論、恵半農先生礼説序、張皋文儀礼凶序、春秋公羊通義序、与臧拜経庸書</p> <p>フィードバックの方法は授業時に説明する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 中国哲学史(演習) (2)へ続く -----											

中国哲学史(演習) (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点による（訳注稿に基づく発表、その修正稿の提出、自身の予習に基づく討議への参加などを総合的に判断する）。

[教科書]

授業中に指示する
テキストはコピーして配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

演習は何より学生が主役であるため、自身の意見を言うためには、相応の予習が必要である。また作成した訳注稿は、後日修正稿を提出してもらおう。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学59

科目ナンバリング		G-LET12 71541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『春秋左伝正義』									
[授業の概要・目的]											
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。											
[到達目標]											
漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。											
[授業計画と内容]											
<p>昨年度の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。</p> <p>第1回～第15回 『春秋左伝正義』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
教材は担当教員が準備する。											
[参考書等]											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学60

科目ナンバリング		G-LET12 71541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『春秋左伝正義』									
[授業の概要・目的]											
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。											
[到達目標]											
漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。											
[授業計画と内容]											
<p>前期の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。</p> <p>第1回～第15回 『春秋左伝正義』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
教材は担当教員が準備する。											
[参考書等]											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学61

科目ナンバリング		G-LET12 71541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 古勝 隆一			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『論語義疏』講読									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、儒教文献『論語義疏』を講読する。その経文・何晏等集解・皇侃義疏、そして『經典釈文』（論語音義）を講読の対象とする。</p> <p>テキストに正面から向かい合い、正確な理解を目指すのはもちろんだが、それをサポートする、書誌学的・校勘学的な知識もあわせて習得することを目標としている。</p> <p>複数の写本の影印に基づき、子罕篇の詳細な校勘記を作成する。</p>											
【到達目標】											
<p>以下の三点が具体的な到達目標である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『論語義疏』の諸本を比較し、書誌学的ならびに校勘学的な手法を習得する。 ・訓詁に着目し、『論語義疏』を正確に理解する。 ・上記二点に基づき、校勘記を完成させる。 											
【授業計画と内容】											
<p>『論語義疏』子罕篇の校勘記を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 ガイダンス ・第2・3回 「子疾病子路使門人為臣」章 ・第4・5回 「子貢曰有美玉於斯」章 ・第6回 「子欲居九夷」章 ・第7回 「子曰吾自衛反魯」章 ・第8回 「子曰出則事公卿」章 ・第9回 「子在川上」章 ・第10回 「子曰吾未見好德」章 ・第11・12回 「子曰譬如為山」章 ・第13回 「子曰語之而不惰者」章 ・第14回 「子謂顔淵曰惜乎」章 ・第15回 フィードバック（詳細は授業時に指示する） 											
【履修要件】											
中級程度の中国語を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点による。平常点は、授業への参加状況、授業の予習、および授業内での発言を重視する。											
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----											

中国哲学史(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する
必要なテキストは教室にて配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
毎回の授業に、以下に指定する工具書のうち、いずれかを携帯することを求める。
『新華字典』『古代漢語詞典』『王力古漢語字典』(中華書局)。

[授業外学修(予習・復習)等]

必ず予習した上で、授業に出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

月曜4限をオフィス・アワーにあてる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学62

科目ナンバリング		G-LET12 71541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 古勝 隆一			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『論語義疏』講読									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、儒教文献『論語義疏』を講読する。その経文・何晏等集解・皇侃義疏、そして『經典釈文』（論語音義）を講読の対象とする。</p> <p>テキストに正面から向かい合い、正確な理解を目指すのはもちろんだが、それをサポートする、書誌学的・校勘学的な知識もあわせて習得することを目標としている。</p> <p>複数の写本の影印に基づき、子罕篇の詳細な校勘記を作成する。</p>											
【到達目標】											
<p>以下の三点が具体的な到達目標である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『論語義疏』の諸本を比較し、書誌学的ならびに校勘学的な手法を習得する。 ・訓詁に着目し、『論語義疏』を正確に理解する。 ・上記二点に基づき、校勘記を完成させる。 											
【授業計画と内容】											
<p>『『論語義疏』子罕篇の校勘記を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 ガイダンス ・第2回 「子曰苗而不秀者」章 ・第3回 「子曰後生可畏」章 ・第4・5回 「子曰法語之言」章 ・第6回 「子曰主忠信」章 ・第7回 「子曰三軍可奪帥也」章 ・第8・9回 「子曰衣敝yun袍」章 ・第10回 「子曰歳寒」章 ・第11回 「子曰知者不惑」章 ・第12回 「子曰可與共學」章 ・第13・14回 「唐棣之華」章 ・第15回 フィードバック（詳細は授業時に指示する） 											
【履修要件】											
中級程度の中国語を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点による。平常点は、授業への参加状況、授業の予習、および授業内での発言を重視する。											
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----											

中国哲学史(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する
必要なテキストはPDFにて配布する。

[参考書等]

(参考書)

毎回の授業に、以下に指定する工具書のうち、いずれかを携帯することを求める。
『新華字典』『古代漢語詞典』『王力古漢語字典』(中華書局)。

[授業外学修(予習・復習)等]

事前に工具書類を用いて文意を読み取っておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

月曜4限をオフィス・アワーにあてる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学63

科目ナンバリング		G-LET13 61633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 横地 優子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語及び英語
題目		パーシュパタ研究									
【授業の概要・目的】											
シヴァ教の最古の宗教集団であるパーシュパタ派については、近年関連する新しい文献の発見・出版により、研究が大きく進展している。この授業では、パーシュパタ派の現存最古の教義書であるパーシュパタースートラとそのカウンディニャによる注釈を取り上げ、最新の研究成果に基づき、この聖典の成立過程、スートラと注釈の関係、ヴェーダの宗教文化からパーシュパタ派への連続性、シヴァ教全般におけるこの宗派の位置付けなどを再考することを目的とする。											
【到達目標】											
宗教的な教義書とその注釈の文体に慣れると同時に、シヴァ信仰の視点から初期ヒンドゥー教について理解を深めることができる。											
【授業計画と内容】											
第1回 パーシュパタ派の概論・近年の研究動向 第2～7回 パーシュパタ・スートラおよび注釈第3章の精読と解説 第8～12回 パーシュパタ・スートラおよび注釈第4章の精読と解説 第13～14回 パーシュパタ・スートラおよび注釈第5章の精読と解説 第15回 総括											
【履修要件】											
基礎的なサンスクリット読解能力											
【成績評価の方法・観点】											
平常点により評価する。											
【教科書】											
授業で扱う資料はアップロードし、学期の初めにその情報を告知する。主たる校訂版および英訳は以下のとおりであるが、授業ではできる限り準備中の新しい校訂テキストを使用する。 Pasupata Sutras with Pancharthabhashya of Kaundinya. Edited by R. Ananthakrishna Sastri. Trivandrum Sanskrit Series, CXLIII. The Oriental #8232Manuscripts Library of the University of Travancore, Trivandrum, 1940. Hara Minoru, Materials for the study of Pasupata Saivism. Unpublished PhD thesis, Harvard University, 1966.											
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----											

インド古典学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

Hara Minoru, Pasupata Studies. Edited by Jun Takashima. Publications of the de Nobile Research Library, Vienna, 2002. Rep.: Motilal Banarsidass, Delhi.

他の研究書・論文は授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

テキストを精読する回には予習(訳の準備)が必要となる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学64

科目ナンバリング		G-LET13 61633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 VASUDEVA, Somdev			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Introduction to Indian Aesthetics									
【授業の概要・目的】											
This course is designed as a general introduction to the theory and practice of Indian aesthetics. It provides two things: 1) a historiographic survey of the most influential authors, works, and theories; and 2) a narrative account of the major debates and disputes that led to specific evolutions of doctrine and practice.											
【到達目標】											
Students will be introduced to different styles of scholarship and different methods of analysis current in South Asian studies. The aim is to familiarise students with topics of ongoing debate and to provide them with tools to meaningfully engage with newly emerging literature.											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1 What is our goal? Introduction to the sources and languages.</p> <p>Week 2 The challenge of South Asian polyglossia, heteroglossia and hyperglossia. What is the point of historiography? How can we periodize and localize South Asia?</p> <p>Week 3 Bharata 's Natyasastra, The Foundational Text, Theatre, Dance, Music, Poetry and Other Arts</p> <p>Week 4 Early Development of the Rasa Theory</p> <p>Week 5 The Early Rhetoricians: Bhamaha and Dandin</p> <p>Week 6 Competing Categories I: Vamana and his Virtues; Defects; Textures; Styles</p> <p>Week 7 Competing Categories II: Rudrata and the Systematisation of Ornaments of Sound, Sense, and Both</p> <p>Week 8 Competing Categories III: Anandavardhana and the New Paradigm: Denotation, Implication, Suggestion, Sentiment</p> <p>Week 9 The Synthesizers: Bhoja and Mammata</p> <p>Week 10 Ruyyaka and the Epistemology of Aesthetics</p> <p>Week 11 Sobhakara's Modal Aesthetics</p> <p>Week 12 Aesthetics as Theology: Visvanatha, Simhabhupala and the Bhakti Movements</p> <p>Week 13 Aesthetics and the New Style of Philosophy: Appayadiksita and Jagannatha</p> <p>Week 14 The Unexpected Return of Figurative Poetry</p> <p>Week 15 Concluding Summary</p>											
【履修要件】											
Regular reading of assigned work and participation in the group discussions.											
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----											

インド古典学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

In class, discussion and contextualization of the assigned readings (40%). One response paper to the discussions of the readings (30%). Homework (30%).

[教科書]

Sheldon Pollock 『A Rasa Reader』 (Columbia University Press, 2016) ISBN:978-0-231-54069-8

[参考書等]

(参考書)

Introduced during class

[授業外学修 (予習・復習) 等]

The participants are expected to attend every class. The weekly readings of the short sections should take about one hour of preparation for each class.

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学65

科目ナンバリング		G-LET13 61633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 VASUDEVA, Somdev			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		An Introduction to Esoteric Yoga									
【授業の概要・目的】											
<p>This class has a twofold aim. [1.] It introduces the main authors, scriptures, commentaries, and exegetical works describing the practices and theories of systems of Tantric yoga.</p> <p>[2.] We will study, in English translation, selected passages defining key practices and theoretical paradigms that went on to influence other systems of meditation and yoga.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will be introduced to different styles of scholarship and different methods of analysis current primarily in South Asian studies. The aim is to familiarise students with topics of ongoing debate and to provide them with tools to meaningfully engage with newly emerging literature.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1 What is Tantrism? The Sources of Liberation; Ritual, Knowledge, Yoga and Observance</p> <p>Week 2 The Major Initiation Lineages and their Attitude to Yoga</p> <p>Week 3 The Saivasiddhanta; Dualism and the Supremacy of Ritual</p> <p>Week 4 The Nondualists and the Supremacy of Knowledge</p> <p>Week 5 The Antiritualist Tradition</p> <p>Week 6 Tarka: The Yoga of Six Ancillaries</p> <p>Week 7 The Varieties of the Subtle Body</p> <p>Week 8 Kaula Yoga: Pinda, Pada, Rupa and Rupertita, The Early Development of Kundalini</p> <p>Week 9 The Western Transmission of Kujjika and the Later Evolution of Kundalini Yoga</p> <p>Week 10 The Dharanas of the Vijnanabhairava I</p> <p>Week 11 The Dharanas of the Vijnanabhairava II</p> <p>Week 12 The Rejection of Patanjali's Yoga</p> <p>Week 13 The Accomodation of Patanjali's Yoga</p> <p>Week 14 The Matsyendrasamhita, The Amrtasiddhi and Early Hatha Yoga</p> <p>Week 15 Concluding Summary</p>											
【履修要件】											
Regular preparation of assigned readings and participation in the group discussions.											
【成績評価の方法・観点】											
In class, discussion and contextualization of the assigned readings (40%). One response paper to the discussions of the readings (30%). Homework (30%).											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----											

インド古典学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

A.G.J.S Sanderson 『The Saiva Literature』 (Journal of Indological Studies, Nos. 24 & 25 (2012--2013))

[授業外学修(予習・復習)等]

The participants are expected to attend every class. The weekly readings of the short sections should take about one hour of preparation for each class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学66

科目ナンバリング		G-LET13 61633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)									
[授業の概要・目的]											
<p>紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語（古期サンスクリット語）はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 											
[授業計画と内容]											
<p>この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定（学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1（7週間） 2. Hymn 2（7週間） 3. フィードバックなど（1週間） 											
[履修要件]											
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学67

科目ナンバリング		G-LET13 61633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)									
[授業の概要・目的]											
<p>紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語（古期サンスクリット語）はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 											
[授業計画と内容]											
<p>この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定（学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1（7週間） 2. Hymn 2（7週間） 3. フィードバックなど（1週間） 											
[履修要件]											
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET13 61633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学 (特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Scripts, Languages and Buddhist Scriptures									
【授業の概要・目的】											
<p>This course is designed for the study foci “ Knowledge, Belief and Religion ” (KBR) and “ Visual, Media and Material Cultures ” (VMC) and consists of the following three parts:</p> <p>I. Scripts and Writing Systems; II. Languages and Words III. Translation Studies of Buddhist Scriptures</p>											
【到達目標】											
<p>Based on the theories of Transcultural Studies, this course offers numerous concrete examples for transculturality in the textual and linguistic aspect as well as from the perspectives of creation and dissemination of knowledge and interaction between diverse agencies on the macroscopic scale. Investigations on the microscopic scale, on the other hand, are concerned with how the formative and transformative processes result in certain cultural manifestations in the spheres of writing systems, construction and transmission of registers as well as translation studies of Buddhist scriptures.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>I. Scripts and Writing Systems Week #01 General Introduction 1.1. Writing System in the World 1.2. Logic of Writing 1.3. Interplay between Scripts and Languages (e.g. Scripts and Word Forms) References: The world writing systems; Handbook of Comparative and Historical Indo-European Linguistics Volume 1, 5. The writing systems of Indo-European;</p> <p>Week #02 Decipherment Part 1 2.1. Brahmi Script 2.2. Case Study: Asoka Inscription in Brahmi; 2.3. Mycenaean Greek Alphabet (Linear B) 2.4. Case Study: Documents KN Ca 895 and PY Ta 722</p> <p>Week #03 Decipherment Part 2 3.1. Kharosthi Script 3.2. Case Study: Asoka Inscription in Kharosthi; 3.3. Case Study: Coins in Greek and Gandhari 3.4. Historical Development of Brahmi and Kharosthi Script</p> <p>References: Salomon 1998 Indian epigraphy; Falk 2006 Asokan Sites and Artefacts; Handout (glass_</p>											
----- インド古典学 (特殊講義) (2)へ続く -----											

インド古典学（特殊講義）(2)

salomon_kharosthi); A companion to linear B Mycenaean Greek texts and their world 1;
Website: <http://www.indoskript.org> ; <http://calibra.classics.cam.ac.uk> ; <https://damos.hf.uio.no/1> ;

Week #04 Scripts along the Silk Road

- 4.1. Scripts and Languages in Turfan Collection
- 4.2. Scripts and Dating (Chinese Calligraphy)
- 4.3. Case Study: Scripts and Buddhist Sects (Saindhavi Script)

References: Fujieda 藤枝晃 Tunhuang Manuscripts Part II; Fujieda 1989 Earliest Types of Chinese Buddhist Manuscripts Excavated in Turfan; Tsui, Chung-hui 崔中慧 2020 Chinese Calligraphy and Early Buddhist Manuscripts; Dragomir Dimitrov 2020 The Buddhist Indus Script and Scriptures: on the so-called Bhaiksuki or Saindhavi Script of the Sammitiyas and their Canon;

Week #05 Recognise and Read Part 1

- 5.1. Case Study: Read Skt. Manuscripts (Udanavarga, Catalogue System “ SHT ”)
- 5.2. Case Study: Read Gandhari Manuscript (Dharmapada)

Week #06 Recognise and Read Part 2

- 6.1. Case Study: Read Skt.-Toch. Bilingual Manuscripts (“ THT ” , THT542, THT1018)
- 6.2. Case Study: Read Bactrian Manuscript

Reference: Sander 1968 Palaographisches zu den Sanskrithandschriften; Bernhard 1965 Udanavarga; Brough 1962 The Gandhari Dharmapada. London; Sims-Williams 2007 Bactrian documents from Northern Afghanistan 2 Letters and Buddhist texts;

Website: Sanskrit: <http://idp.bbaw.de/> ; Gandhari: <https://gandhari.org/> ; Tocharian <https://www.univie.ac.at/tocharian> ;

II. Languages and Words

Week #07 Tarim Basin as Contact Zone

- 7.1. Literary Survey of Serindia
- 7.2. Linguistic Survey of Serindia

Week #08 Languages and Texts along the Silk Road Part 1

- 8.1. Sanskrit Literature
- 8.2. Gandhari Literature
- 8.3. Tocharian Translations of Buddhist Texts

Reference: Wille 2005 Survey of the Sanskrit Manuscripts in the Turfan Collection; Tremblay 2007 Spread of Buddhism in Serindia; Tremblay 2001 Pour une histoire de la Serinde;

Website: <https://gandhari.org/home> ;

Week #09 Translation and Loanwords Part 1

- 9.1. General Introduction (agencies, directions, registers)
- 9.2. Loanwords in English (from French, Nordic, Latin, Japanese, etc.)
- 9.3. Loanwords in Japanese (from English, German, Dutch, etc.)

インド古典学 (特殊講義) (3)

Week #10 Translation and Loanwords Part 2

- 10.1. Hittite, Akkadian & Sumerian (script involved)
- 10.2. Germanic Loanwords into Slavic and Celtic
- 10.3. Circular Borrowing A >> B >> A ' (e.g. Skt. pustaka- ' book ')
- 10.4. Buddhist Loanwords in Chinese, Tibetan, Tocharian, Old Turkic

Reference: Oxford English Dictionary; Hethitisches Handwörterbuch 2008 2nd; Handbook of Comparative and Historical Indo-European Linguistics vols 2 & 3; Adams 2013 A dictionary of Tocharian B; Wilkens 2021 Handwörterbuch des Altuigurischen;

Week #11 Translation and Loanwords Part 3

- 11.1. Case Study: Middle Chinese Texts in Brahmi Script
- 11.2. Case Study: Origin of Chin. 觀音 guan yin
- 11.3. Case Study: Origins of Chin. 沙門 sha men, 和尚 he shang

Reference: Karashima 2017 On Avalokitasvara and Avalokitesvara; Pan 2021 Handout; Skjaervo 2004 This most excellent shine of gold 2; Bailey 1979 Dictionary of Khotan Saka;

Website: <https://gandhari.org/home> ;

Week #12 Languages and Texts along the Silk Road Part 2

- 12.1. Khotanese Translations of Buddhist Texts
- 12.2. Sogdian Translations of Buddhist Texts
- 12.3. Uighur Translations of Buddhist Texts

Reference: Emmerick 1992 Literature of Khotan; Maggi Khotanese Literature; Yoshida 2015 A handlist of Buddhist Sogdian texts; Zieme Local Literatures Uighur in Brill Encyclopedia Buddhism; Karashima 辛嶋 1994 『長阿含經』の原語の研究 音写語分析を中心として; Karashima 2016; Karashima Features of the Underlying Language of Zhi Qian ' s Chin. Transl. of Vkn;

III. Translation Studies of Buddhist Scriptures

Week #13 Transculturality in Translatology

- 13.1. Transmission of Buddhist Literature and Early Chinese Translations
- 13.2. Translation Techniques and Loan Translation (Calque)
- 13.3. Cultural Entanglements of Sanskrit, Middle Indic, Middle Iranian, Tocharian and Chinese Transmissions.

Week #14 Vajracchedika

Case Study: Chinese translations of Vajracchedika by Kumarajiva, Dharmagupta and Xuanzang from perspectives of transcultural studies.

Week #15 Review of Course Materials

Reference: Karashima 辛嶋 1994 『長阿含經』の原語の研究 音写語分析を中心として; Karashima 2016; Karashima Features of the Underlying Language of Zhi Qian ' s Chin. Transl. of Vkn;

インド古典学（特殊講義）(4)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Assessment will be based on class performance (50% = attendance 20% + one presentation 30%) and final assignment (50%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET13 61633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Buddhist Art and Manuscript Cultures along the Silk Road									
【授業の概要・目的】											
<p>This course is designed for the study foci “ Knowledge, Belief and Religion ” (KBR) and “ Visual, Media and Material Cultures ” (VMC) and consists of the following three parts:</p> <p>I. Silk Road in and between Asia and Europe; II. Buddhist Art as Cultural Entanglement; III. Manuscript Cultures as Transformative Creativity.</p>											
【到達目標】											
<p>Based on the theories of Transcultural Studies, this course offers numerous concrete examples for transculturality in the visual and material aspect as well as from the perspectives of creation and dissemination of knowledge and contact between religious networks on the macroscopic scale. Investigations on the microscopic scale, on the other hand, are concerned with how the formative and transformative processes result in certain cultural manifestations in the spheres of Buddhist art and manuscript cultures.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>I. Silk Road in and between Asia and Europe Week #01 Silk Road A Greater Picture Part 1 1.1. Asia in Old Persian inscriptions 1.2. India in early Greek literature 1.3. Case Study: Names of Rome in Chinese sources vs. Name of China in foreign sources 1.4. Case Study: Indika by Megasthenes and Arrian</p> <p>Brief overview of course content Old Persian script ~ example of transculturality (for scripts, cf. later sessions) Topic for discussion: names and naming trends (in Europe, Asia, USA, etc.) Rome: Da-qin 大秦 great-Qin , Fu-lin 拂菻 China in Sanskrit, Greek (ser), Latin (Seres) sources.</p> <p>Week #02 Silk Road A Greater Picture Part 2 2.1. Sogdians as Cultural Brokers 2.2. Turfan as Contact Zone 2.3. Chang ' an as Cosmopolitan Terminal Old Persian script ~ example of transculturality Trade routes of Sogdians: https://sogdians.si.edu/historic-trade-routes-of-the-sogdians/ Sogdian Ancient Letters https://sogdians.si.edu/ancient-letters/ Read Letter 1, 2, 3. Nanaia goddess: https://kimon.hosting.nyu.edu/sogdians/items/show/1150 https://kimon.hosting.nyu.edu/sogdians/items/browse Religious adaptability of the Sogdians, by turns Mazdeans, Buddhists, Nestorians, Manichaeans and Muslims,</p>											
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----											

インド古典学(特殊講義)(2)

according to their political and commercial interests

Manichaeism

Chang ' an & Heian-kyo

<https://en.wikipedia.org/wiki/Heian-kyo>

References: Kent 1953 Old Persian grammar, texts, lexicon; Karttunen 1989 India in early Greek literature; Hansen 2017 The Silk Road: A New Documentary History to 1400: A New History with Documents. 2nd Edition; Sogdian Ancient Letters (by Sims-Williams, Livsic, La Vaissiere, Grenet); La Vaissiere 2005 Sogdian traders: a history; La Vaissiere 2005 Les sogdiens en Chine; Lieu 2013 The 'Romanitas' of the Xi'an Inscription; The Oxford dictionary of late antiquity; Boyce 1975 A reader in Manichaean Middle Persian and Parthian.

Week #03 Tarim Basin as Contact Zone Part 1

3.1. The Great Game from transcultural perspectives

3.2. German Expeditions (Grunwedel, Le Coq, Bartus)

3.3. French Expedition (Pelliot)

Week #04 Tarim Basin as Contact Zone Part 2

4.1. British Expedition (Hoernle, Macartney, Stein)

4.2. Russian Expedition (Oldenburg, Petrovski)

4.3. Japanese Expedition (Otani)

4.4. Chinese Expedition (Huang Wenbi)

Matsunami collection in Tokyo University

References: Hansen 2017 The Silk Road; Seiiki koko zufu 西域考古図譜. Kagawa Mokushiki 香川黙識 (ed.), 1915, 2 vols;

Website: <http://idp.bl.uk> , <https://www.metmuseum.org> , <http://turfan.bbaw.de/dta/> , <http://dsr.nii.ac.jp/toyobunko/index.html.ja> ,

II. Buddhist Art as Cultural Entanglement

Week #05 Buddhist Art Part 1

5.1. Gandhara and the Greeks

5.2. Kucha and Kizil Caves

Gandhara Art, Language Gandhari (loan words from Middle Iranian, Script from Aramaic,)

Indian + Greek (Hadda, Afghanistan), Coins, Aniconic

Week #06 Buddhist Art Part 2

6.1. Dunhuang Caves as Time Capsules

6.2. Khotan as Entryway into Kucha and Turfan

Rhie Early Buddhist Art of China and Centra Asia

References: Gandhara BAW 2013; The Art of Gandhara in The Metropolitan Museum of Art; Pakistan. Terre de rencontre Ier-VIe siecle. Les arts du Gandhara (Musee Guimet); Alt-Kutscha; Altbuddhistische Kultstätten in Chinesisch-Turkistan; Die buddhistische Spätantike in Mittelasien 7 vols; Schlingloff 1981 Erzählung und Bild (updated chin. version in 2013); Duan Wenjie 1994 Dunhuang Art; Ancient Khotan 2 vols; Serindia 5 vols; 中央アジア 世界美術大全集 東洋編15;

Website: <https://www.metmuseum.org> ; <https://www.metmuseum.org> ; <http://dsr.nii.ac.jp/toyobunko/index.html.ja>

インド古典学(特殊講義)(3)へ続く

インド古典学(特殊講義)(3)

Week #07 Visual and Textual Interplay Part 1

Focus: Names and Depictions of Certain Figures (Gods, Animals, Buddhist Monks, etc.)

- 7.1. Narrative Elements in the Buddhist Stories
- 7.2. Variations of Depiction and Concept of Open Philology
- 7.3. Case Study: Tigress Story in Various Transmissions

Week #08 Visual and Textual Interplay Part 2

Dieter Schlingloff: Erzählung und Bild

Depiction of development of story and several episodes

Rock Art of Honey Hunters, 6000 BC

Lion Hunt of Ashurbanipal, Assyrian 7th cent. BC

Blinding of Polyphemos, Laconian Black Figure Cup, c. 540 BCE.

Cyclops Polyphemos Eleusis Amphora: funerary proto-Attic amphora circa 660 BC

Drinking cup (kylix) depicting Kirke from the Odyssey Greek Archaic Period 『千と千尋の神隠し』(せんとちひろのかみかくし)

Bharhut Bull and Tiger Jataka (Schiefner) by Asoka 3rd cent. BC

Jataka 357 Latukika, Bharhut, 2nd cent. BC

Miracle of the Buddha walking on a River Sanchi East Gateway 1st cent. BC

Sikri Stupa in Homage to Buddha Dipamkara in Gandhara Kushan 4th cent. AD

Josua begegnet einem Engel. Pal.gr.431.pt.B (<https://digi.vatlib.it/mss/detail/215228>)

III. Manuscript Cultures as Transformative Creativity

Week #09 Western Manuscripts

- 9.1. General Introduction
- 9.2. Western Manuscripts (Greek, Latin, Old Church Slavonic, Gothic, Old English, etc.)

Week #10 Oriental Manuscripts

- 10.1. General Introduction
- 10.2. Oriental Manuscripts (Gandhari, Sanskrit, Khotanese, Tocharian, Chinese, etc.)
- 10.3. Differences and Similarities between Western and Oriental Manuscripts

References: Manuscript Cultures Mapping the Field; One-Volume Libraries Composite and Multiple-Text Manuscripts

Website: Homer (Venetus A): <http://beta.hpcc.uh.edu/hmt/archive-dl/VenetusA/> ; Aeneas: https://digi.vatlib.it/view/MSS_Vat.lat.3867 ; Gothic: <http://www.alvin-portal.org/alvin/view.jsf?pid=alvin-record%3A173610&dswid=7503> ; Old High German: <http://www.handschriftencensus.de/werke> ; Old English: <https://ebeowulf.uky.edu/ebeo4.0/CD/main.html> ; Sanskrit: <http://idp.bbaw.de/> ; Gandhari: <https://gandhari.org/> ; Avestan: <https://ada.geschkult.fu-berlin.de>

Week #11 Composite Manuscripts Part 1

- 11.1. Textually Composite (Buddhist, Jaina, China; Bilingual)
- 11.2. Physically Composite (two layers, glued or sewn)

Week #12 Composite Manuscripts Part 2

- 12.1. Philosophical/Religious Encounters between Asia and Europe
- 12.2. Case Study: Manichaeism in Tocharian und Old Turkic; Toch B-Uighur Bilingual Hymn to Mani

インド古典学(特殊講義)(4)へ続く

インド古典学(特殊講義)(4)

References: The Emergence of Multiple-Text Manuscripts; Hartmann Wille Skt Handschriften Sammlung Pelliot 3510 Sammelhandschriften; Hartmann 2017 SHT 7185; Pan/Chen 2021 Traces of Chinese Buddhist Scrolls in Fragments of Tocharian Pothis; von Gabain/Winter 1958 Ein Hymnus an den Vater Mani auf “Tocharisch ” B mit altturkischer Übersetzung; Pinault 2008 Bilingual hymn to Mani: Analysis of the Tocharian B parts

Week #13 Production of Manuscripts

13.1. Production of Palm Leaf Manuscripts

13.2. Chinese Buddhist Scrolls Transformed into Tocharian Pothis (How & Why & When & Where)

Week #14 Manuscript Forgeries

14.1. Manuscript Forgeries as Transcultural Case Study

14.2. Unknown Script or Forgery? Hoernle Biscrypt

References: Sims-Williams 2000 Forgeries from Chinese Turkestan in the British Library 's Hoernle and Stein Collections; Dunhuang Manuscript Forgeries 2002; Rosen 2001 Hedin Forgery; Fakes and Forgeries of Written Artefacts from Ancient Mesopotamia to Modern China; Dragoni Schoubben Peyrot 2020 The Formal Kharosthi script from the Northern Tarim Basin in Northwest China may write an Iranian language
Website: <https://www.youtube.com/watch?v=1G7Nd5Y6UCE>

Week #15 Review of Course Materials

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Assessment will be based on class performance (50% = attendance 20% + one presentation 30%) and final assignment (50%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

インド古典学(特殊講義)(5)へ続く

インド古典学(特殊講義)(5)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学70

科目ナンバリング		G-LET13 71644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 横地 優子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		マハーカーヴィヤ研究									
[授業の概要・目的]											
<p>9世紀にカシュミールでシヴァスヴァーミン焔vasvaminによって著された『Kapphinabhyudaya (カッピナ王の興隆)』は、成熟期のマハーカーヴィヤの代表作の一つであるが、まだ十分に研究されていない。本授業では、20章からなるこの作品の中から、宴会を扱う第13章を講読する。また同じ主題を扱うマーガ作『焔焔palavadha (シシュパーラの殺害)』第6章、バーラヴィ作『Kiratarjuniya (獵師とアルジュナ)』第9章、ラトナーカラ作『Haravijaya (シヴァの勝利)』第26章と比較し、シヴァスヴァーミンがこれら先行作品のモチーフや技法をどのように利用し、また変更しているかを検討する。</p>											
[到達目標]											
成熟期の、技巧をこらしたサンスクリット詩を読解する力が身につく。またインドにおける文学の伝統が実際にどのように機能していたのかを学ぶことができる。											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 Kapphinabhyudayaの概説 第2～14回 Kapphinabhyudaya第13章を講読し、先行作品の類似詩節と比較する。 第15回 総括</p>											
[履修要件]											
中級以上のサンスクリット読解能力											
[成績評価の方法・観点]											
平常点により評価する。											
[教科書]											
授業中に扱うテキストの章については、最初の授業の際に資料をアップロードしたリンクを指示する。主たるテキストは、Michael Hahn (compiled by Yusho Wakahara), Kapphinabhyudaya or King Kapphina's Triumph: A ninth century Kashmiri Buddhist Poem. Institute of Buddhist Cultural Studies, Ryukoku University, Kyoto, 2007. (978-4-8318-7281-4 C3015)。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
Kapphinabhyudayaには現代語訳が存在しなので、予習に十分な時間が必要となる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学71

科目ナンバリング		G-LET13 71644 SJ36										
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授				VASUDEVA, Somdev
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	英語	
題目		Nyaya and Vaisesika Realist Philosophy in India										
【授業の概要・目的】												
This course is a Sanskrit reading course focussing on the Tarkasamgraha of Annambhatta composed in the 17th century. We will perform a close reading of the selected text and analyze the content paying attention to philosophical themes and controversies with rival schools of thought.												
【到達目標】												
The objective is to familiarize students to read specialized Sanskrit philosophical texts. Students will learn: 1) how to interpret the sutras and commentaries according to the criteria that guided the original authors, and 2) how to interpret the text according to contemporary philological, hermeneutic and philosophical theories. Students will be introduced to standard form of English translation commonly used to translate such material.												
【授業計画と内容】												
week 1: padartha, dravya, guna week 2: karma, samanya, visesa week 3: samavaya, non-existence, the elements week 4: time and space week 5: the self week 6: the mind, the sensory media week 7: maturation week 8: number, size week 9: separateness, union week 10: division week 11: otherness and belonging week 12: language week 13: intellect and experience week 14: cause and effect week 15: reflection												
【履修要件】												
特になし												
【成績評価の方法・観点】												
participation in class. preparation and translation in class.												
【教科書】												
授業中に指示する												
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----												

インド古典学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of material before each week's reading.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学72

科目ナンバリング		G-LET13 71644 SJ36										
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授				VASUDEVA, Somdev
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	英語	
題目		The Digvijaya chapter of the Raghuvamsa of Kalidasa										
【授業の概要・目的】												
This course is a Sanskrit reading course focussing on the fourth chapter of the Raghuvamsa of Kalidasa an ornate "Composition in Cantos" completed in the Gupta empire between 415 and 445 CE. The chapter deals with an idealized account of a campaign of conquest taking in the whole of South Asia known to the author.												
【到達目標】												
The objective is to familiarize students to read the specialized Sanskrit of courtly "Compositions in Cantos" (sargabandha) that were the most prestigious literary form of produced by classical poets. Students will learn: 1) how to interpret the grammar, syntax, narrative, and aesthetic content of the work according to the standards that guided the original author and his commentators. 2) We will examine how to interpret the text according to contemporary philological, linguistic, aesthetic and philosophical theories. Students will be introduced to standard form of English translation commonly used to translate such material.												
【授業計画と内容】												
week 1: chapter 4.1.6, the background, Raghu becomes king week 2: chapter 4.7--13, the setting, Raghu and the natural world. week 3: chapter 4.14--20, the opportune season is at hand week 4: chapter 4.21--27, Raghu sets out week 5: chapter 4.28--35, conquest of the directions week 6: chapter 4.36--42, conquest of the directions 2 week 7: chapter 4.36--42, conquest of the directions 3 week 8: chapter 4.43--48, conquest of the directions 4 week 9: chapter 4.49--55, conquest of the directions 5 week 10: chapter 4.56--62, conquest of the directions 6 week 11: chapter 4.63--68, conquest of the directions 7 week 12: chapter 4.69--74, conquest of the directions 8 week 13: chapter 4.75--82, conquest of the directions 9 week 14: chapter 4.82--91, conquest of the directions 10 week 15: revision and recapitulation												
【履修要件】												
特になし												
【成績評価の方法・観点】												
participation in class. preparation and translation in class.												
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----												

インド古典学(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of material before each week's reading.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学73

科目ナンバリング		G-LET13 71644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Khotanese and Iranian Linguistics									
【授業の概要・目的】											
This course offers an introduction to Old and Middle Iranian languages including Avestan, Old Persian and Khotanese. Along with language and literature, students will learn the scripts for writing Avestan, Old Persian and Khotanese as well. The reading materials include Avestan Yasna, Old Persian inscriptions of King Darius I and Khotanese Vajracchedika. Therefore, this course provides glimpses into development of Iranian languages, early history of Iran as well as early Buddhism.											
【到達目標】											
The participants will learn Avestan, Old Persian and Khotanese scripts, Old and Middle Iranian languages and historical grammar of Iranian linguistics.											
【授業計画と内容】											
Week #01 Introduction: From PIE to Indo-Iranian Week #02 Introduction: Avestan languages and Avesta Week #03 Introduction: Old Persian and Cuneiform Week #04 Khotanese and Buddhist texts Week #05 to #07 Reading: Old Avestan Yasna Week #08 to #10 Reading: Behistun Inscription (Old Persian) Week #11 to #14 Reading: Khotanese Vajracchedika Week #15 Feedback											
【履修要件】											
Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.											
【成績評価の方法・観点】											
Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam. Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

インド古典学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://gandhari.org>(Text, dictionary, bibliography)

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学74

科目ナンバリング		G-LET13 71644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Tocharian and Indo-European Linguistics									
【授業の概要・目的】											
<p>This course offers an introduction to Tocharian languages and historical grammar of Indo-European languages. Based on the knowledge of Indo-European linguistics presented at the beginning of the course, synchronic and diachronic (historical) grammar of Tocharian including nominal and verbal systems will be explained. Reading materials include Sanskrit-Tocharian bilingual texts and Tocharian B Vinaya and Jataka with well-preserved parallel texts in Sanskrit and Chinese.</p>											
【到達目標】											
<p>The participants will be able to read Tocharian manuscripts in Brahmi script, learn the basic grammar of Tocharian A and B as well as rudiments of Indo-European linguistics.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Week #01 Introduction: Discovery and History Week #02 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 1 Week #03 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 2 Week #04 Script and Manuscripts Week #05 Tocharian B: nominal system (case), verbal system (ending, present) Week #06 Tocharian B: nominal system (declension class), verbal system (subjunctive) Week #07 Tocharian B: nominal system (adjective, pronoun), verbal system (preterite) Week #08 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga Week #09 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga Week #10 Tocharian B: reading Tocharian B Vinaya Week #11 Tocharian B: reading Tocharian B Jataka Week #12 Tocharian A: grammar Week #13 Tocharian A: reading Vinaya Week #14 Tocharian A: reading Vinaya Week #15 Feedback</p>											
【履修要件】											
<p>Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.</p>											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

インド古典学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam.
#160Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

Melanie Malzahn 『Instrumenta Tocharica』 (Heidelberg, 2007) (for the Brahmi script)

Wolfgang Krause, Werner Thomas 『Tocharisches Elementarbuch, Band I Grammatik』 (Heidelberg, 1960)

Georges-Jean Pinault 『Chrestomathie tokharienne』 (Paris, 2008)

(関連URL)

<https://www.univie.ac.at/tocharian> (Manuscript, text, grammar, dictionary, bibliography)

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学75

科目ナンバリング		G-LET13 71644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Introduction to Indian (Paninian) Grammar									
【授業の概要・目的】											
This course offers an introduction to traditional Indian grammar represented by the grammarian Panini. The course content will cover history of Indian grammatical traditions, system of Paninian grammar and its influence. Reading materials include Panini ' s grammar Astadhyayi, commentaries on Astadhyayi as well as Pali, Prakrit and Buddhist grammar developed from Astadhyayi.											
【到達目標】											
The participants will learn the logic and terminology of Paninian grammar, grammatical operations as well as other grammatical traditions based on Astadhyayi.											
【授業計画と内容】											
<p>Week #01 Introduction: Why should we study Indian grammar?</p> <p>Week #02 Introduction: History of scholarship and bibliography</p> <p>Week #03 Introduction: History, influence and terminology of Paninian grammar</p> <p>Week #04 Introduction: Grammatical operations (pratyahara, pratyaya, agama, declension, conjugation)</p> <p>Week #05 Reading: Sarasiddhantakaumudi of Varadaraja (17th cent., Devasthali); Siddhantakaumudi of Bhattoji Diksita (16th-17th cent., Chandra Vasu)</p> <p>Week #06 Reading: Sarasiddhantakaumudi; Siddhantakaumudi</p> <p>Week #07 Astadhyayi (5th-4th cent. BCE, Katre)</p> <p>Week #08 Astadhyayi (Katre)</p> <p>Week #09 Astadhyayi in RV commentary (Sayana 14th cent.) and Kavya commentary (Meghaduta, Mallinatha 14th-15th cent.)</p> <p>Week #10 Kasika of Jayaditya & Vamana (7th cent., Ojihara & Renou)</p> <p>Week #11 Mahabhasya of Patanjali (2nd cent. BCE), Pradipa of Kaiyata (10th-11th cent.) and Uddyota of Nagesa (18th cent., Joshi & Roodbergen)</p> <p>Week #12 Pali grammar: Saddaniti of Aggavamsa (12th cent., Smith)</p> <p>Week #13 Prakrit grammar: Prakrtaprakasa of Vararuci (3rd-4th cent., Cowell)</p> <p>Week #14 Buddhist grammar: Candravyakarana of Candragomin (7th cent., Liebich)</p> <p>Week #15 Feedback</p>											
【履修要件】											
Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.											
----- インド古典学(演習) (2)へ続く -----											

インド古典学(演習) (2)

[成績評価の方法・観点]

Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam.
Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学76

科目ナンバリング		G-LET13 71644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山口 周子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		パーリ語講読									
【授業の概要・目的】											
<p>パーリ語は、上座部仏教系の聖典書写に使用された主要言語であり、サンスクリット語、チベット語などと同様、インド古典学および仏教学の学習・研究を進めるうえで極めて有益な言語のひとつである。</p> <p>また、その音韻的特徴などを把握することで、古典サンスクリット語やヴェーダ語といった古代インド語に対する知識を深めることも期待できる。</p> <p>テキスト講読を通してパーリ語の読解力を付けることを目指す。（上座部仏教に伝わる「ジャータカ（本生譚）」に収録の短編物語を講読テキストとする。）</p> <p>なお、文法的な事柄については、講読を進める中で、必要に応じて解説する。</p>											
【到達目標】											
今後の学習や研究に必要なパーリ語原典テキストを自力で読解できる程度の語彙力と読解力を身につける。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーリ語について（言語的特徴などについて概説） ・精読に必要な辞書や文法書などの紹介 ・講読テキストのプリント配布 ・講読テキストに関する概説（物語の内容、関連テキストなど） <p>第2回－5回：テキスト講読：猿王本生譚（Vanarindajataka）</p> <p>第6回－9回：テキスト講読：兔本生譚（Sasajataka）</p> <p>第10回－14回：テキスト講読：四門本生譚（Catudvarajataka）</p> <p>学期末テスト</p> <p>第15回：フィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輪読形式を基本とする。文法事項等、テキストの理解に必要な事柄は、必要に応じて解説を加える。 ・授業の進度は、受講生の理解度に応じて変更する場合がある。 											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

インド古典学(演習)(2)

[履修要件]

初級程度のサンスクリット語読解力があること。

[成績評価の方法・観点]

平常点（テキスト読解力、あるいは内容理解への積極性：50点）と学期末テスト（50点）による。
（ 学期末テストは初見テキストを問題とし、辞書・文法書などの持ち込みは可とする。 ）

[教科書]

プリント配布

[参考書等]

（参考書）

Wilhelm Geiger 『A Pali Grammar』（The Pali Text Society）ISBN:0 86013 318 4

水野 弘元 『パーリ語文法』（山喜房佛書林）ISBN:4-7963-0010-4

Dines Andersen 『A Pali Reader (Part 1) ; Text and Notes』（Luzag & Co., 1901）

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・テキスト講読は輪読形式で行うため、原則として予習をして臨むこと。
- ・初学者はできる範囲で予習し、復習に重点をおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学77

科目ナンバリング		G-LET13 71644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 芳原 綾子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アルダマーガディー入門									
【授業の概要・目的】											
<p>現在もインド国内で教団が存続しているジャイナ教の起源は、仏教の成立と同時代であり、両教には類似点もある。ジャイナ教白衣派の聖典で使用されるアルダマーガディー(Amg)は、中期インド語の一つでありパーリ語とも類似性を持つ。Amgで書かれたテキストを実際に読み、必要な参考書を使い、音韻変化等になれる。</p>											
【到達目標】											
<p>アルダマーガディー(Amg)で書かれたテキストを読み、サンスクリットとは異なる、音韻変化や文法をもつ中期インド語の特徴を理解する。単語の意味や語形を調べるために必要な参考書類を使用できるようになる。乞食に関わる規定の撰文を読むことで、命あるものとはどういう状態をいうか、受け取ってよい飲食物はどのようなものか等、Amgで書かれた経典を保持してきたジャイナ教の基本的な思想に触れる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1回目:アルダマーガディーに関する概説と辞書・参考書、および、Amgのテキストを伝承してきたジャイナ教白衣派の紹介 2回目:母音と子音の音韻変化 3回目:名詞変化 4回目:代名詞の変化 5回目:a語幹動詞、e語幹動詞の活用(現在形、未来形) 6回目:過去時制、分詞etc. 7回目~10回目:出家者の1日の過ごし方を述べる『ウッタラジャヤナ』第26章からの抜粋、日課を述べる『アーヴァッサヤ』第1章からの抜粋の読解 11回目~15回目:違反行為をした場合の滅罪に関わるテキストの紹介と撰文(主に『ウッタラジャヤナ』からの抜粋と、滅罪に言及するテキストからの抜粋)の読解とまとめ テキストの読解に際しては、出席者のサンスクリットの知識を考慮して進める予定である。</p>											
【履修要件】											
初級サンスクリット文法を履修していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点:授業内での発言(和訳等含む)											
【教科書】											
<p>授業中に指示する コピーを配布する。 渡辺研二 「アルダ・マーガディー語文法入門(1)--(3)」 『ジャイナ教研究』第14-16号, 2008--2010. F. van den Bossche. A Reference Manual of Middle Prakrit Grammar. Gent. 1999.</p>											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

インド古典学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：サンスクリット語文法の既習者は、同じ文法事項についてサンスクリット語の場合を確認しておく。

復習：各回、文法事項の確認

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET13 71644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 天野 恭子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ヴェーダ祭式文献研究									
【授業の概要・目的】											
<p>古代インド最古層の散文テキストを含む、マイトラーヤニー・サンヒター（BC900年頃成立）から重要な箇所を選んで内容を検討し、当時の思想および社会について考察する。今学期は、ヴェーダ祭式のうち起源が古く、最も重要な祭式の一つと考えられるソーマ祭（興奮状態を作る作用のあるソーマという植物の搾り汁を使った祭式）の章を講読する。難解な内容を理解するために、言語的に精密な読解が必要であり、そのためのヴェーダ言語学、印欧語比較言語学の知識を学ぶ。同文献は、インド思想の発展、社会の変遷についても貴重な資料を多く含むため、後の時代のインドの宗教（ヒンドゥー教、仏教、ジャイナ教）や社会に関心のある者にとっても、重要である。</p>											
【到達目標】											
<p>最古のヴェーダ祭式文献の精読によって、インド文献（サンスクリット文献）を言語学的に正しく読解する能力を得る。ヴェーダ文献の言語、思想を深く理解するために必要な研究書を多く紹介し、ヴェーダ研究の専門的な知識、印欧語比較言語学の基礎知識を身に付ける。後にインドで発展した様々な宗教（ヒンドゥー教、仏教、ジャイナ教）に連なる、原初的な信仰について学ぶため、インド思想史、インド社会史全体についての理解が深まることが期待される。文献の内容のみならず、文献の成立状況についても多くの問題が残っているため、このような未解決の問題に対する学問的な態度を学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回授業時に「ヴェーダ祭式文献についての概観、ヴェーダ文献研究の方法論」を講義する。予習のやり方（必要な研究書について、その使い方について）を詳しく講義する。 第2回から第15回は、マイトラーヤニー・サンヒター（ソーマ祭に関する記述）の原典講読を行う。原文テキストはこちらで用意するので、それをもとに参加者が事前に訳を準備し授業内で発表し、解釈について議論を行う。言語学的あるいは祭式・文化的側面について、参加者から疑問を提示してくれることを歓迎する。</p>											
【履修要件】											
<p>サンスクリット基礎文法の既習者。ただし、サンスクリット文法の未修者であっても授業に興味のある人は、個別に相談に応じた上、履修を許可する場合があります。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点（予習および授業内容の復習の状況）による。</p>											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

インド古典学(演習)(2)

[教科書]

教材を授業時に配布する。

[参考書等]

(参考書)

Macdonell, A. A. 『A Vedic Gramma for Students』 (Motilal Banarsidass, 1993) ISBN:81-208-1053-8 (インド古典学研究室にて購入できる。)

[授業外学修(予習・復習)等]

講義で紹介したヴェーダ原典研究の方法を用いて、予習をすること。原典を精読するため、量的に多くは進まないが、一語一語の音韻、文法、語義についてよく吟味し、文全体の構造を考える必要がある。授業で紹介した論文等は、その都度触れておくことが望ましい。学習したことをいつでも見直しできるように、ノートや何らかのシステムを自分で構築することが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学79

科目ナンバリング		G-LET13 71644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 横地 優子 文学研究科 教授 VASUDEVA, Somdev 文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		インド学・サンスクリット学の諸問題（論文指導）									
【授業の概要・目的】											
この授業では、受講者はインド学・サンスクリット学の分野において、みずから選んだテーマに関する研究成果を発表し、討論の場で議論して批判を受ける。こうした訓練を重ねることで、批判的な研究方法、本格的な論文を作成するための技術を身につけることを目的とする。											
【到達目標】											
インド学・サンスクリット学の分野における研究方法を学び、論文作成技術を身につけることができる。											
【授業計画と内容】											
学生各自が選んだテーマについて、毎回研究発表をおこなってもらい、議論・批判を通して論文の作成方法について指導する（15週）。当該年度の卒論・修論・博論提出予定者にはそれぞれの論文に関わるテーマやテキストに関する発表を行ってもらおう。それ以外の学部生、院生はそれぞれの研究課題について特定のテーマを選んで発表を行ってもいいし、また近年の重要論文についての研究発表を行ってもよい。各学生には1～2回程度の発表の機会が与えられる。また、当該分野の短期滞在中の研究者や教員が模範として発表を行うこともある。討論を通じて研究方法、論文作成方法を学ぶことが主眼なので、討論の時間を十分にとるために各自の1回の発表は半時間程度におさめることが望ましい。											
【履修要件】											
原則的にインド古典学専修の学生であるが、インド学に関連する分野の研究を行っている他専修の学生も履修可。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（発表と討論への参加度により総合的に判断する）											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 特になし。											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

インド古典学(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

発表内容について早めに計画をたてて、十分な準備をすること。

（その他（オフィスアワー等））

インド古典学の学部4年生以上の学生には必修。自分の発表をするだけでなく、他の発表を聞いて積極的に討論に参加することを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学80

科目ナンバリング		G-LET13 71644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 横地 優子 文学研究科 教授 VASUDEVA, Somdev 文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		インド学・サンスクリット学の諸問題（論文指導）									
【授業の概要・目的】											
この授業では、受講者はインド学・サンスクリット学の分野において、みずから選んだテーマに関する研究成果を発表し、討論の場で議論して批判を受ける。こうした訓練を重ねることで、批判的な研究方法、本格的な論文を作成するための技術を身につけることを目的とする。											
【到達目標】											
インド学・サンスクリット学の分野における研究方法を学び、論文作成技術を身につけることができる。											
【授業計画と内容】											
学生各自が選んだテーマについて、毎回研究発表をおこなってもらい、議論・批判を通して論文の作成方法について指導する（15週）。当該年度の卒論・修論・博論提出予定者にはそれぞれの論文に関わるテーマやテキストに関する発表を行ってもらう。それ以外の学部生、院生はそれぞれの研究課題について特定のテーマを選んで発表を行ってもいいし、また近年の重要論文についての研究発表を行ってもよい。各学生には1～2回程度の発表の機会が与えられる。また、当該分野の短期滞在中の研究者や教員が模範として発表を行うこともある。討論を通じて研究方法、論文作成方法を学ぶことが主眼なので、討論の時間を十分にとるために各自の1回の発表は半時間程度におさめることが望ましい。											
【履修要件】											
原則的にインド古典学専修の学生であるが、インド学に関連する分野の研究を行っている他専修の学生も履修可。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（発表と討論への参加度により総合的に判断する）											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 特になし。											
【授業外学修（予習・復習）等】											
発表内容について早めに計画をたてて、十分な準備をすること。											
（その他（オフィスアワー等））											
インド古典学の学部4年生以上の学生には必修。自分の発表をするだけでなく、他の発表を聞いて積極的に討論に参加することを期待する。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学81

科目ナンバリング		G-LET13 71653 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 横地 優子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット初級演習(古典サンスクリット)									
【授業の概要・目的】											
サンスクリット文法を既習した学生を対象とする初級演習。語彙集を備えたリーダーを使って、易しい韻文・散文を読むことで文法知識を確実に身につけること、最終的には辞書を使って自力で原典が読めるようになることを目的とする。											
【到達目標】											
サンスクリット文法をきちんと身につけた上で、テキストを正確に読むことができるようになる。また、サンスクリットの辞書を有効に使えるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 これからテキストを読んでいくための基礎的知識と工具書(文法書・辞書など)の説明を行う。文の基本構造の分析や複合語などのいくつかの文法項目の復習を行う。 第2～6回 「ナラ王物語」から数章を読む。 第7～11回 「ヒトパデーシャ」からいくつかの物語を選んで読む。 第12～14回 「カターサリットサーガラ」からいくつかの物語を選んで読む。 第15回 定期試験 第16回 フィードバック 毎回の進度は受講者の習熟度によるが、最初の数回は文法を確認しながらゆっくり読み、その後は、毎回2頁程度の進度で読み進める。											
【履修要件】											
サンスクリット文法既習者											
【成績評価の方法・観点】											
定期試験によって評価する。											
【教科書】											
Lanman, C.R. 『A Sanskrit Reader』(Motilal Banarsidass) ISBN:978-81-208-1362-2(インド学研究室にて購入できる。)											
----- インド古典学(講読)(2)へ続く -----											

インド古典学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の予習・復習が必須である。特に復習が大事であり、予習が十分にできなかった場合も授業には出席して復習をきちんと行うことが肝心である。またデーヴァナーガリー文字を学んでいない者は、受講前に自習しておくこと(サンスクリットやヒンディーの文法書で自習することができる)。

(その他(オフィスアワー等))

この授業を履修する学生は、後期に開講される「サンスクリット初級演習(ヴェーダ語)」も履修することが望ましい。どちらを先に履修してもかまわない。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学82

科目ナンバリング		G-LET13 71653 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 天野 恭子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット初級演習(初期サンスクリット[ヴェーダ語])									
[授業の概要・目的]											
サンスクリット基礎文法の既習者を対象とする初級演習。ヴェーダ聖典の原文を講読しながら、初期サンスクリット(ヴェーダ語)の文法や原典講読の方法論の基礎を習得する。											
[到達目標]											
サンスクリット語の文章を正確に分析する技法を学ぶ。音韻、文法、語形成法についての知識を、実際の原典講読に生かす、原典研究の基礎的な力を身に付ける。サンスクリット原典研究に必要な、基本的な研究書の使い方を学ぶ。本授業では、古典サンスクリットとは異なる古い特徴を残す、初期サンスクリット語(ヴェーダ語)を扱うため、その語形・文法理解に欠かせない、印欧語比較言語学の基礎知識も学ぶ。ヴェーダ聖典という、非常に古い文献を扱うため、古代インド社会の歴史的・文化的背景についての知見も得る機会となる。											
[授業計画と内容]											
Lanman, C. R., A Sanskrit Readerを教科書とし、その中のヴェーダ聖典を引用している部分を学習する。 引用されているヴェーダ聖典は、韻文で作られた讃歌や、散文で記された神学的祭式解釈など、幅広いジャンルを含むが、そのような様々な文体、内容に触れる。参加者は、A Sanskrit Readerに収録されている語彙集を用いて事前に原文を訳し、授業で発表する。それに加え、原典を実際に研究する際に必要な専門書を授業の中で紹介し、使用の手ほどきをする。 第1回 ヴェーダ聖典についての概論。 第2回～第15回 テキスト精読(リグヴェーダ、アイタレーヤ・ブラーフマナ、シャタパタ・ブラーフマナ)。											
[履修要件]											
サンスクリット文法既習者。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点(講読の予習および授業内容の復習の状況)によって評価する。											
----- インド古典学(講読)(2)へ続く -----											

インド古典学(講読)(2)

[教科書]

Lanman, C.R. 『A Sanskrit Reader』 ISBN:978-81-208-1363-2 (インド古典学研究室にて購入できる。)

[参考書等]

(参考書)

Macdonell, A. A. 『A Vedic Grammar for Students』 (Motilal Banarsidass, 1993) ISBN:81-208-1053-8 (インド古典学研究室にて購入できる。)

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の予習が必須であるが、予習をしていなくても欠席しないこと。原典を丁寧に精読するため、量的には多く進まないが、一語一語の音韻の問題、文法形、語彙の意味を吟味し、文全体の構造もよく考えて予習を行う必要がある。授業で習ったことを、必要があればいつでも見直しできるように、知識を蓄積するノートや何らかのシステムを、それぞれが工夫して作ることが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET13 71653 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	講読	使用 言語	英語
題目		German Reading in Indology and Buddhology									
[授業の概要・目的]											
<p>We will read representative pieces of the German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, in order to help the students develop abilities to read and understand academic German on their own. The purposes of the course include: (1) to introduce students into the disciplines of German Indology and Buddhology by means of the renowned academic works; (2) to familiarise them with the main stylistics of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit; (3) to develop the students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>											
[到達目標]											
Students will develop abilities to read and understand German academic writings on their own.											
[授業計画と内容]											
<p>Part I Background Knowledge (2 weeks) Week #01 Tools & Tips 1.1. Lexika, Handbooks, Tools 1.2. Abbreviations (German, Latin, Bibliographic) 1.3. Conventions (Citation of Texts), Stylistics and Tones (e.g. wohl, vielleicht, nicht sicher) Reference: PW, pw, SWTF, EWAia, Goto 1987; Bechert 1990 Abkürzungsverzeichnis zum buddhistischen Literatur;</p> <p>Week #02 Introduction to German Indology 2.1. Vedic Studies, Indic Linguistics 2.2. Buddhist Studies 2.3. Jaina Studies Reference: Bechert & von Simson 1993 Einführung in die Indologie; Windisch Geschichte der Sanskrit-Philologie und Indischen Altertumskunde; Vorwort in SWTF; Veröffentlichungen der Helmuth von Glasenapp-Stiftung Website: https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.ahtml ; https://whowaswho-indology.info ;</p> <p>Part II History of Scholarship (4 weeks) Week #03 Indology in German 3.1. Important Scholars 3.2. Representative Works 3.3. Reading Exercise Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen; Website: https://whowaswho-indology.info ;</p> <p>Week #04 Indology in German</p>											
----- インド古典学(講読)(2)へ続く -----											

インド古典学(講読)(2)

4.1. Important Scholars

4.2. Representative Works

4.3. Reading Exercise

Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #05 Indic Linguistics in German

5.1. Important Scholars

5.2. Representative Works

5.3. Reading Exercise

Reference: EWAia

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #06 Buddhist Studies in German

6.1. Important Scholars

6.2. Representative Works

6.3. Reading Exercise

Reference: SWTF

Part III Reading Materials from Students (8 weeks)

Week #07 to #14 Read, Exercise & Analyse

The choice of texts depends on the participants ' interest and specialisation. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs.

Week #15

Feedback

【履修要件】

Basic knowledge of German (e.g. completion of College German) is required.

【成績評価の方法・観点】

Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

インド古典学(講読)(3)へ続く

インド古典学(講読)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET13 71653 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	講読	使用 言語	英語
題目		German Reading in Indology and Buddhology									
【授業の概要・目的】											
<p>We will read representative pieces of the German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, in order to help the students develop abilities to read and understand academic German on their own. The purposes of the course include: (1) to introduce students into the disciplines of German Indology and Buddhology by means of the renowned academic works; (2) to familiarise them with the main stylistics of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit; (3) to develop the students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>											
【到達目標】											
Students will develop abilities to read and understand German academic writings on their own.											
【授業計画と内容】											
<p>Part I Background Knowledge (2 weeks) Week #01 Tools & Tips 1.1. Lexika, Handbooks, Tools 1.2. Abbreviations (German, Latin, Bibliographic) 1.3. Conventions (Citation of Texts), Stylistics and Tones (e.g. wohl, vielleicht, nicht sicher) Reference: PW, pw, SWTF, EWAia, Goto 1987; Bechert 1990 Abkürzungsverzeichnis zum buddhistischen Literatur;</p> <p>Week #02 Introduction to German Indology 2.1. Vedic Studies, Indic Linguistics 2.2. Buddhist Studies 2.3. Jaina Studies Reference: Bechert & von Simson 1993 Einführung in die Indologie; Windisch Geschichte der Sanskrit-Philologie und Indischen Altertumskunde; Vorwort in SWTF; Veröffentlichungen der Helmut von Glasenapp-Stiftung Website: https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.a.html ; https://whowaswho-indology.info ;</p> <p>Part II History of Scholarship (4 weeks) Week #03 Indology in German 3.1. Important Scholars 3.2. Representative Works 3.3. Reading Exercise Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen; Website: https://whowaswho-indology.info ;</p>											
----- インド古典学(講読)(2)へ続く -----											

インド古典学(講読)(2)

Week #04 Indology in German

4.1. Important Scholars

4.2. Representative Works

4.3. Reading Exercise

Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #05 Indic Linguistics in German

5.1. Important Scholars

5.2. Representative Works

5.3. Reading Exercise

Reference: EWAia

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #06 Buddhist Studies in German

6.1. Important Scholars

6.2. Representative Works

6.3. Reading Exercise

Reference: SWTF

Part III Reading Materials from Students (8 weeks)

Week #07 to #14 Read, Exercise & Analyse

The choice of texts depends on the participants' interest and specialisation. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs.

Week #15

Feedback

【履修要件】

Basic knowledge of German (e.g. completion of College German) is required.

【成績評価の方法・観点】

Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

インド古典学(講読)(3)へ続く

インド古典学(講読)(3)

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET49 89616 LJ48									
授業科目名 <英訳>		サンスクリット(2時間コース)(語学) Sanskrit(2H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山口 周子			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	月4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット初級文法(2時間コース)									
【授業の概要・目的】											
<p>サンスクリット語は南アジア(インド)において、古くは紀元前1200年頃より、多くの文献資料を残してきた言語である。サンスクリット語の習得は、インドの宗教(仏教、ジャイナ教、ヒンドゥー教等)や哲学文献、文学の研究へと道を開く。また、サンスクリット語は、インド・ヨーロッパ語族に属し、その古さと文法・音韻の保守性から、インド・ヨーロッパ祖語の解明・理解に欠かせない重要言語であるため、言語学、西洋古典の学生、研究者にも有益である。</p>											
【到達目標】											
<p>このコースでは古典サンスクリット語の初級文法を習得し、基本的な文法事項と語彙を身につけることによって、平易なサンスクリット文章を読解する運用力を養成することをめざす。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の文法事項の解説と、各項目に関する練習問題による読解演習とを平行して行います。</p> <p>前期 サンスクリット語概論、音論・連声(第1-3回) 名詞・形容詞曲用(母音語幹:第4-8回、子音語幹:第9-13回) 代名詞、数詞、複合語(第14-15回)</p> <p>後期 動詞現在活用(第1種活用:第16-18、第2種活用:第19-22回) 未来、完了、受動、使役、アオリスト、準動詞(第23-29回) 年度末テスト(テスト期間) フィードバック期間:フィードバック(第30回)</p> <p>授業の進行は受講生の理解度に応じて変更する場合があります。</p>											
----- サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)へ続く -----											

サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)

[履修要件]

予備知識は特に必要としません。幅広い専攻からの受講を歓迎します。

[成績評価の方法・観点]

- ・平常点(練習問題への理解度(授業期間中に「確認テスト」を実施)、40点)
- ・年度末筆記試験(60点)

[教科書]

吹田隆道(編著)『実習サンスクリット文法:萩原雲来『実習梵語学』新訂版』(春秋社,2015)
ISBN:978-4393101728

[参考書等]

(参考書)

辻直四郎『サンスクリット文法』(岩波書店,1974) ISBN:978-4000202220

[授業外学修(予習・復習)等]

予習:各回の進捗状況に合わせて、原則として次の2つのいずれかを授業中に指示します。

- ・宿題として出された練習問題の解答(訳)を準備してくる。
- ・次回の学習テーマとなる文法事項について、テキストの解説に目を通しておく。

復習:授業内容を見直すこと(特に、練習問題で正解できなかった点を中心に見直す)。

授業の進捗状況や受講生の理解度によって、変更する場合があります。基本的には、毎回の授業で指示します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET49 89617 LJ48									
授業科目名 <英訳>		サンスクリット(4時間コース)(語学) Sanskrit(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	1回生以上	単位数	8	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	月5,木5	授業 形態	語学	使用 言語	英語
題目		Sanskrit Grammar									
【授業の概要・目的】											
<p>This course targets at students with no prior knowledge of Sanskrit and offers a systematic introduction to the Sanskrit language and its linguistic background. The course content basically include: (1) Learn the Sanskrit grammar and check the linguistic remarks in the textbook (see below); (2) Historical grammar of Sanskrit (for example cognate words in other language families including Iranian, Greek and Germanic languages); (3) Translate Sanskrit sentences into English (exercises in the textbook + Buddhist Sanskrit texts); (4) Occasional exercise of English to Sanskrit translation.</p>											
【到達目標】											
<p>(1) to read and write in Devanagari-script (also used for Hindi) (2) to gain a systematic overview of basic and intermediate grammar of Classical Sanskrit (3) to develop skills of reading and interpreting simple prose and verse in Classical Sanskrit (4) to understand the history and linguistic background of Sanskrit (5) to develop basic skills in composing prose sentences in Classical Sanskrit</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The overall duration of the course is 30 weeks (15 + 15). Based on the plan laid out in the Japanese version of Perry 's Sanskrit Primer, the first semester covers lessons 1 to 22 and the second semester covers lessons 23 to 45.</p> <p>First semester Week #01 Introduction to Sanskrit language Week #02 to #14: Grammar and exercises in lessons 1 to 22. Week #15: Feedback</p> <p>Second semester Week #01 Review course content of lessons 1 to 22 Week #02 to #14: Grammar and exercises in lessons 23 to 45. Week #15: Feedback</p>											
【履修要件】											
Classes will be held in English with translational help provided by a Japanese TA.											
----- サンスクリット(4時間コース)(語学)(2)へ続く -----											

サンスクリット (4 時間コース) (語学) (2)

[成績評価の方法・観点]

Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam.
Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

[教科書]

Edward Perry 『A Sanskrit Primer』 (Orient Book Distributors, 1986) ISBN:978-8120802070 (both English and Japanese version will be used)
Antonia Ruppel 『Cambridge Introduction to Sanskrit』 (Cambridge University Press, 2017) ISBN:978-1107459069 (<https://www.cambridge-sanskrit.org>)
Manfred Mayrhofer 『Sanskrit-Grammatik mit sprachvergleichenden Erläuterungen』 (de Gruyter, 1978) ISBN:978-3110071771
The books by Perry and Ruppel can be purchased at the department room of Indological Study.

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://www.sanskrit-lexicon.uni-koeln.de/scans/MWScan/2014/web/webtc2/index.php>(Sanskrit-English Dictionary)
<https://www.sanskrit-lexicon.uni-koeln.de/scans/AEScan/2014/web/webtc/indexcaller.php> (English-Sanskrit Dictionary)
<https://vedaweb.uni-koeln.de/rigveda/view/id/2.1.1>(Rigveda explained)
<http://dsal.uchicago.edu/dictionaries/>(Dictionaries of Indian languages)
<http://www.indoskript.org/letters> (Scripts)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Homework involves preparing translations from Sanskrit into English. Weekly review of grammatical categories and memorization of vocabulary. The expected preparation time is approximately two to three hours per week.

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET49 89633 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語（初級）（語学） Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定助教 虫賀 幹華			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	金4,5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語（初級）									
【授業の概要・目的】											
<p>インドは多言語国家であり、それぞれの州で公用語が定められている。その中でヒンディー語は、憲法第343条でインド全体の唯一の公用語とされている。中国語、英語に次いで世界で3番目に多く話されている言語であり、第一言語でなくともヒンディー語を解する人や、文法や基本語彙が同じ、パキスタンの国語であるウルドゥー語話者までを含めると、ヒンディー語でコミュニケーションを取れる相手は膨大な数になる。本授業では、今後世界の中でますます存在感を増すインドの公用語であるヒンディー語の初等文法を学び、簡単な文章の講読や会話の練習をする。</p> <p>講師は北インドでの5年間の留学経験がある。ヒンディー語の独特の言い回しや語彙、ヒンディー語ならではの思考方法、文章の組み立て方があると実感した。日本語で考えてそれを「翻訳」するのでは全くしっくりこない。インドでは英語が通じると言われるが、英語を媒介にして行われるコミュニケーションはヒンディーで行われるそれとは別物である。インド人と深い意思疎通をしたいのならば、ヒンディー語を知ることが近道だろう。そして嬉しいことに、ヒンディー語を学べば「インド英語」も断然聞き取りやすくなる。インドや南アジアについて知りたい・関わりたい人はもちろん、将来国際的に活躍したい人にぜひ受講してもらいたい。今後、世界中のどこにいてもインド人と出会うだろうから。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒンディー語の初等文法を習得する。 2. ヒンディー語の文章を、辞書を引きながら自力で読めるようになる。 3. 簡単なヒンディー語会話ができるようになる。 4. ヒンディー語を通してインドの文化に触れ、世界認識の幅を広げる。 											
【授業計画と内容】											
<p>全20課から成る教科書を、原則として1課ずつ進めていく。各課は、新出単語、文法事項、文章から成り、それぞれを丁寧に解説する。他の参考書を使って補足説明をすることもある。毎回宿題を課し、次回授業で答え合わせをする。</p> <p>教科書が一通り終われば、新聞や物語などヒンディー語の文章を読んだり、ヒンディー語会話に挑戦してもらおう。教材は、履修者の希望に応じて決める。例えば、ハリウッド映画に関心があれば映画の挿入歌を翻訳したり、インド料理に関心があればレシピを読解する。インドの社会問題に興味を持っているのならば関連の新聞記事を読む。インド旅行を計画している人がいればテーマを設定して会話の練習をする。</p>											
<p>注意</p> <p>前期は、講師の都合で1日に2コマ連続（金曜4・5限）で授業を行い、6月9日に試験とフィードバック（15回目授業）を行う。後期は通常通りで、毎週金曜5限に授業を行う。</p>											
<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、文字 											
----- ヒンディー語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

ヒンディー語（初級）(語学)(2)

2~3. 文字と発音

4~14. 文法の解説と文章の講読を教科書に沿って進める

< 前期・期末試験 >

15. フィードバック

後期

1~10. 文法の解説と文章の講読を教科書に沿って進める

11~14. ヒンディー語文章講読や会話の練習

< 後期・期末試験 >

15. フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（40％）と2回の筆記試験（30％ずつ）で評価する。授業への積極的な参加を期待する。

【教科書】

田中敏雄・町田和彦 『エクスプレス ヒンディー語』（白水社、1986年）ISBN:4-560-00768-3（絶版のため入手困難。授業で配布する。）

【参考書等】

（参考書）

古賀勝朗・高橋明 『ヒンディー語 = 日本語辞典』（大修館書店、2006年）ISBN:978-4-469-01275-0
（履修前に辞書を購入する必要はない。）

町田和彦 『ニューエクスプレス ヒンディー語』（白水社、2008年）ISBN:978-4-560-06791-8

Snell, Rupert and Simon Weightman 『Teach Yourself, Complete Hindi』（London: Hodder Education, 1989）ISBN:978-1-444-10609-1

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回課される宿題をきちんと行う。授業を受け、復習して宿題を行い、次回授業で答え合わせというサイクルで学習を進めること。ヒンディー語に限らず、インドの話題に関心を持ち、授業で共有してもらえると嬉しい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET49 89659 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語（中級）I Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学言語文化研究科 講師 西岡 美樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語中級I									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、新聞、専門書、詩歌などのヒンディー語や、実際のニュース、映画、ドラマなどに出てくる生きたヒンディー語に触れながら、高度な読解力と聴解力を養う。また、これらの多種多様なヒンディー語に触れることにより、高度なコミュニケーション能力を身に付けることも目指す。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 複雑な文章を精読できるようになる。 2. 日常会話から学術的な説明文を聞いて理解できるようになる。 3. 自分の考えをはっきり具体的に表現できるようになる。 4. 単文および複文を使用した作文が自由にできるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。</p> <p>第1～5週目：アクバルとビールバル、パンチャタントラ、小話ほか 第6～10週目：インド神話関連の物語 第11～15週目：ヒンディー語映画、TVドラマ（マハーバーラタ、カター・サーガルなど）</p> <p>なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。 また、授業の区切りごとにフィードバックを行う。</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。 ・ ヒンディー語初級文法を一通り（目安は下記URLの『初級ヒンディー語文型練習帳』の第1課 - 第15課の文法項目）習得していること。 ・ 毎年、初級ヒンディー語の進度が全20課中11課あたりで終了しているが、本授業で未習の初級の文法項目については改めて説明しないので、受講する場合はその旨留意すること。 											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業への積極的な参加（40%） 期末試験あるいはレポート（60%）</p>											
----- ヒンディー語（中級）I(2)へ続く -----											

ヒンディー語（中級）I(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（関連URL）

<https://www.youtube.com/channel/UCsyoNsqE37tZIkuvqVPTa7g>(Hindi Fairy Tales)
<https://www.youtube.com/channel/UCfJ9NTGXeVnzHtrDFT3-dfQ>(Hindi Acharya)
<https://www.youtube.com/channel/UCR22sCPCRx3J9nfCUV4htGw>(Akbar Birbal Stories)
https://www.youtube.com/channel/UCVP73_P70GlqgG618HNX8qg(Panchatantra Stories in Hindi)
<https://www.youtube.com/channel/UCnyALzPGNSzlO0B-ltIZoCg>(Gyan Manthan)
<http://www.jansatta.com/>(Jansatta (インドのヒンディー語新聞))
http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/(Nav Bharat Times (インドのヒンディー語新聞))
<https://www.youtube.com/user/abpnewstv>(ABP NEWS (インドのニュース・報道専門番組))
<http://khabar.ndtv.com/>(NDTV (インドのニュース・報道専門番組))
<https://www.youtube.com/user/aajaktv>(Aaj Tak (インドのヒンディー語新聞))
<https://www.youtube.com/channel/UCSjPe5kinQtweyHcFJyyMfw>(Doordarshan National)
<https://publication.aa-ken.jp/>(西岡美樹 (2017) 『現代ヒンディー語文法概説 初級～初中級編』、 『初級ヒンディー語文型練習帳』)
<https://flipgrid.com/>(FLIPGRID (教育用Video SNSサービス))
<https://www.bookwidgets.com/>(BookWidgets (復習用オンライン・アプリケーション))

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書を引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
- ・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。
- ・フィードバックも兼ねて復習用のオンライン・アプリケーションを積極的に使用すること。

（その他（オフィスアワー等））

今年度の本授業は中上級レベルの予定である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET49 89660 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語（中級）II Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学言語文化研究科 講師 西岡 美樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語中級 II									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、新聞、専門書、詩歌などのヒンディー語や、実際のニュース、映画、ドラマなどに出てくる生きたヒンディー語に触れながら、高度な読解力と聴解力を養う。また、これらの多種多様なヒンディー語に触れることにより、高度なコミュニケーション能力を身に付けることも目指す。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 複雑な文章を精読できるようになる。 2. 日常会話から学術的な説明文を聞いて理解できるようになる。 3. 自分の考えをはっきり具体的に表現できるようになる。 4. 単文および複文を使用した作文が自由にできるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。</p> <p>第1～5週目：現代の短篇小説、ヒンディー語映画の詩歌 第6～10週目：新聞記事、TVニュース 第11～15週目：ヒンディー語映画、TVドラマ（マハーバーラタ、カター・サーガルなど）</p> <p>なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。 また、授業の区切りごとにフィードバックを行う。</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。 ・ ヒンディー語初級文法を一通り（目安は下記URLの『初級ヒンディー語文型練習帳』の第1課 - 第15課の文法項目）習得していること。 ・ 毎年、初級ヒンディー語の進度が全20課中11課あたりで終了しているが、本授業で未習の初級の文法項目については改めて説明しないので、受講する場合はその旨留意すること。 											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業への積極的な参加（40%） 期末試験あるいはレポート（60%）</p>											
----- ヒンディー語（中級）II(2)へ続く -----											

ヒンディー語（中級）II(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（関連URL）

<https://www.youtube.com/channel/UCfJ9NTGXeVnzHtrDFT3-dfQ>(Hindi Aacharya)
https://www.youtube.com/channel/UCKsiYfgmEounhNQL5NUR_Vw(Indian Stories For Kids)
<https://www.youtube.com/channel/UCnyALzPGNSzIO0B-ltIZoCg>(Gyan Manthan)
<https://www.youtube.com/channel/UCSjPe5kinQtweyHcFJyyMfw>(Doordarshan National)
<https://www.youtube.com/user/abpnewstv>(ABP NEWS (インドのニュース・報道専門番組))
<http://khabar.ndtv.com/>(NDTV (インドのニュース・報道専門番組))
<https://www.youtube.com/user/aahtaktv>(Aaj Tak (インドのニュース・報道専門番組))
<http://www.jansatta.com/>(Jansatta (インドのヒンディー語新聞))
http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/(Nav Bharat Times (インドのヒンディー語新聞))
<https://publication.aa-ken.jp>(西岡美樹 (2017) 『現代ヒンディー語文法概説 初級～初中級編』、 『初級ヒンディー語文型練習帳』)
<https://flipgrid.com/>(FLIPGRID (教育用Video SNSサービス))
<https://www.bookwidgets.com/>(BookWidgets (復習用オンライン・アプリケーション))

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書を引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
- ・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。
- ・フィードバックも兼ねて復習用のオンライン・アプリケーションを積極的に使用すること。

（その他（オフィスアワー等））

今年度の本授業は中上級レベルの予定である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学90

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ツォンカパの説く仏教の実践とその典拠研究									
[授業の概要・目的]											
チベット仏教を代表する大学者のひとりである、ゲルク派の祖ツォンカパが大乗仏教の実践について著した論書のひとつに『菩提道次第大論』がある。本特殊講義は、インド大乗仏教の実践と比較しながら『菩提道次第大論』を精読し、ツォンカパとインド仏教双方の実践についての理解を深めることを目的とする。											
[到達目標]											
ツォンカパの説く実践の検討を通じて、ツォンカパとインド仏教双方の実践に対する理解を深める。											
[授業計画と内容]											
授業は『菩提道次第大論』を通読しながら進める。ツォンカパに関する研究はチベット仏教の中では比較的進んでおり、本講義で扱う『菩提道次第大論』にも既に和訳が存在するが、既存の研究を批判的に扱いながら授業に参加することが望まれる。授業の発表担当者は、引用されるインド原典ならびにその論師の立場も十分に把握しておくことが求められる。授業は、初回に『菩提道次第大論』について概説し、二回目から十四回目は、『菩提道次第大論』を読み進めながら、必要に応じインド原典を引用箇所の前後も含めて平行して取り上げ、問題点の解説ならびに議論を行う。第十五回の授業にはフィードバックを行う。											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。後期の同特殊講義をあわせて受講することが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
テキストはコピーして配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学91

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ツォンカパの説く仏教の実践とその典拠研究									
[授業の概要・目的]											
チベット仏教を代表する大学者のひとりである、ゲルク派の祖ツォンカパが大乗仏教の実践について著した論書のひとつに『菩提道次第大論』がある。本特殊講義は、インド大乗仏教の実践と比較しながら『菩提道次第大論』を精読し、ツォンカパとインド仏教双方の実践についての理解を深めることを目的とする。											
[到達目標]											
ツォンカパの説く実践の検討を通じて、ツォンカパとインド仏教双方の実践に対する理解を深める。											
[授業計画と内容]											
前期に引き続き、十四回目までの授業は『菩提道次第大論』を通読しながら進める。ツォンカパに関する研究はチベット仏教の中では比較的進んでおり、本講義で扱う『菩提道次第大論』にも既に和訳が存在するが、既存の研究を批判的に扱いながら授業に参加することが望まれる。授業の発表担当者は、引用されるインド原典ならびにその論師の立場も十分に把握しておくことが求められる。授業は、『菩提道次第大論』を読み進めながら、必要に応じインド原典を引用箇所の前後も含めて平行して取り上げ、問題点の解説ならびに議論を行う。必要があれば、初回に『菩提道次第大論』について概説する。第十五回の授業にはフィードバックを行う。											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。前期の同特殊講義を受講していることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
テキストはコピーして配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 船山 徹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		五世紀中国仏教僧の戒律問答『五百問事経』から知られる戒律の実態(1)									
【授業の概要・目的】											
<p>5世紀前半中国仏教の出家者が『律』（出家集団の生活規則）をどのように理解していたか、どこに彼らの興味があったかを知るための資料として『五百問事（経）』がある。この文献は、中国人僧の質問とインド人僧の応答から成る問答集である。問答はどれも短く簡潔だが、その総数は多く、約300余りある。更に、『五百問事』には日本古写本と敦煌写本のみが現存し、名と体裁を変えた『目連問戒律中五百軽重事』という偽経として木版大蔵経に収められているものがよく知られている。</p> <p>インド起源の『律（ヴィナヤ）』には、東アジアの生活実態と合わない規則も含まれるため、中国の仏教徒にとって、漢訳された『律』にはそのまま使って生活できない内容が含まれ、また、中国人が是非知りたいことであっても、文化の異なりがあるため、インドの『律』には明確な規定がない事項も多い。</p> <p>この授業では5世紀中国の仏教の実態を知らせる資料として『五百問事』を精読し、内容を学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>一、仏典漢訳史（仏典漢訳の歴史的変異）の概略を理解する。</p> <p>二、仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。</p> <p>三、仏教漢語を上記二面から扱い、適切な現代語訳を作り、漢語仏典の読解力を向上させる。</p> <p>あわせて次の3点を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大蔵経に関する知識と使用上の留意点。 2. 仏教漢文の訓読法（佛教に特有の訓読の問題点を含む）。 3. 電子化された一次資料の使い方と留意事項。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：中国仏教を学ぶために必要な基本的な一次資料と工具書</p> <p>第2回：大蔵経の基礎知識・歴史・使用に当たって特に注意すべきこと・大正大蔵経の使用するときの注意点・電子テキスト利用上の注意点</p> <p>第3回：戒律文献漢訳史の概要</p> <p>第4回：『五百問事（経）』の書誌（原典・前近代の諸訳・注釈・主要研究）</p> <p>第5回：『五百問事（経）』が作られた歴史状況を学ぶ</p> <p>第6回：『五百問事（経）』精読(1)</p> <p>第7回：『五百問事（経）』精読(2)</p> <p>第8回：『五百問事（経）』精読(3)</p> <p>第9回：『五百問事（経）』精読(4)</p> <p>第10回：『五百問事（経）』精読(5)</p>											
----- 仏教学(特殊講義) (2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

- 第11回：『五百問事(経)』精読(6)
第12回：『五百問事(経)』精読(7)
第13回：『五百問事(経)』の敦煌写本(a)
第14回：『五百問事(経)』の敦煌写本(b)
第15回：前期の総括

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点(原文精読を必ず一度は担当する。積極的に意見と質問を提起する)。
自らの疑問や調べた内容について発言し、出席者たち全員に意見交換を促す。

【教科書】

使用しない

教科書は使用しません。

授業は毎回、配布資料を作成し、それに基づいて原文を読み、現代語訳を作ります。

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば、授業中にその都度知らせます。
特に必読の論文はPDFを作成し、読むことを義務付けます。

【参考書等】

(参考書)

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』(岩波書店, 2013) ISBN:978-4-00-024691-0 (仏典漢訳史を知るための概説書として参照してほしい)

船山徹 『『目連問戒律中五百軽重事』の原形と変遷』(『東方學報』京都70, 1998) (無料ダウンロード <http://hdl.handle.net/2433/66796>)

Funayama Toru 『Masquerading as Translation』(Ajia Major, Third Series, 19-1/2, 2006) (無料ダウンロード <https://www2.ihp.sinica.edu.tw/file/1437ErffHdN.pdf>)

【授業外学修(予習・復習)等】

予習:

配布資料を基にして、授業で精読する箇所を下読みし、自分自身の訳を準備しなさい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは特に設定しません。

授業に関係する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。

授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 船山 徹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		五世紀中国仏教僧の戒律問答『五百問事経』から知られる戒律の実態(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>5世紀前半中国仏教の出家者が『律』（出家集団の生活規則）をどのように理解していたか、どこに彼らの興味があったかを知るための資料として『五百問事（経）』がある。この文献は、中国人僧の質問とインド人僧の応答から成る問答集である。問答はどれも短く簡潔だが、その総数は多く、約300余りある。更に、『五百問事』には日本古写本と敦煌写本のみが現存し、名と体裁を変えた『目連問戒律中五百軽重事』という偽経として木版大蔵経に収められているものがよく知られている。</p> <p>インド起源の『律（ヴィナヤ）』には、東アジアの生活実態と合わない規則も含まれるため、中国の仏教徒にとって、漢訳された『律』にはそのまま使って生活できない内容が含まれ、また、中国人が是非知りたいことであっても、文化の異なりがあるため、インドの『律』には明確な規定がない事項も多い。</p> <p>この授業では5世紀中国の仏教の実態を知らせる資料として『五百問事』を精読し、内容を学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>一、仏典漢訳史（仏典漢訳の歴史的変異）の概略を理解する。</p> <p>二、仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。</p> <p>三、仏教漢語を上記二面から扱い、適切な現代語訳を作り、漢語仏典の読解力を向上させる。</p> <p>あわせて次の3点を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大蔵経に関する知識と使用上の留意点。 2. 仏教漢文の訓読法（佛教に特有の訓読の問題点を含む）。 3. 電子化された一次資料の使い方と留意事項。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：前期のまとめ。</p> <p>第2回：松尾社一切経2754『五百問事経』について</p> <p>第3回：新宮寺一切経1807『五百問事経』について</p> <p>第4回：『五百問事』精読（1）</p> <p>第5回：『五百問事』精読（2）</p> <p>第6回：『五百問事』精読（3）</p> <p>第7回：『五百問事』精読（4）</p> <p>第8回：『五百問事』精読（5）</p> <p>第9回：『五百問事』精読（6）</p> <p>第10回：『五百問事』精読（7）</p> <p>第11回：『五百問事』精読（8）</p> <p>第12回：『五百問事』から知られる5世紀中国仏教の戒律の実態（a）</p>											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

第13回：『五百問事』から知られる5世紀中国仏教の戒律の実態（b）

第14回：『五百問事』から知られる5世紀中国仏教の戒律の実態（c）

第15回：後期の総括および通年のまとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（原文精読を必ず一度は担当する。積極的に意見と質問を提起する）。
自らの疑問や調べた内容について発言し、出席者たち全員に意見交換を促す。

【教科書】

使用しない

教科書は使用しません。

授業は毎回、配布資料を作成し、それに基づいて原文を読み、現代語訳を作ります。

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば、授業中にその都度知らせます。

特に必読の論文はPDFを作成し、読むことを義務付けます。

【参考書等】

（参考書）

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』（岩波書店，2013）ISBN:978-4-00-024691-0（仏典漢訳史を知るための概説書として参照してほしい）

船山徹 『『目連問戒律中五百軽重事』の原形と変遷』（『東方學報』京都70, 1998）（無料ダウンロード <http://hdl.handle.net/2433/66796>）

Funayama Toru 『Masquerading as Translation』（Aja Major, Third Series, 19-1/2, 2006）（無料ダウンロード <https://www2.ihp.sinica.edu.tw/file/1437ErffHdN.pdf>）

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：

配布資料を基にして、授業で精読する箇所を下読みし、自分自身の訳を準備しなさい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設定しません。

授業に関係する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。

授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		滋賀医科大学 医学部 教授 室寺 義仁			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『瑜伽師地論』 「菩薩地」の文献学的考察と玄奘訳からの英訳の試み									
【授業の概要・目的】											
<p>ゴータマ・ブッダは、紀元前500年～300年頃の或る時期、ガンジス川の中流域を活動の中心地として、80年の生涯を送った人物である。東アジアに広まる仏教の創始者となる。20代の終わり頃、ブッダは悟りを開く覚醒体験を得る。その数ヶ月後に、その自覚内容を言葉化したとき、有情/衆生の存在の中核には苦しみがあると宣言する。この真理内容は、「四諦」「五蘊」「縁起」の所説として今に伝わる。これらの所説の中で、ブッダは悟りに至った瞑想を「四禅」という用語で自ら開発した瞑想技術として今に伝える。ブッダの直弟子たる「声聞」たちにとって仏道を歩むときの手立てとなり、続く世代にとっては、悟りを目指す「菩薩」たちの菩薩道を歩む道筋となる。この菩薩道を歩むための教説が、大乘仏教の二潮流の一つ、瑜伽行派の根本論書である『瑜伽師地論』 「菩薩地」(サンスクリット原典)の中で、どのような言葉として伝わり(パ リに伝承される文言との比較吟味も行いつつ)、また、どのような新たな解説が行われるのか、9世紀のチベット訳も参照しながら文献学的に考察する。併せて、7世紀の玄奘訳からの英訳を試みる。以上は、授業の主たる目的である。</p> <p>授業の展開としては、学位論文(卒業論文、修士論文、並びに、博士課程論文)の作成を目指している受講者と相談のうえで、それぞれの研究対象テキスト(の一部)を精読する時間を設定する予定である。その授業計画として、暫定的なテキスト精読計画を、シラバスに記すこととする</p>											
【到達目標】											
サンスクリット原典テキスト、並びに、チベット訳・漢訳の翻訳テキストに対する文献学的分析手法を習得する。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に下記の項目内容に沿った形で、まず、『瑜伽師地論』 「菩薩地」の概説から始め、受講生が研究対象とするサンスクリット・テキストの文献学的分析を行う。</p> <p>第1回 『瑜伽師地論』 「菩薩地」の概説 第2～5回 『瑜伽師地論』 「菩薩地」サンスクリット原典の精読と玄奘訳の英訳の試み 第6～8回 『根本説一切有部律』に伝わるデーヴァダッタ伝説と有部論書の伝承についての比較考察 第9回～11回 『入菩薩行細疏』における菩提心と菩薩行実践内容についての考察 第12～14回 『プラサンナパダー』所引の諸経典、『如来秘密経』『三昧王経』などについての考察 第15回 『瑜伽師地論』 「菩薩地」サンスクリット原典の精読と玄奘訳の英訳の試み(振返り)</p>											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

[履修要件]

サンスクリット語、パーリ語、古典チベット語を履修済みであること。

[成績評価の方法・観点]

平常点。
各授業での講読担当者を予め定めて発表してもらいます。
テキスト解読に対する文献学的な緻密・正確度をもって評価します。

[教科書]

授業中に指示する
テキスト(サンスクリット原典、チベット訳、漢訳、並びに、校訂テキスト)は、適宜、コピー配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業では講読担当者を予め定めて発表してもらいますが、担当者以外も自らサンスクリット・原典テキスト、並びに、比較吟味すべきチベット訳や漢訳も併せて読み比べ、予習した上で、授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

室寺への連絡は、murojiji@belle.shiga-med.ac.jp 宛にメール連絡をして下さい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学95

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		滋賀医科大学 医学部 教授 室寺 義仁			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『瑜伽師地論』 「菩薩地」の文献学的考察と玄奘訳からの英訳の試み(続き)									
[授業の概要・目的]											
前期授業のテーマ(各テキストの精読)を継続し、思索を深めて行く。											
[到達目標]											
サンスクリット原典テキスト、並びに、チベット訳・漢訳の翻訳テキストに対する文献学的分析手法を習得する。											
[授業計画と内容]											
基本的に下記の項目内容に沿った形で、前期に取り扱った各テキスト分析を継続し、思索を深めて行く。											
第1回～5回 『瑜伽師地論』 「菩薩地」サンスクリット原典の精読と玄奘訳の英訳の試み											
第6回～8回 『根本説一切有部律』に伝わるデーヴァダッタ伝説と有部論書の伝承についての比較考察											
第9～11回 『入菩薩行細疏』における菩提心と菩薩行実践内容についての考察											
第12～14回 『プラサンナパダー』所引の諸経典、『如来秘密経』『三昧王経』などについての考察											
第15回 『瑜伽師地論』 「菩薩地」サンスクリット原典の精読と玄奘訳の英訳の試み(振返り)											
[履修要件]											
サンスクリット語、パーリ語、古典チベット語を履修済みであること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。 各授業での講読担当者を予め定めて発表してもらいます。 テキスト解説に対する文献学的な緻密・正確度をもって評価します。											
[教科書]											
授業中に指示する テキスト(サンスクリット原典、チベット訳、漢訳、並びに、校訂テキスト)は、適宜、コピー配布します。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業では講読担当者を予め定めて発表してもらいますが、担当者以外も自らサンスクリット・原典テキスト、並びに、比較吟味すべきチベット訳や漢訳も併せて読み比べ、予習した上で、授業に臨むこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
室寺への連絡は、murojiji@belle.shiga-med.ac.jp 宛にメール連絡をして下さい。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		総合生存学館 准教授 Deroche, Marc-Henri			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		チベット仏教瞑想論 / Theories of Meditation in Tibetan Buddhism (II)									
【授業の概要・目的】											
<p>We will investigate the relation between oral/textual tradition (Tibetan: thos pa), philosophical inquiry (bsam pa) and meditative practices (sgom pa) in Tibet, by focusing on the literature of theories of meditation and of spiritual advice.</p> <p>We will provide first a general overview of such various literary genres and of the history of meditation and yoga in Tibet. Then we will focus especially on the tradition of the School of the Ancients (rNying ma pa), following its classification of Buddhist teachings which culminates in the Great Perfection (rDzogs chen), considered as the pinnacle of both sUtra-s and tantra-s.</p> <p>We will read a selection of texts by Klong chen Rab 'byams pa (1308-1363), 'Jigs med gling pa (1730-1798), etc.</p> <p>We will intend to elucidate such materials by situating them in the broader history of Buddhist philosophy, psychology and epistemology. Especially, we will consider two main cognitive faculties, "mindfulness" and "clear comprehension" (dran pa dang shes bzhin), and their training in connection to the soteriological question of the recognition of the "nature of mind" (sems nyid).</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> - Acquiring the fundamental knowledge of theories of meditation in Tibetan Buddhism - Developing Tibetan reading skills and critical research methodology in this field 											
【授業計画と内容】											
<p>Class 1. Introduction</p> <p>Classes 2-14. Reading selected Tibetan texts</p> <p>Class 15. Wrap-up session and feedback</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
Evaluation is made according to active participation and presentation.											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Tibetan texts and secondary literature will be provided or indicated at each class for the preparation of the next class.

(その他(オフィスアワー等))

DEROCHE Marc-Henri: deroche.marchenri.6u@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 倉本 尚徳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国の僧伝を読むー 『続高僧伝』 講読									
【授業の概要・目的】											
<p>中国初唐の道宣が撰した『続高僧伝』は、南北朝期から初唐にかけての中国仏教史を考える際に最も基本となる史料であり、日本仏教にも大きな影響を与えている。この書は、道宣自身が僧伝にかかわる関連史料の網羅的な収集と各地の実地踏査をもとに幾度も増補改訂を行ったものであり、同種の書に例をみない豊富な内容と版本ごとの大きな異なりを有している。特に日本の寺院が所蔵する古写本は、版本よりも以前の形態を保存しており、近年研究が進み、その増補過程が次第に明らかとなってきている。</p> <p>本授業では、『続高僧伝』の各種版本・撰者道宣の伝記について概観した後、主要な僧の伝について、研究史を紹介し、複数の版本を比較検討し、同一人物についての他の史料と比較検討しながら読み進める。それによって、中国仏教史の理解を深め、僧伝の内容にいかに関者の主観が大きく影響しているかを考えてみたい。関連する石刻資料があれば現物の写真・拓本なども紹介する。</p> <p>今年度は昨年度に引き続き訳経篇巻に収録された人物を検討する。具体的には北朝後期から隋代にかけて生きた彦琮をとりあげる。彦琮は北齊の名門趙郡李氏の出身であり、早くから梵語仏典にも通じていた。翻訳事業への参与を通じて西域事情にも通じ、玄奘が弟子に『大唐西域記』を編纂させるにあたり彼の『西域伝』を参照させたとされる。近年、彦琮について、その翻訳論や国家論文学など、多角的に検討した齊藤隆信『釈彦琮の研究』が上梓された。この書を参照しその内容を検討することも同時に行う。</p>											
【到達目標】											
<p>内容面</p> <p>一、インド仏教と中国仏教との差異を学ぶ。</p> <p>二、隋代の主要な僧の経歴を把握し、隋の仏教復興政策について理解する。</p> <p>三、僧伝執筆の時代的背景や執筆者の思想的立場を理解する。</p> <p>四、伝記の記事内容を事実として鵜呑みにせず、相対化する視点を身につける。</p> <p>技能面</p> <p>一、僧伝に使用される常套句やロジックに親しみ、仏教漢語読解能力を高める。</p> <p>二、C B E T A ・ S A T などの電子仏典資料や様々な工具書について理解し適切に使用できるようになる。</p> <p>三、複数の版本を用いた文字の校勘の仕方を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回： 『続高僧伝』を読むために必要な基本的資料と工具書</p> <p>第2回： 『続高僧伝』講義 道宣の略伝・諸版本・訳注レジュメ作成方法の説明</p> <p>第3回： 『続高僧伝』講義 『続高僧伝』の素材としての『歴代三宝紀』</p> <p>第4回： 『続高僧伝』講読 達摩笈多伝</p>											
----- 仏教学(特殊講義) (2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

第5回：	『続高僧伝』講読	塔懺法と『占察経』
第6回：	『続高僧伝』講読	侯白・徐同卿・劉憑
第7回：	『続高僧伝』講読	衆経法式と費長房
第8回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝1
第9回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝2
第10回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝3
第11回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝4
第12回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝5
第13回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝6
第14回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝7
第15回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝8

【履修要件】

古典漢文読解の基礎的な能力や現代中国語文読解能力があれば望ましいが、学ぶ意欲のある方であればどなたでも受講を歓迎する

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業内での発言・発表状況またはレポート）100%。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

『国訳一切経 和漢撰述部 史伝部8, 9, 10』（大東出版社）（書の解題と書き下し・簡単な注釈を掲載したもの）

『大乘仏典 中国・日本篇』（中央公論社）（『続高僧伝』の何人かの伝記について現代語訳と注を掲載）

『新国訳大蔵経・『続高僧伝』1』（大蔵出版）（巻六までの書き下し・簡単な注釈を掲載したもの）

齊藤隆信『釈彦琮の研究』（臨川書店，2022）

その他の参考文献については講義中に随時提示する。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：僧伝をあらかじめ下読みしておく。関連する僧伝の現代語訳や書き下し（国訳一切経）各種版本の文字の異同等を調べておく。

復習：講義内容を復習し、疑問等があれば関連する資料を調査し、次回講義時に発表する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設けないが、開講時にメールアドレスを伝えるので質問・意見等があれば随

仏教学(特殊講義)(3)へ続く

仏教学(特殊講義)(3)

時歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 倉本 尚徳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		政治権力と寺院の関係から見た中国中古仏教史									
[授業の概要・目的]											
<p>寺院は僧が集団で生活を送り修行に励む場である。また、在家者との接点の場でもある。インドの寺院においてはそれぞれ一部派の戒律に基づき寺院生活が行われていた。中国へ仏教が伝来してしばらくは、戒律が本格的に訳されずに寺院で僧の生活が行われていた。インドの各部派の戒律は五世紀の前半に中国にもたらされ漢訳された。本講義では、インドと文化の異なる中国中古（魏晉南北朝隋唐）時代の僧たちがどのように戒律を受容して運用し儀礼を行ったかを考えて行きたい。また、日本古代における寺院のあり方についても検討する。</p> <p>インドと中国仏教の大きな相違の一つは、政治権力が寺院や僧の数を制限し、僧団の戒律や儀礼大寺院の入住僧の選定にも介入した点である。政治権力による教団の統制に対する僧の反対運動も行われた。この点に特に注意して講義を行う。毎回事前に関連論文を用意するので、全員があらかじめそれを読んで出席し授業で討論を行う形で進める。</p>											
[到達目標]											
<p>内容面</p> <p>一、インド・中国・日本仏教の相違を学ぶ。 二、南北朝隋唐時代の主要な寺院を把握し、皇帝と寺院の関係について理解する。 三、中国における戒律と儀礼を軸とした仏教史の展開について学ぶ。</p> <p>技能面</p> <p>一、研究動向を把握し、先行研究を批判的に読み込むことができる。 二、異なる視点から見れば同じ史料に対し別の解釈がなされることを理解する。 三、主体的かつ論理的に自己の意見を述べ、議論することができる。</p>											
[授業計画と内容]											
第1回： ガイダンス・寺院史の概観 第2回： インドにおける寺院生活 第3回： 後漢明帝の霊夢と白馬寺伝説 第4回： 道安の戒律への関心と慧遠「沙門不敬王者論」 第5回： インド流の食事作法導入をめぐって 劉宋時代の踞食論争 第6回： 女性の出家をめぐる問題 尼僧の受戒・皇室と尼寺 第7回： 皇宮と仏教寺院 同泰寺・内道場 第8回： 隋の仏教復興と王朝の正統化 一 大興善寺・大興国寺・禅定寺・仁寿舍利塔 第9回： 唐初の教団統制と律学の勃興 第10回 玄奘の帰国と初唐の皇家寺院 弘福寺・大慈恩寺・西明寺 第11回： 道宣による戒律・儀礼の整備と戒壇の建設 第12回： 武則天と大雲寺 第13回： 禅宗の中央進出と少林寺 都市近郊の山岳寺院と皇帝 第14回： 皇帝と石窟寺院、寺院壁画と浄土教											
----- 仏教学(特殊講義) (2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

第15回： 日本古代の寺院

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業内での発言・発表状況）100%。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

倉本尚徳 『儀礼と仏像』（臨川書店、2022）ISBN: 4653045739（インドからの展開をふまえて中国における仏教儀礼の展開について論じたもの。政治との関係にも言及する。）

礪波護 『文物に現れた北朝隋唐の仏教』（法藏館、2023）ISBN:4831826448

義浄 『現代語訳南海寄帰内法伝（法藏館文庫）』（法藏館、2022）ISBN:483182643X（インド・東南アジアの戒律・儀礼を主とする立場から中国の戒律や儀礼のあり方を批判した書物。比較文化論としても秀逸）

その他の参考文献については講義中に随時提示する。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：配付資料をもとにあらかじめ読み内容を把握しておく。関連する研究を探して読む。論文で引用された史料の現代語訳や書き下し（国訳一切経）などを調べておく。

復習：講義内容を復習し、疑問等があれば関連する資料を調査し、次回講義時に発表する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設けないが、開講時にメールアドレスを伝えるので質問・意見等があれば随時歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学99

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		インド中期中観派と空思想をめぐる諸問題研究									
[授業の概要・目的]											
ナーガールジュナの主著『中論』には様々な立場から多数の注釈が著され、それに従って中観派も様々に展開していく。本演習では、サンスクリットも現存するチャンドラキールティのプラサンナパダーを中心に、関連する諸注釈も参照しながら、そこに見られる多様な議論の検討を通して、その当時の思想状況とインド中期中観派について理解を深めることを目的とする。											
[到達目標]											
『プラサンナパダー』に見られる多様な議論を検討しながら、その当時の思想状況とインド中期中観派について理解を深める。											
[授業計画と内容]											
初回の授業の中で、著者、著作、背景等についてイントロダクションを行い、二回目から十四回の授業では、『プラサンナパダー』を精読しながら、関連する諸問題について解説ならびに議論を行う。第十五回の授業にはフィードバックを行う。 フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。後期の演習もあわせて受講することが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
テキストはコピーして配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学100

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		インド中期中観派と空思想をめぐる諸問題研究									
[授業の概要・目的]											
ナーガールジュナの主著『中論』には様々な立場から多数の注釈が著され、それに従って中観派も様々に展開していく。本演習では、サンスクリットも現存するチャンドラキールティのプラサンナパダーを中心に、関連する諸注釈も参照しながら、そこに見られる多様な議論の検討を通して、その当時の思想状況とインド中期中観派について理解を深めることを目的とする。											
[到達目標]											
『プラサンナパダー』に見られる多様な議論を検討しながら、その当時の思想状況とインド中期中観派について理解を深める。											
[授業計画と内容]											
前期に引き続き、十四回目までの授業では、『プラサンナパダー』を精読しながら、関連する諸問題について解説ならびに議論を行う。必要があれば、初回の授業の中で、著者、著作、背景等についてイントロダクションを行う。第十五回の授業にはフィードバックを行う。											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。前期の演習も受講していることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
テキストはコピーして配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学101

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		駒澤大学 仏教学部 准教授 加納 和雄			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		梵文仏典写本精読									
【授業の概要・目的】											
インド周辺諸国に伝存する梵文仏典写本は、失われたインド仏教の原像に近づくための一次資料であり、とくにチベットやネパールに伝来する梵文写本については近年めざましい研究成果が報告されている。授業では梵文仏典写本研究の現状を理解したうえで、実際に写本の解読を行いながら写本研究の方法論を習得することを目指す。											
【到達目標】											
梵文仏典写本の研究状況の大局を把握し、写本読解の基礎を習得する。											
【授業計画と内容】											
<p>授業においてはまず、ネパール・チベットに伝存する梵文仏典写本研究の現状を解説する。世界各地の研究機関が所蔵するコレクションを俯瞰して、それらがいかなる由来をもち、どの程度解読が進んでいるのかについて説明する。また、写本を読むための基礎知識として写本特有の文字の綴り方や奥書の読み方などについて学ぶ。そして、写本の所有者について明かし、その来歴と伝承過程について補足する。それらの基礎知識を習得した後は、写本解読の実践的な能力を養うために、未解読の写本をサンプルとして選り抜き、順次、授業において丹念に解読を進める。サンプルは、短めの断片写本を扱い（大乘仏典を中心とする予定だが出席者の要望にも応じる）、写本の読みに問題がある箇所を一つずつ洗い出して解決策を模索しながら精読してゆく。資料は適宜授業において配布する予定である。基本的に演習形式とするが初心者も歓迎する。今回は特に『俱舍論』の安慧釈の梵本について業品（4章）の40偈あたりから読解を行う。</p> <p>第一～三回 歴史的背景の確認と研究状況の概観 第四、五回 資料読解のための実践知識の習得 第六～十五回 資料の読解</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点による。											
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----											

仏教学(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業配布資料を予習・復習すること。出席者には課題をそのつど課す。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学102

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人と社会の未来研究院 准教授 熊谷 誠慈			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		仏教思想研究(インド宗教哲学文献精読)									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業ではAbhidharmakosaの第一章(界品)およびその自注を精読する。また、受講者の興味に応じて適宜、他の文献の精読やディスカッションを行い、さらには応用仏教学的な学際的議論も行うなど、総合的に仏教思想の理解を深めることを目標とする。</p> <p>本授業はサンスクリット語文献の精読に基づいて行うため、受講者はすでにサンスクリット語を習得していることが望ましい。さらに、チベット語訳および漢訳も適宜参照することから、チベット語および漢文についても一定の読解技術が要求される。ただし各言語でのテキストを読めない場合でも、授業中に提示する日本語訳にもとづいて、各自の専門分野の知識をバックグラウンドとして議論に加わるという形式での参加も認める。</p>											
【到達目標】											
古典サンスクリット語文献を原典で精読しながら、思想を体系的に整理することを目標とする。											
【授業計画と内容】											
<p>初回はAbhidharmakosaのイントロダクションを行う。</p> <p>第2回～第15回は、Abhidharmakosaの精読・分析を行う。また、受講者の興味に応じて適宜、他の文献の精読、ディスカッションを行い、さらには応用仏教学的な学際的議論も行うなど、総合的に仏教思想の理解を深めることを目標とする。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
成績評価は、平常点に基づいて行う。											
【教科書】											
授業中に指示する テキストおよび資料については適宜授業中に配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
配布資料を事前に参照し、文献を事前に精読してくること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学103

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人と社会の未来研究院 准教授 熊谷 誠慈			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		仏教思想研究(インド宗教哲学文献精読)									
[授業の概要・目的]											
<p>本授業ではAbhidharmakosaの第一章(界品)およびその自注を精読する。また、受講者の興味に応じて適宜、他の文献の精読やディスカッションを行い、さらには応用仏教学的な学際的議論も行うなど、総合的に仏教思想の理解を深めることを目標とする。</p> <p>本授業はサンスクリット語文献の精読に基づいて行うため、受講者はすでにサンスクリット語を習得していることが望ましい。さらに、チベット語訳および漢訳も適宜参照することから、チベット語および漢文についても一定の読解技術が要求される。ただし各言語でのテキストを読めない場合でも、授業中に提示する日本語訳にもとづいて、各自の専門分野の知識をバックグラウンドとして議論に加わるという形式での参加も認める。</p>											
[到達目標]											
古典サンスクリット語文献を原典で精読しながら、思想を体系的に整理することを目標とする。											
[授業計画と内容]											
初回～第15回で、Abhidharmakosaの精読・分析を行う。また、受講者の興味に応じて適宜、他の文献の精読、ディスカッションを行い、さらには応用仏教学的な学際的議論も行うなど、総合的に仏教思想の理解を深めることを目標とする。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
成績評価は、平常点に基づいて行う。											
[教科書]											
授業中に指示する テキストおよび資料については適宜授業中に配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
配布資料を事前に参照し、文献を事前に精読してくる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36											
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		宗教情報センター 京都支社 研究員				佐藤 直実	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語		
題目		大乘仏教經典の読解											
【授業の概要・目的】													
<p>最初期の大乗經典『阿しゆく仏国經』第6章の講読を行う。</p> <p>阿しゆく仏は、東方・妙喜世界を主宰する他土仏である。西方・極楽世界の阿弥陀仏と並び、東西他土仏の双璧をなす。最古の他土仏の一人であり、後に四方四仏の東方仏として定着する。密教では金剛界曼荼羅の東方に据えられ、後期密教では、大日如来に代わり、曼荼羅の主尊になる場合もある。</p> <p>『阿しゆく仏国經』は、阿しゆく仏の修行から成道、涅槃にいたるまでの半生と、その仏国土の様子を描く經典で、大乘仏教興起のなぞを解くための重要な資料である。漢訳が2種類、チベット語訳が1種類ある。</p> <p>本演習では、全6章ある『阿しゆく仏国經』の中から、阿しゆく仏国土に生まれるための方法を記す第6章をとりあげる。本經を読誦・暗記し、他人に宣説すること、六波羅蜜の行や三種の善根を回向することなどが推奨され、それらを実践した菩薩は悪趣に落ちることがないなどの功德についても説かれる。</p> <p>本講座では漢訳2訳を参照しながら、チベット語訳を読み進め、大乘仏教の発展過程についても外観したい。</p>													
【到達目標】													
<ol style="list-style-type: none"> 1) 古典チベット語で書かれた仏教經典の読解力の養成 2) 大乘仏教の基礎知識の習得 3) 仏教文献学の研究手法の習得 													
【授業計画と内容】													
<p>第1回 テキストの概説と資料配付</p> <p>第2-14回 『阿しゆく仏国經』第6章の講読</p> <p>第15回 フィードバック</p>													
【履修要件】													
<p>わからないことに関しては、授業中に積極的に質問してください。</p>													
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----													

仏教学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業時の発表及び平常点をもとに総合的に評価。
テストは行わない。

[教科書]

授業中に資料を配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業時に読むテキスト箇所の和訳。必要に応じて、その背景についても調べる。

(その他(オフィスアワー等))

わからないことに関しては、授業中に積極的に質問してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 文化学部 教授 志賀 浄邦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		シャーンタラクシタ作『真実集成』及びカマラシーラ作『真実集成細注』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>8世紀インドおよびチベットにおいて活躍した学僧シャーンタラクシタによる著作『真実集成（Tattvasamgraha）』とその弟子カマラシーラによる『真実集成細注（Tattvasamgrahapanjika）』第9章「業とその報いの関係の考察」を講読する。本著作『真実集成』は独立作品でありながら、ダルマキールティの認識論・論理学の注釈書的な側面も合わせ持っている。本授業では、上記のテキストを精読することを通して、仏教徒の因果論・刹那滅論・業報論に対して、対論者からどのような批判が投げかけられたか、また仏教徒とインド哲学諸派の論争の争点はいかなるものであったかといった問題について考察することを目的とする。当該テキストには、対論者の見解が他の論書等から忠実に引用されている場合も少なくないため、テキストの読解と同時にサンスクリット断片の収集・精査も合わせて行いたい。</p> <p>また本著作には様々な学派の見解が引用・紹介されていることから、このテキストを読み解くことを通して7～8世紀インドの思想状況を概観することができる。『真実集成』の他の章（特に第8章「存続する存在の考察」）の記述とも比較しながら、本著作のインド思想史上における位置づけも試みたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・サンスクリットおよびチベット語で書かれたテキストを正確に読解することができるようになる。 ・テキスト上の問題点に気づき、それを発見・指摘し的確に修正できるようになる。 ・先行研究を批判的に検討した上で、独自の意見・見解を打ち出せるようになる。 ・電子データをはじめとする周辺資料を駆使することにより、チベット訳テキストをサンスクリット断片と同定できるようになる。 ・テキストを読解する過程で遭遇した問題に対して適切に問いを設定し、立論と論証によりそれを解決することができるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業では『真実集成』及び『真実集成細注』第9章「業とその報いの関係の考察」を講読する。担当者が作成した校訂テキストを元に、先行研究等を参考にしながら、批判的に精読する。</p> <p>第1～2回 仏教認識論・論理学（特に刹那滅論と因果論）についての概説</p> <p>第3～5回 『真実集成』及び『真実集成細注』に関する概説</p> <p>第6～14回 『真実集成』及び『真実集成細注』第9章の講読と解説（受講生による輪読形式）</p> <p>第15回 フィードバック</p> <p>受講生と議論を交わしながら原典テキストを読み進めるという授業の性格上、授業各回の進度は異なる。</p>											
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----											

仏教学(演習)(2)

[履修要件]

サンスクリット，チベット語，英語の基本的な読解能力を必要とする。

[成績評価の方法・観点]

平常点による。（毎時間の発表が100％）

[教科書]

授業中に指示する
その他，授業中に適宜プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・講読するテキストを事前に配布するので，その回に読む箇所を事前に精読しておくこと。
- ・テキスト上の問題点等について，指摘・質問できるよう準備しておくこと。
- ・その回に読んだ箇所について再度読み直し，授業で議論された問題点等を再度確認しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

質問等は授業の前後に受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山口 周子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		パーリ語講読									
【授業の概要・目的】											
<p>パーリ語は、上座部仏教系の聖典書写に使用された主要言語であり、サンスクリット語、チベット語などと同様、インド古典学および仏教学の学習・研究を進めるうえで極めて有益な言語のひとつである。</p> <p>また、その音韻的特徴などを把握することで、古典サンスクリット語やヴェーダ語といった古代インド語に対する知識を深めることも期待できる。</p> <p>テキスト講読を通してパーリ語の読解力を付けることを目指す。(上座部仏教に伝わる「ジャータカ(本生譚)」に収録の短編物語を講読テキストとする。)</p> <p>なお、文法的な事柄については、講読を進める中で、必要に応じて解説する。</p>											
【到達目標】											
今後の学習や研究に必要なパーリ語原典テキストを自力で読解できる程度の語彙力と読解力を身につける。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーリ語について(言語的特徴などについて概説) ・精読に必要な辞書や文法書などの紹介 ・講読テキストのプリント配布 ・講読テキストに関する概説(物語の内容、関連テキストなど) <p>第2回-5回：テキスト講読：猿王本生譚(Vanarindajataka)</p> <p>第6回-9回：テキスト講読：兔本生譚(Sasajataka)</p> <p>第10回-14回：テキスト講読：四門本生譚(Catudvarajataka)</p> <p>学期末テスト</p> <p>第15回：フィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輪読形式を基本とする。文法事項等、テキストの理解に必要な事柄は、必要に応じて解説を加える。 ・授業の進度は、受講生の理解度に応じて変更する場合がある。 											
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----											

仏教学(演習)(2)

[履修要件]

初級程度のサンスクリット語読解力があること。

[成績評価の方法・観点]

平常点（テキスト読解力、あるいは内容理解への積極性：50点）と学期末テスト（50点）による。

（ 学期末テストは初見テキストを問題とし、辞書・文法書などの持ち込みは可とする。 ）

[教科書]

プリント配布

[参考書等]

（参考書）

Wilhelm Geiger 『A Pali Grammar』 (The Pali Text Society) ISBN:0 86013 318 4

水野 弘元 『パーリ語文法』 (山喜房佛書林) ISBN:4-7963-0010-4

Dines Andersen 『A Pali Reader (Part 1) ; Text and Notes』 (Luzag & Co., 1901)

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・テキスト講読は輪読形式で行うため、原則として予習をして臨むこと。
- ・初学者はできる範囲で予習し、復習に重点をおくこと。

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 芳原 綾子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アルダマーガディー入門									
【授業の概要・目的】											
<p>現在もインド国内で教団が存続しているジャイナ教の起源は、仏教の成立と同時代であり、両教には類似点もある。ジャイナ教白衣派の聖典で使用されるアルダマーガディー(Amg)は、中期インド語の一つでありパーリ語とも類似性を持つ。Amgで書かれたテキストを実際に読み、必要な参考書を使い、音韻変化等になれる。</p>											
【到達目標】											
<p>アルダマーガディー(Amg)で書かれたテキストを読み、サンスクリットとは異なる、音韻変化や文法をもつ中期インド語の特徴を理解する。単語の意味や語形を調べるために必要な参考書類を使用するようになる。乞食に関わる規定の撰文を読むことで、命あるものとはどういう状態をいうか、受け取ってよい飲食物はどのようなものか等、Amgで書かれた経典を保持してきたジャイナ教の基本的な思想に触れる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1回目:アルダマーガディーに関する概説と辞書・参考書、および、Amgのテキストを伝承してきたジャイナ教白衣派の紹介 2回目:母音と子音の音韻変化 3回目:名詞変化 4回目:代名詞の変化 5回目:a語幹動詞、e語幹動詞の活用(現在形、未来形) 6回目:過去時制、分詞etc. 7回目~10回目:出家者の1日の過ごし方を述べる『ウッタラジャヤナ』第26章からの抜粋、日課を述べる『アーヴァッサヤ』第1章からの抜粋の読解 11回目~15回目:違反行為をした場合の滅罪に関わるテキストの紹介と撰文(主に『ウッタラジャヤナ』からの抜粋と、滅罪に言及するテキストからの抜粋)の読解とまとめ テキストの読解に際しては、出席者のサンスクリットの知識を考慮して進める予定である。</p>											
【履修要件】											
初級サンスクリット文法を履修していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点:授業内での発言(和訳等含む)											
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----											

仏教学(演習)(2)

[教科書]

コピーを配布する

渡辺研二 「アルダ・マーガディー語文法入門(1)--(3)」 『ジャイナ教研究』 第14-16号, 2008--2010.
F. van den Bossche. A Reference Manual of Middle Prakrit Grammar. Gent. 1999.

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習: サンスクリット語文法の既習者は、同じ文法事項についてサンスクリット語の場合を確認する。

復習: 各回、文法事項の確認

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 71851 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(講読Ⅰ) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	講読	使用 言語	英語
題目		German Reading in Indology and Buddhology									
【授業の概要・目的】											
<p>We will read representative pieces of the German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, in order to help the students develop abilities to read and understand academic German on their own. The purposes of the course include: (1) to introduce students into the disciplines of German Indology and Buddhology by means of the renowned academic works; (2) to familiarise them with the main stylistics of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit; (3) to develop the students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>											
【到達目標】											
Students will develop abilities to read and understand German academic writings on their own.											
【授業計画と内容】											
<p>Part I Background Knowledge (2 weeks) Week #01 Tools & Tips 1.1. Lexika, Handbooks, Tools 1.2. Abbreviations (German, Latin, Bibliographic) 1.3. Conventions (Citation of Texts), Stylistics and Tones (e.g. wohl, vielleicht, nicht sicher) Reference: PW, pw, SWTF, EWAia, Goto 1987; Bechert 1990 Abkürzungsverzeichnis zum buddhistischen Literatur; Week #02 Introduction to German Indology 2.1. Vedic Studies, Indic Linguistics 2.2. Buddhist Studies 2.3. Jaina Studies Reference: Bechert & von Simson 1993 Einführung in die Indologie; Windisch Geschichte der Sanskrit-Philologie und Indischen Altertumskunde; Vorwort in SWTF; Veröffentlichungen der Helmut von Glasenapp-Stiftung Website: https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.ahtml ; https://whowaswho-indology.info ;</p> <p>Part II History of Scholarship (4 weeks) Week #03 Indology in German 3.1. Important Scholars 3.2. Representative Works 3.3. Reading Exercise Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen; Website: https://whowaswho-indology.info ;</p> <p>Week #04 Indology in German 4.1. Important Scholars</p>											
----- 仏教学(講読Ⅰ)(2)へ続く -----											

仏教学(講読Ⅰ)(2)

4.2. Representative Works

4.3. Reading Exercise

Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #05 Indic Linguistics in German

5.1. Important Scholars

5.2. Representative Works

5.3. Reading Exercise

Reference: EWAia

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #06 Buddhist Studies in German

6.1. Important Scholars

6.2. Representative Works

6.3. Reading Exercise

Reference: SWTF

Part III Reading Materials from Students (8 weeks)

Week #07 to #14 Read, Exercise & Analyse

The choice of texts depends on the participants' interest and specialisation. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs.

Week #15

Feedback

【履修要件】

Basic knowledge of German (e.g. completion of College German) is required.

【成績評価の方法・観点】

Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

仏教学(講読Ⅰ)(3)へ続く

仏教学(講読Ⅰ)(3)

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 71851 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(講読Ⅰ) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	講読	使用 言語	英語
題目		German Reading in Indology and Buddhology									
【授業の概要・目的】											
<p>We will read representative pieces of the German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, in order to help the students develop abilities to read and understand academic German on their own. The purposes of the course include: (1) to introduce students into the disciplines of German Indology and Buddhology by means of the renowned academic works; (2) to familiarise them with the main stylistics of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit; (3) to develop the students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>											
【到達目標】											
Students will develop abilities to read and understand German academic writings on their own.											
【授業計画と内容】											
<p>Part I Background Knowledge (2 weeks) Week #01 Tools & Tips 1.1. Lexika, Handbooks, Tools 1.2. Abbreviations (German, Latin, Bibliographic) 1.3. Conventions (Citation of Texts), Stylistics and Tones (e.g. wohl, vielleicht, nicht sicher) Reference: PW, pw, SWTF, EWAia, Goto 1987; Bechert 1990 Abkürzungsverzeichnis zum buddhistischen Literatur; Week #02 Introduction to German Indology 2.1. Vedic Studies, Indic Linguistics 2.2. Buddhist Studies 2.3. Jaina Studies Reference: Bechert & von Simson 1993 Einführung in die Indologie; Windisch Geschichte der Sanskrit-Philologie und Indischen Altertumskunde; Vorwort in SWTF; Veröffentlichungen der Helmut von Glasenapp-Stiftung Website: https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.ahtml ; https://whowaswho-indology.info ;</p> <p>Part II History of Scholarship (4 weeks) Week #03 Indology in German 3.1. Important Scholars 3.2. Representative Works 3.3. Reading Exercise Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen; Website: https://whowaswho-indology.info ;</p>											
----- 仏教学(講読Ⅰ)(2)へ続く -----											

仏教学(講読Ⅰ)(2)

Week #04 Indology in German

4.1. Important Scholars

4.2. Representative Works

4.3. Reading Exercise

Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #05 Indic Linguistics in German

5.1. Important Scholars

5.2. Representative Works

5.3. Reading Exercise

Reference: EWAia

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #06 Buddhist Studies in German

6.1. Important Scholars

6.2. Representative Works

6.3. Reading Exercise

Reference: SWTF

Part III Reading Materials from Students (8 weeks)

Week #07 to #14 Read, Exercise & Analyse

The choice of texts depends on the participants' interest and specialisation. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs.

Week #15

Feedback

【履修要件】

Basic knowledge of German (e.g. completion of College German) is required.

【成績評価の方法・観点】

Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

仏教学(講読Ⅰ)(3)へ続く

仏教学(講読Ⅰ)(3)

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET49 89628 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（初級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語初級									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>											
【到達目標】											
前期はチベット文字およびその読み方を習得し、チベット語の名詞の構造、文での使い方を理解する。											
【授業計画と内容】											
授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（1週） 2. 文字と発音（4週） 3. 名詞（4週） 4. 形容詞（1週） 5. 助動詞（3週） 6. まとめ（1週） 7. フィードバック（1週） 											
<p>「概要・目的」欄に書いたように、日本語話者にとってチベット語はとくに難しい言語ではない。授業は、文字の習得から始め、日本語と異なる特徴を示す点についてはできる限り丁寧に説明を加えながら、段階的に文法の複雑なレベルに進む。</p> <p>受講生は、理解できない点を積極的に質問することが期待される。</p>											
チベット語（初級）(語学)(2)へ続く											

チベット語（初級）(語学)(2)

【履修要件】

特にないが、後期のチベット語（初級）をあわせて受講することが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

成績は、平常点（100％）によって評価する。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

語学の授業であるので、受講生は予習・復習を行わなければ授業についていけなくなる。とくに、前期ではチベット文字、後期では動詞の屈折について何度も繰り返し復習する必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学111

科目ナンバリング		G-LET49 89629 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（初級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語初級									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>											
【到達目標】											
後期は動詞の屈折を中心として学び、文の構造を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>前期のチベット語（初級）に引き続き、チベット語初級文法を解説する。授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動詞（5週） 2. 複文他（5週） 3. チベット語テキスト演習（4週） 4. フィードバック（1週） <p>基本的な文法の解説を終えた後は、性格の異なる短い文章をできる限り読み、実践的なチベット語の習得を目指す。</p>											
【履修要件】											
前期のチベット語（初級）を受講していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
成績は、平常点（100％）によって評価する。											
----- チベット語（初級）(語学)(2)へ続く -----											

チベット語（初級）(語学)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

語学の授業であるので、受講生は予習・復習を行わなければ授業についていけなくなる。とくに、前期ではチベット文字、後期では動詞の屈折について何度も繰り返し復習する必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学112

科目ナンバリング		G-LET49 89630 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（中級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語（中級）									
【授業の概要・目的】											
この授業では、チベット語初級を終えた学生が次の課題として取り組みうる程度の現代チベット語の物語を読む。現代チベット語の読み物を通して中級レベルのチベット語を学ぶ。また、チベット語の読解を通じて、初級文法の復習を行う。											
【到達目標】											
チベット語文法に対する理解を深め、現代チベット語を読解する能力を習得することを目的とする。											
【授業計画と内容】											
この授業で使用するテキストは、中国から出版された笑い話集である。同書は、比較的短い物語を集めており、文法的にも容易で読みやすい。同時に、チベット人が持つユーモアや皮肉を含んでおり、たんに文法を学ぶだけではなく、その精神世界の一部をかいま見ることができよう。											
前期の授業は、テキストを丁寧に読みながら、文法事項を確認することで進められる。テキストは毎回1-2話ずつのペースで読む予定である。受講生は、内容を把握するだけではなく、文法事項についても理解することが求められる。助詞や助動詞の用法、また動詞の形態変化などの理解を深めることが目標の一つである。											
第1回 イン트로ダクション 第2～14回 チベット語テキストの輪読 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
チベット語初級文法を終えていること。後期のチベット語（中級）をあわせて受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（担当個所について十分に予習しているかどうか、また非担当個所についての担当者への質問など）。必要に応じて、学期末に試験を行うか、レポートの提出を求めることがある。											
【教科書】											
テキストは、プリントとして配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- チベット語（中級）(語学)(2)へ続く -----											

手ペット語（中級）(語学)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

担当箇所について、十分に予習するとともに、担当箇所以外も予習をして内容についての議論に参加できるようにすること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET49 89630 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（中級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語（中級）									
【授業の概要・目的】											
この授業では、チベット語初級を終えた学生が次の課題として取り組みうる程度の現代チベット語の物語を読む。現代チベット語の読み物を通して中級レベルのチベット語を学ぶ。また、チベット語の読解を通じて、初級文法の復習を行う。											
【到達目標】											
チベット語文法に対する理解を深め、現代チベット語を読解する能力を習得することを目的とする。											
【授業計画と内容】											
この授業で使用するテキストは、中国から出版された笑い話集である。同書は、比較的短い物語を集めており、文法的にも容易で読みやすい。同時に、チベット人が持つユーモアや皮肉を含んでおり、たんに文法を学ぶだけではなく、その精神世界の一部をかいま見ることができよう。											
後期の授業は、テキストを丁寧に読みつつ、前期よりもペースを上げて読む予定である。受講生は、文法事項を正確に把握しつつ、内容をより深く理解することが求められる。											
第1回 イン트로ダクション 第2～14回 チベット語テキストの輪読 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
チベット語初級文法を終えていること。後期のチベット語（中級）をあわせて受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（担当個所について十分に予習しているかどうか、また非担当個所についての担当者への質問など）。必要に応じて、学期末に試験を行うか、レポートの提出を求めることがある。											
【教科書】											
テキストは、プリントとして配布する。											
----- チベット語（中級）(語学)(2)へ続く -----											

チベット語（中級）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

担当箇所について、十分に予習するとともに、担当箇所以外も予習をして内容についての議論に参加できるようにすること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学114

科目ナンバリング		G-LET15 63131 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学（特殊講義） Greek and Latin Classics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ホラーティウス『カルミナ』精読I									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ローマの詩人ホラーティウスの抒情詩『カルミナ』を精読する。ラテン語テキストの読解力を高めるとともに、ホラーティウスの詩作の工夫を読み解くことを目的とする。また関連する文献など受講者の関心に合わせて適宜講読する。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>											
【到達目標】											
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの社会・文化を理解する。</p> <p>作品の性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>ホラーティウスの『カルミナ』はラテン文学における抒情詩を代表する作品のひとつである。ギリシアから受け継いだ韻律を用い、巧みなラテン語の技法を駆使して編まれた作品を読解する。授業では毎回数歌ずつ読み進め、履修者相互で議論しながらラテン詩の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～13回：『カルミナ』精読 第14回：全体のまとめ 第15回：フィードバック フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
ラテン語文法を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
----- 西洋古典学（特殊講義）(2)へ続く -----											

西洋古典学（特殊講義）(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学115

科目ナンバリング		G-LET15 63131 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学（特殊講義） Greek and Latin Classics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ホラーティウス『カルミナ』精読II									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ローマの詩人ホラーティウスの抒情詩『カルミナ』を精読する。ラテン語テキストの読解力を高めるとともに、ホラーティウスの詩作の工夫を読み解くことを目的とする。また関連する文献など受講者の関心に合わせて適宜講読する。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>											
【到達目標】											
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの社会・文化を理解する。</p> <p>作品の性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>ホラーティウスの『カルミナ』はラテン文学における抒情詩を代表する作品のひとつである。ギリシアから受け継いだ韻律を用い、巧みなラテン語の技法を駆使して編まれた作品を読解する。授業では毎回数歌ずつ読み進め、履修者相互で議論しながらラテン詩の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。前期の続きから読み始めるため、具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～13回：『カルミナ』精読 第14回：全体のまとめ 第15回：フィードバック フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
ラテン語文法を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
----- 西洋古典学（特殊講義）(2)へ続く -----											

西洋古典学（特殊講義）(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学116

科目ナンバリング		G-LET15 63131 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学（特殊講義） Greek and Latin Classics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		オウィディウス『変身物語』精読I									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ローマの詩人オウィディウスの『変身物語』を精読し、ラテン語読解能力を高めるとともに、神話や古代ローマの文化の理解を深めることを目的とする。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>											
【到達目標】											
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの文化や神話を理解する。</p> <p>叙事詩という性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>オウィディウスは恋愛詩人として活躍していたが、叙事詩『変身物語』を創作した。この作品は、様々な神話を内包する叙事詩である。授業では毎回数節ずつ読み進め、履修者相互で議論しながら文学意図や物語の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～13回：『変身物語』精読 第14回：全体のまとめ 第15回：フィードバック フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
ラテン語文法を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
----- 西洋古典学（特殊講義）(2)へ続く -----											

西洋古典学（特殊講義）(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学117

科目ナンバリング		G-LET15 63131 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学（特殊講義） Greek and Latin Classics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		オウィディウス『変身物語』精読II									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ローマの詩人オウィディウスの『変身物語』を精読し、ラテン語読解能力を高めるとともに、神話や古代ローマの文化の理解を深めることを目的とする。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>											
【到達目標】											
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの文化や神話を理解する。</p> <p>叙事詩という性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>オウィディウスは恋愛詩人として活躍していたが、叙事詩『変身物語』を創作した。この作品は、様々な神話を内包する叙事詩である。授業では毎回数節ずつ読み進め、履修者相互で議論しながら文学意図や物語の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～13回：『変身物語』精読 第14回：全体のまとめ 第15回：フィードバック フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
ラテン語文法を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
----- 西洋古典学（特殊講義）(2)へ続く -----											

西洋古典学（特殊講義）(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学118

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 竹下 哲文			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		伝アイスキュロス『縛られたプロメテウス』講読									
[授業の概要・目的]											
ギリシア語文法を学んだ人を対象として、伝アイスキュロス『縛られたプロメテウス』を講読する。近年偽作説が農耕とされている『縛られたプロメテウス』を、注釈書と共に精読することを通して、ギリシア語韻文を読む力を高めるとともに、劇の構成や展開、修辞技法についても理解を深めることを目指す。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ギリシア語（韻文）を読む力を高める ・原典の精読を通して、ギリシア悲劇の構成や特徴、アイスキュロスの文体についての知識を深める 											
[授業計画と内容]											
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進捗によっては15回を講読に充てる場合もあります。											
[履修要件]											
ギリシア語文法を修得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) M. Griffith (ed.) 『Prometheus Bound』 (Cambridge University Press, 1983) ISBN:0521248434											
[授業外学修(予習・復習)等]											
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学119

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学大学院言語文化研究科 平山 晃司 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		エウリーピデース『メーデシア』を読む									
[授業の概要・目的]											
<p>黒海東端の僻地コルキスの王女メーデシアは、金羊皮を求めてテッサリアー地方の町イオールコスからやって来た王子イアーソーンと恋に落ち、彼とともにギリシアへと渡る。コリントスで夫婦として暮らす彼らは二人の子宝に恵まれたが、イアーソーンは土地の王女クレウーサと結婚してしまう。夫の裏切りに激怒したメーデシアは、彼に生き地獄を味わわせるべく愛する我が子二人を手に掛けることを決意、復讐心と母性愛の葛藤に苛まれつつも殺害を断行する。エウリーピデースの「情念の悲劇」の代表作『メーデシア』を精読する。</p>											
[到達目標]											
<p>ギリシア語の読解力を向上させる。 ギリシア悲劇の韻律や文体に習熟する。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>毎回約100行ずつ読み進める予定。</p> <p>第1回 導入 第2回～第15回 訳読</p>											
[履修要件]											
<p>ギリシア語文法を修得済みであること。</p>											
[成績評価の方法・観点]											
<p>出席状況、訳読の出来の良否などを勘案し、平常点によって評価する。</p>											
[教科書]											
<p>Donald J. Mastronarde 『Euripides: Medea』 (Cambridge University Press, 2002) ISBN:9780521643863 教科書を各自用意し、pp.1-109 (とりわけpp.74-108) を事前に読んでおくこと。</p>											
[参考書等]											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
[授業外学修(予習・復習)等]											
<p>毎回の授業に備えて指定された範囲のテキストと注釈を丁寧に読んでおくこと。</p>											
(その他(オフィスアワー等))											
<p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

文献文化学120

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 竹下 哲文			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		伝アイスキュロス『縛られたプロメテウス』講読									
[授業の概要・目的]											
ギリシア語文法を学んだ人を対象として、伝アイスキュロス『縛られたプロメテウス』を講読する。近年偽作説が農耕とされている『縛られたプロメテウス』を、注釈書と共に精読することを通して、ギリシア語韻文を読む力を高めるとともに、劇の構成や展開、修辞技法についても理解を深めることを目指す。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ギリシア語（韻文）を読む力を高める ・原典の精読を通して、ギリシア悲劇の構成や特徴、アイスキュロスの文体についての知識を深める 											
[授業計画と内容]											
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進捗によっては15回を講読に充てる場合もあります。											
[履修要件]											
ギリシア語文法を修得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) M. Griffith (ed.) 『Prometheus Bound』 (Cambridge University Press, 1983) ISBN:0521248434											
[授業外学修(予習・復習)等]											
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学121

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 竹下 哲文			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ヘーシオドス『神統記』精読									
[授業の概要・目的]											
ギリシア語文法を学んだ人を対象として、ヘーシオドス『神統記』を精読する。宇宙開闢から神々の系譜、ウーラノスからゼウスに到る王権の交替を主題とする本作の講読を通して、韻律や文体に習熟すると共に、注釈書を用いて本文や解釈上の問題についても検討する。											
[到達目標]											
ギリシア語原典（韻文）の読解力を高める。 古典作品の伝承と受容について知識を深める。											
[授業計画と内容]											
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 テクストの精読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。											
[履修要件]											
ギリシア語文法を修得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点で評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
原典と注釈を熟読すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学122

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 竹下 哲文			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ヘーシオドス『神統記』精読									
[授業の概要・目的]											
ギリシア語文法を学んだ人を対象として、ヘーシオドス『神統記』を精読する。宇宙開闢から神々の系譜、ウーラノスからゼウスに到る王権の交替を主題とする本作の講読を通して、韻律や文体に習熟すると共に、注釈書を用いて本文や解釈上の問題についても検討する。											
[到達目標]											
ギリシア語原典（韻文）の読解力を高める。 古典作品の伝承と受容について知識を深める。											
[授業計画と内容]											
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 テクストの精読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。											
[履修要件]											
ギリシア語文法を修得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点で評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
原典と注釈を熟読すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学123

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋古典学演習I									
[授業の概要・目的]											
西洋古典学に関する専門知識を得るとともに、受講者が自身の研究テーマに即して報告をおこない、参加者全員で討論する。研究報告と討論を通じて研究テーマに関する理解を深めるとともに、研究を進める上での問題点を認識し、研究を発展させることを目標とする。											
[到達目標]											
この授業の到達目標は以下の通り。 ・西洋古典学に関する専門知識を修得することができる。 ・自らの研究テーマを設定し発展させることができる。 ・独自性を追求できる能力を身につける。											
[授業計画と内容]											
参加者は自身の研究テーマについて複数回の発表をおこなう。研究課題の設定、先行研究の収集と批判的検討、研究方法の吟味、テキストの精読が必要となる。また討論に積極的に参加し、研究の協働をおこなうことが求められる。											
第1回：イントロダクション 論文の書き方や研究の進め方について 第2回～14回：担当者による発表と全体討論 第15回：フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
研究報告や討論への参加などの平常点および学期末のレポート											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
先行研究の収集と批判的検討、研究方法の吟味、テキストの精読など研究の基礎となる作業に加えて、発表の準備や討論を経て明らかになった問題点について再検討する必要がある。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学124

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋古典学演習II									
[授業の概要・目的]											
西洋古典学に関する専門知識を得るとともに、受講者が自身の研究テーマに即して報告をおこない、参加者全員で討論する。研究報告と討論を通じて研究テーマに関する理解を深めるとともに、研究を進める上での問題点を認識し、研究を発展させることを目標とする。											
[到達目標]											
この授業の到達目標は以下の通り。 ・西洋古典学に関する専門知識を修得することができる。 ・自らの研究テーマを設定し発展させることができる。 ・独自性を追求できる能力を身につける。											
[授業計画と内容]											
参加者は自身の研究テーマについて複数回の発表をおこなう。研究課題の設定、先行研究の収集と批判的検討、研究方法の吟味、テキストの精読が必要となる。また討論に積極的に参加し、研究の協働をおこなうことが求められる。											
第1回：イントロダクション 論文の書き方や研究の進め方について 第2回～14回：担当者による発表と全体討論 第15回：フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
研究報告や討論への参加などの平常点および学期末のレポート											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
先行研究の収集と批判的検討、研究方法の吟味、テキストの精読など研究の基礎となる作業に加えて、発表の準備や討論を経て明らかになった問題点について再検討する必要がある。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 早瀬 篤			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		プラトン『饗宴』を読む(3)									
[授業の概要・目的]											
<p>古代ギリシアの代表的哲学者プラトン(424/3-348/7 BC)がおそらく比較的若い頃に書き上げた対話篇『饗宴』の原典を精読します。悲劇詩人アガトンがコンテストで優勝した記念のパーティで、ソクラテスや喜劇詩人アリストパネスを含む登場人物たちが、「恋」(エロース)を主題とするスピーチを即興で作り、この神をたたえます。文学作品として非常に完成度が高いだけでなく、「本性において驚くべき美しさ」を例として、プラトンの形而上学において「真実在」と呼ばれるもののあり方が最も詳しく描写されるという点で、哲学的にも非常に重要な対話篇です。本授業では、比較的平明なギリシア語で書かれたこの対話篇を語学・哲学の両面からできるだけ正確に理解することを目指します。</p> <p>今期は209e5-最後までを読み進めます。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典ギリシア語で書かれた文献を正しく日本語訳できるようになること。 ・ 議論の構造を明晰に把握することによって、哲学的テキストの内容を深く理解できるようになること。 ・ 古典ギリシア語文献を読むときに、注釈書・研究書を適切に利用できるようになること。 											
[授業計画と内容]											
<p>最初の回で『饗宴』の内容の概観と現在の研究状況について説明を行います。次に演習参加にあたって参照すべき注釈書や研究書を紹介し、授業形式について詳しい説明を行います。2回目からは1回につきOCT〔教科書〕で2ページほど講読を進めます。各参加者は、指名された箇所(通常15行ほど)をその場で日本語に訳します。指名はランダムに行いますが、初めて参加する方には各回の最初のほうを担当してもらいます。また重要な箇所は全員で議論の構造を確認して内容的な理解を深めます。最終回は、これまでに読んだテキストの内容および授業期間中に提起された問題を振り返りながら、参加者全員で議論を行います。きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回も精読に当てることがあります。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回~第14回 『饗宴』 209e5-223d12講読・検討 第15回 まとめ</p>											
[履修要件]											
<p>古典ギリシア語の初級文法を一通り学習したか、あるいは少なくとも学習中であることを履修要件とします。</p>											
----- 西洋古典学(演習)(2)へ続く -----											

西洋古典学(演習)(2)

【成績評価の方法・観点】

成績は平常点によって算出します。その内訳は、授業への積極的な参加が60点、テキストの理解度が40点とします。

【教科書】

John Burnet. 『/Platonis Opera/ Tomus II (Oxford Classical Text).』 (Oxford: Oxford University Press, 1901.)
使用するテキストのコピーは授業で配布します。

【参考書等】

(参考書)

Kenneth Dover. 『/Plato: Symposium/ (Cambridge Greek and Latin Classics).』 (Cambridge: Cambridge University Press, 1980.)

C. J. Rowe. 『/Plato: Symposium/.』 (Warminster: Aris & Phillips Ltd, 1998.)

必要な資料のコピーは授業で配布します。

【授業外学修(予習・復習)等】

OCT2ページ程度のギリシア語をその場で訳す準備をするために、予習にかなりの時間がかかります。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 早瀬 篤			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		プラトン『メノン』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ギリシアの代表的哲学者プラトン(424/3-348/7 BC)がおそらく比較的若い頃に書き上げた対話篇『メノン』の原典を精読します。この著作ではソクラテスとその対話相手メノンとの間で「徳とは何であるのか」「徳は教えられるのか」という問題が考察されます。比較的短い著作ですが、プラトン哲学にとって重要なトピック(例えば、定義を発見するための手続きの説明、探究の不可能性を導く「メノンのパラドクス」、幾何学問題の解答発見にもとづく「想起説」の証明、幾何学にヒントをえた「仮説の方法」など)が盛りだくさんになっています。本授業では、比較的平明なギリシア語で書かれたこの対話篇を語学・哲学の両面からできるだけ正確に理解することを目指します。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典ギリシア語で書かれた文献を正しく日本語訳できるようになること。 ・ 議論の構造を明晰に把握することによって、哲学的テキストの内容を深く理解できるようになること。 ・ 古典ギリシア語文献を読むときに、注釈書・研究書を適切に利用できるようになること。 											
【授業計画と内容】											
<p>最初の回で『メノン』の内容の概観と現在の研究状況について説明を行います。次に演習参加にあたって参照すべき注釈書や研究書を紹介し、授業形式について詳しい説明を行います。2回目からは1回につきOCT〔教科書〕で2ページほど講読を進めます。各参加者は、指名された箇所(通常15行ほど)をその場で日本語に訳します。指名はランダムに行いますが、初めて参加する方には各回の最初のほうを担当してもらいます。また重要な箇所は全員で議論の構造を確認して内容的な理解を深めます。最終回は、これまでに読んだテキストの内容および授業期間中に提起された問題を振り返りながら、参加者全員で議論を行います。きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回も精読に当てる場合があります。</p> <p>第1回 イントロダクション 第2回~第14回 『メノン』70a1-100c2講読・検討 第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
<p>古典ギリシア語の初級文法を一通り学習したか、あるいは少なくとも学習中であることを履修要件とします。</p>											
----- 西洋古典学(演習) (2)へ続く -----											

西洋古典学(演習) (2)

【成績評価の方法・観点】

成績は平常点によって算出します。その内訳は、授業への積極的な参加が60点、テキストの理解度が40点とします。

【教科書】

John Burnet. 『/Platonis Opera/ Tomus III (Oxford Classical Text). 』 (Oxford: Oxford University Press, 1903.)

使用するテキストのコピーは授業で配布します。

【参考書等】

(参考書)

R. S. Bluck. 『/Plato ' s Meno/. 』 (Cambridge: Cambridge University Press, 1961.)

R. W. Sharples. 『/Plato: Meno/. 』 (Warminster: Aris&Phillips, 1985.)

Dominic Scott. 『/Plato ' s Meno/. 』 (Cambridge: Cambridge University Press, 2006.)

必要な資料のコピーは授業で配布します。

【授業外学修(予習・復習)等】

OCT2ページ程度のギリシア語をその場で訳す準備をするために、予習にかなりの時間がかかります。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学127

科目ナンバリング		G-LET15 73151 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 竹下 哲文			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ラテン語中級講読									
[授業の概要・目的]											
ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として、サルスティウス『カティリーナの陰謀』（およびキケロー『カティリーナ弾劾演説』、『カエリウス弁護演説』）を教材に講読を行う。											
[到達目標]											
ラテン語散文に親しみ、基本的な感覚を身につける 語彙を増やし、複雑な文章にも対応できる力をつける 古代ローマの文化や歴史を理解する 辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する											
[授業計画と内容]											
初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ、実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます。熟語や類義語に注意を払いながら、辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します。 第1回 インTRODクシヨン 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進捗によっては15回を講読に充てる場合もあります。											
[履修要件]											
ラテン語初級文法を既習得であること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
プリントを配布。											
[参考書等]											
(参考書) Hans H. Ørberg 『Catilina ex C. Sallustii Crispi De Catilinae coniuratione libro et M. Tullii Ciceronis orationibus in Catilinam』 (Edizioni Accademia Vivarium Novum 2019 (orig. 1999)) ISBN: 9788895611259											
[授業外学修(予習・復習)等]											
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学128

科目ナンバリング		G-LET15 73151 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 竹下 哲文			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ラテン語中級講読									
[授業の概要・目的]											
ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として、サルスティウス『カティリーナの陰謀』（およびキケロー『カティリーナ弾劾演説』、『カエリウス弁護演説』）を教材に講読を行う。											
[到達目標]											
ラテン語散文に親しみ、基本的な感覚を身につける 語彙を増やし、複雑な文章にも対応できる力をつける 古代ローマの文化や歴史を理解する 辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する											
[授業計画と内容]											
初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ、実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます。熟語や類義語に注意を払いながら、辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します。 第1回 インTRODクシヨン 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進捗によっては15回を講読に充てる場合もあります。											
[履修要件]											
ラテン語初級文法を既習得であること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
プリントを配布。											
[参考書等]											
(参考書) Hans H. Ørberg 『Catilina ex C. Sallustii Crispi De Catilinae coniuratione libro et M. Tullii Ciceronis orationibus in Catilinam』 (Edizioni Accademia Vivarium Novum 2019 (orig. 1999)) ISBN: 9788895611259											
[授業外学修(予習・復習)等]											
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学129

科目ナンバリング		G-LET15 73151 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山下 修一			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		古典ギリシア語中級講読									
[授業の概要・目的]											
古典ギリシア語の初級文法を学習した者を対象に、クセノポーン『アナバシス』の精読を通して、古典ギリシア語の基礎力を養成する。											
[到達目標]											
既習のギリシア語文法を確認しながら、辞書・文法書・注釈書を用いて、平易なギリシア語散文を読む力を養う。											
[授業計画と内容]											
クセノポーンの平明な散文を読むことで、今後の原典講読に必要とされる古典ギリシア語の読解力を養成することを目指す。そのために、テキストに沿って文法事項の復習をおこなう一方、辞書・文法書・注釈書の活用法の習得と語彙の増強を図りながら、原文を精読する。 授業は、出席者に訳読をしてもらう形式で進める。毎回2～3ページを読み進める予定である。参加者には、予習はもちろん、毎回の授業の復習が求められる。 初回の授業では、授業の進め方や履修にあたっての注意点を説明する。また、テキストや注釈書の使用方法を説明する。第2回の授業から読解を進めていく。											
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 読解 第15回 フィードバック(まとめ)											
[履修要件]											
古典ギリシア語の初級文法を既習のこと。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点評価。(必要に応じて学期末テストを行う予定である。)											
[教科書]											
E. C. Marchant (ed.) 『Xenophontis Opera Omnia, Expeditio Cyri』 (Oxford University Press) ISBN: 9780198145547 (テキスト) コピーを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) Maurice W. Mather, Joseph Hewitt 『Xenophon's Anabasis: Book 1-4』 (University of Oklahoma Press) ISBN:9780806113470 コピーを配布する。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
毎回の授業には、指定された範囲を予習した上で受講すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
この授業はzoomを利用したオンラインでの双方向授業となります。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学130

科目ナンバリング		G-LET15 73151 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山下 修一			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		古典ギリシア語中級講読									
[授業の概要・目的]											
古典ギリシア語の初級文法を学習した者を対象に、ヘーロドトスの『歴史』の精読を通して、古典ギリシア語の基礎力を養成する。											
[到達目標]											
既習のギリシア語文法を確認しながら、辞書・文法書・注釈書を用いて、平易なギリシア語散文を読む力を養う。											
[授業計画と内容]											
<p>ヘーロドトスの平明な散文を読むことで、今後の原典講読に必要とされる古典ギリシア語の読解力を養成することを目指す。そのために、テキストに沿って文法事項の復習をおこなう一方、辞書・文法書・注釈書の活用法の習得と語彙の増強を図りながら、原文を精読する。</p> <p>授業は、出席者に訳読をしてもらう形式で進める。毎回2～3ページを読み進める予定である。参加者には、予習はもちろん、毎回の授業の復習が求められる。</p> <p>初回の授業では、授業の進め方や履修にあたっての注意点を説明する。また、テキストや注釈書の使用方法を説明する。第2回の授業から読解を進めていく。</p> <p>第1回 インTRODクション 第2回～第14回 読解 第15回 フィードバック(まとめ)</p>											
[履修要件]											
古典ギリシア語の初級文法を既習のこと。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点評価。(必要に応じて学期末テストを行う予定である。)											
[教科書]											
N. G. Wilson (ed.) 『Herodoti Historiae - 』 (Oxford University Press) ISBN:9780199560707 (テキスト) コピーを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) Asheri, David, Alan Lloyd, and Aldo Corcella. 『A commentary on Herodotus』 (Oxford University Press) ISBN:9780199639366 コピーを配布する。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
毎回の授業には、指定された範囲を予習した上で受講すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET16 63231 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 堀口 大樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日露法廷通訳論									
【授業の概要・目的】											
「日露法廷通訳論」と題し、日本語とロシア語を題材とした法廷通訳論を、一般的な通訳・翻訳論を踏まえた上で理論的かつ実践的に学ぶ。											
【到達目標】											
異言語間のコミュニケーションを担う一般的な通訳・翻訳論を踏まえた上で、法廷における一連の言語行為を法廷通訳人の視点から理解する。 法廷通訳人の職務を知ること、自身の言語学習や言語研究に役立つ知識を身につける。											
【授業計画と内容】											
講義形式と演習形式（日本語・ロシア語の簡単な通訳やロールプレイ、翻訳）を併用する。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 法廷通訳論入門 2. 通訳・翻訳概論 3. 通訳・翻訳概論 4. 通訳・翻訳概論 5. 法廷通訳をめぐる諸問題 6. ロシア語裁判ドラマ視聴 7. ロシア語裁判ドラマ視聴 8. 法廷におけることば 9. 法廷におけることば 10. 法廷におけることば 11. 法廷通訳演習 12. 法廷通訳演習 13. 裁判傍聴報告会 14. その他の諸問題 15. 総括 											
<p>授業回数は15回とする。 学期中に、法廷におけることばに注目して刑事裁判を傍聴し、学期末に授業内で報告会を行う。</p>											
----- スラブ語学スラブ文学(特殊講義) (2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(特殊講義) (2)

【履修要件】

全学科目「ロシア語IIB（文法）」など、ロシア語の初級・中級文法を一通り終えていることが望ましい。ロシア語の知識はないが、本授業の履修や聴講を希望する場合は相談のこと。

【成績評価の方法・観点】

成績評価については、平常点（70%）・学期末レポート（30%）に基づくものとする。平常点は各授業への積極的な参加や課題への取り組みではかる。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

最高裁判所事務総局『法廷通訳ガイドブック実践編ロシア語』法曹会、2013年

橋内武・堀田秀吾『法と言語 法言語学へのいざない』くろしお出版、2012年

水野かほる、津田守編『裁判員裁判時代の法廷通訳人』大阪大学出版会、2016年

渡辺修、水野真木子、中村幸子『実践司法通訳 シナリオで学ぶ法廷通訳』現代人文社、2010年

【授業外学修（予習・復習）等】

日頃から母語と外国語の運用能力を高める努力をしてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

メールで事前に連絡のこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学132

科目ナンバリング		G-LET16 63231 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 堀口 大樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		パンデミック時代のロシア語									
【授業の概要・目的】											
「パンデミック時代のロシア語」と題し、新型コロナウイルスに関連したロシア語の語彙・文法現象に関する論文集（『コロナウイルス時代のロシア語』2021年）に収録されている数点の論文を輪読する。随時日本語や英語と比較を行う。											
【到達目標】											
社会変化を反映する言語研究の方法論や可能性について学ぶ。 ロシア語の学術文献の読解力を身につける。											
【授業計画と内容】											
演習形式（文献購読）とする。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 語彙 3. 語彙 4. 語彙 5. 語彙 6. 語形成 7. 語形成 8. 語形成 9. 語形成 10. メタファー 11. メタファー 12. ディスコース 13. ディスコース 14. その他の諸問題 15. 総括 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点60%、期末レポート30%とする。											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- スラブ語学スラブ文学(特殊講義) (2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(特殊講義) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

日頃からロシア語の運用能力を高める努力をしてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

随時受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学133

科目ナンバリング		G-LET16 63231 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシアの詩と詩論									
[授業の概要・目的]											
<p>ロシアの詩についての論文を読みます。また、論文中に例として挙げられている詩の読解と分析を行います。</p> <p>テキストとしてはガスパロフかロトマンの詩論、あるいはブイコフの詩人論を講読します。どれを選ぶかについては、受講者と話し合っ決めてます。</p>											
[到達目標]											
<p>1) ロシア語の文学論文を読解する語学力と方法と知識を習得する。</p> <p>2) ロシアの詩と詩論に対する知識と理解を深める。</p>											
[授業計画と内容]											
第1回 インTRODクシヨン											
第2回～第14回 テキストを講読し、引用されている詩の読解と分析を行います。											
第15回 まとめ											
フィードバックについては授業中に指示します。											
[履修要件]											
ロシア語文法を習得していること。独習でも構いません。											
[成績評価の方法・観点]											
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。											
[教科書]											
テキストはプリントを配付します。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に適宜紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
事前に下調べをしてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学134

科目ナンバリング		G-LET16 63231 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシアの詩と詩論									
[授業の概要・目的]											
<p>エフィム・エトキント著『詩についての話』は、詩における「コンテクスト」「比喻」「イメージ」「スタイル」などのテーマを、豊富な例を用いて、平明な文体で論じた名著です。詩の実例は、プーシキン、レールモントフから、チュツチェフ、フェートなどを経て、ブローク、アフマートワ、ツヴェターエワ、ザボロツキーなど20世紀前半の詩までをカバーしています。</p> <p>この本の重要な箇所を講読するとともに、例として挙げられている詩の読解と分析を行います。</p>											
[到達目標]											
<p>1) ロシア語の文学論文を読解する語学力と方法と知識を習得する。</p> <p>2) ロシアの詩と詩論に対する知識と理解を深める。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 イン트로ダクション テキストとその著者について紹介します。</p> <p>第2回～第14回 『詩についての話』を講読し、引用されている詩の読解と分析を行います。</p> <p>第15回 まとめ フィードバックについては授業中に指示します。</p>											
[履修要件]											
ロシア語文法を習得していること。独習でも構いません。											
[成績評価の方法・観点]											
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。											
[教科書]											
テキストはプリントを配付します。											
[参考書等]											
<p>(参考書) 授業中に適宜紹介します。</p>											
[授業外学修(予習・復習)等]											
事前に下調べをしてください。											
<p>(その他(オフィスアワー等)) 詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

文献文化学135

科目ナンバリング		G-LET16 63231 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学（特殊講義） Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 有宗 昌子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		聖人伝を読む ロシア教会史に関する文献の講読									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、聖人伝とロシア教会史に関する文献の講読を通じて、ロシアのキリスト教文化とロシア社会に関する知識と理解を深めることにある。 ロシア、ウクライナ、ベラルーシなどの正教圏で列聖された様々な時代の聖人のうち、特に崇敬を集める聖人を取り扱う。関連するイコンや映像なども参照する。											
【到達目標】											
1) ロシア語の基本的な読解力と、宗教的文献のジャンルの一つである聖人伝の読解力の向上を目指します。 2) ロシア教会史と社会背景に関する知識と理解を深めます。											
【授業計画と内容】											
第1回 はじめに 授業の概略と進め方を説明し、文献の紹介を行います。											
第2回～第14回 講読： 一人の人物の聖人伝を1回ないし数回に分けて読み進める。											
第15回 まとめ フィードバックの方法は授業の中で指示します。											
【履修要件】											
ロシア語の基本文法を理解していること（未修事項は適宜補います）。 辞書を使って読めること。独習でもかまいません。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点60%、期末レポート40%で評価します。											
【教科書】											
プリント、データを配付します。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- スラブ語学スラブ文学（特殊講義）(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学（特殊講義）(2)

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に紹介する本や論考、映像をできるだけ自分でも参照してみてください。

（その他（オフィスアワー等））

第1回授業で相談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET16 73241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 中野 悠希			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア語作文									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、これまでに身に付けたロシア語の語彙や文法の知識を活用してロシア語で文章を書く力を養う。また毎回構文ごとの訳し方の典型的なパターンを学習し、ただ単語を単語に訳すだけでなく、構文を構文に訳す技術を磨く。さらに追加の課題として新聞、学術書、小説、メール、レシピ等からテーマ別に抜粋した日本語の文章をロシア語に訳すことで、知識の定着を図るとともに語彙力の向上を目指す。こうした練習を積み重ねることで、ロシア語の運用能力を総合的に高めることが授業の狙いである。</p>											
【到達目標】											
<p>(1) ロシア語でよく使われる表現を知り、日本語の表現との対応関係を把握する。 (2) 学んだ表現を活用・応用してロシア語で自己表現をする能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス 第2回 自分について 第3回 大学 第4回 住居 第5回 交通 第6回 日常生活 第7回 家族 第8回 食事 第9回 郵便・電話 第10回 テレビ・映画 第11回 日付 第12回 新聞・雑誌 第13回 ハイキング 第14回 趣味 第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
中級程度のロシア語の知識があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（出席・毎回の作文課題）30%、期末レポート（和文露訳）70%											
【教科書】											
米川哲夫、佐藤純一、中村喜和、栗原成郎『ロシア語作文の基礎（第二版）』（白水社、1980年） 適宜プリントを配布するため、教科書を各自で入手する必要はない。											
----- スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
磯谷孝 『ロシア語作文教程』(三省堂、1973年)

[授業外学修(予習・復習)等]

母語であれ外国語であれ、文章力は、能動的・実践的な試行錯誤を経なくては涵養されない。したがって毎回の配布プリントを熟読し、欠かさず和文露訳の予習課題に取り組むことが求められる。

(その他(オフィスアワー等))

質問等は授業時間内および授業後の休憩時間に受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET16 73241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 中野 悠希			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア語作文									
【授業の概要・目的】											
この授業では、これまでに身に付けたロシア語の語彙や文法の知識を活用してロシア語で文章を書く力を養う。また毎回構文ごとの訳し方の典型的なパターンを学習し、ただ単語を単語に訳すだけでなく、構文を構文に訳す技術を磨く。さらに追加の課題として新聞、学術書、小説、メール、レシピ等からテーマ別に抜粋した文章をロシア語に訳すことで、知識の定着を図るとともに語彙力の向上を目指す。こうした練習を積み重ねることで、ロシア語の運用能力を総合的に高めることが授業の狙いである。											
【到達目標】											
(1) ロシア語でよく使われる表現を知り、日本語の表現との対応関係を把握する。 (2) 学んだ表現を活用・応用してロシア語で自己表現をする能力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス 第2回 生格の用法 第3回 造格の用法 第4回 前置格の用法(1) 第5回 前置格の用法(2) 第6回 動詞の格支配 第7回 運動の動詞 第8回 動詞の体(1) 第9回 動詞の体(2) 第10回 受身の表現 第11回 無人称文 第12回 仮定法の用法 第13回 関係詞の用法 第14回 いろいろな型の従属文 第15回 まとめ											
【履修要件】											
中級程度のロシア語の知識があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(出席・毎回の作文課題)30%、期末レポート(和文露訳)70%											
----- スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

[教科書]

米川哲夫、佐藤純一、中村喜和、栗原成郎 『ロシア語作文の基礎（第二版）』（白水社、1980年）
適宜プリントを配布するため、教科書を各自で入手する必要はない。

[参考書等]

（参考書）

磯谷孝 『ロシア語作文教程』（三省堂、1973年）

[授業外学修（予習・復習）等]

母語であれ外国語であれ、文章力は、能動的・実践的な試行錯誤を経なくては涵養されない。したがって毎回の配布プリントを熟読し、欠かさず和文露訳の予習課題に取り組むことが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

質問等は授業時間内および授業後の休憩時間に受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET16 73241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア・スラブ文化演習 -1									
【授業の概要・目的】											
平易なロシア文学史の論文の講読と、ロシアないしスラブの文学・文化・言語・思想に関する学部生による研究報告											
【到達目標】											
<p>1) 文学に関するロシア語論文の読解法を習得する。</p> <p>2) 論文やテキスト、文化現象等を分析、考察する方法を身につける。</p> <p>3) 研究発表と論文執筆の方法を身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 各自の関心に応じて研究発表のテーマ、及びその対論者を決め、だいたいのスケジュールを確定します。報告発表とレポート執筆の方法を確認します。</p> <p>第2回～7回 現代のロシア文学者I・スヒフの著作『すべての人のためのロシア文学』から、「サルトウイコフ＝シCHEDリン」の前半を講読します。</p> <p>第8～15回 学部生が順次、研究報告と質疑応答を行います。 大学院生は質問や提案を行います。</p> <p>フィードバックの方法は授業の中で指示します。</p>											
【履修要件】											
<p>ロシア語の基礎的な知識が必要です。 スラブ語学スラブ文学専修の学部生・修士課程・博士課程生は原則として必ず履修すること。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>期末レポート50%、質疑応答への取り組み50%で評価します。</p>											
----- スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

[教科書]

講読のテキストはコピーを配付します。
報告資料は各自準備すること。報告の前々日までに配付することが望ましい。

[参考書等]

(参考書)
授業中に適宜紹介・アドヴァイスします。

[授業外学修(予習・復習)等]

講読の際には、事前に準備をしておくこと。
報告準備の過程では、事前に必ず教員の助言を受けること。

(その他(オフィスアワー等))

質疑応答に積極的・主体的に参加してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET16 73241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア・スラブ文化演習 -2									
【授業の概要・目的】											
平易なロシア文学史の論文の講読と、ロシアないしスラブの文学・文化・言語・思想に関する学部生による研究報告											
【到達目標】											
1) 文学に関するロシア語論文の読解法を習得する。 2) 論文やテキスト、文化現象等を分析、考察する方法を身につける。 3) 研究発表と論文執筆の方法を身につける。											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクシヨン 各自の関心に応じて研究発表のテーマ、及びその対論者を決め、だいたいのスケジュールを確定します。報告発表とレポート執筆の方法を確認します。											
第2回～7回 現代のロシア文学者I・スヒフの著作『すべての人のためのロシア文学』から、「サルトウイコフ＝シCHEDリン」の後半を講読します。											
第8～15回 学部生が順次、研究報告と質疑応答を行います。 大学院生は質問や提案を行います。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。											
【履修要件】											
ロシア語の基礎的な知識が必要です。 スラブ語学スラブ文学専修の学部生・修士課程・博士課程生は原則として必ず履修すること。											
【成績評価の方法・観点】											
報告と期末レポート50%、質疑応答への取り組み50%で評価します。											
【教科書】											
講読のテキストはコピーを配付します。 報告資料は各自準備すること。報告の前々日までに配付することが望ましい。											
----- スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に適宜紹介・アドヴァイスします。

[授業外学修(予習・復習)等]

講読の際には、事前に準備をしておくこと。
報告準備の過程では、事前に必ず教員の助言を受けること。

(その他(オフィスアワー等))

質疑応答に積極的・主体的に参加してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学140

科目ナンバリング		G-LET16 73241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア・スラブ文化演習 -1									
【授業の概要・目的】											
ロシアないしスラブの文学・文化・言語・思想に関する、大学院生による研究報告											
【到達目標】											
1) 論文やテキスト、文化現象等を分析、考察する方法を身につける。 2) 研究発表と論文執筆の方法を身につける。											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクシヨN 各自の関心に応じて研究発表のテーマを決め、前期のほしいスケジュールを確定します。報告発表とレポート執筆の方法を確認します。											
第2回～14回 大学院生が、順次、研究報告と質疑応答を行います。 学部生は、質疑応答に積極的に参加することが求められます。											
第15回 各報告の補足と、演習の総括を行います。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。											
【履修要件】											
スラブ語学スラブ文学専修の修士課程・博士課程生は原則として必ず履修すること。 同じく学部生も履修することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
報告と期末レポート50%、質疑応答への取り組み50%で評価します。											
【教科書】											
報告資料は各自準備すること。報告の前々日までに配付することが望ましい。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に適宜紹介・アドバイスをします。											
----- スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

報告準備の過程で、事前に必ず教員の助言を受けること。

（その他（オフィスアワー等））

質疑応答に積極的・主体的に参加してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学141

科目ナンバリング		G-LET16 73241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア・スラブ文化演習 -2									
【授業の概要・目的】											
ロシアないしスラブの文学・文化・言語・思想に関する、大学院生による研究報告											
【到達目標】											
1) 論文やテキスト、文化現象等を分析、考察する方法を身につける。 2) 研究発表と論文執筆の方法を身につける。											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクシヨン 各自の関心に応じて研究発表のテーマを決め、後期のだいたいのスケジュールを確定します。報告発表とレポート執筆の方法を確認します。											
第2回～14回 大学院生が、順次、研究報告と質疑応答を行います。 学部生は、質疑応答に積極的に参加することが求められます。											
第15回 各報告の補足と、演習の総括を行います。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。											
【履修要件】											
スラブ語学スラブ文学専修の修士課程・博士課程生は原則として必ず履修すること。 同じく学部生も履修することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
報告と期末レポート50%、質疑応答への取り組み50%で評価します。											
【教科書】											
報告資料は各自準備すること。報告の前々日までに配付することが望ましい。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に適宜紹介・アドヴァイスします。											
----- スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

報告準備の過程で、事前に必ず教員の助言を受けること。

（その他（オフィスアワー等））

質疑応答に積極的・主体的に参加してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET16 73241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 堀口 大樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア語の動詞接辞の諸相									
【授業の概要・目的】											
<p>「ロシア語の動詞接辞の諸相」と題し、ロシア語の動詞接辞（接頭辞・接尾辞）を、語形成論をはじめとする言語学の様々な分野（アスペクト論、意味論、語彙論、辞書論、語用論、文体論、言語規範論）から捉える。</p>											
【到達目標】											
<p>一般に接頭辞や接尾辞の知識は、ロシア語の語彙の習得において大いに役立つが、とりわけ動詞は文の中心的存在であることから、動詞の接辞の知識はロシア語の文法の理解と語彙の習得においてきわめて重要である。動詞の接辞が示す多様な意味、語形成のメカニズムや語形成モデル、話しことばに特有の接辞付加、テキストにおける接辞の使用と文体的効果、「ちょっと読む」「読みすぎて嫌な結果を招く」「満足に読む」などのアクティオンズアルトを示す接辞を用いた豊かな言語表現を学ぶことで、ロシア語の語形成の活き活きとした側面に触れ、自らのロシア語の語彙力、テキスト理解力、表現力の向上に役立てる。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 接頭辞の空間的意味 3. 接頭辞の空間的意味 4. 接辞による完了化と不完了化 5. 接辞による完了化と不完了化 6. 接頭辞のアスペクト的意味 7. 接頭辞のアスペクト的意味 8. 接尾辞のアスペクト的意味 9. 借用語動詞の接辞付加 10. 借用語動詞の接辞付加 11. 複接頭辞付加 13. テキストにおける接辞、接辞と文体 14. その他の諸問題 15. まとめ 											
【履修要件】											
ロシア語の初級文法を終えていることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への参加状況（60%）・期末レポート（40%）に基づいて評価する。											
----- スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

[教科書]

使用しない
授業でプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業外で日頃からロシア語学習を積極的に行って運用能力を高めてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

教室の定員で人数制限をする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学143

科目ナンバリング		G-LET16 73241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 堀口 大樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		「ルスキー・ミール」批評									
【授業の概要・目的】											
ロシアによるウクライナ侵攻のモチーフの一つになっているルスキー・ミール（ ）「ロシア世界」のイデオロギーでは、ロシア語が重要な位置を占めている。本授業では、ロシア語による関連文献の講読やマスメディアの言説の分析を通じて、ルスキー・ミールを言語の観点から批判的に分析する。											
【到達目標】											
言語対外的なソフトパワーとして利用され得る側面や、言語が関わるプロパガンダ、帝国主義、拡張主義の問題を批判的に捉える力を身につける。 ロシア語の読解力を向上させる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ルスキー・ミール 3. ルスキー・ミール 4. ルスキー・ミール 5. 基金「ルスキー・ミール」 6. 基金「ルスキー・ミール」 7. ウクライナ 8. ウクライナ 9. ベラルーシ 10. バルト3国 11. 中央アジア 12. コーカサス 13. 非旧ソ連諸国 14. その他の諸問題 15. まとめ 											
【履修要件】											
「ロシア語IIB（文法）」を終えている、またはロシア語の基礎文法を一通り習得済みであることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への参加状況（60%）・レポート（40%）に基づいて評価する。											
【教科書】											
使用しない 以下の文献を中心に扱う。											
----- スラブ語学スラブ文学(演習) (2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(演習) (2)

..... . 2017.
<http://v-nikonov.ru/publications/article/192492/>

..... , ..
. 2022. (無料ダウンロード可能)

他、適宜テキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

日頃からロシア語の運用能力を高める努力をしてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学144

科目ナンバリング		G-LET16 73241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		ロシア国立研究大学高等経済学院東洋学・西洋古典学研究所 准教授 Fedorova Anastasia			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金4,5	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Russo-Japanese Cultural Dialogue Through Images									
【授業の概要・目的】											
<p>This course explores the rich history of cultural encounters between Japan and Russia, starting in the Edo period and leading to the two countries' latest attempts at co-producing animated films. Both countries have traditionally formed their identities by negotiating a special place between the East and the West, and have tried to actively learn from each other. Drawing on examples from personal diaries, memoirs, painting, film and animation, we will explore how the mutual perception between Japan and Russia has transformed overtime in accordance with various political, economic and cultural changes that occurred both globally and domestically.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will be able to identify the unique aspects of cultural interactions between Japan and Russia, while simultaneously interpreting them in a larger theoretical framework of cross-cultural exchange.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Please note that each week consists of 2 class units (Each week we meet for 3 hours). Throughout this course, there will be 15 class units in total.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction [1 class unit] 2. Japan and Russia during the Edo Period [2 class units] 3. Russo-Japanese War (1904-1905)[2 class units] 4. Transnational Cultures of Modernism (I): Painting, Literature, Theater [2 class units] 5. Transnational Cultures of Modernism (II): Film [2 class units] 6. Japanese Fascination with Marxism [2 class units] 7. Soviet Fascination with Japanese Material Culture [2 class units] 8. Interacting through Manga and Anime [2 class units] 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>Active participation in class [40%]; Test(s) based on information from weekly reading assignments [20%]; Final essay written in English (8000 words) [40%]</p>											
【教科書】											
Reading assignments will be distributed in class.											
----- スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

Reading assignments will be given from multiple sources including:

Thomas J. Rimer ed., A Hidden fire : Russian and Japanese cultural encounters, 1868-1926 (1995)

Yulia Mikhailova, William M. Steele, eds., Japan and Russia: Three Centuries of Mutual Images (2008)

Sho Konishi, Anarchist Modernity: Cooperatism and Japanese-Russian Intellectual Relations in Modern Japan (2013)

[授業外学修(予習・復習)等]

Students must be prepared to comment and critically analyze the reading assignments weekly.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学145

科目ナンバリング		G-LET16 73251 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ロシア文学の短編を読む									
[授業の概要・目的]											
ロシア語の初級文法を習得した、あるいはそれ以上の語学力を持つ学生を対象として、ロシア文学の父と言われるプーシキンの短編集『ベールキン物語』から、『射撃』と『吹雪』の2編を読んでいます。ロシア語の文法事項を確認しつつ、ロシア語を適切な日本語に翻訳していく訓練を行います。また文学作品の考察や分析を行い、時代背景についての知識も深めます。											
[到達目標]											
1) ロシア文学を読解する語学力と方法と知識を習得する。 2) ロシア語文学テキストを日本語に翻訳するコツを身につける。											
[授業計画と内容]											
第1回 インTRODクシヨN ロシア語文学の概要とその研究の基本文献について説明します。											
第2回～第14回 上記の短編を精読していきます。											
第15回 本授業中で読んだ内容をまとめ、議論します。 フィードバックについては授業中に指示します。											
[履修要件]											
ロシア語の初級文法を修めていること。独習でも構いません。											
[成績評価の方法・観点]											
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。											
[教科書]											
テキストはプリントを配付します。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に適宜紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
次回に授業で読む箇所に事前に自分で目を通し、知らない単語を調べ、テキストが描いている情景や登場人物の心理を想像してみてください。また、理解できない部分については、何が分からないかを整理しておいてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学146

科目ナンバリング		G-LET16 73251 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ロシア文学の短編を読む									
【授業の概要・目的】											
ロシア語の初級文法を習得した、あるいはそれ以上の語学力を持つ学生を対象として、ソ連期の作家バーベリ『ザモスチエ』、オレーシャ『リオンパ』、トリーフォノフ『茸の秋のこと』などの短編を講読します。ロシア語の文法事項を確認しつつ、ロシア語を適切な日本語に翻訳していく訓練を行います。また文学作品の考察や分析を行い、時代背景についての知識も深めます。											
【到達目標】											
1) ロシア文学を読解する語学力と方法と知識を習得する。 2) ロシア語文学テキストを日本語に翻訳するコツを身につける。											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクシヨ 作家と講読作品の概要について説明します。											
第2回～14回 上記の短編を読んでいきます。											
第15回 本授業中で読んだ内容をまとめ、議論します。 フィードバックについては授業中に指示します。											
【履修要件】											
ロシア語の初級文法を修めていること。独習でも構いません。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。											
【教科書】											
テキストはプリントを配付します。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に適宜紹介します。											
【授業外学修(予習・復習)等】											
次回に授業で読む箇所に事前に自分で目を通し、知らない単語を調べ、テキストが描いている情景や登場人物の心理を想像してみてください。また、理解できない部分については、何が分からないかを整理しておいてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学147

科目ナンバリング		G-LET16 73251 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 帯谷 知可			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ロシア語論文講読									
[授業の概要・目的]											
ロシア語の読解・運用能力を向上させ、合わせてロシア語による論文の作法・スタイル・表現などに習熟する目的で、人文社会系分野のロシア語学術論文の講読を行う。											
[到達目標]											
ロシア語の人文社会系分野の学術論文を辞書・参考書などを利用しながら読み、その内容を理解し、重要なポイントをまとめられるようになる。											
[授業計画と内容]											
各回とも授業担当教員の指定する論文につき、パートごとに担当者を決め、輪読する形式とする。											
第1回～第5回 ロシア文化に関する論文を講読する 第6回～第10回 歴史学関連の論文を講読する 第11回～第15回 民族学・文化人類学関連の論文を講読する											
[履修要件]											
ロシア語の基本文法を習得済みであること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点50%、期末レポート50%で評価する。											
[教科書]											
使用しない 教材となる論文をプリントで配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 各自必要な辞書等を持参・利用すること。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
当該回に読み進めるパートについて、あらかじめ辞書等を用いて一通り目を通し、内容を理解し、翻訳ができるようにしておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
連絡先 obiya[AT]cseas.kyoto-u.ac.jp											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET16 73251 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ポーランド書講読									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、ポーランド語の読解力の向上を図るとともに、ポーランドにおける歴史認識や歴史研究の現状について理解を深めることを目標とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるポーランド語の語彙や語法を習得する。 ・ポーランドとその周辺地域の歴史について、ポーランド語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 											
【授業計画と内容】											
この授業では、次の本の第5章以降を講読する。											
Andrzej Chwalba, Wojciech Harpula, Polska-Rosja. Historia obsesji, obsesja historii, Wydawnictwo Literackie: Krak#243w, 2021.											
本書はポーランドとロシアの関係史のなかから争点となりがちな問題を取りあげて、ポーランドのジャーナリストとポーランド近現代史の専門家が語り合った、対話形式の本である。第5章は、18世紀のポーランド分割の時代を扱っている。											
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。ポーランド語の歴史叙述で用いられる語彙に親しむとともに、ポーランド・ロシア間の歴史認識をめぐる論点についての理解を深めることを目指す。											
第1回 オリエンテーション 第2～14回 訳読と解説 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
ポーランド語の初級文法を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業中の訳読の実績）によって評価する。											
-----スラブ語学スラブ文学(講読)(2)へ続く-----											

スラブ語学スラブ文学(講読)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにポーランド語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET49 69661 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語（初級I） Polishnbsp (Lectures)nbsp				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語初級I									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語の初級文法を習得する。											
【到達目標】											
<p>ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。</p> <p>前期では、名詞と動詞の活用を学ぶとともに、ポーランド語になれていきます。一年間で『ニューエクスプレス ポーランド語+』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、前期ではその前半分を学習します。</p> <p>期末に映画も鑑賞し、ポーランドの文化に触れます。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．ポーランド語の基礎知識（文字、アクセント、語尾変化、発音など）【1週】 2．基本的な構文、格の基礎知識、名詞の主格、挨拶や自己紹介に関する語彙【1週】 3．基本動詞bycの変化、名詞の性の見極め方と性による形容詞の変化【1週】 4．ここまでの内容の確認と練習【1週】 5．名詞と形容詞の単数複数造格、日本語の「～である」に相当する主格と造格の使い分け【1週】 6．名詞の単数生格、panとpaniの用法【1週】 7．名詞と形容詞の複数主格、「あなたがた、皆さん」の言い方【1週】 8．ここまでの総復習、基本的な構文や語彙の確認【1週】 9．名詞の単数複数対格、動詞の第1変化（-m,-sz型）【1週】 10．動詞の第2変化（-e,-isz型）、名詞の単数複数与格、「知っている」に当たる表現【1週】 11．動詞の第3変化（-e,-esz型）、現在形の動詞変化のまとめ、名詞の単数複数前置格【1週】 12．sie動詞、ktoとcoの格変化、名詞の複数生格、数量を表す言葉【1週】 13．前期の総復習、格の使い分けや、基本的な構文の確認、語彙の復習【1週】 14．映画を鑑賞し、ポーランドの文化に触れる【1週】 15．定期試験【1週】 16．フィードバック【1週】 											
【履修要件】											
特になし											
----- ポーランド語（初級I）(2)へ続く -----											

ポーランド語（初級I）(2)

[成績評価の方法・観点]

教科書の内容に基づいた定期試験（筆記）の成績で評価します。

[教科書]

石井哲士朗・三井レナータ・阿部優子 『ニューエクスプレス ポーランド語+』（白水社）ISBN: 978-4-560-08849-4

2019年に新しく出版された『ニューエクスプレス+（プラス）ポーランド語』を使いたいと思いますが、その前の『ニューエクスプレス ポーランド語』をすでに手に入れている受講生は、『ニューエクスプレス ポーランド語』を使っても問題ありません。

授業中にプリントも配布します。

[参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET49 69662 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語（初級I） Polish (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語初級I									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語の初級文法を習得する。											
【到達目標】											
<p>ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。</p> <p>後期では、動詞の時制や、ポーランド語における様々な構文を学びます。一年間で『ニューエクスプレス ポーランド語+』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、後期ではその後半分を学習します。</p> <p>期末に映画の鑑賞などをして、ポーランドの文化に触れます。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．否定生格という現象、呼格、基本的な助動詞の使い方【1週】 2．動詞の過去形、非人称文の過去時制、人称代名詞と再帰代名詞の格変化【1週】 3．動詞bycと一般動詞の合成未来形、時刻に関する表現、非人称文の未来時制、nie maの過去形と未来形【1週】 4．動詞のアスペクト、命令法、数詞と名詞の総合規則【1週】 5．命令法の続き、仮定法、miecの助動詞的な用法【1週】 6．移動の動詞isc/chodzic, jechac/jezdzicの用法、場所と移動の起点を表す前置詞【1週】 7．関係代名詞ktoryの用法【1週】 8．ここまでの総復習、動詞の時制などの学習内容の確認【1週】 9．仮定法の用法の続き、関係副詞による複文の作り方、能動形容分詞、非人称動詞【1週】 10．sieによる非人称構文、形容詞と副詞の比較変化【1週】 11．副分詞の作り方と用法、受動形容分詞と受動構文【1週】 12．非人称能動過去形と完了体動詞の副分詞、年月日の言い方【1週】 13．一年間の総復習、分かりにくかった点などを確認する【1週】 14．ポーランドの文化に触れる【1週】 15．定期試験【1週】 16．フィードバック【1週】 											
【履修要件】											
前期のポーランド語（初級I）の受講など、ポーランド語の基礎知識が要求されます。											
----- ポーランド語（初級I）(2)へ続く -----											

ポーランド語（初級I）(2)

[成績評価の方法・観点]

教科書の内容に基づいた定期試験（筆記）の成績で評価します。

[教科書]

石井哲士朗・三井レナータ・阿部優子 『ニューエクスプレス ポーランド語+』（白水社）ISBN: 978-4-560-08849-4

2019年に新しく出版された『ニューエクスプレス+（プラス）ポーランド語』を使いたいと思いますが、その前の『ニューエクスプレス ポーランド語』をすでに手に入れている受講生は、『ニューエクスプレス ポーランド語』を使っても問題ありません。

授業中にプリントも配布します。

[参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学151

科目ナンバリング		G-LET49 89642 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語（中級II）（語学） Polish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語中級									
【授業の概要・目的】											
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。											
【到達目標】											
この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。											
【授業計画と内容】											
受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。											
授業計画：											
1．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【1週】											
2．テキストI-翻訳と解説【3週間】											
3．テキストII-翻訳と解説【3週間】											
4．テキストIII-翻訳と解説【3週間】											
5．テキストIV-翻訳と解説【3週間】											
6．総復習とまとめ【1週】											
7．定期試験【1週】											
8．フィードバック【1週】											
【履修要件】											
ポーランド語の文法の基礎知識、1年間以上の学習歴が要求されます。											
【成績評価の方法・観点】											
基本的に定期試験（筆記）（90%）での評価となります。授業へのぞむ姿勢（10%）も考慮します。定期試験の具体的な内容は、教材を決めてから判断します。											
【教科書】											
授業中に受講生と話し合っ決めて決めた資料を用意し配布します。											
【参考書等】											
（参考書）											
木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3											
----- ポーランド語（中級II）（語学）(2)へ続く -----											

ポーランド語（中級Ⅱ）(語学)(2)

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学152

科目ナンバリング		G-LET49 89642 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語（中級II）（語学） Polish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語中級									
【授業の概要・目的】											
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。											
【到達目標】											
この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。											
【授業計画と内容】											
受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。											
授業計画：											
1．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【1週】											
2．テキストI-翻訳と解説【3週間】											
3．テキストII-翻訳と解説【3週間】											
4．テキストIII-翻訳と解説【3週間】											
5．テキストIV-翻訳と解説【3週間】											
6．総復習とまとめ【1週】											
7．定期試験【1週】											
8．フィードバック【1週】											
【履修要件】											
ポーランド語の文法の基礎知識、1年間以上の学習歴が要求されます。											
【成績評価の方法・観点】											
基本的に定期試験（筆記）（90%）での評価となります。授業へのぞむ姿勢（10%）も考慮します。定期試験の具体的な内容は、教材を決めてから判断します。											
【教科書】											
授業中に受講生と話し合っ決めて決めた資料を用意し配布します。											
【参考書等】											
（参考書）											
木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3											
----- ポーランド語（中級II）（語学）(2)へ続く -----											

ポーランド語（中級Ⅱ）(語学)(2)

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET49 69646 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ロシア語（初級） Russian I				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 田中 大			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ロシア語の基礎									
【授業の概要・目的】											
ロシア語やロシア文化に関心のある学生を対象として、ロシア語を一から勉強していきます。日本ではあまりなじみのない文字の書き方と発音から始めて、意外に日本語との類推が利く基本的な文法と構文、語彙を学習していきます。											
【到達目標】											
1) ロシア語で使用されているキリル文字とその発音を習得する。 2) ロシア語の基礎的な文法を習得する。											
【授業計画と内容】											
授業は配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。 序：文字と発音 第1課 「これはナターシャです」：平叙文 第2課 「私はナターシャではありません」：人称代名詞・疑問文・否定文 第3課 「これは私のスーツケースです」：所有代名詞・指示代名詞 第4課 「あそこに古い写真があります」：形容詞と名詞の性 第5課 「雑誌を読んでいます」：動詞現在形第1変化 第6課 「日本語を話します」：動詞現在形第2変化・複数形 第7課 「彼女はどこに住んでいるのですか」：不規則動詞と前置格 第8課 「電話を持っていますか」：所有の表現・命令形 第9課 「音楽を聴いているのですか」：不規則動詞と対格 第10課 「小包を送りたい」：運動の動詞と行先の表現 第11課 「日本文学を勉強していました」：動詞の過去形 第12課 「家にいました」：様々な過去時制 第13課 「今晚はお客が来ます」：動詞の未来形・不規則動詞 第14課 「カサがありません」：生格の用法											
フィードバックについては授業中に指示します。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点30%、試験70%で評価します。											
【教科書】											
プリントを配付します。											
----- ロシア語（初級）(2)へ続く -----											

ロシア語（初級）(2)

[参考書等]

（参考書）

開講時および授業中に紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

（その他（オフィスアワー等））

詳細は開講時に指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET49 69647 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ロシア語（中級） Russian II				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 田中 大			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ロシア語の基礎									
【授業の概要・目的】											
ロシア語の初級を前年度に履修したか、それと同程度の基礎運用能力を習得している学生を対象として、ロシア語の基本文法の完成をめざします。											
【到達目標】											
1) ロシア語の基礎文法を完成させる。 2) 辞書を引けば、平易なロシア語を読めるようになる。											
【授業計画と内容】											
授業は、前年度初級に引き続き、配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。（第1回～第6回） 第15課 「夫にプレゼントを買いたいのです」：与格の表現 第16課 「紅茶は普通ミルクを入れて飲みます」：造格の表現 第17課 「日本料理店でアントンを見かけました」：活動体名詞の対格・形容詞の格変化 第18課 「それがアントンでないとどうして分かるのですか？」：動詞の完了体と不完了体 第19課 「捨てるのなら手伝います」：時制のまとめ・助動詞的用法 第20課 「もし私が鳥だったら」：仮定法 その後、ロシア語の文章を読むのに必要な文法事項をさらに学びます。（第7回～12回） ・関係詞 ・副動詞 ・形動詞 ・被動相 文法事項の確認を兼ねて、平易なロシア語の文章を読みます。（第13回～第14回） 第15回 まとめ フィードバックについては授業中に指示します。											
【履修要件】											
ロシア語（初級）を前年度に履修したか、それと同程度のロシア語能力を有していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点30%、試験70%で評価します。											
----- ロシア語（中級）(2)へ続く -----											

ロシア語（中級）(2)

[教科書]

プリントを配付します。

[参考書等]

（参考書）

開講時および授業中に紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

（その他（オフィスアワー等））

詳細は開講時に指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET17 63331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ドイツ文学とユダヤ人									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、ドイツ文学に描かれた「ユダヤ人」の像と、ドイツ語を用いて現実に活動したユダヤ人作家の文学を交互に扱う。18世紀の啓蒙主義の時代以降、ユダヤ人解放が進むにつれて、ドイツ語圏においてもユダヤ人が文化活動に参入するようになっていった。それと並行して、文学の中に「ユダヤ人」の像が描かれることも増えていくが、文学の中の「ユダヤ人」は、必ずしも現実のユダヤ人の存在とは一致しない。また、ユダヤ系作家が自ら「ユダヤ人」を文学のテーマとして取り上げるとは限らない。文学的表象と現実の関係は一筋縄ではいかず、複雑なのである。これは、ナチスによるホロコースト/ショアー（ユダヤ人虐殺）を経て、文学や映画の中で「ユダヤ人の表象があふれている現在において、なおさら持続的に考えるべき課題となっている。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツ文学に描かれた「ユダヤ人」の像について基礎的知識を得る 2. ユダヤ系ドイツ語作家について基礎的知識を得る 3. 両者の関係を考察することを通じ、文学的表象と現実の接点や乖離について考えることに慣れる 											
【授業計画と内容】											
<p>取り上げる予定のテーマは以下の通り（ただし、授業の進行速度や受講者の興味などを勘案して予定変更する場合がある）。毎回、講師による情報提供のあと、受講者参加型のディスカッションを行う。</p>											
第1回	イントロダクション	「ユダヤ人」の像と現実のユダヤ人の関係について									
第2回	レッシング『賢者ナータン』	啓蒙主義とユダヤ人解放									
第3回	ハイネとベルネ	「若きドイツ」派のユダヤ系作家たち									
第4回	ドロステ＝ヒュルスホフ『ユダヤ人のブナの木』	差別の構図									
第5回	ベルトルト・アウエルバッハ	ユダヤ的歴史小説からドイツ的「村物語」へ									
第6回	カール・クラウス『ハイネとその顛末』	「ユダヤ人の自己嫌悪」									
第7回	シュニッツラーとホーフマンスタール	「若きウィーン」派のユダヤ系作家たち									
第8回	シュニッツラー『ベルンハルディ教授』	医療倫理と宗教対立									
第9回	カフカと「プラハ・サークル」	同化と反ユダヤ主義									
第10回	カフカの動物物語	ユダヤ人の寓話？									
第11回	ツェラン『死のフーガ』	強制収容所の体験を歌う									
第12回	ツェランとホロコースト後の詩人たち										
第13回	リヒター『あのころはフリードリヒがいた』	責任があるのは誰か									
第14回	ホロコースト後「第二世代」のユダヤ系作家たち										
第15回	シュリンク『朗読者』	過去の罪の相対化									
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業中の小課題にもとづく平常点（50％）および期末レポート（50％）で評価する。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業で扱ったものに限らず、できるだけ多くの文学作品を実際に手に取って読んでみてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学156

科目ナンバリング		G-LET17 63331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ゲーテとその同時代人たち									
【授業の概要・目的】											
この授業では、ゲーテとその同時代人たちとの関係について考察する。そのことによって、18世紀後半から19世紀前半にかけてのドイツの文化状況に照明を当ててみたい。											
【到達目標】											
ゲーテとその時代にかんする知識と理解を深める。											
【授業計画と内容】											
各回のテーマは次の通り。 1 はじめに 2 ゲーテの生涯とその時代 3 家族 4 女性たち(1) 5 女性たち(2) 6 啓蒙主義 7 シュトゥルム・ウント・ドラング 8 古典主義 9 ロマン主義 10 批判者たち 11 科学者たち 12 音楽家たち 13 フランス革命 14 世界文学 15 おわりに											
【履修要件】											
ドイツ語の知識は必要としない。											
【成績評価の方法・観点】											
授業時のコメントペーパー(50%)と期末レポート(50%)によって評価する。 期末レポートについては、到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で取り上げる作品を、できるだけ自分で読んでみることを。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学157

科目ナンバリング		G-LET17 63331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 河崎 靖			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		言語学・ゲルマン語学 入門									
[授業の概要・目的]											
研究発表（ゼミ形式）による。ことばの普遍性・体系性を明らかにすることを目標とする。言語学の諸分野（音論、形態論、統語論等の諸領域）を対象に、言語体系の普遍的な法則性を探るべく、通時的考究を進める。言語体系の法則性・言語変化のメカニズムを探り、そのあり方を解明することを通して、言語の本質に迫る。											
[到達目標]											
今日の言語学の手法と併せて、言語の史的考察による種々の成果を踏まえ、言語学の方法論上の問題について考究する力が身に付くようにする。個別言語にとどまらず、言語一般の体系性が把握できることを目指す。											
[授業計画と内容]											
ゲルマン語学の諸分野（音論・形態論・統語論・意味論などの領域）を対象に、言語体系の普遍的な法則性を探るべく考究を進める。言語の理論的アプローチによる種々の成果を踏まえ、言語学の方法論上の問題についても考察する。											
第1回～第10回 研究発表（ゼミ形式）院生による。 第11回～第13回 研究発表（ゼミ形式）学部生による 第14回～第15回 まとめ											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
主に研究発表の形式をとる。発表など平常点を主に成績評価を行う。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 河崎 靖 『ゲルマン語学への誘い』（現代書館） 河崎 靖 『ゲルマン語基礎語彙集』（大学書林）											
[授業外学修（予習・復習）等]											
こちらで用意する教材に関し、授業の前後（予習・復習）に課題を課し、授業時に発表できる準備をしよう。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET17 63331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 外国人教師 TRAUDEN, Dieter			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	ドイツ語
題目		Deutsche Literatur in der Zeit des Nationalsozialismus (I)									
【授業の概要・目的】											
Deutsche Literatur in der Zeit des Nationalsozialismus (I): Das Thema dieses Kurses ist die Literatur des Zeitraums vom Erstarken des Nationalsozialismus in den 20er Jahren des 20. Jahrhunderts bis zum Ende des Zweiten Weltkriegs. Behandelt werden sowohl nationalsozialistische Schriften als auch kritische Stellungnahmen bürgerlicher wie sozialistischer Schriftsteller gegen den Nationalsozialismus. Der erste Teil des Kurses gibt einen Überblick über die Zeitgeschichte sowie eine Einführung in die Rhetorik und konzentriert sich dann auf von Nationalsozialisten verfasste Texte.											
【到達目標】											
Dieser Kurs bietet eine Einführung in die geschichtlichen Bedingungen, mit denen sich die Schriftsteller der Zeit konfrontiert sahen, sowie einen Überblick über die verschiedenen Wege und Formen, wie sie sich mit diesen auseinandersetzten. Ein besonderer Fokus liegt dabei auf den rhetorischen Mitteln, deren sich die jeweiligen Verfasser bedienten.											
【授業計画と内容】											
Jede Woche werden Werke wichtiger Autoren der Epoche vorgestellt und vor dem geschichtlichen Hintergrund der Zeit interpretiert. Der Lehrer gibt die notwendigen Informationen, mit deren Hilfe die Studenten die Interpretation selbst vornehmen können. 1.-2. Woche: Einführung in die Zeitgeschichte. 3.-4. Woche: Einführung in die Rhetorik. 5.-15. Woche: Vorstellung und Interpretation typischer Textbeispiele nationalsozialistischer Literatur (auch nach Absprache mit den Studenten). 16. Woche: "Feedback" -- Zusammenfassung des in diesem Semester Erlernenen.											
【履修要件】											
Die Studenten benötigen ausreichende Kenntnisse in der deutschen Sprache, um auch komplexere Texte lesen und verstehen zu können. Es wird erwartet, dass sie die jeweils zu besprechenden Texte gut vorbereiten.											
【成績評価の方法・観点】											
Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage der Unterrichtsbeteiligung (100 %).											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[教科書]

Die Anschaffung eines Textbuches ist nicht erforderlich. Alle nötigen Materialien werden den Studenten auf der Panda-Website zur Verfügung gestellt.

[参考書等]

(参考書)

Die Studenten sollten sich Wörterbücher (auch elektronischer) bedienen, im Zweifelsfall eine Übersicht über die deutsche Grammatik benutzen und literaturgeschichtliche Werke zu Rate ziehen.

[授業外学修(予習・復習)等]

Es wird empfohlen, dass die Studenten ihre während des Unterrichts gemachten Notizen noch einmal durchsehen und systematisieren.

(その他(オフィスアワー等))

Für Fragen der Studenten steht der Dozent nach dem Unterricht sowie nach Absprache in einer Sprechstunde zur Verfügung.

Kontakt: dtrauden@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET17 63331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 外国人教師 TRAUDEN, Dieter			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	ドイツ語
題目		Deutsche Literatur in der Zeit des Nationalsozialismus (II)									
【授業の概要・目的】											
Deutsche Literatur in der Zeit des Nationalsozialismus (II): Das Thema dieses Kurses ist die Literatur des Zeitraums vom Erstarken des Nationalsozialismus in den 20er Jahren des 20. Jahrhunderts bis zum Ende des Zweiten Weltkriegs. Behandelt werden sowohl nationalsozialistische Schriften als auch kritische Stellungnahmen bürgerlicher wie sozialistischer Schriftsteller gegen den Nationalsozialismus. Im Zentrum des zweiten Teils dieses Kurses stehen Texte von Gegnern des Nationalsozialismus, sowohl innerhalb Deutschlands als auch im Exil.											
【到達目標】											
Dieser Kurs bietet eine Einführung in die geschichtlichen Bedingungen, mit denen sich die Schriftsteller der Zeit konfrontiert sahen, sowie einen Überblick über die verschiedenen Wege und Formen, wie sie sich mit diesen auseinandersetzten. Ein besonderer Fokus liegt dabei auf den rhetorischen Mitteln, deren sich die jeweiligen Verfasser bedienten.											
【授業計画と内容】											
Jede Woche werden Werke wichtiger Autoren der Epoche vorgestellt und vor dem geschichtlichen Hintergrund der Zeit interpretiert. Der Lehrer gibt die notwendigen Informationen, mit deren Hilfe die Studenten die Interpretation selbst vornehmen können. 1. Woche: Allgemeine Einführung in das Thema des Kurses. 2.-15. Woche: Vorstellung und Interpretation typischer Textbeispiele von Nazi-Gegnern in Deutschland und im Exil (auch nach Absprache mit den Studenten). 16. Woche: "Feedback" -- Zusammenfassung des in diesem Semester Erlernen.											
【履修要件】											
Die Studenten benötigen ausreichende Kenntnisse in der deutschen Sprache, um auch komplexere Texte lesen und verstehen zu können. Es wird erwartet, dass sie die jeweils zu besprechenden Texte gut vorbereiten.											
【成績評価の方法・観点】											
Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage der Unterrichtsbeteiligung (100 %).											
【教科書】											
Die Anschaffung eines Textbuches ist nicht erforderlich. Alle nötigen Materialien werden den Studenten auf der Panda-Website zur Verfügung gestellt.											
【参考書等】											
(参考書) Die Studenten sollten sich Wörterbücher (auch elektronischer) bedienen, im Zweifelsfall eine Übersicht über											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

die deutsche Grammatik benutzen und literaturgeschichtliche Werke zu Rate ziehen.

[授業外学修（予習・復習）等]

Es wird empfohlen, dass die Studenten ihre während des Unterrichts gemachten Notizen noch einmal durchsehen und systematisieren.

（その他（オフィスアワー等））

Für Fragen der Studenten steht der Dozent nach dem Unterricht sowie nach Absprache in einer Sprechstunde zur Verfügung.

Kontakt: dtrauden@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET17 63331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岡田 暁生			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		音楽の近代と時間意識									
【授業の概要・目的】											
音楽における「近代の時間意識」とはほぼ五線譜と同義である。縦横のグリッド（五線と小節線）で音高も音価も定量的に規定される音楽。それが近代西洋音楽＝洋楽であって、事情はクラシックであれジャズであれポピュラーであれ変わらない。この授業では五線譜的な時間意識からどのような脱出の試みが行われてきたかという視点から、19・20世紀音楽全般について考察する。											
【到達目標】											
音楽に限ることなく、人間のあらゆる営みを規定するものとしてのリズムにつき、受講者自身が思索を巡らせることを求める。											
【授業計画と内容】											
1 - 3回：小節線が可能にしたもの（2021年度後期の復習） 4回：音楽原理としての「ショック」と近代 5回：巨大音響建築に取り憑かれた世紀（ベルリオーズからマーラーに至る管弦楽曲） 6 - 8回：ホール建築とホール照明の歴史 9回：ハイデガーのGestell概念と「指揮者」への盲従 10回：足踏みする時間と第一次大戦後のストラヴィンスキーとテクノ 11 - 12回：「音楽の散文」と静止した時間とワーグナー 13 - 15回：反復の原理とラヴェル『ボレロ』とレヴィストロース											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートによる。評価は到達目標の達成度に基く。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。											
【教科書】											
使用しない 毎回レジメを配布する											
【参考書等】											
（参考書） 岡田暁生『西洋音楽史』（中公新書）											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で扱う音楽についてYoutubeなどで適宜実際に聴くこと

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET17 63331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岡田 暁生			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		音楽の近代と時間意識 2									
【授業の概要・目的】											
音楽における「近代の時間意識」とはほぼ五線譜と同義である。縦横のグリッド（五線と小節線）で音高も音価も定量的に規定される音楽。それが近代西洋音楽＝洋楽であって、事情はクラシックであれジャズであれポピュラーであれ変わらない。この授業では五線譜的な時間意識からどのような脱出の試みが行われてきたかという視点から、19・20世紀音楽全般について考察する。											
【到達目標】											
音楽に限ることなく、人間のあらゆる営みを規定するものとしてのリズムにつき、受講者自身が思索を巡らせることを求める。											
【授業計画と内容】											
1 - 2回：前期の要約 3 - 4回：「遅刻」としての自由 シンコペーションとレイドバックとジャズ 5回：身体をマシンにすれば自由になる モダンジャズとポリリズムについて 6回：音楽は「点」に分解できるか シュトックハウゼンと戦後セリー音楽 7 - 9回：すべては波動だ？ 電子音楽の原理 10 - 11回：電子音楽は「楽譜・解釈・作品」の概念をどう変えたか 12回：ジョン・ケージと非決定論と賭博 13回：「終わらない時間」をどう音楽化する？ サティからマックス・リヒターまで 14回：同上 アンビエント・ミュージックの功罪 15回：テレパシー音楽は「作品」たりうるか？ シュトックハウゼンの直観音楽とフルクサス											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートによる。評価は到達目標の達成度に基く。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
毎回レジメを配る予定

[参考書等]

(参考書)
岡田暁生 『西洋音楽史』(中公新書)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に言及した音楽についてYoutubeなどで適宜聴いておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET17 6M181 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学（特殊講義） German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 細見 和之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ベンヤミンの『ドイツ悲劇の根源』 「認識批判序説」における認識批判について									
[授業の概要・目的]											
この講義では、ベンヤミンの『ドイツ悲劇の根源』の「認識批判序説」の前半をドイツ語の原文で精読することで、認識批判というベンヤミンの立場を理解することを目的とする。また、ドイツ語の原文を精読することで、受講者が高度なドイツ語の読解能力を身に付けることも目指す。											
[到達目標]											
受講生は、この講義をつうじて、ベンヤミンの認識批判という立場を学ぶとともに、広く20世紀という時代のなかで思想家がどのように生きてきたかについて、ゆたかな知識を得ることができる。また、高度なドイツ語の読解能力を身に付けることができる。											
[授業計画と内容]											
第1回 イン트로ダクション ベンヤミンの思想の大枠と、そのなかでの『ドイツ悲劇の根源』とその「認識批判序説」の位置、またその内容について、概略を説明する。 第2回から第14回 ドイツ語原文の精読 『ドイツの悲劇の根源』の「認識批判序説」の前半をドイツ語原文で冒頭から精読する。 第15回 まとめ ベンヤミンの認識批判という立場をめぐって受講者が討論することを主たる内容とする。											
[履修要件]											
ドイツ語の最低限の読解能力を有すること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（90点）、討論参加（10点）を基本にして、総合的に判定する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
ドイツ語原文の精読が基本になりますので、必ず予習をして臨んでください。背景的な知識がかなり必要になりますが、授業中に指示する参考文献も併読して、ベンヤミンの思想を軸に、ホロコーストをあいだに挟んだ20世紀の思想の展開に対して強い関心をもっていただきたいと思います。											
（その他（オフィスアワー等））											
毎週、火曜日、水曜日の昼休みには、原則として研究室にいますので、お気軽にお訪ねください。それ以外の時間帯での相談はメールでアポイントを取っていただければと思います。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学163

科目ナンバリング		G-LET17 73345 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習III) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦 文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ドイツ語学ドイツ文学の諸問題(1)									
[授業の概要・目的]											
受講者の研究発表と、それにもとづく出席者全員による討論を中心にして授業を進める。卒業論文、修士論文、博士論文の中間発表の場であると同時に、受講者が互いの研究テーマを共有し、議論を通じて問題意識を広げ、深めてゆくための場となることを期待している。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語学ドイツ文学研究のさまざまなテーマや方法にかんする知識と理解を深める。 ・研究発表とディスカッションの技法を身につける。 											
[授業計画と内容]											
受講者の人数や研究の進捗状況によって変更することもあるが、大まかな授業計画は次の通り。											
第1回 はじめに： 研究発表の要領を説明し、前期の発表日程について協議する。											
第2回～第3回 博士後期課程1回生による研究発表： 前年度に提出した修士論文の内容の報告。											
第4回～第6回 修士課程1回生による研究発表： 前年度に提出した卒業論文の内容の報告。											
第7回～第9回 博士後期課程2・3回生による研究発表： 博士論文作成に向けての中間報告。											
第10回～第15回 修士課程2回生による研究発表： 修士論文作成に向けての中間報告。											
[履修要件]											
ドイツ語学ドイツ文学専修の学生は、できるだけ出席すること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
[教科書]											
発表者が、ハンドアウトを作成して配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 発表者が、ハンドアウトを作成して配布する。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表者は事前に予告編を作成して受講者に配布し、受講者はそれを読んで討論の準備をしておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学164

科目ナンバリング		G-LET17 73345 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習III) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦 文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ドイツ語学ドイツ文学の諸問題(2)									
【授業の概要・目的】											
受講者の研究発表と、それにもとづく出席者全員による討論を中心にして授業を進める。卒業論文、修士論文、博士論文の中間発表の場であると同時に、受講者が互いの研究テーマを共有し、議論を通じて問題意識を広げ、深めてゆくための場となることを期待している。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語学ドイツ文学研究のさまざまなテーマや方法にかんする知識と理解を深める。 ・研究発表とディスカッションの技法を身につける。 											
【授業計画と内容】											
<p>受講者の人数や研究の進捗状況によって変更することもあるが、大まかな授業計画は次の通り。</p> <p>第1回～第6回 修士課程2回生による研究発表： 修士論文の中間報告。</p> <p>第7回～第9回 学部4回生による研究発表： 卒業論文の中間報告。</p> <p>第10回～第12回 博士後期課程学生による研究発表： 博士論文作成に向けての中間報告。</p> <p>第13回～第14回 修士課程1回生による研究発表： 修士論文作成に向けての中間報告。</p> <p>第15回 学部3回生による研究発表： 卒業論文作成に向けての中間報告</p>											
【履修要件】											
ドイツ語学ドイツ文学専修の学生は、できるだけ出席すること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
【教科書】											
発表者が、ハンドアウトを作成して配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 発表者が、必要に応じて紹介する。											
----- ドイツ語学ドイツ文学(演習III)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(演習Ⅲ)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

発表者は事前に予告編を作成して受講者に配布し、受講者はそれを読んで討論の準備をしておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学165

科目ナンバリング		G-LET17 7M183 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Goethe: Die Wahlverwandtschaften (1)									
[授業の概要・目的]											
この授業では、ゲーテの小説『親和力』（1809）を読む。この作品を読みながら、ゲーテの後期の文学世界の特質について考えてみたい。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ文学の作品の読解力を高める。 ・ゲーテの文学世界に親しむ。 											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 はじめに： ゲーテの生涯と作品について解説する。</p> <p>第2回～第14回 テキスト講読： テキストの前半部を精読する。</p> <p>第15回 まとめ： これまでの授業内容を総括する。</p>											
[履修要件]											
ドイツ語中級以上の語学力があること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学166

科目ナンバリング		G-LET17 7M183 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Goethe: Die Wahlverwandtschaften (2)									
[授業の概要・目的]											
この授業では、ゲーテの小説『親和力』（1809）を読む。この作品を読みながら、ゲーテの後期の文学世界の特質について考えてみたい。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ文学の作品の読解力を高める。 ・ゲーテの文学世界に親しむ。 											
[授業計画と内容]											
第1回～第14回 テクスト講読： テクストの後半部を精読する。 第15回 まとめ： これまでの授業内容を総括する。											
[履修要件]											
ドイツ語中級以上の語学力があること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学167

科目ナンバリング		G-LET17 7M183 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ドイツ文学と歴史									
[授業の概要・目的]											
<p>「史実」と「フィクション」を二項対立に捉えて区別する見方は古代から存在するが、実際には歴史と文学は密接に関わってきた。歴史小説のように、歴史から素材を取ってくる文学ジャンルが人気を誇ってきたというだけではない。歴史記述そのものが、純粹に客観的な事実を扱うというより、ある種の主観的な物語の要素を含み、したがって「文学」的な性格があることは、歴史物語論による問題提起以来、強く意識されるようになってきている。そこでは、戦争やホロコーストのようなできごとの表象困難な部分を想像力で補う文学作品の「歴史」的な性格にも注目が集まっている。特にこの観点で、ポスト真実の時代と言われる今日、文学が果たしうる役割について考える。</p>											
[到達目標]											
当該分野の研究動向を把握し、先行研究を批判的に読み、自分自身の視点を打ち出すことができるようになる。											
[授業計画と内容]											
<p>基本的に輪読形式でドイツ語の研究論文を読む予定であるが、必要に応じて個々の文学作品も視野に入れる。授業の進行予定は以下のとおり。</p> <p>第1回 授業テーマの解説 第2～14回 テキスト輪読と討論 第15回 まとめ</p>											
[履修要件]											
中級以上のドイツ語の読解能力があること											
[成績評価の方法・観点]											
平常点のみで評価。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
次回読む範囲を、ドイツ語辞書を用いて予め読んでおくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET17 7M183 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ドイツ文学と歴史									
[授業の概要・目的]											
<p>「史実」と「フィクション」を二項対立に捉えて区別する見方は古代から存在するが、実際には歴史と文学は密接に関わってきた。歴史小説のように、歴史から素材を取ってくる文学ジャンルが人気を誇ってきたというだけではない。歴史記述そのものが、純粋に客観的な事実を扱うというより、ある種の主観的な物語の要素を含み、したがって「文学」的な性格があることは、歴史物語論による問題提起以来、強く意識されるようになってきている。そこでは、戦争やホロコーストのようなできごとの表象困難な部分を想像力で補う文学作品の「歴史」的な性格にも注目が集まっている。特にこの観点で、ポスト真実の時代と言われる今日、文学が果たしうる役割について考える。</p>											
[到達目標]											
当該分野の研究動向を把握し、先行研究を批判的に読み、自分自身の視点を打ち出すことができるようになる。											
[授業計画と内容]											
<p>前期に引き続き、基本的に輪読形式でドイツ語の研究論文を読む。 取り上げるテーマとテキストについては、受講者の希望を考慮しつつ決定する。</p> <p>第1回 前期の復習と今期の課題の設定 第2～14回 テキスト輪読と討論 第15回 まとめ</p>											
[履修要件]											
中級以上のドイツ語の読解能力があること											
[成績評価の方法・観点]											
平常点のみで評価											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
次回読む範囲を、ドイツ語辞書を用いて予め読んでおくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET17 7M183 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 細見 和之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ベンヤミン『ドイツ悲劇の根源』「認識批判序説」におけるKonstellation（星座的布置）について。									
【授業の概要・目的】											
<p>この演習では、ベンヤミンの『ドイツ悲劇の根源』の「認識批判序説」の後半をドイツ語の原文で読み解くことで、ベンヤミンのKonstellation（星座的布置）という概念について理解するとともに、受講者が高度なドイツ語の読解能力を身に付けることを目指す。あわせて、受講者自身の研究発表の機会を授業のなかに組み込むことで、受講者が研究者として発信する力を身に付けることも目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>受講生は、この演習をつうじて、ベンヤミンのKonstellation（星座的布置）という概念について学ぶとともに、広く20世紀という時代のなかで思想家がどのように生きてきたかについて、ゆたかな知識を得ることができる。また、高度なドイツ語の読解能力を身に付けることができる。さらに、自分自身の発表の機会をつうじて、研究者として自らの研究内容を発信する力を身に付けることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション ベンヤミンの思想全体のなかでの『ドイツ悲劇の根源』とその「認識批判序説」の位置について、また彼のKonstellation（星座的布置）という概念について、概略的な解説をくわえる。 第2回から第14回 ドイツ語テキストの精読と受講者の発表 『ドイツ悲劇の根源』の「認識批判序説」の後半をドイツ語の原文で精読するとともに、受講生による発表の時間を組み込む。 第15回 まとめ ベンヤミンのKonstellation（星座的布置）という概念について、受講者で討論することを主たる内容とする。</p>											
【履修要件】											
ドイツ語の最低限の読解能力を有すること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（70点）、発表（20点）、討論参加（10点）を基本にして、総合的に判定する。											
----- ドイツ語学ドイツ文学(演習)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

ドイツ語論文の精読が基本になりますので、必ず予習をして臨んでください。背景的な知識がかなり必要になりますが、授業中に指示する参考文献も併読して、ベンヤミンの認識批判を軸に、ホロコーストをあいだに挟んだ20世紀の思想の展開に対して強い関心をもっていただきたいと思います。また、自分の発表に際しては、それぞれの研究テーマに引き寄せて、積極的に取り組んでください。

(その他(オフィスアワー等))

毎週、火曜日、水曜日の昼休みには、原則として研究室にいますようにしていますので、お気軽にお訪ねください。それ以外の時間帯の場合、メールでアポイントを取っていただくとありがたいです。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語及び英語
題目		Introduction to (historical) pragmatics									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業は、客員教授のJoanna Kopaczyk先生(グラスゴー大学)と家入が共同で担当します。前半部(英語による授業)をKopaczyk先生が担当し、後半部(日本語による授業)を家入が担当する予定ですが、COVID-19の感染状況によりKopaczyk先生の来日が難しい場合など、内容や使用言語等が変更になる可能性があります。</p> <p>Pragmatics is the study of language use in context, developed in the mid-20th century to answer questions such as how we do things with words, how we create and interpret implied meanings, or why we use different linguistic strategies when talking to a friend vs a superior. Historical pragmatics, which started with a seminal collection of studies in Jucker (1995), asks similar questions regarding communication during various historical periods.</p> <p>This course will introduce students to pragmatics and related theoretical and analytical frameworks, including Speech Act Theory, the Cooperative Principle, Grice's Maxims, implicatures and presuppositions, as well as Politeness and Impoliteness Theories. We will use these analytical tools to gain a better understanding of how meaning is created in context and how it is interpreted. The second part of the course will extend these insights to historical contexts. We will look at how people addressed each other in medieval and early modern England, how language reflected social order, and how to track language change from a pragmatic perspective. The course will draw on textbook examples and corpus data (e.g. from the English-corpora suite), while students will be encouraged to come up with real-life examples of language use in context to illustrate pragmatic phenomena, also in an intercultural perspective.</p>											
【到達目標】											
<p>The course will equip the students with a thorough understanding of the field of linguistic pragmatics, both from a present-day and a historical perspective. The students will learn how to use relevant methods and tools to analyse real-life examples of language use in context. They will be introduced to various historical contexts to gain insights into language use of the past. At the end of the course the students will be able to give examples and recognise various speech acts, applications and violations of Grice's maxims, as well as politeness and impoliteness strategies. They will also be applied to the notion of face to linguistic interactions. The students will be able to draw on a range of electronic and traditional sources and present conclusions in class discussion and in written form.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to (historical) pragmatics #8211 course overview (Clark 2021, Ch1) 2. Implicature and Gricean Maxims (Clark 2021, Ch2) 3. Presupposition (Griffiths 2017, Ch8, 8.4 + exercises) 4. Speech acts #8211 doing things with words (Griffiths 2017, Ch11) 5. Politeness and face (Clark 2021, Ch5) 6. Understanding impoliteness I (Culpeper 2011, Ch0 and Ch1) 											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

7. Understanding impoliteness II (Culpeper 2011, Ch2)
8. Historical pragmatics: methods and data (Jucker and Taavitsainen 2013, Ch1-Ch2)
9. Working with corpora to access pragmatic phenomena (Jucker and Taavitsainen 2013, Ch3)
10. Alas! Discourse markers and interjections (Jucker and Taavitsainen 2013, Ch4)
11. Thou Traitor! Terms of address ((Jucker and Taavitsainen 2013, Ch5)
12. Historical speech acts (Jucker and Taavitsainen 2013, Ch6)
13. Historical politeness and impoliteness ((Jucker and Taavitsainen 2013, Ch7)
14. Grammaticalisation and pragmaticalisation ((Jucker and Taavitsainen 2013, Ch8)
15. Wrapping up and essay discussion

[履修要件]

Active participation in discussions, data retrieval and analysis.

[成績評価の方法・観点]

attendance/class contribution 40%
essay 60%

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

- Jucker, Andreas H. and Irma Taavitsainen 『English historical pragmatics』 (Edinburgh University Press, 2013)
- Clark, Billy 『Pragmatics: The Basics』 (Routledge, 2021)
- Culpeper, Jonathan 『Impoliteness. Using language to cause offence』 (CUP, 2011)
- Griffiths, Patrick 『An introduction to English semantics and pragmatics』 (Edinburgh University Press, 2017)
- Brown, Penelope and Stephen C. Levinson 『Politeness. Some universals in language usage』 (CUP, 1987)
- Chapman, Siobhan 『Pragmatics』 (Palgrave Macmillan, 2011)
- Culpeper, Jonathan and Michael Haugh 『Pragmatics and the English language』 (Palgrave Macmillan, 2014)
- Cutting, Joan and Kenneth Fordyce 『Pragmatics: A resource book for students』 (Routledge, 2020)
- Grundy, Peter 『Doing pragmatics』 (Routledge, 2019)
- Jucker, Andreas (ed.) 『Historical pragmatics. Pragmatic developments in the history of English』 (John Benjamins, 1995)
- Levinson, Stephen C. 『Pragmatics』 (CUP, 1983)
- Paquot, Magali and Stephan T. Gries (eds.) 『A practical handbook of corpus linguistics』 (Springer, 2020)

英語学英米文学(特殊講義)(3)

(関連URL)

<https://varieng.helsinki.fi/CoRD/index.html>(Corpus Resource Database (CoRD))

<https://www.english-corpora.org/corpora.asp>(English-Corpora.org)

[授業外学修(予習・復習)等]

Assigned reading

(その他(オフィスアワー等))

本授業の前半はJoanna Kopaczyk先生(グラスゴー大学)がご担当になりますが、授業担当者の家入が補助をいたします。必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学171

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 廣田 篤彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Paradise Lost, Book I 精読									
【授業の概要・目的】											
17世紀英文学を代表する詩人の一人であるJohn Miltonの代表作Paradise Lostの冒頭巻の精読を通じてその特徴を、イングランド宗教改革、内戦 - 共和制 - 王政復古という政治上の激動などの文脈において理解することを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期近代の詩の読み方を身につける。 ・ 授業で扱う詩に描かれた当時の社会と英文学の関係を理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業では予め指定した担当に従って各受講者が解釈をし、該当箇所に関する問題提起をすることが求められる。</p> <p>一学期間の授業で扱えるのは長大な叙事詩の極一部にすぎないが、毎回扱う詩行は相当な分量になり、これをOxford English Dictionaryやその他の関連文献を参照しながら精読するためには多大な労力が求められる。</p> <p>なお教科書として指定したものの他にも本作品は複数出版されているので、学術的な注釈が付いているものであれば他の版を使用しても構わない。</p>											
<p>第1回 イン트로ダクション 担当箇所を決定するので受講希望者は必ず出席すること Paradise Lost The Verse / Book I The Argument</p> <p>第2回 Paradise Lost Book I 1-67行</p> <p>第3回 同 67-131</p> <p>第4回 同 132-202</p> <p>第5回 同 203-270</p> <p>第6回 同 271-330</p> <p>第7回 同 331-391</p> <p>第8回 同 392-461</p> <p>第9回 同 462-530</p> <p>第10回 同 531-594</p> <p>第11回 同 594-669</p> <p>第12回 同 670-737</p> <p>第13回 同 738-798</p> <p>第14回 全体のまとめ</p>											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

第15回 フィードバック

各行の難易度また担当者の習熟度に応じて進度には多少の変更の可能性がある。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

担当箇所の口頭発表 80%、その他授業への貢献 20%により評価する。正当な理由なく2回以上欠席した場合は単位を認めない。

【教科書】

John Milton 『Paradise Lost』 (W. W. Norton & Company, 2020) ISBN:978-0393617085 (Norton Critical Edition, ed. Gordon Teskey)

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修 (予習・復習) 等】

毎回Oxford English Dictionaryなどを使って十分に予習をしてから授業に臨むこと。授業後は、授業中の解説を理解したうえで要点を整理し、巻全体の理解に努めること。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学172

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 南谷 奉良			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Kazuo IshiguroのNever Let Me Go (2005)を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>Kazuo IshiguroのNever Let Me Go (2005)の精読を通じて、その作家の語彙や文体、表現技法に習熟しながら、テキストの記述を支えている歴史的・文化的背景を考察する。同作はIshiguroによるブッカー賞最終候補作であり、マーク・ロマネク監督によって優れた映画化もなされている。情報や事実、記憶が抑制的に語られ、徐々に明らかにされていく筆致と展開を通じて、受講者はわかりやすい言葉、明晰な論理、筋の通ったロジックを疑う契機をつくりだし、文学テキストでこそ表現可能になる未明の言葉の領域を体感してもらいたい。</p>											
【到達目標】											
<p>(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。</p> <p>(2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。</p> <p>(3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 作者と作品についての解説と、時代背景の概説、関連文献の紹介を行い、今後の進め方について説明する。授業では担当部分を割り振り、受講者の発表を通じてディスカッションを行う。半期で物語すべて(ペーパーバック版で282頁)を読み終える予定であるため、一周につき20-30ページほどの英文読解が課題となる。</p> <p>第2回 pp.3-24 第3回 pp.25-48 第4回 pp.49-75 第5回 pp.76-97 第6回 pp.98-109 第7回 pp.113-135 第8回 pp.136-154 第9回 pp.155-181 第10回 pp.182-199 第11回 pp.203-232 第12回 pp.233-251 第13回 pp.252-270 第14回 pp.271-282 第15回 まとめ+質疑応答</p>											
----- 英語学英米文学(特殊講義) (2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業への参加状況・口頭発表（60％）と学期末レポート（40％）によって評価する。

【教科書】

Kazuo Ishiguro 『Never Let me Go』（2010（Paperback版））ISBN:9780571258093（https://www.amazon.co.jp/Never-Let-Me-Kazuo-Ishiguro/dp/0571258093/ref=sr_1_1?__mk_ja_JP=カタカナ&crd=9DXWGMZ48OZB&keywords=Never+Let+me+Go&qid=1670693097&srefix=%2Caps%2C585&sr=8-1）必要に応じて資料を配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは火曜13：00～14：30。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 森 慎一郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		翻訳実践									
【授業の概要・目的】											
異文化を理解するための根幹的な作業の一つが異なる文化を媒介する言語の翻訳である。本授業では、翻訳を通して英語圏の文化、社会、歴史に関する一般的な知識を習得すること、そして翻訳の実践とその際に生じる諸問題の考察を通じて、文化の多様性への関心と敬意を培い、文化間の交流・架橋の試みに伴う困難や意義を具体的に身をもって学ぶ。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する。 ・多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する。 ・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画（以下は本科目全体でカバーするおおよそのテーマの目安であり、各回の授業では、これらの問題のいくつかを翻訳作業の実践を通じて考えることとなります）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．イントロダクション～異文化理解と翻訳 2．翻訳を通じた異文化との出会い～その基礎と心得、現状と課題 3．コミュニケーションとしての翻訳（1）：異文化間架橋に伴う困難の諸側面を概観する 4．コミュニケーションとしての翻訳（2）：英語と日本語の差異および背景となる英語圏文化と日本文化の差異のイメージをつかむ 5．英語的思考と日本語的思考（1）：翻訳技術の必要性の背後にある英語圏と日本の言語文化的差異を理解する 6．英語的思考と日本語的思考（2）：英語と日本語の言語構造に反映された英語圏と日本の文化的差異を理解する 7．異文化テキストの同化の仕方（1）：英語と日本語の言語文化間の差異を踏まえた適切な距離の縮め方を探る 8．異文化テキストの同化の仕方（2）：日本語と英語における代名詞の位置づけの違いとその言語文化的意味合いを考察する 9．異文化テキストの異質性の活かし方（1）：訳語の統一等によって英語と日本語との根本的なずれ（ひいては異文化間の世界観のずれ）をあえて可視化し、そうした違和を異文化の異質性としてテキストに残すことの意義を考える 10．異文化テキストの異質性の活かし方（2）：ルビ等の活用法から英語文化を日本語に同化させつつもその異質性を維持尊重するための折衷的手段を検討する 11．言語と文化の差異を超えて（1）：言葉の意味に加えて音やリズムも翻訳に生かすという難題に取り組んでみることで、言語文化的越境の新たな可能性を探る 12．言語と文化の差異を超えて（2）：英語の言葉遊びを日本語に置き換える方法を模索することを通じて、言語とユーモアの関係の文化間差異を検討し、その架橋の可能性を探る 13．翻訳の限界と可能性（1）：感覚的表現、詩的表現等、文化的差異の深層に根差した難解な表現を安易な解釈を避けつつ日本語化してみることで、異文化との邂逅から生じる創造的可能性を 											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

探る

14. 翻訳の限界と可能性(2): ここまでの実践を踏まえて翻訳を通じた異文化間コミュニケーションの限界と可能性について考察する

15. まとめとディスカッション: 翻訳にまつわる諸問題について受講者全員でディスカッションを行う

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点(60%)と期末の翻訳課題(40%)を合わせて評価する。平常点は、学期を通じた授業への貢献度を評価する。期末課題については、到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

David Bellos 『Is That a Fish in Your Ear?: The Amazing Adventure of Translation』(Penguin) ISBN: 978-0241954300

[授業外学修(予習・復習)等]

各回、こちらで指定した英文テキスト(短めのもの)を数名の担当者が翻訳した原稿を全員で検討するという形で授業を進めるので、翻訳担当の受講者には、翻訳原稿および翻訳の際に気になった点をまとめたメモを事前にメール等で提出してもらおう。他の受講者も、その回のテキストを熟読して自分なりの翻訳のイメージを形作り、担当者の翻訳についての的確なコメントができるよう準備しておくこと。

* 本年度の授業で取り上げるテキストの多くは一昨年度(2021年度)後期に扱ったものと同じになりますのでご注意ください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		20世紀アメリカ文学における祝祭や儀式の表象 Truman Capoteの短編を中心に									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業は、Truman Capoteの短編におけるさまざまな祝祭や儀式の表象を通じて、アメリカ文化の諸相を探る。誕生日、クリスマス、感謝祭、葬儀といった祝祭や儀式が開催される場において、いかなる他者との相互交流の可能性が有り得るのかについて考察する。異文化体験について英語で討論することによって、多様な文化のあり方を実践的に理解する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する ・多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する ・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する 											
【授業計画と内容】											
<p>注意：テキストはあくまでも暫定的なものである。必ず初回授業にて配布するシラバスを参照すること</p> <p>第1回：【序論】Truman Capoteと祝祭と儀式 第2回：A Christmas Memoryを読む 第3回：One Christmasを読む 第4回：The Thanksgiving Visitorを読む 第5回：Children on Their Birthdaysを読む（1） 第6回：Children on Their Birthdaysを読む（2） 第7回：A Tree of Nightを読む 第8回：【異文化体験についてのプレゼンテーション】前半のまとめとして、これまで授業で学んできた知見を活かして、自らの異文化体験を英語で述べる 第9回：A Diamond Guitarを読む 第10回：Hospitalityを読む 第11回：A Beautiful Childを読む 第12回：A Mink of One's Ownを読む 第13回：The Headless Hawkを読む 第14回：レポートワークショップ 第15回：【総論】人種・民族・種族等、様々な社会文化的側面において多様な在り方がせめぎ合う場としての現代アメリカ文学を包括的に理解する</p>											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回のコメントシートの記入（20％）・発表（40％：予定回数は2回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表は担当するテキストに関するもので、25分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートは授業内で取りあげたテキストに関するものとする。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

基本的にテキストはウェブにアップロードする
すでにネット上で読むことができるものは、その旨指示をする

【授業外学修（予習・復習）等】

事前に扱う作品を読んでくること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学175

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 谷口 一美			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知構文論									
【授業の概要・目的】											
この授業では、認知文法、構文文法の最新の動向を把握すると共に、得られた知見を受講者各自の研究テーマへと発展的に応用させることを目的とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。 ・ 言語事象に対する観察力を養う。 											
【授業計画と内容】											
認知言語学の代表的な学術雑誌である Cognitive Linguistics や近刊の論文集を中心とし、重要な英語論文を取り上げる。担当者が論文の概要を発表し、その内容について、全員でディスカッションを行う。											
第1回：ガイダンス 第2回：認知文法(論文1前半) 第3回：認知文法(論文1後半) 第4回：認知文法(論文2前半) 第5回：認知文法(論文2後半) 第6回：構文文法(論文1前半) 第7回：構文文法(論文1後半) 第8回：構文文法(論文2前半) 第9回：構文文法(論文2後半) 第10回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文1前半) 第11回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文1後半) 第12回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文2前半) 第13回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文2後半) 第14回：全体の総活とディスカッション 第15回：フィードバック											
【履修要件】											
認知言語学の基礎知識を備えていることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への参加状況(20%)、学期末のレポート(80%)から総合的に評価する。											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[教科書]

論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 谷口 一美			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知意味論研究									
【授業の概要・目的】											
この授業では、認知意味論を中心に取り扱い、メタファーやメトニミー、主観性など言語の意味拡張に関わる様々な現象を考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。 ・ 言語事象に対する観察力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業では受講生の興味関心や履修状況に応じて、以下の認知言語学（特に認知意味論）の主要テーマをいくつか取り上げ、文献を講読する。それぞれ2週前後、授業を行う予定である。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：認知言語学の理論的概要 第3回：言語学と心理学の関わり（1）：図と地の分化（導入） 第4回：言語学と心理学の関わり（1）：図と地の分化（考察） 第5回：言語学と心理学の関わり（2）：視線と主観性（導入） 第6回：言語学と心理学の関わり（2）：視線と主観性（考察） 第7回：カテゴリー化と言語（1）：プロトタイプ・カテゴリー（導入） 第8回：カテゴリー化と言語（1）：プロトタイプ・カテゴリー（考察） 第9回：カテゴリー化と言語（2）：抽象化とスキーマ（導入） 第10回：カテゴリー化と言語（2）：抽象化とスキーマ（考察） 第11回：イメージ・スキーマと言語の意味（導入） 第12回：イメージ・スキーマと言語の意味（考察） 第13回：意味の拡張：メタファーとメトニミー 第14回：文法構文と意味 第15回：フィードバック</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語学全般、あるいは認知言語学の基礎知識を備えていること。 											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポート（80%）、授業への取り組みの状況（20%）から総合的に評価する。											
【教科書】											
論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学大学院言語教育情報研究科 滝沢 直宏 教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		英語語法文法研究									
【授業の概要・目的】											
<p>英語の語法文法の研究をする際には、まずもって英語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。受講生には、語彙・語法・文法・表現・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から英語を観察し、興味深い例を発見することを求める。その上で、受講生各自が一週間間に発見した例のうち、特に興味深いと思われる数例をMailing Listで紹介し合い、それを全員で検討しながら、英語の語法文法に関する理解を深める。</p> <p>収集した各例には、その例を特徴づける分類タグをできるだけ多く付与することが求められる。付与した分類タグの分だけ、一つの例を多角的に見たことになる。分類タグには、関連する言語学上の専門用語を正確に用いることも重要になってくるので、言語学関係の用語辞典を頻繁に参照することも必要となる。同時に、Quirk et al. (1985)、Huddleston & Pullum (2002)、Biber et al. (1999)など、既存の文法書を随時参照することも重視される。</p>											
【到達目標】											
日常的に触れている何気ない英文を分析的・複眼的に見る目が培われると同時に、言語学的な概念が習得される。											
【授業計画と内容】											
第1回 語法文法研究とは 第2回 英文のデータベース構築 第3回-第14回 興味深い英文の紹介と英語学的・言語学的検討 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
日頃の課題提出を含む平常点。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) Quirk et al. 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 (Longman, 1985) (20世紀最大の 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

英文法書)

Huddleston and Pullum 『The Cambridge Grammar of the English Language』 (Cambridge University Press, 2002)

Biber et al. 『A Longman Grammar of Spoken and Written English』 (Pearson Education, 1999)

他にも参照すべき語法書、文法書は多い。適宜、授業で紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

多くの英文を日常的に読み、英語語法文法の観点、言語学的観点から例文を収集し、全員が加入するMailing Listに投稿することを求める。不断の努力を怠らないこと。

(その他(オフィスアワー等))

用事・質問がある場合には、メールでご連絡ください。必要に応じて、Zoomで面談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学大学院言語教育情報研究科 滝沢 直宏 教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		英語語法文法研究									
【授業の概要・目的】											
<p>英語の語法文法の研究をする際には、まずもって英語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。受講生には、語彙・語法・文法・表現・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から英語を観察し、興味深い例を発見することを求める。その上で、受講生各自が一週間間に発見した例のうち、特に興味深いと思われる数例をMailing Listで紹介し合い、それを全員で検討しながら、英語の語法文法に関する理解を深める。</p> <p>収集した各例には、その例を特徴づける分類タグをできるだけ多く付与することが求められる。付与した分類タグの分だけ、一つの例を多角的に見たことになる。分類タグには、関連する言語学上の専門用語を正確に用いることも重要になってくるので、言語学関係の用語辞典を頻繁に参照することも必要となる。同時に、Quirk et al. (1985)、Huddleston & Pullum (2002)、Biber et al. (1999)など、既存の文法書を随時参照することも重視される。</p>											
【到達目標】											
日常的に触れている何気ない英文を分析的・複眼的に見る目が培われると同時に、言語学的な概念が習得される。											
【授業計画と内容】											
第1回 語法文法研究とは 第2回 英文のデータベース構築 第3回-第14回 興味深い英文の紹介と英語学的・言語学的検討 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
日頃の課題提出を含む平常点。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) Quirk et al. 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 (Longman, 1985) (20世紀最大の 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

英文法書)

Huddleston and Pullum 『The Cambridge Grammar of the English Language』 (Cambridge University Press, 2002)

Biber et al. 『A Longman Grammar of Spoken and Written English』 (Pearson Education, 1999)

他にも参照すべき語法書、文法書は多い。適宜、授業で紹介する。

[授業外学修 (予習・復習) 等]

多くの英文を日常的に読み、英語語法文法の観点、言語学的観点から例文を収集し、全員が加入するMailing Listに投稿することを求める。不断の努力を怠らないこと。

(その他 (オフィスアワー等))

用事・質問がある場合には、メールでご連絡ください。必要に応じて、Zoomで面談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学179

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		三重大学 教育学部 教授 西村 秀夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古英語研究(1)									
[授業の概要・目的]											
この講義の目的は、アングロサクソン人とスカンジナビア人の遭遇・接触のさまざまな局面を伝える原典テキストの講読を通して古英語の基礎を修得することにある。さらに、語彙や表現における北欧語の影響についても考察する。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・グロッサリーや語形変化表、想像力を駆使して古英語のテキストが読みこなせるようになる。 ・古英語期におけるAnglo-Norse Contactの状況について関心をもつ。 ・古ノルド語の初歩を身につける。 											
[授業計画と内容]											
前期は古英語、古ノルド語の基本的な文法事項を解説した後、散文テキストを読む。必要に応じて古ノルド語のテキストも取り上げる。											
第1回 英語史概説：印欧語、ゲルマン語としての英語 第2-3回 古英語の基礎 第4回 古ノルド語の基礎 第5-8回 Anglo-Saxon Chronicle (抜粋) の講読 第9-15回 Ohthere and Wulfstanの講読											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点 40%, レポート 60% (予定)											
[教科書]											
Peter S. Baker 『Introduction to Old English 3rd ed.』 (Wiley-Blackwell) ISBN:978-0-470-65984-7 ハイナー・ギルマイスター 『英語史の基礎知識』 (開文社出版) ISBN:978-4-87571-574-0											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
<ul style="list-style-type: none"> ・新たな外国語を学ぶに等しいので、むやみに欠席すると脱落するのは必定。 ・下調べに際して、丹念に辞書を引き、注釈にあたるという姿勢が必須。 											
(その他(オフィスアワー等))											
連絡先等は初回の授業で知らせます。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学180

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		三重大学 教育学部 教授 西村 秀夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古英語研究(2)									
[授業の概要・目的]											
この講義の目的は、アングロサクソン人とスカンジナビア人の遭遇・接触のさまざまな局面を伝える原典テキストの講読を通して古英語の基礎を修得することにある。さらに、語彙や表現における北欧語の影響についても考察する。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・グロッサリーや語形変化表、想像力を駆使して古英語のテキストが読みこなせるようになる。 ・古英語期におけるAnglo-Norse Contactの状況について関心をもつ。 ・古ノルド語の初歩を身につける。 											
[授業計画と内容]											
後期は韻文テキストを読む。											
第1回 前期の復習 第2回 古英詩概説 第3-10回 The Battle of Maldonの講読 第11-15回 The Battle of Brunanburhの講読											
進み具合によっては新たなテキストを取り上げる。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点 40%, レポート 60% (予定)											
[教科書]											
Peter S. Baker 『Introduction to Old English 3rd ed.』 (Wiley-Blackwell) ISBN:978-0-470-65984-7 ハイナー・ギルマイスター 『英語史の基礎知識』 (開文社出版) ISBN:978-4-87571-574-0#160											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
<ul style="list-style-type: none"> ・新たな外国語を学ぶに等しいので、むやみに欠席すると脱落するのは必定。 ・下調べに際して、丹念に辞書を引き、注釈にあたるという姿勢が必須。#160 											
(その他(オフィスアワー等))											
連絡先等は初回の授業で知らせます。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学181

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都ノートルダム女子大学 木島 菜菜子 国際言語文化学部 講師			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『大いなる遺産』を読む									
【授業の概要・目的】											
ディケンズの小説は、時代や地域を超えて読み継がれ、文化や社会に影響を与えてきた。本授業では、中でも特に完成度の高さと評価の高い後期の小説『大いなる遺産』を取り上げる。作品の背景や、これまでの先行研究で議論されてきた点、用いられている小説の技法なども考慮に入れながら、原書を丁寧に読み解き、作品の読みどころと作家ディケンズの想像力を分析する。											
【到達目標】											
丁寧に辞書を引ながら原書を楽しんで読むことができる。 小説読解のための基礎的な英語力を身につけている。 小説を論じるための基礎的な概念や知識を身につけており、自分の言葉で作品の読みどころを論じることができる。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション 授業の進め方の説明 ディケンズについて 第2回 Great Expectations Chapter 1, 2 書き出しについて 第3回 Great Expectations Chapter 3, 4 語りについて(1) 第4回 Great Expectations Chapter 5 時の設定について 第5回 Great Expectations Chapter 6, 7 登場人物について 第6回 Great Expectations Chapter 8、場所の設定について 第7回 Great Expectations Chapter 9, 10 主人公について 第8回 Great Expectations Chapter 11 階級について 第9回 Great Expectations Chapter 12, 13 時代背景について 第10回 Great Expectations Chapter 14, 15 Intertextualityについて 第11回 Great Expectations Chapter 16, 17 風景について 第12回 Great Expectations Chapter 18, 19 言語について 第13回 Great Expectations Chapter 20, 21 都市の描写について 第14回 Great Expectations Chapter 22 語りについて(2) 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし。英語で小説を読むことが好きな学生の受講を希望する。											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（各回のコメントペーパー）：50%
期末レポート：50%

[教科書]

Charles Dickens 『Great Expectations』（Penguin）ISBN:9780141439563

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎週、該当する章を読み、コメントペーパーを提出する。

（その他（オフィスアワー等））

授業は原則として日本語でおこなう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都ノートルダム女子大学 木島 菜菜子 国際言語文化学部 講師			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『大いなる遺産』を読む(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>ディケンズの小説は、時代や地域を超えて読み継がれ、文化や社会に影響を与えてきた。本授業では、中でも特に完成度の高さと評価の高い後期の小説『大いなる遺産』を取り上げ、前期に読んだ範囲の続きを読む(後期のみの受講も可能)。作品の背景や、これまでの先行研究で議論されてきた点、用いられている小説の技法なども考慮に入れながら、原書を丁寧に読み解き、作品の読みどころと作家ディケンズの想像力を分析する。</p>											
【到達目標】											
<p>丁寧に辞書を引きながら原書を楽しんで読むことができる。 小説読解のための基礎的な英語力を身につけている。 小説を論じるための基礎的な概念や知識を身につけており、自分の言葉で作品の読みどころを論じることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション(授業の進め方の説明、ディケンズについて、Great Expectations Chapter 1~31までのあらすじ) 第2回 Great Expectations Chapter 32, 33 家庭について 第3回 Great Expectations Chapter 34, 35 天気について 第4回 Great Expectations Chapter 36, 37 subplotについて 第5回 Great Expectations Chapter 38 教育について 第6回 Great Expectations Chapter 39、謎の解明について 第7回 Great Expectations Chapter 40、犯罪について 第8回 Great Expectations Chapter 41, 42 階級について 第9回 Great Expectations Chapter 43, 44 演劇性について 第10回 Great Expectations Chapter 45, 46 サスペンスについて 第11回 Great Expectations Chapter 47, 48 書き出しの再考 第12回 Great Expectations Chapter 49, 50 死について 第13回 Great Expectations Chapter 51, 52, 53、alter egoについて 第14回 Great Expectations Chapter 54~59 まとめ 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
<p>特になし。英語で小説を読むことが好きな学生の受講を希望する。</p>											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（各回のコメントペーパー）：50%
期末レポート：50%

[教科書]

Charles Dickens 『Great Expectations』 (Penguin) ISBN:9780141439563

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎週、該当する章を読み、コメントペーパーを提出する。

（その他（オフィスアワー等））

授業は原則として日本語でおこなう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学（特殊講義） English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 准教授 西谷 茉莉子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		W.B.イエイツの詩集The Wild Swans at Cooleを読む									
【授業の概要・目的】											
<p>The Wild Swans at Cooleは、アイルランドの詩人W. B. イエイツ(1865-1939)が1917年（改訂版は1919年）に発表した詩集であり、初期の幻想的な作風を脱し、円熟期を迎えた詩人の珠玉の作品が収められている。作品が書かれた1910年代は、第一次世界大戦、アイルランドにおけるナショナリストの蜂起など、社会的動乱が続いた。一方、私生活においては、1917年、彼は長年の報われない愛に終止符を打ち、結婚という転機を迎える。また、この頃の作品には、アメリカ出身の詩人エズラ・パウンドの影響を受け、技巧面において実験精神が見られることも特筆すべきであろう。本講義では、このようなコンテクストを理解したうえで、個々の作品を精読する。</p> <p>授業の前半では、イエイツの詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の訳の発表とディスカッションを行う。後半では、作品と関連する社会的・政治的事象、伝記的背景、文学史上重要な出来事などを教員が解説する。さらに、英詩を読むために必要な知識の導入や他の詩人の作品との比較などを併せて行うことで、作品への多角的なアプローチを図る。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 作品の精読と翻訳を通じて、詩を読む力を錬成する。 2. 作品についての口頭発表やディスカッションを通じて、詩を論じる力を身に付ける。 3. 作品と関連する社会的・政治的事象、伝記的背景、文学史上重要な出来事などをふまえて作品を考察することができる。 4. 英詩を読解するために必要な知識を身に付ける。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション：W.B.イエイツについて、および作品と関連する社会的・政治的事象、伝記的知識、文学史上重要な出来事などを説明する。授業の進め方や準備の仕方について周知し、発表の担当を決める。</p> <p>第2回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第3回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第4回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第5回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第6回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第7回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第8回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第9回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第10回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第11回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第12回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p> <p>第13回 詩集The Wild Swans at Coole所収の詩作品の精読</p>											
----- 英語学英米文学（特殊講義）(2)へ続く -----											

英語学英米文学（特殊講義）(2)

第14回 まとめ
第15回 フィードバック

授業計画は、状況によって変更することがあります。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業参加度(20点)、発表(30点)、レポート(50点)で総合的に評価する。

【教科書】

テキストや注釈等については、授業内でプリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する
授業内で紹介する文献は積極的に手にとってください。

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回、一篇、あるいは二編の詩を扱う予定です。
担当者は、訳を作成して、前日までに西谷まで提出してください。
担当者以外の履修者も、作品を読んでディスカッションに備えてくること。

（その他（オフィスアワー等））

連絡先等は初回の授業でお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学184

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 教授 出口 菜摘			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		アメリカ女性詩人の作品を読む									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、第二波フェミニズム運動期のアメリカ女性詩人たちの作品・評論を読み、フェミニズムの基本用語や概念、また共有された問題意識についての理解を深めることにある。同時に、詩作品の翻訳作業を通じて、知識だけではなく、詩人の息づかいや声を感じ取ることを目指す。											
【到達目標】											
アメリカ女性詩人たちの作品を読むことで、「シスターフッド」「母性」「ルッキズム批判」「ブラックフェミニズム」などの第二波フェミニズム期における論点や動向を理解する。											
【授業計画と内容】											
1.Introduction 2.Sylvia Plath 3.Sylvia Plath 4.Adrienne Rich 5.Adrienne Rich 6.Adrienne Rich 7.Robin Morgan 8.Robin Morgan 9.Audre Lord 10.Audre Lord 11.Anne Sexton 12.Anne Sexton 13.Margaret Atwood 14.Margaret Atwood 15.Review											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点50%(コメントやディスカッション等)と期末レポート50%で判断する。レポートの内容については授業時に指示する。											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
初回授業でプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

作品を精読したうえで、テーマに関して問題意識を明確にして授業に臨むこと。また、関連する先行研究や関連資料にも目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

教員の連絡先は以下の通り。n_deguchi@kpu.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 准教授 後藤 篤			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		19世紀アメリカ小説研究 Edgar Allan Poeを読む									
【授業の概要・目的】											
Edgar Allan Poe (1809-49) の短篇小説および先行研究・批評等の関連資料を読む。「死」や「恐怖」、「埋葬」、「分身」などのゴシック的なテーマを持つ“The Fall of the House of Usher”(1839)、“William Wilson”(1839)、“The Masque of the Red Death”(1842)、“The Black Cat”(1843)のほか、史上初の推理小説とも呼ばれる“The Murders in the Rue Morgue”(1841)を扱う予定。毎回の授業では、作者の伝記や19世紀アメリカン・ルネサンス期の文学史・文化史的事象に関する解説もまじえながら、受講者による発表とディスカッションをもとに課題範囲を演習形式で講読する。											
【到達目標】											
比較的難易度の高いテキストの解釈に取り組むことにより、文章の一語一句に込められた微妙なニュアンスが読み取れるような英文解釈のセンスに磨きをかける。同時に、批評理論・文化理論や関連する欧米の文化事象についての知識と理解を深めるなかで、作品のテキスト/コンテキストを読み解く批評眼を養う。											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクシヨN											
第2回 “The Masque of the Red Death”(1)											
第3回 “The Masque of the Red Death”(2)											
第4回 “The Fall of the House of Usher”(1)											
第5回 “The Fall of the House of Usher”(2)											
第6回 “The Fall of the House of Usher”(3)											
第7回 “William Wilson”(1)											
第8回 “William Wilson”(2)											
第9回 “William Wilson”(3)											
第10回 “The Murders in the Rue Morgue”(1)											
第11回 “The Murders in the Rue Morgue”(2)											
第12回 “The Murders in the Rue Morgue”(3)											
第13回 “The Black Cat”(1)											
第14回 “The Black Cat”(2)											
第15回 授業のまとめ・フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート50%と発表課題30%、平常点20%（毎回の授業中の発言やディスカッションへの貢献、授業後のコメント提出）を総合的に判断する。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

Peter Barry 『Beginning Theory: An Introduction to Literary and Cultural Theory』（Manchester UP, 2017）

三原芳秋・渡邊英理・鵜戸聡編 『クリティカル・ワード 文学理論 読み方を学び文学と出会いなおす』（フィルムアート社、2020）

[授業外学修（予習・復習）等]

辞書・辞典類、アメリカ言語文化および批評理論・文化理論、現代思想に関する文献資料あるいはインターネット資料を積極的に参照し、毎回の範囲を丁寧に予習した上で授業に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		佛教大学文学部英米学科 准教授 メドロック 麻弥			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Vladimir Nabokov _Laughter in the Dark_ 研究									
【授業の概要・目的】											
Vladimir Nabokov (1899-1977)の小説 _Laughter in the Dark_ (1938)を精読する。1933年に出版されたロシア語小説 _Kamera Obscura_ の英語版というよりは、Nabokovによる実質上最初の英語小説といっても過言ではないこの小説を精読することにより、英語作家Nabokovの技巧やテーマ、そして彼の芸術観について理解する。											
【到達目標】											
技巧的な散文を読み解く想像力と論理的思考力を習得する Nabokovの世界観を説明することができる 文学作品の緻密な読み方を習得する											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション											
第2回 Chapter 1-2 輪読											
第3回 Chapter 3-4 輪読											
第4回 Chapter 5-7 輪読											
第5回 Chapter 8-10 輪読											
第6回 Chapter 11-13 輪読											
第7回 Chapter 14-16 輪読											
第8回 Chapter 17-19 輪読											
第9回 Chapter 20-21 輪読											
第10回 Chapter 22-24 輪読											
第11回 Chapter 25-27 輪読											
第12回 Chapter 28-30 輪読											
第13回 Chapter 31-33 輪読											
第14回 Chapter 34- 輪読											
第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

【成績評価の方法・観点】

平常点70点+学期末レポート30点として評価する。
平常点としては、予習の状況、授業への貢献を評価する。
レポートでは、作品の基本的な理解度や、精読を通して得られた問題点について論理的に分析しているか、といった点を評価する。

【教科書】

Vladimir Nabokov 『Laughter in the Dark』 (Penguin, 2001) ISBN:9780141186528

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

一回の授業で、できれば2章ぶんの輪読をします。自分なりの日本語訳ができるように、毎回予習して授業にのぞんでください。日本語訳だけでなく、問題点、気になる点などもまとめてきてください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーはありません。質問、連絡等は電子メールで受け付けます。
maya-m@bukkyo-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 文学部 教授 吉田 恭子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Short Stories Onscreen									
【授業の概要・目的】											
<p>この講義では、映画化されたアメリカ短編小説を4作を講読します。 文字メディアも映像メディアも物語伝達の形式として互いに影響を与えあってきましたが、その表現手法や受容プロセスは大きく違います。また、長編小説の映画化は物語の圧縮を伴いますが、短編小説の映画化にはまた別の創意工夫が必要とされます。 受講生は短編小説、もしくはその映像アダプテーションについて発表をし、期末に短い論文を提出します。授業中に映画の一部を上映しますが、受講生は残りを各自視聴しておくことが求められます。</p>											
【到達目標】											
<p>(1) 英語短編小説を原文で読みその内容を的確に理解できる。 (2) 個々の英語短編小説について作品の特徴を指摘し、口頭や文章で言語化できる。 (3) 文字メディアと映像メディアの物語形式の違いやアダプテーションの理論について興味をもって考察できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 アメリカの短編小説と映像アダプテーションについて 第2~13回 短編(1)から(3)について講読・発表・映像作品との比較 第14回 期末小論文提出 第15回 課題へのフィードバック・ふりかえり</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>到達目標の(1)~(3)の達成度について、以下の割合で評価する。</p> <p>授業参加20% 発表30% 期末小論文50%</p> <p>発表と小論文については授業で説明する。</p>											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[教科書]

KULASISより短編を配布します。映画上映については授業中に説明します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

事前に短編を読んでおくこと。また、映画全体を見ておくことが求められます。

(その他(オフィスアワー等))

授業前後の相談、メールでの問い合わせを受けつけます

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 特任講師 HOFMEYR, Michael Frederick			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Academic Writing 1: Language and Society									
【授業の概要・目的】											
<p>This course will introduce students to the core concepts and key debates within the discipline of sociolinguistics, which is concerned with the multitudinous ways in which language and society may influence one another. As this is a content-focussed course taught through the medium of English, students will be expected to read a substantial amount of authentic academic materials in English, to summarise in their own words what they have read, and to engage in in-depth classroom discussion of the content. This will help to hone their academic writing abilities and also to improve their general English language proficiency.</p>											
【到達目標】											
<p>This course will introduce students to the field of sociolinguistics by means of a series of class discussions touching on key questions and issues in the field, for example the matters of regional and social dialects and how social status can be reflected and reinforced through language. In terms of English language skills, the primary focus will be on the development of academic reading and writing skills. Students will also be able to expand their vocabulary range in order to discuss a variety of topics related to linguistics and gain a better understanding of the complex interrelationship between languages and the societies in which they are used.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Students will be given weekly reading assignments to prepare before each class. They will also receive sets of text review questions for homework which serve the threefold purpose of directing them to the most important information for note-taking during reading, providing support during group discussion seminars and facilitating revision for quizzes and for the final test. Classroom sessions will take the form of small-group discussion seminars and short interactive lectures to clarify and explain relevant concepts. Evaluation will consist of a quiz and a test to evaluate students' ability to express in writing their understanding of and opinions regarding the course content. Students will also write a research essay on a topic related to the work discussed in class and present their findings to the whole class at the end of the semester.</p> <p>Week 1 - Introduction to the course, diagnostic writing exercise Week 2 - Class discussion of Fromkin et al. (dialects and accents) Week 3 - Class discussion of Fromkin et al. (lexical and syntactic variation) Week 4 - Class discussion of Fromkin et al. (standardisation of dialects) Week 5 - Quiz, class discussion of Fromkin et al. (social dialects) Week 6 - Class discussion of Fromkin et al. (gendered language) Week 7 - Class discussion of Fromkin et al. (pidgins and creoles) Week 8 - Test Week 9 - Class discussion of Fromkin et al. (individual and social bilingualism) Week 10 - Class discussion of Fromkin et al. (dialects and accents) Week 11 - Class discussion of Fromkin et al. (accommodating dialectal differences) Week 12 - Class discussion of sociolinguistic issues in Japan (dialectal diversity) Week 13 - Final essay due, Class discussion of sociolinguistic issues in Japan (languages)</p>											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

Week 14 - Class presentations on essay research
Week 15 - Class presentations on essay research

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Homework: 10%
Quiz: 10%
Test: 30%
Essay: 40%
Presentation: 10%

[教科書]

The instructor will provide all the necessary materials for this course, so there is no need for students to buy a textbook. However, students are expected to bring a notebook to every class as well as a file or binder for storing handouts.

Furthermore, supplementary reading materials and assignments will be provided to accommodate students who have taken the course in previous years.

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

Weekly reading preparation for class discussion. Revision for quiz and test. Research essay and final presentation will also be prepared outside of class.

(その他(オフィスアワー等))

If students have any questions or concerns about the course, they are welcome to contact the instructor directly via email at mfhofmeyr@gmail.com.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 特任講師 HOFMEYR, Michael Frederick			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Academic Writing 2: English in a Global Context									
[授業の概要・目的]											
<p>This course will introduce students to the notion of English as a global language and also to the academic debates surrounding the dominant role that the language has come to assume across a wide range of international arenas. Topics of discussion will include what it means to be a global language, the history of the spread and diversification of the English language across the world and the future prospects of English as a global language. Throughout the course, students will be encouraged to develop and share their own opinions about the role of English both in Japan and in the wider world today. As this is a content-focussed course taught through the medium of English, students will be expected to read a substantial amount of authentic academic materials in English, to summarise in their own words what they have read, and to engage in in-depth classroom discussion of the content. This will help to hone their academic writing abilities and also to improve their general English language proficiency.</p>											
[到達目標]											
<p>This course will increase students' knowledge and understanding of the various roles that the English language plays in the world today and of the social, cultural, and historical contexts that have shaped its development over past centuries. Group discussions and presentations will develop students' oral communication skills and turn them into more confident English speakers, while the substantial amount of reading required for each class will help to improve reading speed and to expand academic and practical vocabulary. Academic research and writing skills in particular will be further developed through an essay assignment.</p>											
[授業計画と内容]											
<p>Students will be given weekly reading assignments from the prescribed text to prepare before each class. They will also receive sets of text review questions for homework which serve the threefold purpose of directing them to the most important information for note-taking during reading, providing support during group discussion seminars and facilitating revision for the class quiz and the final test. Classroom sessions will take the form of small-group discussion seminars and short interactive lectures to clarify and explain relevant concepts. Evaluation will consist of a class quiz and a test to evaluate students' ability to express in writing their understanding of and opinions regarding the course content. Students will also write a research essay on a topic related to the work discussed in class and present their findings to the whole class at the end of the semester.</p> <p>Week 1 - Introduction to the course, diagnostic writing exercise Week 2 - Class discussion of Crystal chapter 1 (What is a global language?) Week 3 - Class discussion of Crystal chapter 1 (advantages and disadvantages of a global language) Week 4 - Class discussion of Crystal chapter 2 (Kachru's three circles) Week 5 - Quiz, class discussion of Crystal chapter 3 (English and the British Empire) Week 6 - Class discussion of Crystal chapter 4 (English and the globalisation of culture) Week 7 - Class discussion of Crystal chapter 4 (English in the media)</p>											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

Week 8 - Test

Week 9 - Class discussion of Crystal chapter 5 (English in the United States)

Week 10 - Class discussion of Crystal chapter 5 (Global “ Englishes ”)

Week 11 - Class discussion of Crystal chapter 5 (the future of English)

Week 12 - Class discussion on English in Japan (foreign language education in the school system)

Week 13 - Final essay due, Class discussion on English in Japan (the role of English in Japan)

Week 14 - Class presentations on essay research

Week 15 - Class presentations on essay research

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Homework: 10%

Quiz: 10%

Test: 30%

Essay: 40%

Presentation: 10%

[教科書]

Crystal, David 『English as a Global Language』 (Cambridge University Press) ISBN:1107611806 (2nd edition)

Note: Students should ensure that they have the full English edition of the text. There also exists an abridged Japanese-English bilingual edition. However, this bilingual edition does NOT contain all the necessary content for this course. In addition to purchasing the prescribed text, students are expected to bring a notebook to every class as well as a file or binder for storing handouts.

Furthermore, supplementary reading materials and assignments will be provided to accommodate students who have taken the course in previous years.

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Weekly reading preparation for class discussion. Revision for quiz and test. Research essay and final presentation will also be prepared outside of class.

(その他 (オフィスアワー等))

If students have any questions or concerns about the course, they are welcome to contact the instructor directly via email at mfhofmeyr@gmail.com.

英語学英米文学(特殊講義)(3)へ続く

英語学英米文学(特殊講義)(3)

オフィスパワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東京大学総合文化研究科 教授 石原 剛			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日米比較児童文学研究 マーク・トウェインを中心に									
【授業の概要・目的】											
<p>明治以降今日まで、日本人がいかなる紆余曲折を経ながらアメリカの国民的作家マーク・トウェインを受容してきたか検討する。トウェイン文学は、アメリカに特徴的な広大な空間、アメリカが抱えてきた人種の問題、アメリカ独特の言葉や言い回しなど、背景となるアメリカ文化と密接につながっている。従って、アメリカと文化様式や伝統を異にする日本人にとっては、作品のエッセンスを十分に理解することが難しかった。その結果、日本人にとって受け入れやすい側面のみが強調されたり、日本人が理解しやすい内容を改変するといったことが頻繁に行われた。そういった、日本人によるトウェイン文学の削除や強調、改変をみていくことは、即ち日米の文学や文化の伝統や特徴の相違そのものを検討していくことに他ならない。従って、本授業の講義部分では、特に日本の文学や文化の伝統、さらに同時代の日本の社会状況や大衆文化などに目を配りつつ、日本版のトウェイン作品が同時代の文化・社会状況をいかに反映しているのか、原作との比較を交えながら検討していく。そうすることで、同時に、日米文学・文化の相違や、日本の児童文学・文化の功罪をも考えていく。マーク・トウェインの日本受容を検討することで、最終的には、今日のアメリカ文化のグローバル化について考える際のヒントや視点を提供できればと考えている。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. Mark Twain文学について深く考えることで、アメリカ文学の特質をも理解する。 2. 比較文学研究の実例を示すことで、その手法と理論的枠組みを理解する。 3. アメリカ文化のグローバル化が孕む問題を理解する。 4. 外国文学を受容するとはいかなる営為の下でなされるものか理解する。 5. 外国文学の翻訳・翻案とはいかなる営みであるか理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>以下はあくまでも予定です。受講生の人数などによって適宜調整します。</p> <p>1日目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1回、2回：明治期のトウェインと日本(講義) ・ 3回、4回：受講生による発表&ディスカッション(演習) <p>2日目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5回、6回：大正期の児童文学とトウェイン(講義) ・ 7回、8回：受講生による発表&ディスカッション(演習) <p>< 中日 > 休憩日</p>											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

3日目

- ・ 9回、10回：戦時下のマーク・トウェイン(講義)
- ・ 11回、12回：受講生による発表&ディスカッション(演習)

4日目

- ・ 13回、14回：戦後占領期のマーク・トウェイン(講義)
- ・ 15回：授業内容全体に関する総括&ディスカッション

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

発表(40%)、翻訳比較に関するレポート(40%)、授業での質疑応答(20%)で総合的に評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

受講までに以下の課題について調査をして、30~40分程度で調査内容を授業内に発表できるように準備しておいてください。レジュメはB4で1枚程度(裏表使用可)を目安にしてください。レジュメの様式は自由ですが、発表タイトルとお名前、そして使用した文献は必ずレジュメに記載するようにしてください。発表の担当日と時限は、出来る限り授業開始前に決定して、お知らせします。

テーマ：同じ原作(アメリカ文学作品)を訳した異なる翻訳を読み比べ、その翻訳の違いについて考察してください。

【注意事項】原作はアメリカ文学作品に限定します。訳文を検討する際は、必ず英語原文も参照してください。同じ原作なのになぜ訳文が異なるのか、理由なども考えながら、考察してください。(「異なる原作」の翻訳を比較するという意味ではありません。例えば、ポーの「黒猫」の翻訳とポーの「アッシャー家の崩壊」の翻訳の比較という意味ではありません。)マーク・トウェインの作品については授業で集中的に扱うので、トウェイン以外のアメリカ文学作品を選択してください。

質問があれば、連絡先メールアドレスまでご連絡ください。

英語学英米文学(特殊講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

連絡はメールで行います。メールアドレスは、ishihara@g.ecc.u-tokyo.ac.jpです。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学191

科目ナンバリング		G-LET20 7M193 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学（演習） English and American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		英語史研究の方法									
【授業の概要・目的】											
具体的な研究を通じて、英語史研究の方法を学びます。また、授業を通して、資料収集の方法、データ整理の方法、論文の作成方法など、研究に必要な手法を習得します。											
【到達目標】											
研究論文の多読を通じて、英語史全般についての体系的な知識を身につけます。同時に、その知識を自らの研究テーマを発展させるために多面的に利用する力を身につけます。											
【授業計画と内容】											
1回目 イン트로ダクション											
2回目～15回目 授業は、以下のような作業の組み合わせにより行います。 ・参考図書として指定したThe Evolution of Pragmatic Markers in English: Pathways of Change（図書館のものを利用）を講読する。 ・実際に学術雑誌に公刊された研究論文を読み、その問題点を指摘するとともに、学術的にどのような貢献がなされているかを議論する。（否定的な批判をするだけでなく、自分が同じテーマで論文を書く場合を想定した建設的な議論を行う。） ・参考図書や論文の中で取り上げられたテーマの中からトピックを選び、ミニリサーチを行う。 ・それぞれの研究テーマにしたがって、研究計画を作成し、その計画に沿って研究を進める。 ・参加者の専門分野によっては、古英語・中英語の講読を行うこともある。											
【履修要件】											
最初の授業でガイダンスを行いますので、受講者は必ず出席するようにしてください。出席できない場合は、事前に連絡を取ってください。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への貢献度(70%)およびレポート(30%)により総合的に評価します。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） Laurel J. Brinton 『The Evolution of Pragmatic Markers in English: Pathways of Change』（Cambridge University Press）ISBN:978-1107129054											
----- 英語学英米文学（演習）(2)へ続く -----											

英語学英米文学（演習）(2)

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

【授業外学修（予習・復習）等】

事前に指定された資料や論文を読み議論を行う際には、予習を行って議論に参加できるようにしておいてください。詳細は、授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学192

科目ナンバリング		G-LET20 7M193 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学（演習） English and American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		英語史研究の方法									
【授業の概要・目的】											
具体的な研究を通じて、英語史研究の方法を学びます。また、授業を通して、資料収集の方法、データ整理の方法、論文の作成方法など、研究に必要な手法を習得します。											
【到達目標】											
研究論文の多読を通じて、英語史全般についての体系的な知識を身につけます。同時に、その知識を自らの研究テーマを発展させるために多面的に利用する力を身につけます。											
【授業計画と内容】											
1回目 イン트로ダクション											
2回目～15回目 授業は、以下のような作業の組み合わせにより行います。 ・参考図書として指定したThe Evolution of Pragmatic Markers in English: Pathways of Change（図書館のものを利用）を講読する。 ・実際に学術雑誌に公刊された研究論文を読み、その問題点を指摘するとともに、学術的にどのような貢献がなされているかを議論する。（否定的な批判をするだけでなく、自分が同じテーマで論文を書く場合を想定した建設的な議論を行う。） ・参考図書や論文の中で取り上げられたテーマの中からトピックを選び、ミニリサーチを行う。 ・それぞれの研究テーマにしたがって、研究計画を作成し、その計画に沿って研究を進める。 ・参加者の専門分野によっては、古英語・中英語の講読を行うこともある。											
【履修要件】											
最初の授業でガイダンスを行いますので、受講者は必ず出席するようにしてください。出席できない場合は、事前に連絡を取ってください。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への貢献度(70%)およびレポート(30%)により総合的に評価します。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） Laurel J. Brinton 『The Evolution of Pragmatic Markers in English: Pathways of Change』（Cambridge University Press）ISBN:978-1107129054											
----- 英語学英米文学（演習）(2)へ続く -----											

英語学英米文学（演習）(2)

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

【授業外学修（予習・復習）等】

事前に指定された資料や論文を読み議論を行う際には、予習を行って議論に参加できるようにしておいてください。詳細は、授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学193

科目ナンバリング		G-LET20 7M193 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 廣田 篤彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		King Richard II 演習1									
【授業の概要・目的】											
William Shakespeare, Richard II の精読を通じて、この作家の文体、語彙に関する基本的な知識を習得し、その内容について考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ Oxford English Dictionary等の辞書の使い方を身につけ、これらを参照しながら、初期近代イギリスの戯曲テキストを自力で読めるようになる。 ・ 初期近代イギリス文学に関する基本的知識を身につけ、自ら論文のテーマを見つけられるようになる。 											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション											
第2-15回 テクストの精読 各受講者に予め担当を割り振る方式によってテキストを精読し、内容について討論する。											
場面毎の難易度の違いによって、また、受講者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことは出来ないが、概ね一人あたり100行を目途に担当してもらう。											
一学期の授業では読み終わらないと思われるので後期に継続する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（担当箇所の解釈50%、テキスト全体の理解度50%）にて評価する。											
【教科書】											
William Shakespeare 『King Richard II』 (Bloomsbury, 2002) ISBN: 978-1903436332 (Arden Third Ser. Ed. Charles R. Forker)											
----- 英語学英米文学(演習)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予めOxford English Dictionary等の辞書を丹念に参照して、一語一語についてその意味を検討した上で授業に臨むこと。授業後は作品中での当該箇所の意味について考察をすること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学194

科目ナンバリング		G-LET20 7M193 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 廣田 篤彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		King Richard II 演習2									
[授業の概要・目的]											
前期の演習1に引き続き、William Shakespeare, Richard IIの精読を通じて、この作家の文体、語彙に関する基本的な知識を習得し、その内容について考察する。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ Oxford English Dictionary等の辞書の使い方を身につけ、これらを参照しながら、初期近代イギリスの戯曲テキストを自力で読めるようになる。 ・ 初期近代イギリス文学に関する基本的知識を身につけ、自ら論文のテーマを見つけられるようになる。 											
[授業計画と内容]											
<p>第1-15回 テキストの精読 各受講者に予め担当を割り振る方式によってテキストを精読し、内容について討論する。 前期終了箇所から読み始める。</p> <p>場面毎の難易度の違いによって、また、受講者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことは出来ないが、概ね一人あたり100行を目途に担当してもらう。</p>											
[履修要件]											
前期の演習1からの継続受講を原則とする。後期からの受講を希望する者は初回に担当者に申し出ること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（担当箇所の解釈50%、テキスト全体の理解度50%）にて評価する。											
[教科書]											
William Shakespeare 『King Richard II』 (Bloomsbury, 2002) ISBN: 978-1903436332 (Arden Third Ser. Ed. Charles R. Forker)											
[参考書等]											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
[授業外学修（予習・復習）等]											
<p>予めOxford English Dictionary等の辞書を丹念に参照して、一語一語についてその意味を検討した上で授業に臨むこと。授業後は作品中での当該箇所の意味について考察をすること。</p>											
(その他（オフィスアワー等）)											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学195

科目ナンバリング		G-LET20 7M193 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 南谷 奉良			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Dubliners 演習1									
【授業の概要・目的】											
James JoyceのDubliners (1914)の短篇を通じて、その作家の語彙や文体、表現技法に習熟しながら、テキストの記述を支えている歴史的・文化的背景を考察する。各自の関心とアプローチに応じて、作品の魅力を説明できるようになることを目的とする。											
【到達目標】											
(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。 (2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。 (3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクション 作者と作品についての解説と、時代背景の概説、関連文献の紹介を行い、今後の演習の進め方について説明する。											
第2-15回 テキストの精読 担当部分を割り振り、受講者の発表を通じてディスカッションを行う。おおよそ3回の授業で一つの短篇を読み進め、前期で4作品を読み終わる予定。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の達成度に基づき、平常点・授業参加・口頭発表(60%)とレポート(40%)で総合的に評価する。											
----- 英語学英米文学(演習)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、一語一語の意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは火曜13:00から14:30までとする。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡をすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学196

科目ナンバリング		G-LET20 7M193 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 南谷 奉良			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Dubliners 演習2									
【授業の概要・目的】											
James JoyceのDubliners (1914)の短篇を通じて、その作家の語彙や文体、表現技法に習熟しながら、テキストの記述を支えている歴史的・文化的背景を考察する。各自の関心とアプローチに応じて、作品の魅力を説明できるようになることを目的とする。											
【到達目標】											
(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。 (2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。 (3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクション 作者と作品についての解説と、時代背景の概説、関連文献の紹介を行い、今後の演習の進め方について説明する。 第2-15回 テキストの精読 担当部分を割り振り、受講者の発表を通じてディスカッションを行う。おおよそ3回の授業で一つの短篇を読み進め、後期で4作品を読み終わる予定。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の達成度に基づき、平常点・授業参加・口頭発表(60%)とレポート(40%)で総合的に評価する。											
----- 英語学英米文学(演習)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習として、Oxford English Dictionary及び授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、原文の一字一句も疎かにせず、どの一語にも未だ知られざる事実と解釈が眠っていると想定して、その意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは火曜13:00から14:30までとする。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡をすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学197

科目ナンバリング		G-LET20 7M193 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 森 慎一郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Ernest Hemingway, The Sun Also Risesを読む(1)									
[授業の概要・目的]											
Ernest Hemingwayの代表作の一つThe Sun Also Rises (1926)を精読する。小説の精緻な読解に取り組むことで、文学研究の地力を養う。											
[到達目標]											
文学テキスト読解の精度を高めること。細部をおろそかにせず小説を丁寧に読む姿勢を養うこと。											
[授業計画と内容]											
<p>授業では基本的に輪読形式でテキストを丁寧に読んでいく。この形で読み切れない範囲については、受講者の当番制でその内容、問題点等について簡単に報告してもらい、それをもとに参加者全員で話し合うことで理解を確かめる。</p> <p>授業スケジュールは以下のとおり。</p> <p>第1週：イントロダクション 第2～14週：テキスト講読 第15週：まとめとフィードバック</p> <p>前期はテキストのおおよそ半ばまで読み進む予定。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点100%で評価する。											
[教科書]											
Ernest Hemingway 『The Sun Also Rises』 (Scribner) ISBN:978-1501121968											
[参考書等]											
(参考書)											
H.R. Stoneback 『Reading Hemingway's The Sun Also Rises』 (Kent State UP) ISBN:978-0873388672											
[授業外学修(予習・復習)等]											
各回の授業で読み進む範囲の綿密な予習は必須。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学198

科目ナンバリング		G-LET20 7M193 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 森 慎一郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Ernest Hemingway, The Sun Also Risesを読む(2)									
[授業の概要・目的]											
Ernest Hemingwayの代表作の一つThe Sun Also Rises (1926)を精読する。小説の精緻な読解に取り組むことで、文学研究の地力を養う。											
[到達目標]											
文学テキスト読解の精度を高めること。細部をおろそかにせず小説を丁寧に読む姿勢を養うこと。											
[授業計画と内容]											
<p>授業では基本的に輪読形式でテキストを丁寧に読んでいく。この形で読み切れない範囲については、受講者の当番制でその内容、問題点等について簡単に報告してもらい、それをもとに参加者全員で話し合うことで理解を確かめる。</p> <p>授業スケジュールは以下のとおり。</p> <p>第1週：イントロダクション</p> <p>第2～14週：テキスト講読</p> <p>第15週：まとめとフィードバック</p> <p>後期はテキストの後半を読み進む予定。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点(70%)と学期末の英語レポート(30%)で評価する。											
[教科書]											
Ernest Hemingway 『The Sun Also Rises』(Scribner) ISBN:978-1501121968											
[参考書等]											
(参考書)											
H.R. Stoneback 『Reading Hemingway's The Sun Also Rises』(Kent State UP) ISBN:978-0873388672											
[授業外学修(予習・復習)等]											
各回の授業で読み進む範囲の綿密な予習は必須。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学199

科目ナンバリング		G-LET20 7M193 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Billy Buddを読む(1)									
[授業の概要・目的]											
Herman Melvilleの海洋小説_Billy Budd_の前半部を丁寧に読むことで、Melvilleの文体の特徴、小説世界について把握する。なお、後半部は後期にて扱う。											
[到達目標]											
19世紀アメリカ文学における主要作品を自分なりに解釈する勇気と胆力を養う。 作品理解に必要な歴史的事象について綿密に調べる。											
[授業計画と内容]											
本授業は受講者による発表・ディスカッションが主体となる。 第1回 イントロダクション 第2回から第15回 受講者による発表・ディスカッション											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
発表(60%)およびディスカッションでの貢献(40%)によって評価する。 (教科書)											
[教科書]											
Melville, Herman 『Billy Budd, Sailor and Selected Tales (Oxford World's Classics)』 (Oxford) ISBN: 0199538913 (授業中、常時参照するのでかならずこの版を購入すること)											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
本作のアノテーションを作成するぐらいの意気込みで調べてくること。 (その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学200

科目ナンバリング		G-LET20 7M193 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Billy Buddを読む(2)									
[授業の概要・目的]											
Herman Melvilleの海洋小説_Billy Budd_の後半部を丁寧に読むことで、Melvilleの文体の特徴、小説世界について把握する。本作読了後、余裕があれば_Benito Cereno_にも取り組む。											
[到達目標]											
19世紀アメリカ文学における主要作品を自分なりに解釈する勇気と胆力を養う。 作品理解に必要な歴史的事象について綿密に調べる。											
[授業計画と内容]											
本授業は受講者による発表・ディスカッションが主体となる。 第1回 イントロダクション 第2回から第15回 受講者による発表・ディスカッション											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
発表(60%)およびディスカッションでの貢献(40%)によって評価する。 (教科書)											
[教科書]											
Melville, Herman 『Billy Budd, Sailor and Selected Tales (Oxford World's Classics)』 (Oxford) ISBN: 0199538913 (授業中、常時参照するのでかならずこの版を購入すること)											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
本作のアノテーションを作成するぐらいの意気込みで調べてくること。 (その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学201

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 永盛 克也			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		マリヴォーの喜劇を読む									
【授業の概要・目的】											
フランス文学の精髓ともいえるマリヴォー (Marivaux, 1688-1763) の喜劇の特色について考察する。 マリヴォーの作品が創作され、上演された当時の演劇の状況や社会的背景をも視野に入れつつ、マリヴォー劇の巧みな劇作法、繊細な心理分析、洗練された台詞の魅力をその代表作の一つ『偽りの告白』 (Les Fausses Confidences, 1737) の読解を通して理解することを目的とする。											
【到達目標】											
フランス喜劇の劇作法と劇言語の仕組みを理解する。 フランス喜劇を代表する作家であるマリヴォーの作品の特質を理解する。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下のプランに従って講義を進める。 ただし講義の進みぐあいに対応して順序や同一テーマの回数を変えることがある。											
第1回 イン트로ダクション 18世紀初頭におけるフランス演劇の状況 第2回 マリヴォー 人と作品 第3回 マリヴォーとイタリア人劇団について 第4回-第6回 マリヴォー喜劇の特色について 第7回-第14回 『偽りの告白』読解 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業での発表 (20%) および期末レポート (80%)											
【教科書】											
プリント等を配布する											
【参考書等】											
(参考書) マリヴォー 『偽りの告白』 (岩波文庫) ISBN:9784003251768 佐藤実枝 『マリヴォー 『偽りの打ち明け話』 翻訳と試論』 (早稲田大学出版部) ISBN: 9784657130167											
										フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く	

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

Marivaux 『Théâtre complet』 (Le Livre de Poche) ISBN:9782253132530

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で扱うテキストは十分に予習しておくこと。また、授業中で読むことのできなかつた部分は各自で読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 森本 淳生			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ステファヌ・マラルメ「詩と散文」III (2023)									
【授業の概要・目的】											
<p>2021年度より開始したステファヌ・マラルメの詩と散文を精読する授業です。昨々年度からの継続ですが、個々の詩篇・テキストは独立したものですので、今年度からの受講でもまったく問題ありません。</p> <p>マラルメはフランス象徴主義の代表的な存在で、抒情的主体の表現を基本とするロマン主義の後を受けて、むしろ詩における発話主体の消滅や言語の非人称性にきわめて自覚的であった詩人でした。と同時に、『ディヴァガシオン』に収められたテキストは、演劇やバレエ、見世物から穴掘りの労働者にいたるまで同時代の社会事象に着目し、それを散文的な詩篇(「批評詩」)にまで高めたものとして知られています。詩・散文とも19世紀にとどまらず、20世紀に入ってから、ヴァレリーからサルトル、ブランショを経てデリダ、フーコー、ランシエール、メイヤスーと、現在にいたるまで大きな影響を与え続けています。</p> <p>今年度はマラルメの代表作である「エロディアド」および「半獣神の午後」を中心とする諸作を、Bertrand MarchalのLectures de Mallarmé、Pierre Citronによる註解、および『マラルメ全集』の邦訳と註解などを参考にして精読します。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語文法の諸項目に習熟し、それを実際の読解において使いこなせるようになる。 ・複雑な構文、豊富な語彙をもつテキストをある程度のスピードと正確さで読みこなせるようになる。 ・文章の細部の読解と全体的な理解とを有機的に結びつけ、立体的に読むことができるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>イントロダクション(1) 授業の概要、進め方、分担割り当て</p> <p>イントロダクション(2) フランス詩法概説、マラルメ概説</p> <p>Mallarmé, L'Azur講読</p> <p>Mallarmé, Hérodiade - Scène講読(1)</p> <p>Mallarmé, Hérodiade - Scène講読(2)</p> <p>Mallarmé, Hérodiade - Scène講読(3)</p> <p>Mallarmé, Cantique de saint Jean講読</p> <p>エロディアドをめぐって(講義)</p> <p>中間まとめ</p> <p>Mallarmé, Quand l'ombre menaçait de la fatale loi講読</p> <p>Mallarmé, L'Après-midi d'un Faune講読(1)</p> <p>Mallarmé, L'Après-midi d'un Faune講読(2)</p> <p>Mallarmé, L'Après-midi d'un Faune講読(3)</p> <p>まとめ</p> <p>定期試験</p> <p>フィードバック</p>											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

[履修要件]

フランス語文法の概要を習得し一定の読解力を持っていること。

[成績評価の方法・観点]

平常点50%、定期試験50%

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

詩篇についてはBertrand MarchalのLectures de Mallarmé、Pierre Citronによる註解、および、筑摩版マラルメ全集の訳文・解説を参考書として精読します。詩篇も哲学者のテキストも、それぞれ担当者を決めて訳読していきますが、担当者以外も必ず予習をして授業に臨んでください。「読み合わせの機会」は外国語の読解力を獲得するうえできわめて重要です。予習をするなかで自分なりに問題点を洗い出し、「ひとりでも読んで・調べて分かること」と「ひとりでは分からないこと」を腑分けして自覚できるようになることは、文学研究だけでなく、社会人となっても広く役に立つはずです。

(その他(オフィスアワー等))

KULASISの「オフィスアワー機能」を参照。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学203

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	フランス語
題目		La Princesse de Clèves : un roman d ' analyse psychologique au XVIIe siècle									
【授業の概要・目的】											
La jeune Mademoiselle de Chartres, 16 ans, d ' une éducation parfaite, fait son entrée à la cour du roi de France sous les yeux attentifs de sa mère. Le prince de Clèves, saisi par sa beauté, en tombe amoureux et la demande en mariage. Mais bientôt la rencontre avec le duc de Nemours vient mettre le cœur de la jeune femme à l ' épreuve : comment faire face à une passion amoureuse que le devoir condamne ? Œuvre romanesque majeure de la littérature française au point d ' en constituer un emblème dans les médias contemporains, ce roman d ' analyse psychologique est l ' occasion de découvrir une autrice du XVIIe siècle et de mieux connaître la culture française sous l ' Ancien Régime.											
【到達目標】											
Dans ce séminaire, nous effectuerons une analyse fine du texte en français, puis nous nous intéresserons à la réception contemporaine de cette œuvre, et notamment aux réécritures (littéraires, cinématographiques, etc.) et aux discussions politiques sur la littérature auxquelles elle a donné lieu en France au XXIe siècle.											
【授業計画と内容】											
Semaine 1 : Introduction générale. Semaines 2 à 7 : Lecture et commentaire du texte en français. Séances 8 à 14 : Réception contemporaine de l ' œuvre. Semaine 15 : échange et feedback.											
【履修要件】											
Ce séminaire est ouvert à tous les étudiants désireux d ' approfondir leur connaissance de la culture et de la littérature française. Le séminaire se déroulera intégralement en français.											
【成績評価の方法・観点】											
Dans la première partie du semestre, des tests rapides et réguliers viennent accompagner la lecture de l ' œuvre de Madame de La Fayette (30%). Dans la deuxième partie du semestre, un devoir sera à rédiger en français (par exemple un compte-rendu d ' un article japonais ou d ' un chapitre d ' un ouvrage universitaire japonais, ou une comparaison des traductions d ' un passage, ou encore une analyse de la réception de l ' œuvre) (40%). La note finale tiendra compte de l ' assiduité des étudiants et de leur participation active lors des séances (30%).											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義) (2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義) (2)

[教科書]

Marie-Madeleine de La Fayette 『La Princesse de Clèves』 (Flammarion, 2019) ISBN:978-2081489738
édité par Jean Mesnard

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

Le séminaire s'appuie sur un travail de lecture en français très régulier et sur une participation active pendant les cours.

(その他(オフィスアワー等))

Les étudiants sont invités à prendre directement contact avec l'enseignante pour fixer un rendez-vous.
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学204

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	フランス語
題目		Les émotions dans la littérature française du XVIIe siècle									
【授業の概要・目的】											
<p>Au XVIIe siècle, les émotions, appelées passions ou encore affections de l'esprit, sont à la fois un objet majeur de la réflexion savante et une matière féconde de la production littéraire, artistique et oratoire. Les philosophes, les théologiens, mais aussi les médecins publient des traités des passions dans lesquels ils étudient méticuleusement la colère, la joie ou encore l'amour : quelles sont les causes de ces émotions ? quels sont leurs bons et leurs mauvais usages ? comment les contrôler ? Cette connaissance du cœur humain se diffuse largement dans les arts et les belles-lettres, qui y trouvent une source inépuisable pour la dramaturgie : la tragédie s'emploie à explorer les souffrances que produisent les passions, tandis que la littérature en prose offre des possibilités remarquables d'exploration de l'intériorité. La peinture et la musique donnent également lieu à une réflexion aboutie pour déterminer la meilleure manière de représenter les émotions.</p>											
【到達目標】											
<p>Dans ce séminaire d'histoire des idées et d'histoire de la littérature, nous chercherons à comprendre comment les émotions étaient conçues au XVIIe siècle et nous verrons comment elles sont représentées dans les différents genres littéraires. Ce séminaire permettra donc aux étudiants d'enrichir leur connaissance de la littérature, de la pensée et de la culture françaises du XVIIe siècle.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Introduction générale (séance 1). Littérature du XVIIe siècle, histoire des émotions, histoire des idées (séances 2-14). Semaine 15: feedback.</p>											
【履修要件】											
<p>Ce séminaire est ouvert à tous les étudiants désireux d'approfondir leur connaissance de la culture française et/ou de l'histoire des émotions. Le séminaire se déroulera intégralement en français.</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>D'une part, des tests courts et réguliers viennent valider le travail de lecture des extraits d'œuvres en français (30%). D'autre part, un compte-rendu de lecture d'un article japonais ou d'un chapitre d'un ouvrage universitaire japonais sera à rédiger en français (40%). La note finale tiendra compte de l'assiduité des étudiants et de leur participation active lors des séances (30%).</p>											
【教科書】											
<p>使用しない L'enseignante fournira tous les textes étudiés. Les étudiants sont toutefois priés de consacrer un cahier à la</p>											
<p>フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く</p>											

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

prise de notes pendant ce séminaire, et d'avoir un porte-documents pour y rassembler l'ensemble des textes fournis.

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Le séminaire s'appuie sur un travail de lecture en français très régulier d'extraits d'œuvres du XVII^e siècle (Madeleine de Scudéry, François de Sales, René Descartes, Blaise Pascal, François de La Rochefoucauld, etc.). Environ 10-15 pages seront données à la lecture chaque semaine. Les textes seront fournis par l'enseignante.

(その他(オフィスアワー等))

Les étudiants sont invités à prendre directement contact avec l'enseignante pour fixer un rendez-vous.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 鳥山 定嗣			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ヴァレリーの「ナルシス作品群」研究									
【授業の概要・目的】											
<p>フランス19-20世紀の詩人・批評家ヴァレリー（Paul Valéry, 1871-1945）が生涯にわたって追究した「ナルシス作品群」を取り上げ、ナルシス神話の起源と変遷を概観したうえで、この神話的主題をヴァレリーがどのように変奏したかを考察する。</p> <p>ギリシア神話のナルシスは世紀末芸術やデカダン・象徴派文学のトポスとなったが、ヴァレリーはこの主題を変奏しつつ、詩における主題と形式の照応や「作品は決して完成しない」といったみずからの詩学＝制作学を形成する一方、実人生においてもこの神話的形象を通して不可能な愛を渴望した。ヴァレリーの作品・芸術観・恋愛観にナルシス神話がどのように関与しているかを考察するとともに、他の作家たちが提示するナルシス像と比較することによってヴァレリーのナルシス観の特質を探る。</p>											
【到達目標】											
ナルシス神話の起源と変遷について理解を深める。 ヴァレリーのナルシス詩篇群を通して、この作家の詩作品、芸術観、恋愛観の特質を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>以下のように進める予定である。</p> <p>第1回 イントロダクション ナルシス神話の起源と変遷</p> <p>第2～4回 デカダン・象徴派文学における主題の変奏</p> <p>第5～13回 ヴァレリーのナルシス詩篇群の読解</p> <p>第5～7回 主題と形式の照応という観点から</p> <p>第8～10回 詩学＝制作学との関連について</p> <p>第11～13回 恋愛書簡との関連について</p> <p>第14回 まとめ ヴァレリーの作品と人生におけるナルシス神話の射程</p> <p>第15回 フィードバック 授業中に指示</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業での発表（20％）および期末レポート（80％）											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義) (2)

[教科書]

プリント等を配布する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で扱うテキストは十分に予習しておくこと。また、授業中で読むことのできなかつた部分は各自で読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 鳥山 定嗣			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		フランス近現代文学・思想における言語的ジェンダーの研究									
【授業の概要・目的】											
<p>フランス語の言語的ジェンダー（男性名詞・女性名詞といった文法上の性、女性韻・男性韻といった脚韻上の性など）と作家のセクシュアリティの関連性を考察しようと試みる。</p> <p>まず文法上の性および脚韻上の性の起源と変遷（規範化から脱規範の動きへ）を概観したうえで、19世紀の詩人ヴェルレーヌ（Paul Verlaine, 1844-1896）とルネ・ヴィヴィアン（Renée Vivien, 1877-1909）を取り上げ、言語的ジェンダーの破格用法が各作家のセクシュアリティとどのように関わっているかを考察する。また20世紀の批評家バルト（Roland Barthes, 1915-1980）が提起した「中性」概念をはじめ、性の二極化に抗おうとする理論的言説を参照することにより、フランス語の言語的ジェンダーを批判的に検討する。</p>											
【到達目標】											
<p>フランス語の言語的ジェンダーについて理解を深める。</p> <p>ヴェルレーヌとヴィヴィアンにおける言語的ジェンダーの破格用法とその意義を理解する。</p> <p>バルトにおける「中性」概念とその意義を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション フランス語の言語的ジェンダー概説</p> <p>第2～5回 ヴェルレーヌにおける文法上・脚韻上の性の逸脱</p> <p>第6～9回 ルネ・ヴィヴィアンにおける文法上・脚韻上の性の逸脱</p> <p>第10～13回 バルトの「中性」概念</p> <p>第14回 まとめ 言語的ジェンダーとセクシュアリティの関連性</p> <p>第15回 フィードバック 授業中に指示</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業での発表（20%）および期末レポート（80%）											
【教科書】											
プリント等を配布する											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>授業中に紹介する</p>											
										フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く	

フランス語学フランス文学(特殊講義) (2)

【授業外学修（予習・復習）等】

授業で扱うテキストは十分に予習しておくこと。また、授業中で読むことのできなかつた部分は各自で読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学207

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 村上 祐二			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		プルースト『ゲルマントのほう』を読む									
[授業の概要・目的]											
マルセル・プルースト(1871-1922)の小説『失われた時を求めて』第3篇『ゲルマントのほう』(第1部1921年、第2部22年刊行)は、ブルジョワの主人公が貴族社会の閉鎖的社交圏へと参入してゆく様子を描いている。本授業では、同篇冒頭に置かれた、貴族の名前から喚起されるイメージ・夢想を描く「名前の時代」、およびそれに続くオペラ座でのラシーヌ作『フェードル』鑑賞のエピソードを取り上げ、その着想源、生成過程、文体、作品の構造等に注目しながら多角的に読解することで、小説と歴史、小説と演劇の関係を考察するとともに、プルーストに特有の小説技法を浮かび上がらせる。											
[到達目標]											
文学作品を、草稿資料にさかのぼったうえで、複数の文脈に即して読み解くことにより、文学研究に必要な批判的読解能力を身につける。											
[授業計画と内容]											
授業は以下のプランに即して進められる。 第1回 『ゲルマントのほう』の概要、生成過程を解説。 第2回～第15回 『ゲルマントのほう』第1部第1章を講読形式でフランス語原典により精読し、適宜プルーストの初期作品や書簡、草稿資料、同時代の他の作品や新聞雑誌等の文献と照合しながら解説を加える。											
[履修要件]											
フランス語文献を読む能力が必要とされる。											
[成績評価の方法・観点]											
レポート(一回、100点満点、60点以上で合格) 到達目標の達成度に基づき評価するが、独自の見解が見られるものについては、高い点を与える。											
[教科書]											
授業中にプリント等を配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に別途指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 村上 祐二			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		プルースト『消え去ったアルベルチーヌ』におけるヴェネチア滞在を読む									
[授業の概要・目的]											
<p>マルセル・プルースト(1871-1922)の小説『失われた時を求めて』第6篇『消え去ったアルベルチーヌ』(作者の死後1925年刊行)第3章で描かれたヴェネツィア滞在のエピソードは、主人公における死別した恋人アルベルチーヌ忘却の最終段階を構成し、建築、絵画、モード、オリエンタリズム、性愛、母子関係、ユダヤ性などの主題を軸に展開する。本授業では、このエピソードを、その着想源(とりわけジョン・ラスキンの著作)、生成過程、文体、作品全体の構造等に注目しながら多角的に読解することで、文学作品と社会・歴史との関係を考察するとともに、プルーストに特有の小説技法を浮かび上がらせる。</p>											
[到達目標]											
<p>文学作品を、草稿資料にさかのぼったうえで、複数の歴史的な脈にたがって読み解くことにより、文学研究に必要な批判的読解能力を身につける。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>授業は以下のプランに即して進められる。 第1回 プルーストにおけるヴェネチアおよび『消え去ったアルベルチーヌ』第3章の概要、生成過程を解説。 第2回~第15回 『消え去ったアルベルチーヌ』第3章を講読形式でフランス語原典により精読し、適宜プルーストの他の作品や書簡、草稿資料、同時代の他の作品等の文献と照合しながら解説を加える。</p>											
[履修要件]											
フランス語文献を読む能力が必要とされる。											
[成績評価の方法・観点]											
レポート(一回、100点満点、60点以上で合格)到達目標の達成度に基づき評価するが、独自の見解が見られるものについては、高い点を与える。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に別途指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
KULASISの「オフィスアワー機能」を参照。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学グローバル地域文化学部 伊藤 玄吾 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		フランス16世紀詩研究：sonnet（ソネ）とode（オード）									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義はフランス16世紀の詩を専門的に扱うものであるが、同時にフランス語詩に関心をもつ全ての人に開かれている。16世紀は現在に至るフランス語詩の重要な詩形式の多くが本格的に導入された時代である。この時代の詩作品に触れることは、近代以降にユーゴーやボードレル、マラルメ、ヴァレリーといった詩人たちが様々に革新しようとした詩的伝統そのものの理解を深める事にもつながる。</p> <p>本年度は16世紀フランス詩の重要な2つの形式としてsonnet（ソネ）とode（オード）を扱う。前者はイタリア由来で汎ヨーロッパ的に人気を博した形式であり、後者は古代ギリシアおよびローマの詩ジャンルとしてルネサンスの古代文芸復興を通して導入された多様性を含む形式である。この2つの詩形式の本格的な導入と改良の歩みはフランス16世紀詩史の最も重要な軸の1つであるが、そこにおいて中心的な役割を担ったジョアシャン・デュ・ベレー、ポンテュス・ド・ティヤール、ピエール・ド・ロンサールといった詩人たちの作品について、原典を精読しつつ論じていきたい。</p>											
【到達目標】											
<p>16世紀フランス詩についての知見を深め、その文学史的意義を理解するとともに、それを後の時代のフランス詩、また同時代の他のヨーロッパ諸語の詩と比較して考察することができるようになる。フランス詩法の基礎的な知識、現代フランス語とは異なる16世紀のフランス語の語彙と文法に関する基礎知識、さらにテキストをより正確に読み解く上で有用な各種参考文献の活用の仕方を学び、個々の詩作品をより正確にそしてより深く読み込む力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 フランス16世紀詩についてのイントロダクション</p> <p>第2回 Sonnet 1 ソネの導入をめぐる諸問題</p> <p>第3回 Sonnet 2 デュ・ベレーのソネ（1）</p> <p>第4回 Sonnet 3 デュ・ベレーのソネ（2）</p> <p>第5回 Sonnet 4 ティヤールのソネ（1）</p> <p>第6回 Sonnet 5 ティヤールのソネ（2）</p> <p>第7回 Sonnet 6 ロンサールのソネ（1）</p> <p>第8回 Sonnet 7 ロンサールのソネ（2）</p> <p>第9回 Ode 1 オードの導入をめぐる諸問題</p> <p>第10回 Ode 2 ロンサールのオード（1）</p> <p>第11回 Ode 3 ロンサールのオード（2）</p> <p>第12回 Ode 4 ロンサールのオード（3）</p> <p>第13回 Ode 5 その他の16世紀詩人のオード（1）</p> <p>第14回 Ode 6 その他の16世紀詩人のオード（2）</p> <p>第15回 16世紀フランス詩と近代フランス詩</p>											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（４０％）と学期末のレポート（６０％）で、成績を評価する。
授業で学ぶテキスト読解上の基本事項を踏まえているか、またその上で自分なりの解釈を説得的に示しているかを評価する。

【教科書】

教材プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

学習対象のテキストについて予習し、あらかじめ各自が解釈についての見解を準備すること

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学210

科目ナンバリング		G-LET21 73645 SJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	フランス語
題目		Expression, culture and society in French									
【授業の概要・目的】											
<p>(1) This course aims to introduce students to French contemporary society and culture and to enhance their conversational ability in the French language. It will address cultural, social, and political issues. Course materials will include articles, movies, documentaries, etc. Particular emphasis will be placed on interactional skills, and debates and other speaking exercises will be conducted during classes.</p> <p>(2) This course is partially built on a project-based pedagogy. The class will undertake an intercultural mediation project.</p>											
【到達目標】											
<p>This course is designed to help students:</p> <ul style="list-style-type: none"> - develop a deeper understanding of French contemporary society and culture - explore intercultural issues - engage in critical thinking and debate with others - improve their argumentation skills - gain confidence and experience in public speaking 											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (Week 1) presenting the course goals and constituent exercises, we will debate on various themes (i.e., social and political issues in French culture and society, French cinema, and French contemporary literature) using written and visual materials (Weeks 2-14). This class requires active oral participation.</p> <p>Total: 14 classes and 1 feedback session (Week 15).</p>											
【履修要件】											
<p>The course is open to all students who can speak and understand enough French to read the materials and participate in discussions.</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>Attendance and participation are essential for this course. Students are expected to fully and actively participate by expressing their thoughts while also listening carefully to others and asking questions. The final grade largely depends on active class participation as well as on individual investment in the class project.</p>											
----- フランス語学フランス文学(演習) (2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(演習) (2)

[教科書]

使用しない

The instructor will provide all the reading materials. However, students are expected to bring a notebook to take notes during lectures, as well as a portfolio to collect and store all documents.

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Occasionally, students may be required to complete homework, such as reading, watching a movie, or completing an assignment for assessment.

(その他(オフィスアワー等))

Please arrange appointments directly with the lecturer.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学211

科目ナンバリング		G-LET21 73645 SJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	フランス語
題目		Expression, culture and society in French									
【授業の概要・目的】											
<p>(1) This course aims to introduce students to French contemporary society and culture while increasing their conversation ability. It will address cultural, social and political issues. Various documents will be used, such as articles, movies, documentaries, etc. Particular emphasis will be placed on interactional skills and class time will be spent engaging in debates and other speaking exercises.</p> <p>(2) This course is partially built on project-based pedagogy. The class conducts an intercultural mediation project.</p>											
【到達目標】											
<p>This course is designed to help students:</p> <ul style="list-style-type: none"> - develop a deeper understanding of French contemporary society and culture - explore intercultural issues - engage in critical thinking and debate with others - improve their argumentative skills - gain confidence and experience in public speaking 											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and exercises of the course, we will debate on various themes (i.e. social and political issues in French culture and society, French cinema, French contemporary literature), through written and visual documents (weeks 2-14). This class requires active oral participation.</p> <p>Total : 14 classes and 1 feedback (week 15)</p>											
【履修要件】											
<p>The course is open to all students as soon as they can speak and understand enough French to read the documents and participate in a discussion.</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>Attendance and participation are essential for this course. Students are expected to fully and actively participate by expressing their own thoughts, but also listening carefully to others and asking questions. The final grade mostly depends on this active participation during class and it also depends on the individual investment in the class project.</p>											
【教科書】											
<p>使用しない</p> <p>The instructor will provide all the reading material. However, students are expected to bring a notebook to take notes during each lecture, as well as a portfolio to collect the documents.</p>											
----- フランス語学フランス文学(演習)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Occasionally, some homework may be required, such as preparing a reading, watching a movie or achieving an assessment.

(その他(オフィスアワー等))

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学212

科目ナンバリング		G-LET21 7M202 SJ36										
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 永盛 克也	文学研究科 教授 村上 祐二	文学研究科 准教授 鳥山 定嗣		
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語	
題目		Introduction aux méthodes de recherches en littérature française										
【授業の概要・目的】												
修士課程・博士後期課程の学生の研究発表とその内容についての議論を通して、研究の方法や作品分析の手法などを習得し、フランス語での論文執筆に必要な基礎力を形成する。												
【到達目標】												
フランス語学・フランス文学の学術論文作成の基本的な方法を理解し、修士論文、研究論文の執筆のために必要な能力を身につける。												
【授業計画と内容】												
修士課程・博士後期課程の学生の研究発表を中心にプログラムを組む。概要は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 書誌目録の作成、資料収集の方法についての概説（第1回） ・ 修士1回生の卒業論文についての発表（4月 - 5月） ・ 修士2回生による修士論文の準備状況の発表（5月 - 7月） ・ 修士2回生による修士論文の中間発表（10月 - 12月） ・ 修士1回生による修士論文の準備状況の発表（12月 - 1月） ・ 博士後期課程の学生による博士論文の準備状況の発表（随時） ・ 学会発表予定者の口頭発表（随時） ・ 国内外の研究者による学術講演（随時） 												
【履修要件】												
受講者は自分の発表の準備に専心するのではなく、他の学生の発表にも興味をもち、議論に積極的に参加することが望まれる。また、専修が主催する学術講演会にも積極的に参加し、幅広い知見の獲得に努めることが求められる。												
【成績評価の方法・観点】												
平常点（自分の研究発表だけでなく、他の学生の発表へのコメント、講演会への積極的な参加など）により評価する。												
【教科書】												
使用しない												
【参考書等】												
（参考書） Otto Klapp 『Bibliographie der französischen Literaturwissenschaft』（V. Klostermann）（最も体系的なフランス文学研究書誌（仏文研究室で閲覧可能））												
----- フランス語学フランス文学(演習)(2)へ続く -----												

フランス語学フランス文学(演習)(2)

『Bibliographie de la littérature française (XVIe-XXIe siècles)』 (Revue d' Histoire littéraire de la France 誌の各年最終号に掲載されるフランス文学研究書誌)

[授業外学修(予習・復習)等]

各回の発表のタイトルは1週間前までに周知されるので、議論を活発なものにするために、受講者は事前にそのテーマや作家・作品について知識をもっておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

自分の発表の準備に専心するのではなく、他の学生の発表にも興味をもち、議論に積極的に参加することが望まれる。また、専修が主催する学術講演会にも積極的に参加し、新たな知見の獲得に努めてほしい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学213

科目ナンバリング		G-LET21 7M203 SJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	フランス語
題目		Argumentation, Academic Writing and Research Methodology									
【授業の概要・目的】											
<p>This class is designed to help students develop their argumentative skills and will provide key techniques, guidelines and suggestions to improve their academic written communication in French. Various exercises will be carried out, such as summary, synthesis, or text commentary.</p> <p>Finally, the course will provide masters' students with efficient tools to write their thesis in French (i.e. defining a topic and formulating a problem statement, selecting and reviewing relevant literature, structuring the dissertation, etc.)</p>											
【到達目標】											
<p>Upon completion of the course, students should be able to :</p> <ul style="list-style-type: none"> - efficiently structure and develop an argumentation - provide texts that meet the demands of various academic purposes - master the methodology required to complete a master's thesis 											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the main goals of the course, we will carry out various exercises and go through the different steps required to complete a master's thesis (weeks 2-14). Feedback: week 15.</p>											
【履修要件】											
<p>This course is opened to the students of the Faculty of Letters as well as to the students of other faculties (humanities, social sciences). A sufficient level of French is required, since the course will be given only in French.</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>The students will be evaluated through continuous assessment Exercises will be regularly carried out and evaluated during the class. Some home assignments will be given throughout the semester.</p>											
----- フランス語学フランス文学(演習)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(演習)(2)

[教科書]

使用しない

The instructor will provide all the reading material. However, students are expected to bring a notebook to take notes during each lecture, as well as a portfolio to collect the documents.

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Students are expected to prepare exercises at home and to actively participate during the class.

(その他(オフィスアワー等))

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学214

科目ナンバリング		G-LET21 7M203 SJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	フランス語
題目		Argumentation, Academic Writing and Research Methodology									
【授業の概要・目的】											
<p>This class is designed to help students develop their argumentative skills and will provide key techniques, guidelines and suggestions to improve their academic written communication in French. Various exercises will be carried out, such as summary, synthesis, or text commentary.</p> <p>Finally, the course will provide masters' students with efficient tools to write their thesis in French (i.e. defining a topic and formulating a problem statement, selecting and reviewing relevant literature, structuring the dissertation, etc.)</p>											
【到達目標】											
<p>Upon completion of the course, students should be able to :</p> <ul style="list-style-type: none"> - efficiently structure and develop an argumentation - provide texts that meet the demands of various academic purposes - master the methodology required to complete a master's thesis 											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the main goals of the course, we will carry out various exercises and go through the different steps required to complete a master's thesis (weeks 2-14). Total : 14 classes and 1 feedback (week 15)</p>											
【履修要件】											
<p>This course is opened to the students of the Faculty of Letters as well as to the students of other faculties (humanities, social sciences). A sufficient level of French is required, since the course will be given only in French.</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>The students will be evaluated through continuous assessment. Exercises will be regularly carried out and evaluated during the class. Some home assignments will be given throughout the semester.</p>											
----- フランス語学フランス文学(演習)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(演習)(2)

[教科書]

使用しない

The instructor will provide all the reading material. However, students are expected to bring a notebook to take notes during each lecture, as well as a portfolio to collect the documents.

[参考書等]

(参考書)

Documents will be given during the class.

[授業外学修(予習・復習)等]

Students are expected to prepare exercises at home and to actively participate during the class.

(その他(オフィスアワー等))

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学215

科目ナンバリング		G-LET22 63731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Torquato TassoのDialoghi									
【授業の概要・目的】											
16世紀のイタリアを代表する詩人トルクァート・タッソは、愛や美や徳や友情、あるいはアルテやインプレーザといったさまざまなトピックを対話形式で論じています。今年度はタッソの対話作品のなかでもっとも有名な『使者』“ Il messaggero ”を精読しながら、詩人の宗教観と独特の感性ならびに散文の特徴を検証します。											
【到達目標】											
イタリア語散文を正確に読解する力を身につける。 16世紀のイタリア文化について理解を深める。											
【授業計画と内容】											
以下の予定で授業を進めていきます。											
初回：イントロダクション。											
第2回～14回：“ Il messaggero ” の読解と考察											
第15回 フィードバック											
【履修要件】											
イタリア語文法を学んでいること。											
【成績評価の方法・観点】											
毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。											
【教科書】											
プリント配布。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介します。											
【授業外学修(予習・復習)等】											
原典の精読に基づく授業なので、しっかり予習をしておきましょう。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学216

科目ナンバリング		G-LET22 63731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Torquato TassoのDialoghi									
[授業の概要・目的]											
16世紀のイタリアを代表する詩人トルクァート・タッソは、愛や美や徳や友情、あるいはアルテやインプレーザといったさまざまなトピックを対話形式で論じています。後期の授業では、前期にひきつづいて“ Il messaggero ”を精読しながら、タッソの宗教観と感性ならびに散文の特徴を検証します。											
[到達目標]											
ルネサンス期のイタリア語散文を正確に読解する力を身につける。 16世紀のイタリア文化について理解を深める。											
[授業計画と内容]											
以下の予定で授業を進めていきます。											
初回：イントロダクション。											
第2回～14回：“ Il messaggero ”の読解と考察											
第15回 フィードバック											
[履修要件]											
イタリア語文法を学んでいること。											
[成績評価の方法・観点]											
毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
原典の精読に基づく授業なので、自分なりにテキストの内容を把握できるまで予習をしましょう。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET22 63731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	イタリア語
題目		Letteratura italiana. Il teatro italiano tra Sette e Ottocento: Carlo Goldoni, Vittorio Alfieri e Alessandro Manzoni									
【授業の概要・目的】											
<p>Il corso di Letteratura del primo semestre e' dedicato al teatro italiano tra Sette e Ottocento. Dopo una breve introduzione al contesto storico-culturale europeo, il seminario prendera' in esame le opere teatrali di tre autori chiave: Carlo Goldoni, Vittorio Alfieri e Alessandro Manzoni. Di ciascuno scrittore verra' fornito un essenziale profilo biografico, preliminare all' analisi dell' opera. Leggeremo e commenteremo in classe una selezione delle piu' importanti commedie e tragedie italiane, tra cui: "La locandiera" (1753), "Saul" (1782), "Adelchi" (1822), con particolare interesse rivolto alla dimensione linguistica e stilistica.</p>											
【到達目標】											
<p>Gli studenti conosceranno la biografia e le opere di tre maestri della scrittura teatrale: Carlo Goldoni, Vittorio Alfieri e Alessandro Manzoni e sapranno contestualizzarle nell' ambito della letteratura europea del Settecento e dell' Ottocento. Leggeranno e studieranno i brani proposti, tratti da alcune delle piu' significative opere teatrali italiane, commentandone il lessico, la metrica, e le principali figure retoriche. Acquisiranno cosi' un' autonoma capacita' di analisi tematico-stilistica del testo letterario.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Letteratura italiana (I semestre). Il teatro italiano tra Sette e Ottocento: Carlo Goldoni, Vittorio Alfieri e Alessandro Manzoni</p> <p>1-2: Introduzione e contesto storico-culturale</p> <p>3-15: Analisi della biografia e delle opere teatrali di Goldoni ("La locandiera"), Alfieri ("Saul"), Manzoni ("Adelchi")</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>											
【履修要件】											
E' richiesto un buon livello di italiano.											
【成績評価の方法・観点】											
La valutazione sara' basata sulla partecipazione alle lezioni. La modalita' seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.											
【教科書】											
La bibliografia indicata in "References" costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.											
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

V. Alfieri, Filippo, Saul, a cura di V. Branca, Milano, BUR, 2021.

C. Goldoni, La locandiera, a cura di G. D. Bonino, Torino, Einaudi, 2021.

A. Manzoni, Adelchi, a cura di G. Lonardi e P. Azzolini, Milano, Marsilio, 2005.

[授業外学修(予習・復習)等]

Dopo ogni lezione potranno essere assegnate letture da svolgere a casa.

(その他(オフィスアワー等))

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET22 63731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	イタリア語
題目		Letteratura italiana. L ' autobiografia: poeti e artisti allo specchio									
【授業の概要・目的】											
<p>Il corso di Letteratura italiana del secondo semestre vertera' sul genere letterario dell ' autobiografia. Dopo una introduzione teorica sul “ patto autobiografico ” tra autore e lettore e sulla storia e i modelli del genere, il seminario prendera' in esame alcuni testi particolarmente rappresentativi. Leggeremo e commenteremo in classe passi tratti dalle piu' importanti autobiografie di poeti e artisti italiani, come: Benvenuto Cellini (1500-1571), Vittorio Alfieri (1749-1803), e Giorgio De Chirico (1888-1978), interrogandoci sulle forme e sul significato che lo “ scrivere di se' ha assunto attraverso i secoli.</p>											
【到達目標】											
<p>Gli studenti rifletteranno sui caratteri e la storia del genere letterario autobiografico in un ' ottica transnazionale e interdisciplinare. Leggeranno testi tratti dalle piu' importanti autobiografie di poeti, pittori e scultori italiani. Impareranno a esaminarne i temi, la lingua, e lo stile, mettendoli a confronto e identificando elementi comuni e peculiarita'. Acquisiranno un ' autonoma capacita' di analisi del testo letterario italiano.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Letteratura italiana (II semestre). L ' autobiografia: poeti e artisti allo specchio</p> <p>1: Introduzione 2: Il “ patto autobiografico ” 3: Storia e modelli del genere autobiografico 4-15: Autobiografie di artisti e poeti italiani. Analisi e commento di testi rappresentativi</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>											
【履修要件】											
E' richiesto un buon livello di italiano.											
【成績評価の方法・観点】											
La valutazione sara' basata sulla partecipazione alle lezioni. La modalita' seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.											
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

[教科書]

La bibliografia indicata in “ References ” costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.

[参考書等]

(参考書)

P. Lejeune, *Le pacte autobiographique*, Paris, Seuil, 1975.

M. Guglielminetti, *Biografia e autobiografia*, in *Letteratura Italiana Einaudi*, vol. 5: *Le questioni*, Torino, Einaudi, 1986.

B. Cellini, *Vita*, a cura di E. Camesasca, Milano, Centauria, 2019.

V. Alfieri, *Vita*, a cura di M. Cerruti e L. Ricaldone, Milano, BUR, 2021.

G. De Chirico, *Memorie della mia vita*, a cura di P. Picozza, F. Cordelli, E. Sgarbi, Milano, La nave di Teseo, 2019.

[授業外学修 (予習 ・ 復習) 等]

Dopo ogni lezione potranno essere assegnate letture da svolgere a casa.

(その他 (オフィスアワー 等))

L ' orario di ricevimento verra' comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET22 63731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	イタリア語
題目		Letteratura italiana contemporanea. Natura, paesaggio, ecologia nella poesia italiana dal Novecento a oggi									
【授業の概要・目的】											
<p>Il corso di Letteratura italiana contemporanea del primo semestre prendera' in esame le opere di alcuni dei piu' importanti poeti italiani dal Novecento a oggi, con particolare attenzione al tema chiave: natura, paesaggio, ecologia. Dopo una contestualizzazione storica e un' introduzione sui caratteri distintivi e i modelli della poesia del XX e XXI secolo, si procedera' a una lettura dei testi poetici. Di ciascun autore verra' fornito un essenziale profilo biografico, preliminare all' analisi dell' opera. Verranno dunque commentati alcuni dei componimenti piu' significativi, con un' attenzione rivolta tanto al riconoscimento dei riferimenti culturali e delle fonti, quanto agli usi lessicali, alle figure retoriche e metriche. Ascoltando alcune delle voci piu' intense della letteratura italiana contemporanea, sara' possibile riflettere sul rapporto tra letteratura e natura, poesia ed ecologia, nell' eta' contemporanea e acquisire gli strumenti per una autonoma lettura e analisi tematico-stilistica dei testi.</p>											
【到達目標】											
<p>Gli studenti impareranno a conoscere la letteratura italiana contemporanea e il suo contesto storico-culturale. Rifletteranno sull' importanza dei temi del paesaggio e dell' ambiente nella poesia del Novecento. Leggeranno e commenteranno le opere di alcuni degli autori fondamentali di questa stagione letteraria, tra cui: Giuseppe Ungaretti, Giorgio Caproni, Pier Paolo Pasolini, Andrea Zanzotto, Antonella Anedda. Acquisiranno una buona capacita' di analisi del testo poetico, padroneggiando le piu' importanti figure metriche e retoriche.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Letteratura italiana contemporanea (I semestre). Natura, paesaggio, ecologia nella poesia italiana dal Novecento a oggi</p> <p>1-2: Natura, paesaggio, ecologia nella poesia contemporanea: introduzione</p> <p>3-15: Lettura e commento di testi poetici rappresentativi</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>											
【履修要件】											
<p>E' richiesto un buon livello di italiano.</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

La valutazione sarà basata sulla partecipazione alle lezioni. La modalità seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.

[教科書]

La bibliografia indicata in “ References ” costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.

[参考書等]

(参考書)

N. Scaffai, Letteratura e ecologia. Forme e temi di una relazione narrativa, Roma, Carocci, 2022.

P.G. Beltrami, Gli strumenti della poesia. Guida alla metrica italiana, Bologna, Il Mulino, 2012.

G. Mazzoni, Sulla poesia moderna, Bologna, Il Mulino, 2021.

[授業外学修（予習・復習）等]

Dopo ogni lezione potranno essere assegnate letture da svolgere a casa.

(その他（オフィスアワー等）)

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET22 63731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	イタリア語
題目		Letteratura italiana contemporanea. Commentare i classici: l'opera poetica di Eugenio Montale									
【授業の概要・目的】											
<p>Dopo la ricognizione sulla poesia italiana contemporanea avviata nel primo semestre, il corso si concentrerà ora su uno dei massimi esponenti di questa stagione letteraria: il premio Nobel Eugenio Montale. Le conoscenze apprese si riveleranno indispensabili per indagare l'ampia parabola creativa montaliana, da "Ossi di seppia" ad "Altri versi". Riferendosi alla propria opera, il poeta ligure dichiarò in un'intervista di avere scritto un unico libro, di cui aveva offerto prima il 'recto' ("Ossi di seppia", "Le occasioni", "La bufera e altro"), quindi il 'verso' ("Satura", "Diario del '71 e del '72", "Quaderno di quattro anni", "Altri versi"). Dopo un breve profilo biografico, il seminario prevede l'analisi alcune importanti liriche di Montale, con una prospettiva volta a mostrare le principali difficoltà e sfide che l'opera poetica pone al suo commentatore. Nella sua varietà tematico-stilistica, la produzione montaliana rappresenta un caso di studio particolarmente interessante e stimolante per concludere il corso annuale sulla poesia italiana del Novecento.</p>											
【到達目標】											
<p>Gli studenti analizzeranno la biografia e l'opera di uno dei classici del Novecento italiano. Esamineranno una selezione di testi tratti dalle sette raccolte poetiche montaliane, analizzandone opportunamente temi e stile, con particolare attenzione al lessico. Familiarizzeranno con l'edizione critica dell'"Opera in versi", esempio straordinario nel panorama della filologia del Novecento, di collaborazione tra l'autore vivente e i suoi editori, e con i principali commenti alle raccolte. Impareranno a interpretare il testo poetico, chiarendone i riferimenti culturali, individuandone le fonti, studiandone gli usi linguistici e metrico-stilistici.</p>											
【授業計画と内容】											
Letteratura italiana contemporanea (II semestre). Commentare i classici: l'opera poetica di Eugenio Montale											
1-2: Introduzione e profilo biografico di Eugenio Montale											
3-15: L'Opera in versi. Lettura e commento dei testi											
Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.											
【履修要件】											
E' richiesto un buon livello di italiano.											
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

La valutazione sarà basata sulla partecipazione alle lezioni. La modalità seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.

[教科書]

授業中に指示する

La bibliografia indicata in “References” costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.

[参考書等]

(参考書)

E. Montale, L'opera in versi, a cura di R. Bettarini e G. Contini, Torino, Einaudi, 1980.

E. Montale, Tutte le poesie, a cura di G. Zampa, Milano, Mondadori, 2021.

E. Montale, Antologia da “Altri versi”, Prefazione di A. Casadei, Introduzione, selezione e commento a cura di I. Duretto, Pisa, ETS, 2017.

L. Blasucci, Gli oggetti di Montale, Milano, Ledizioni, 2010.

P.V. Mengaldo, L'opera in versi di Eugenio Montale, in La tradizione del Novecento, IV serie, Torino, Bollati-Boringhieri, 2000, pp. 66-113.

[授業外学修(予習・復習)等]

Dopo le lezioni potranno essere assegnate delle letture da svolgere a casa.

(その他(オフィスアワー等))

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学221

科目ナンバリング		G-LET22 73741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ペトラルカの抒情詩									
[授業の概要・目的]											
イタリアの抒情詩の源泉であるフランチェスコ・ペトラルカのCanzoniereを精読します。個々の作品の内容だけではなく形式的な特色にも注意を向けながら、トスカーナ語抒情詩の伝統について理解を深めることが授業の目的となります。											
[到達目標]											
詩文を正確に読解する力を身につける。 韻文の形式美について理解を深める。											
[授業計画と内容]											
以下の予定で授業を進めます。											
初回：イントロダクション											
第2回～第14回：『カンツォニエーレ』の読解と考察 脚韻や詩行内のアクセントの位置といった形式的特徴を音読によって確認したうえで作品の内容を精査していきます。											
第15回：フィードバック											
[履修要件]											
イタリア語文法を学んでいること。											
[成績評価の方法・観点]											
毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
原典の精読に基づく授業なので、十分な予習が求められます。原文を音読してイタリア語の韻文のリズムに親しみましょう。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学222

科目ナンバリング		G-LET22 73741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ペトラルカの抒情詩									
[授業の概要・目的]											
前期につづいて、フランチェスコ・ペトラルカのCanzoniereを精読します。個々の作品の内容だけでなく形式的な特色にも注意を向けながら、トスカーナ語抒情詩の伝統について理解を深めることが授業の目的となります。											
[到達目標]											
詩文を正確に読解する力を身につける。 韻文の形式美について理解を深める。											
[授業計画と内容]											
以下の予定で授業を進めます。											
初回：イントロダクション											
第2回～第14回：Canzoniereの読解と考察。 脚韻や詩行内のアクセントの位置といった形式的特徴を音読によって確認したうえで作品の内容を精査していきます。必要に応じてヴァチカン収蔵写本の表記を確かめながらテキストの校訂作業についても検証します。											
第15回：フィードバック											
[履修要件]											
イタリア語文法を学んでいること。											
[成績評価の方法・観点]											
毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
原典の精読に基づく授業なので、十分な予習が求められます。原文を音読してイタリア語の韻文のリズムに親しみましょう。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET22 73741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学大学院人文学研究科外国学専攻 菊池 正和 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		20世紀のヨーロッパ社会の病理と演劇の考察									
【授業の概要・目的】											
<p>19世紀後半のヨーロッパでは、ブルジョワ市民の鏡像を描出することで社会の風俗や慣習に潜む不正を告発する「問題劇」が隆盛したが、20世紀に入り、社会の価値基準や道徳的基盤がより一層見失われるようになると、個々の行為や感情の滑稽さや不可解さ、醜悪さまでをも強調して劇画化する「グロテスク劇」が生まれることになる。本授業では、ルイージ・キアレッリの『仮面と素顔』、ピエル・マリーア・ロッソ・ディ・サンセコンドの『操り人形、なんという情熱か!』の講読を通じて、20世紀初頭のヨーロッパ社会の病理について考察を行う。</p> <p>また、現代の戯曲を精読することによって、イタリア語の読解力を養う。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ イタリア語の文献を批判的に読む能力を養う。 ・ 19世紀後半から20世紀前半にかけてのヨーロッパの社会状況と演劇作品との関連について理解する。 ・ 上記2点を踏まえて、学んだ知識に自らの考察を交えて意見を発表する能力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>通常授業14回、定期試験・フィードバック1回</p> <p>第1回 19世紀後半から20世紀の社会状況、ルイージ・キアレッリについてのイントロダクション。</p> <p>第2回～第7回 主にキアレッリの『仮面と素顔』を読みながら、適宜、評論なども訳読しつつディスカッションを行う。</p> <p>第8回 ロッソ・ディ・サンセコンドについてのイントロダクション</p> <p>第9回～第14回 主にロッソ・ディ・サンセコンドの『操り人形、なんという情熱か!』を読みながら、適宜、評論なども訳読しつつディスカッションを行う。</p> <p>第15回 定期試験・フィードバック 受講者に本授業の内容について口頭試問を行い、それに対してコメントを行い、学術的な議論につなげる。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点（授業での訳読・発言）を中心に（70%）口頭試問（30%）と併せて評価を行う。</p> <p>5回以上授業を欠席した場合には、口頭試問への参加を認めない。</p>											
【教科書】											
<p>授業中に指示する</p> <p>入手が難しいテキストも多いので授業時にプリント配布する。</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(演習)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)

Luigi Chiarelli 『La maschera e il volto』 (Intra, 2020) ISBN:9788894511314

Pier Maria Rosso di San Secondo 『Tutto il teatro. La dimensione europea』 (Salvatore Sciascia, 2008)
ISBN:978-88-8241-265-4

残りの書籍については、適宜、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

精読・訳出する部分については授業時にその都度指定するので、あらかじめ精読し、内容人に関して質問や意見を準備して授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

簡単な質問は授業の前後で受けます。回答に時間を要する質問や相談については、メールやZoom等で受けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学224

科目ナンバリング		G-LET22 73741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学大学院人文学研究科外国学専攻 菊池 正和 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		20世紀のヨーロッパ社会の病理と演劇の考察									
【授業の概要・目的】											
<p>20世紀後半、戦後のヨーロッパ社会の変質について、理性的・イデオロギー的立場と官能的・審美的立場の葛藤を中心主題に据えて批評、告発したのがピエル・パオロ・パゾリーニである。本授業では、彼の演劇論「新しい演劇の為の宣言」と戯曲『カルデロン』の講読を通じて、20世紀後半のヨーロッパ社会の病理について考察を行う。</p> <p>また、現代の戯曲を精読することによって、イタリア語の読解力を養う。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ イタリア語の文献を批判的に読む能力を養う。 ・ 20世紀後半のヨーロッパの社会状況と演劇作品との関連について理解する。 ・ 上記2点を踏まえて、学んだ知識に自らの考察を交えて意見を発表する能力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>通常授業14回、定期試験・フィードバック1回</p> <p>第1回 20世紀後半、戦後の社会状況、ピエル・パオロ・パゾリーニについてのイントロダクション。</p> <p>第2回～第4回 主にパゾリーニの「新しい演劇の為の宣言」を読みながら、彼の演劇論についてディスカッションを行う。適宜、映画作品なども援用する。</p> <p>第5回～第14回 主にパゾリーニの『カルデロン』を読みながら、彼の現代社会に対する眼差しについてディスカッションを行う。適宜、映画作品なども援用する。</p> <p>第15回 フィードバック 受講者に本授業の内容について口頭試問を行い、それに対してコメントを行い、学術的な議論につなげる。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点（授業での訳読・発言）を中心に（70%）、口頭試問（30%）と併せて評価を行う。</p> <p>5回以上授業を欠席した場合には、口頭試問への参加を認めない。</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(演習)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する
入手が難しいテキストも多いので授業時にプリント配布する。

[参考書等]

(参考書)

Pier Paolo Pasolini 『Tutto teatro』 (Mondadori, 2001) ISBN:88-04-48942-1
残りの書籍については、適宜、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

精読・訳出する部分については授業時にその都度指定するので、あらかじめ精読し、内容人に関して質問や意見を準備して授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

簡単な質問は授業の前後で受けます。回答に時間を要する質問や相談については、メールやZoom等で受けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学225

科目ナンバリング		G-LET22 73741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司 文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語およびイタリア語
題目		論文演習									
【授業の概要・目的】											
研究論文作成をサポートする授業です。問題の設定、論証の進め方、論述の方法、また参考文献リストの表記や註・引用の仕方まで、実際の作業に即して学术论文の在り方を学びます。											
【到達目標】											
修士論文提出年度に当たる参加者にとっては、これを完成させることが授業の目標となります。修士1回生は、この授業を通じて修士論文のテーマを絞り込むことが課題となります。また博士後期課程の参加者は、博士論文の構想を固めること、各章の考察を深めること、そして論文を完成に導くことが授業の目標となります。											
【授業計画と内容】											
初回 ガイダンス：研究発表の手順について説明を行い、おおよそのスケジュールを確認します。											
2-3回 前年度の修士論文・卒業論文提出者の報告。											
4-14回 大学院生及び卒業論文提出予定者の研究報告。 論文の計画段階から各自の研究テーマについて順次発表をします。他の参加者には、積極的に意見を述べることで発表者の論文作成を支援することが求められます。発表の合間に、註・参考文献・引用方法など学术论文の形式・体裁についても再確認します。また必要に応じて学術雑誌に掲載された論文を講読しながら、論文執筆の技術と注意事項を紹介する予定です。学会発表などを予定している参加者は、その予行演習として授業の場を活用することもできます。											
15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点：発表の内容、授業内での発言などに基づく。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- イタリア語学イタリア文学(演習)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

発表者は事前に、レジュメ・資料などを研究室メンバー宛てにメール送信しておきましょう。

（その他（オフィスアワー等））

原則的には隔週開講の授業ですが、希望があればこれに限定されることなく発表の場を設定します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学226

科目ナンバリング		G-LET22 7M213 SO36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学（演習） Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木4,5	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Italian Neorealism in World Cinema									
【授業の概要・目的】											
<p>Italian neorealism (1945-1952) was a crucial movement in film history, marking an aware move away from mainstream Hollywood filmmaking and focusing on realistic characters and stories. Through a virtual journey across world film cultures, and national identities, this course aims to provide a critical approach to the enduring resonance of Italian neorealism in international cinema. We will start with a brief introduction on the main features of the movement and historical contextualization of the most relevant neorealist movies, from the masterpiece ‘ Roma citta' aperta ’ (Roberto Rossellini, 1945). Subsequently, the course will explore the broad influence of neorealism on global cinema, from the impact on contemporary filmmakers (e. g. Akira Kurosawa) to the late tributes (e.g. ‘ Roma ’ , Alfonso Cuaron Orozco, 2018).</p>											
【到達目標】											
<p>Students will learn the most significant features of Italian neorealism. Investigating the wide-ranging impact of the neorealist movement, they will improve their knowledge of world cinema. Moreover, they will deepen their historical awareness of the relationships between a movie and its precursors. Students will be able to critically watch and discuss a film, prepare a presentation and perform it in front of the class. The seminar requires an active interaction of the students. Therefore, attendance is mandatory. Classes will be held in English.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>This course is a cinema course, with some screenings, therefore one class is the length of 2 classes/180 min.</p> <p>1: Italian neorealism. Introduction. 2-6: Italian neorealism in global cinema. Screening and commentary of world movies influenced by Italian neorealism. 7: Presentations prepared by students. 8: Feedback.</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>Evaluation will depend on 1. active class participation; 2. exercises (in class and at home); 3. final exam. Attendance is mandatory. No more than one absence is allowed.</p>											
----- イタリア語学イタリア文学（演習）(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学（演習）(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

The instructor will assign exercises and homework after classes.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学227

科目ナンバリング		G-LET22 73764 PO36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学（外国語実習） Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	実習	使用 言語	イタリア語
題目		Seminario di Lingua e letteratura italiana. Italo Calvino (nel centenario della nascita)									
【授業の概要・目的】											
Il seminario di Lingua e letteratura italiana di quest ' anno e' dedicato alla narrativa di Italo Calvino, autore di cui nel 2023 si celebra il centenario della nascita. Perfezioneremo la conoscenza della lingua italiana leggendo e analizzando racconti di Calvino. Gli studenti avranno modo di esercitarsi su diversi tipi di testo, guidati dalla perizia narrativa di questo autore e dal suo raffinato gioco letterario.											
【到達目標】											
Gli studenti leggeranno e commenteranno testi classici della narrativa italiana. Acquisiranno una maggiore dimestichezza con l ' italiano scritto: impareranno a orientarsi attraverso tipologie testuali e generi letterari diversi. A questa lettura verranno associati specifici esercizi di scrittura, per consentire di mettere in pratica le competenze acquisite e perfezionare la conoscenza del lessico, della morfologia e della sintassi dell ' italiano.											
【授業計画と内容】											
Seminario di Lingua e letteratura italiana (I semestre). Italo Calvino (nel centenario dalla nascita)											
1. Introduzione											
2-15. Lettura di alcuni racconti di Italo Calvino											
Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.											
【履修要件】											
Corso destinato a studenti di italiano elementare o intermedio.											
【成績評価の方法・観点】											
La valutazione sara' basata sulla partecipazione alle lezioni. Il seminario presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.											
【教科書】											
Handouts											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
Dopo le lezioni potranno essere assegnate letture da svolgere a casa.											
（その他（オフィスアワー等））											
L ' orario di ricevimento verra' comunicato durante la prima lezione.											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET22 73764 PO36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(外国語実習) Italian Language and Literature				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	実習	使用 言語	イタリア語
題目		Laboratorio di scrittura creativa: Il castello dei destini incrociati									
【授業の概要・目的】											
Dopo la lettura dei racconti di Italo Calvino, il corso prosegue, nel secondo semestre, affrontando "Il castello dei destini incrociati". L' affascinante meccanismo narrativo ideato dall' autore si rivelerà particolarmente indicato per le nostre esercitazioni di lingua italiana. Seguendo la logica combinatoria dei tarocchi, quasi giocando a carte, lo studente imparerà a leggere e a comporre, in italiano, differenti tipologie di testo.											
【到達目標】											
Gli studenti leggeranno e commenteranno un classico della letteratura italiana: "Il castello dei destini incrociati". Acquisiranno una maggiore dimestichezza con l' italiano scritto: impareranno a orientarsi attraverso tipologie testuali e generi letterari diversi. A questa lettura verranno associati specifici esercizi di scrittura, per consentire di mettere in pratica le competenze acquisite e perfezionare così la conoscenza del lessico, della morfologia e della sintassi dell' italiano.											
【授業計画と内容】											
Seminario di Lingua e letteratura italiana (II semestre). Laboratorio di scrittura creativa: Il castello dei destini incrociati											
1. Introduzione											
2-15. Esercitazioni di scrittura creativa											
Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.											
【履修要件】											
Corso destinato a studenti di italiano elementare o intermedio.											
【成績評価の方法・観点】											
La valutazione sarà basata sulla partecipazione alle lezioni. Il seminario presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.											
【教科書】											
Handouts											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- イタリア語学イタリア文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(外国語実習)(2)

[授業外学修(予習・復習)等]

Dopo le lezioni potranno essere assegnate letture da svolgere a casa.

(その他(オフィスアワー等))

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。